

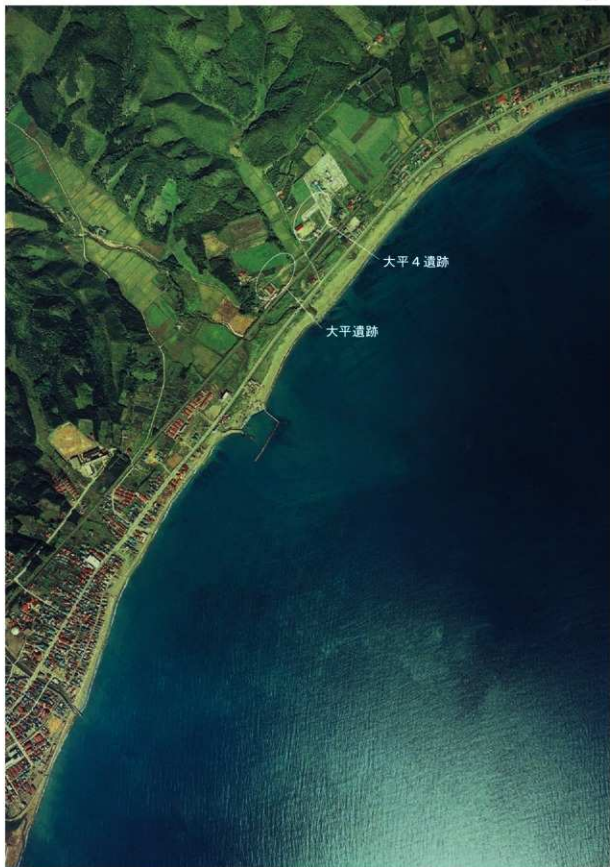
木古内町

# 大平遺跡・大平4遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成22年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡周辺の空中写真（1976年国土地理院撮影）



大平遺跡調査状況



大平遺跡復元土器



大平・大平4 遺跡石製品



大平遺跡黒曜石原産地同定試料



大平4 遺跡黒曜石原産地同定試料



## 例 言

1. 本書は、北海道新幹線建設事業工事に伴い財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成21・22年度に実施した、木古内町大平遺跡・大平4遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 報告内容は、大平遺跡の平成21年度調査区(411㎡)、大平4遺跡の平成21年度調査区(1,172㎡)・平成22年度調査区のうち本線部分(1,561㎡)の遺構と遺物である。
3. 大平遺跡の地番は、上磯郡木古内町字大平63、大平4遺跡が上磯郡木古内町字大平60である。
4. 調査は第1調査部第3調査課が担当した。
5. 本書の執筆は、鈴木 信、立川トマス、菊池慈人、山中文雄、酒井秀治が行い、編集は鈴木・山中が担当した。文責者については、文末に丸括弧書きで氏名を記してある。
6. 遺物の整理は土器を鈴木、石器等を山中が担当した。
7. 現地調査での写真撮影は各担当者が、室内での写真撮影・整理は、菊池が担当した。
8. 各種分析・鑑定については、下記の分析業者に委託した。Ⅵ章にその結果を掲載してある。  
放射性炭素年代測定 (株)加速器分析研究所  
黒曜石原産地同定 (株)第四紀地質研究所
9. 調査報告終了後の出土遺物は、木古内町教育委員会で保管される予定である。
10. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。  
鉄道建設・運輸施設整備支援機構、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、知内町郷土資料館、木本 豊、小杉 康、小林 克、高橋豊彦、西脇対名夫、森 靖裕、横山英介(五十音順)

# 記号等の説明

## 1 遺構実測図

(1)縮尺は40分の1を原則としているが、それ以外の縮尺のものもある。それぞれにスケールを付けてある。

(2)平面図の方位は平面直角座標の北を表す。

(3)平面図の「+」はグリッドラインの交点を表す。

(4)平面図の「・」付き小アラビア数字は、その地点の標高(単位m)を表す。

(5)断面図の水系レベルは標高(単位m)である。

(6)遺構には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。

H: 竪穴住居跡 HP: 住居跡内の土坑・柱穴 HF: 住居跡内の焼土

P: 土坑 F: 焼土 FL: 剥片集中

(7)遺構内での遺物の分布を表すのに、以下の記号を使用した部分がある。白抜きは覆土、黒塗りは床面・坑底出土を表す。

土器 (○・●) 剥片石器類 (△・▲) 磨製石器類 (◇・◆) 礫石器類・礫 (□・■)

(8)火山灰の略号は、『北海道の火山灰』(北海道火山灰命名委員会1982)による。以下の略号を用いた箇所がある。

Ko-d: 駒ヶ岳d降下火山灰 B-Tm: 白頭山-苦小牧火山灰

(9)長軸・短軸・深さは、遺構に外接する直方体を設定して求めた(単位m)。

## 2 土器実測図・拓影図

(1)縮尺は復元土器・拓本土器が3分の1、土製品が3分の1である。

(2)遺物図右下の太ゴチックアラビア数字は掲載番号であり、太ゴチックアラビア数字の後続する小文字アルファベットは同一個体を示す。本文中の太ゴチックアラビア数字も掲載番号である。

(3)「⊕」印は上面観を模式的に表したもので、十字の垂直線は下端が前面側-上端が裏面側を示し、十字の水平線は左端が左面側-右端が右面側をしめす。「⊕」印の直下の図は、「⊕」に太線で示した弧の範囲の文様・器面調整を図化表現している。太線は転写範囲を表わし、「⊕」印の外側に太線がある場合は外面の情報、「⊕」印の内側に太線がある場合は内面の情報を表現している。

(4)土器図断面に「▼」「▽」「◇」「△」が付されている場合、正面図に付されている「▼」「▽」「◇」「△」位置の断面図を転写した。「▼」「▽」「◇」は正面側180°の範囲、「△」は裏面側180°の範囲を表す。

(5)土器の断面図に付されている太ゴチックアラビア数字は、露呈した粘土紐の接合面の位置・段数を表す。数字の降順は成形順を示す。

(6)土器の正面図に太ゴチックアラビア数字付き「へ」・「〜」は、「へ」・「〜」付されている個所の露呈した粘土紐の接合面の位置・段数を断面図に転写した。「〜」は正面側180°の範囲、「へ」は裏面側180°の範囲を表し、太ゴチックアラビア数字は露呈した粘土紐の接合面の位置・段数に対応する。

(7)土器図正面図に付されている「●」・「○」は粘土紐の接合面の露呈部分を示す。「●」は外傾接合、「○」は内傾接合、「●」は両傾接合である。「●」は口縁部方向へ接続する面、「○」は底部

方向へ接続する面である。

- (8)土器の正面図における粘土紐の接合面の露呈部分に白抜き縄文がある場合は、接合面に回転縄文が押捺されていることを示す。断面図中の接合面の推定は破線で表現した。
- (9)展開図は、正面図が上面観図の下方にある。
- (10)底面図の「□」－「■」は、正面図の「□」－「■」に対応し、底面図の天-地は正面図の手前-奥に対応する。
- (11)土器・土製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記してある。欠損しているものは現存長を丸括弧でくくって表し、計測不能は「一」と表した。

### 3 石器実測図

- (1)縮尺は、剥片石器類・磨製石器類・石製品が2分の1、礫石器類が3分の1（30cm以上は4分の1）である。接合資料は2.5分の1であるが、3分の1にしたものが一部ある。それぞれの図にスケールを付けてある。
- (2)自然面はドット、節理面は斜めの実線と破線の繰り返しで表した。
- (3)石器に光沢や付着物が認められる場合、その範囲を網伏せして示した。
- (4)たたき痕は「V-V」、すり痕は「|←→|」で範囲を示した。
- (5)接合資料では、視覚的に図を理解し易くするため、接合剥片の腹面側を網伏せして示したものがあつた。
- (6)接合資料の大半には、剥離工程を理解し易くするために模式図を付けている。同一段階の剥離は同じ模様で表し、矢印で剥離方向を示した。隠れて見えない部分には、破線を用いた。
- (7)長さ・幅・厚さは、石器に外接する直方体を設定して求めた（単位cm）。

# 目 次

口 絵	
例 言	
記号等の説明	
目 次	
挿図目次	
表 目 次	
図版目次	

<b>I 調査の経緯</b>	
1 調査要項	1
2 調査にいたる経緯	1
3 調査の経過	2
4 本書の内容	3
<b>II 調査の方法</b>	
1 調査範囲	5
2 掘削など	6
3 測量と記録	6
4 資料整理	7
5 保 管	9
6 遺物の分類	9
<b>III 遺跡の環境</b>	
1 位 置	11
2 地形など	14
3 周辺の遺跡	14
4 地 層	14
<b>IV 大平遺跡</b>	
1 遺 構	15
2 土 器	31
3 石 器 等	52
<b>V 大平4遺跡</b>	
1 遺 構	89
2 土 器	101
3 石 器 等	111
<b>VI 自然科学的分析</b>	
1 大平遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	163
2 大平4遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	167
3 黒曜石原産地同定 (木古内町大平遺跡・大平4遺跡)	169

写真図版	
引用・参考文献	
報告書抄録	

## 挿図目次

### II 調査の方法

図II-1 発掘区の設定	5
--------------	---

### III 遺跡の環境

図III-1 遺跡の位置	11
図III-2 本古内町の遺跡分布図	12
図III-3 遺跡周辺の現況図	13
図III-4 土層柱状模式図	14

### IV 大平遺跡

図IV-1 遺構位置図	15
図IV-2 H-1(1)	16
図IV-3 H-1(2)	17
図IV-4 H-2・3	19
図IV-5 H-4(1)	21
図IV-6 H-4(2)	22
図IV-7 H-5	24
図IV-8 H-6・8	25
図IV-9 H-7	26
図IV-10 P-1～3・埋設土器1	28
図IV-11 土器集中 a～j・FL-1	30
図IV-12 遺構出土復元土器(1)	32
図IV-13 遺構出土復元土器(2)	33
図IV-14 遺構出土復元土器(3)	34
図IV-15 遺構出土復元土器(4)	35
図IV-16 遺構出土拓本土器(1)	37
図IV-17 遺構出土拓本土器(2)	39
図IV-18 遺構出土拓本土器(3)	40
図IV-19 遺構出土拓本土器(4)	42
図IV-20 遺構出土拓本土器(5)	44
図IV-21 遺構出土拓本土器(6)	45
図IV-22 遺構出土拓本土器(7)	46
図IV-23 遺構出土拓本土器(8)	47
図IV-24 包含層出土拓本土器(1)	49
図IV-25 包含層出土拓本土器(2)	50
図IV-26 土器・土製品分布図	51
図IV-27 遺構出土石器(1)	53
図IV-28 遺構出土石器(2)	54
図IV-29 遺構出土石器(3)	55
図IV-30 遺構出土石器(4)	56

図IV-31 遺構出土石器(5)	57
図IV-32 遺構出土石器(6)・石製品	58
図IV-33 包含層出土石器(1)	61
図IV-34 包含層出土石器(2)	62
図IV-35 包含層出土石器(3)	63
図IV-36 包含層出土石器(4)	64
図IV-37 包含層出土石器(5)	65
図IV-38 包含層出土石器(6)・石製品	66
図IV-39 接合資料(1)	68
図IV-40 接合資料(2)	69
図IV-41 接合資料(3)	70
図IV-42 接合資料(4)	71
図IV-43 石器等分布図(1)	73
図IV-44 石器等分布図(2)	74
図IV-45 石器等分布図(3)	75
図IV-46 石器等分布図(4)	76

### V 大平4遺跡

図V-1 遺構位置図	90
図V-2 P-1～6	91
図V-3 P-7～11	93
図V-4 P-12～17	95
図V-5 P-18～22	97
図V-6 P-23～26・F-1～3・礎集中1	99
図V-7 FL-1～14	100
図V-8 遺構出土復元・拓本土器	102
図V-9 包含層出土拓本土器(1)	103
図V-10 包含層出土拓本土器(2)	105
図V-11 包含層出土拓本土器(3)	106
図V-12 包含層出土拓本土器(4)	107
図V-13 土器・土製品分布図(1)	108
図V-14 土器・土製品分布図(2)	109
図V-15 土器・土製品分布図(3)	110
図V-16 遺構出土石器(1)	112
図V-17 遺構出土石器(2)	113
図V-18 包含層出土石器(1)	114
図V-19 包含層出土石器(2)	115
図V-20 包含層出土石器(3)	116
図V-21 包含層出土石器(4)	117

図V-22 包含層出土石器⑤	118
図V-23 包含層出土石器⑥	119
図V-24 包含層出土石器⑦	120
図V-25 包含層出土石器⑧・石製品	121
図V-26 接合資料①	125
図V-27 接合資料②	126
図V-28 接合資料③	127
図V-29 接合資料④	128
図V-30 接合資料⑤	129
図V-31 接合資料⑥	130
図V-32 接合資料⑦	131
図V-33 接合資料⑧	132
図V-34 接合資料⑨	133
図V-35 接合資料⑩	134
図V-36 接合資料⑪	135
図V-37 接合資料⑫	136
図V-38 接合資料⑬	137
図V-39 接合資料⑭	138
図V-40 石器等分布図①	141
図V-41 石器等分布図②	142
図V-42 石器等分布図③	143

図V-43 石器等分布図④	145
図V-44 石器等分布図⑤	146
図V-45 石器等分布図⑥	147
図V-46 石器等分布図⑦	148

## VI 自然科学的分析

第1図 東北日本の黒曜石 SiO <sub>2</sub> -Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (総合図)	171
第2図 東北日本の黒曜石 Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -TiO <sub>2</sub> 図 (総合図)	172
第3図 東北日本の黒曜石 K <sub>2</sub> O-CaO図 (総合図)	173
第4図 東北日本の黒曜石 Rb-Sr図 (総合図)	174
第5図 東北日本の黒曜石 SiO <sub>2</sub> -Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> (総合図)	175
第6図 東北日本の黒曜石 Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> -TiO <sub>2</sub> 図 (総合図)	175
第7図 東北日本の黒曜石 K <sub>2</sub> O-CaO図 (総合図)	175
第8図 東北日本の黒曜石 Rb-Sr図 (総合図)	175

## 表 目 次

### III 遺跡の環境

表III-1 木古内町の遺跡一覧	13
------------------	----

### IV 大平遺跡

表IV-1 遺構計測値一覧	77
表IV-2 土器点数集計	77
表IV-3 掲載土器一覧	78
表IV-4 遺構出土土器等点数集計	80
表IV-5 遺構出土土器等重量集計	81
表IV-6 遺構出土土器等石材別集計	82
表IV-7 包含層出土土器等集計	83
表IV-8 遺構出土掲載石器・石製品一覧	84
表IV-9 包含層出土掲載石器・石製品一覧	85
表IV-10 掲載接合資料一覧	86
表IV-11 H-7 HP-1 底面出土礫計測表	87
表IV-12 FL-1 水洗篩別遺物集計	87
表IV-13 礫の大きさ	88
表IV-14 接合資料完形剥片計測値一覧	88

### V 大平4遺跡

表V-1 遺構計測値一覧	149
表V-2 土器点数集計	149
表V-3 掲載土器一覧	150
表V-4 遺構出土土器等点数集計	151
表V-5 遺構出土土器等重量集計	152
表V-6 遺構出土土器等石材別集計	153
表V-7 遺構出土掲載石器一覧	153
表V-8 包含層出土土器等集計	154
表V-9 包含層出土掲載石器・石製品一覧	155
表V-10 掲載接合資料一覧	157
表V-11 FL-1～14水洗篩別遺物集計	160
表V-12 遺構出土礫計測表	161
表V-13 礫の大きさ	161
表V-14 接合資料完形剥片計測値一覧	162

### VI 自然科学的分析

第1表 化学分析表	170
第2表 原産地対比表	170

## 図版目次

### 大平遺跡

- 図版1 調査状況  
図版2 竪穴住居跡(1)  
図版3 竪穴住居跡(2)  
図版4 竪穴住居跡(3)  
図版5 竪穴住居跡(4)  
図版6 竪穴住居跡(5)  
図版7 竪穴住居跡(6)  
図版8 竪穴住居跡(7)  
図版9 竪穴住居跡(8)  
図版10 竪穴住居跡(9)  
図版11 竪穴住居跡(10)  
図版12 竪穴住居跡(11)  
図版13 竪穴住居跡(12)  
図版14 土坑(1)  
図版15 土坑(2)  
図版16 その他の遺構  
図版17 遺構出土復元土器(1)  
図版18 遺構出土復元土器(2)  
図版19 遺構出土復元土器(3)  
図版20 遺構出土復元土器(4)  
図版21 遺構出土拓本土器(1)  
図版22 遺構出土拓本土器(2)  
図版23 遺構出土拓本土器(3)  
図版24 遺構出土拓本土器(4)  
図版25 遺構出土拓本土器(5)  
図版26 遺構出土拓本土器(6)  
図版27 遺構出土拓本土器(7)  
図版28 包含層出土拓本土器(1)  
図版29 包含層出土拓本土器(2)  
図版30 遺構出土石器(1)  
図版31 遺構出土石器(2)  
図版32 遺構出土石器(3)・石製品

- 図版33 包含層出土石器(1)  
図版34 包含層出土石器(2)  
図版35 包含層出土石器(3)  
図版36 包含層出土石器(4)・石製品・接合資料(1)  
図版37 接合資料(2)  
図版38 H-7 HP-1 底面出土礎

### 大平4遺跡

- 図版39 調査状況  
図版40 土坑・土坑墓(1)  
図版41 土坑・土坑墓(2)  
図版42 土坑・土坑墓(3)  
図版43 土坑・土坑墓(4)  
図版44 土坑・土坑墓(5)  
図版45 土坑・土坑墓(6)  
図版46 土坑・土坑墓(7)  
図版47 土坑・土坑墓(8)  
図版48 土坑・土坑墓とその他の遺構  
図版49 遺構出土復元・拓本土器  
図版50 包含層出土拓本土器(1)  
図版51 包含層出土拓本土器(2)  
図版52 包含層出土拓本土器(3)  
図版53 遺構出土石器(1)  
図版54 包含層出土石器(1)  
図版55 包含層出土石器(2)  
図版56 包含層出土石器(3)  
図版57 包含層出土石器(4)  
図版58 包含層出土石器(5)  
図版59 接合資料(1)  
図版60 接合資料(2)  
図版61 接合資料(3)  
図版62 接合資料(4)  
図版63 接合資料(5)  
図版64 遺構出土礎

# I 調査の経緯

## 1 調査要項

事業名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構
事業受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	大平遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-05-07） 大平4遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-05-29）
所在地	上磯郡木古内町字大平63：大平遺跡 上磯郡木古内町字大平60：大平4遺跡
調査期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日（発掘期間：平成21年5月7日～10月30日、 平成22年7月7日～11月5日）
調査面積	大平遺跡：平成21年度411㎡ 大平4遺跡：平成21年度1,172㎡ 平成22年度2,011㎡（本線部分1,561㎡、付帯工事部分450㎡）

### 調査整理体制（平成21年度）

- 第1調査部 部長 越田賢一郎
  - 第1調査部第3調査課 課長 鈴木 信（発掘担当者）
  - 第1調査部第3調査課 主査 菊池慈人
  - 第1調査部第3調査課 主任 山中文雄
  - 第1調査部第3調査課 主任 酒井秀治
- （平成22年度）

- 第1調査部 部長 千葉英一
- 第1調査部第3調査課 課長 鈴木 信
- 第1調査部第3調査課 主査 立川トマス（発掘担当者）
- 第1調査部第3調査課 主査 菊池慈人
- 第1調査部第3調査課 主任 山中文雄
- 第1調査部第3調査課 主任 酒井秀治
- 第1調査部第3調査課 主任 佐藤和雄

## 2 調査にいたる経緯

大平遺跡は『埋蔵文化財包蔵地一覧（全道編）』北海道教育委員会（昭和51年3月発行）・『全国遺跡地図 北海道Ⅲ』文化庁（昭和54年3月発行）に掲載されており、昭和54年には北海道教育委員会が一般分布調査を行っている。大平4遺跡は『埋蔵文化財包蔵地一覧（全道編）』・『全国遺跡地図 北海道Ⅲ』には未掲載であるが、昭和58年に津軽海峡線建設に伴う所在確認調査によって周知の遺跡となり、北海道教育委員会ホームページ『北の遺跡案内』に記載されている。今回調査の範囲は、大平遺跡については周知範囲の北東端に当たり、大平4遺跡については周知範囲外の北西側に当たる。



鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「鉄建機構」という）が計画・実施している「北海道新幹線」事業は、全国新幹線鉄道整備法（昭和45年法律第71号）に基づき、整備計画が定められている。平成10年1月には、政府・与党整備新幹線検討委員会において、新規着工区間として3線3区間の着工が認められ、平成12年12月の同委員会では、既に着工している区間と新たに着工する区間とを併せて、平成13年度から3線6区間として整備を推進することとなる。北海道新幹線・新青森-新函館の工事認可書が平成17年4月27日、国土交通省から鉄建機構に交付された。

鉄建機構は、木古内町教育委員会を經由して、北海道教育委員会（以下、「道教委」という）あてに北海道新幹線建設工事に伴う木古内町内の路線における事前協議書を提出し、道教委は路線内の遺跡の試掘調査を行う（平成19年11月に大平4遺跡周辺、平成20年11月に大平遺跡周辺）。これら包蔵地については発掘調査が必要である旨、鉄建機構に伝えられた。鉄建機構は工事計画の変更は不可能と判断した。

以上の経緯から、平成21年2月に道教委が財団法人北海道埋蔵文化財センター（以下、「センター」という）に、大平遺跡：411㎡、大平4遺跡：1,172㎡の調査面積を指示し、平成21年4月にセンターは調査計画を立案した。平成21年に発掘調査・整理、平成22年に整理・報告を行なった。また、平成22年3月に道教委がセンターに、大平4遺跡：1,817㎡の調査面積を指示し、平成22年3月にセンターは調査計画を立案した。

### 3 調査の経過

#### (1)発掘経過

平成21年

- 6月18日～19日：大平4遺跡調査区（1,172㎡）の重機による表土除去、基準杭・方眼杭打設
- 6月22日～29日：大平4遺跡・大平遺跡のためのプレハブ設置、水道・電気工事
- 6月30日～7月3日：遺物包含層に対して25%調査を実施
- 7月13日～8月7日：遺物包含層と遺構調査の実施
- 8月7日：調査終了（1,172㎡）、時期は主に縄文早期後半・縄文前期後半、土坑26基・集石1か所・焼土2か所・剥片集中14か所。遺物点数は土器等10,209点・石器等29,614点。
- 7月27日～29日：大平遺跡調査区（411㎡）の重機による表土除去、基準杭・方眼杭打設
- 8月5日～9月3日：遺物包含層と遺構調査の実施
- 9月3日：調査終了（411㎡）、時期は主に縄文前期後半、住居8軒・土坑3基（うち1基はフラスコ状土坑）・土器集中10か所・埋設土器1か所。遺物点数は土器等15,576点・石器等14,131点。

平成22年

- 7月1日～6日：大平4遺跡調査区（1,817㎡）のうち、私道、擁壁部分（256㎡）を除く1,561㎡重機による表土除去
- 7月7日・16日：基準杭・方格杭打設
- 7月7日：遺物包含層と遺構調査実施
- 7月23日：調査終了（1,561㎡）。時期は主に縄文時代前期から晩期。検出遺構は焼土1か所。遺物量は土器56点、石器等560点。

#### (2)整理経過

平成21年度：9月7日から整理作業開始、遺物注記・破片接合・遺構素図作成・写真整理。

平成22年度：4月1日から実測・墨入れ、写真撮影、図版製作、放射性炭素年代測定・黒曜石産地同定の成果を得る。

## 4 本書の内容

本書では、木古内町大平遺跡の平成21年度調査区、大平4遺跡の平成21年度調査区・平成22年度調査区のうち本線部分について報告を行う。遺構と土器・石器等の遺物、自然科学的分析について報告する。I章では、調査に至る経緯とこれまでの調査の経過について説明する。II章では、当遺跡の調査の工程を概説、調査方法と遺物や図面・写真などの記録類の取り扱いについて説明する。III章では、遺跡の位置・立地とその環境について触れる。IV章では、大平遺跡の遺構・遺物と包含層出土の遺物に対する事実報告をする。V章では、大平4遺跡の遺構・遺物と包含層出土の遺物に対する事実報告をする。VI章では、分析者による報告を掲載する。写真図版では、現地調査における調査状況や土層・各遺構の状況、出土した遺物を掲載する。(鈴木)

## Ⅱ 調査の方法

### 1 調査範囲

#### (1)発掘区の設定

##### a 方格組みおよび座標

発掘必要区域は「北海道新幹線、新青森-新函館」内であるため、発掘区の設定は以下のように行った(図Ⅱ-1)。まず、調査対象遺跡に当たる計画路線のうち路線中心線115k100m~115k500m(大平遺跡・大平4遺跡を含む)が直線であることからこれを基線とし、くわえて、両遺跡が同系の座標に入るように基線に対して平行・直交する方格を組み、方格設定の原点として115k100m~115k500m点間の115k300m(調査方格名称M40)・115k400m(調査方格名称M60)を選定した。

方格間隔は、方格杭打設の経費節減、1グリッドあたりの投入人員数・作業員の班構成、遺構内に含まれてしまう方格杭の低減、調査面積累計把握の容易さを考慮して5mに設定した。それぞれの区画線にアルファベット(北東-南西方向)と数字(南東-北西方向)を与え、発掘区(グリッド)の呼称は、方眼の西角で交差する区画線を読む。さらに、5m方眼を2.5m四方に分割して、反時計回りに南西角から「a」・「b」・「c」・「d」と呼ぶ小発掘区(小グリッド)を設置し、調査の便宜を図った。

平成21年度の調査着手に当たっては株式会社東央測量に委託し、3級基準点2か所の測量を行い、20m間隔の基準杭を6か所設置し座標値と標高を得た。これを基本杭として5m方眼杭の打設を行った。

なお、調査に必要な5m方格杭は、その都度自ら打設することがあった。

上方格の原点平面直角座標(平面直角座標系第Ⅱ系)は図Ⅱ-1中の2点115k300m・115k400mにあたり、

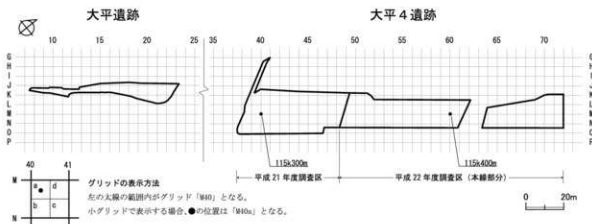
115k300m(調査方格名称M40) : X = -256, 340, 448, Y = 16, 573, 927

北緯41° 41' 31"・東経140° 26' 57"

115k400m(調査方格名称M60) : X = -256, 321, 254, Y = 16, 609, 140

北緯41° 41' 32"・東経140° 26' 58"

この平面直角座標は「世界測地系」に基づいた「測地成果2000」の座標である。



図Ⅱ-1 発掘区の設定

打設された20m間隔基準杭平面直角座標は

J 10 : X = -256, 445, 997, Y = 16, 485, 490	H 40 : X = -256, 324, 428, Y = 16, 593, 121
J 15 : X = -256, 426, 804, Y = 16, 501, 509	M 40 : X = -256, 340, 448, Y = 16, 573, 927
J 20 : X = -256, 407, 610, Y = 16, 517, 528	M 45 : X = -256, 321, 254, Y = 16, 609, 140

## b 水準点

水準点は調査区内に打設された20m間隔基準杭を使用した。

J 15 : 13, 201m	J 20 : 12, 493m	M 40 : 9, 505m	M 45 : 10, 583m
-----------------	-----------------	----------------	-----------------

## 2 掘削など

### (1)掘削

人力掘削作業は、主に移植ゴテ・ねじり鎌を使用して行った。遺構・遺物の検出状況に応じて、竹べらや竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないように掘削を行った。精査・清掃の際には、前記のほかロボウキ・ブラシ等を用いた。また、移植ゴテでは掘ることが困難な場所や攪乱坑等ではスコップ等を併用した。

遺構は粘質土壌に包埋されているため、降雨による泥化流、乾燥による収縮・ひび割れが起こりやすい。そのため、適度にじょうろや噴霧器を用いて散水を行い、ベニヤ板・ブルーシートなどをかけるなど降雨・乾燥に配慮を行って調査を進めた。人力掘削対象土層は水を含むと滑りやすく危険をともなった。そのため、排土道や通路に歩み板や麻袋を敷いて転倒の防止に努めた。

人力掘削方針は、上面での精査、アイヌ文化期・擦文文化期の遺構・遺物の確認のため深度3cm、それ以降は深度5cm単位で掘削した。なお、状況に応じて深度3cmと深度5cmを適宜用いた場合がある。

### (2)埋め戻し

大平遺跡・大平4遺跡は共に工事着手までに期間があることから施工面保護が必要であった。そのため、発掘排土を用いて重機により埋め戻しを行なった。なお、大平4遺跡については次年度以降も調査が行われる可能性があったため、北東辺の壁面は冬季間の土壤凍結・融解に曝される。そのため、埋め戻しの際は包含層が傷まないようにした。

## 3 測量と記録

### (1)測量・図化

委託設置した基準杭をもとに5m方格の各交点に木杭を設置し、平面測量の基準とした。水準測量は自動レベルと1mm目盛のアルミスタッフを用いて方格杭に基準杭を与点とする標高を入れ、方格杭と対象の比高を直接観測した。平面測量は方格杭を基準としての手測りによる。

遺構・遺物の詳細な出土位置と範囲を記録することにより、その接合関係を把握し、遺構の形成順序を把握するため下記のような方法を用いて遺物の検出範囲と出土位置を記録することとした。

実測は1mm方眼のB3版セクションフィルムに基本的に20分の1スケールで記入した。

## (2)現場での撮影

### a 撮影方法

発掘現場での撮影は、6×7サイズカメラを使用し、デジタルカメラで補助記録を撮った。記録保存のため同一カットを同じ条件（シャッタースピード・露出）で複数コマ撮影し1セットとした。なお、絞りを換えてさらに撮影した場合がある。

撮影は遺構・遺物の出土状況などを行った。また、進行状況の確認となる定点撮影も行った。撮影に際しては、各被写体の撮影方向・出土位置・取上面など必要な情報を入れることを考慮した。ブレ・ボケなどを防止する為に撮影は三脚を用い、さらにレリーズを用いた場合がある。

### b 撮影機材

撮影機材・フィルムは下記を使用した。

カメラはMamiya RZ67PRO II、フィルムはコダックT-Max100とフジフィルムPROVIA100F。フィルムの使用頻度や収納スペースの観点から、ほとんどを6×7サイズで行なうこととした。スライドには必要に応じて6×7サイズリバーサルフィルムより作成した。

### c 撮影データ

現場での撮影データ（カットNo・撮影日・被写体名・被写体詳細または出土層位・撮影方向・フィルム種類・撮影者）は撮影者が野帳に記入し、記録とデジタルカメラによる撮影の統合を行い写真台帳とした。

## (3)出土品の収集

### a 掘り出し遺物

取り上げ方は点取り上げと一括上げがある。一括上げとは5m方眼・層別である。

### b 土壌等

土壌の取り上げは遺物の取上げと同じ方法で行った。ただし、すべて範囲を記録した一括上げである。土壌に含まれる、多量の小剥片などは、土壌ごとポリ袋に採取し、その後の整理作業で水篩選別（2mmメッシュ・5mmメッシュ）により取り出している。

## 4 資料整理

### (1)図面等

遺構などの原因は訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその個所が確認できるように原因に書き込んでいる。その後、原因から1mm方眼の方眼紙に鉛筆をもちいて作成した素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト（Illustrator CS2）により補正・加工し版下を作成した。

### (2)出土品

#### a 掘り出し遺物

一次整理：掘り出された土器・石器等は、野外作業と平行して現地で水洗・乾燥・遺物台帳の作成・遺物カードの添付・注記作業を行った。ただし、大平遺跡の台帳作成・注記作業は江別センターでおこなった。

水洗はボンドブラシや歯ブラシなどを使用して遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、遺物乾燥小屋の室内で行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに遺物名と点数を決定したうえで遺物番号を与え、遺物台帳に登録した。

遺物台帳は、土器・土製品と石器等とに分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記入し、グリッド別に全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土グリッドまたは遺構のほか遺物番号・取り上げ日・層位・遺物名・分類・材質（石器等に限定）・点数その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードとともに遺物番号ごとにチェック付ポリ袋に納めた。遺物カードは土器等と石器等で色を分け、大平遺跡については土器が「水色」・石器等が「桃色」、大平4遺跡については土器が「黄緑色」・石器等が「白色」とした。

注記は、手書きによって行った。注記対象は、土器片が径3cm以上のもの、石器等は礫を除いて大きさ3cm以上について行なった。注記できなかった遺物は遺物番号ごとにポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。注記内容は、遺構については、遺跡名の略号「オ」；大平遺跡、「オ4」；大平4遺跡、出土遺構名の略号「H、P」と遺構番号「アラビア数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は例えば「オ」+「H」・「遺構番号」+「遺物番号」である。包含層については、遺跡名の略号「オ4」、出土方格南北方向「アルファベット」と東西方向「アラビア数字」、遺物番号「アラビア数字」を記入した。組み合わせ表記順は例えば「オ4」+「グリッド名」+「遺物番号」である。

**二次整理**：一次整理の終了した遺物を埋蔵文化財センターに搬入し、分類・材質の確認、接合などを行った。遺物の整理と平行して遺物台帳の修正・コンピューターへの入力を進めた。整理終了後、原則として各遺物と遺物カードを同封したチェック付ポリ袋に戻し、出土方格座標と出土層ごとに遺物番号順に整理し、プラスチックコンテナに収納した。

土器立体復元は、遺物台帳と破片の照合→接合関係表記→土器接合→樹脂充填の手順を取った。復元個体数は16個体である。

土器拓本は破片個体について行い、断面は人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。土器実測は立体復元について行い、人手による原寸実測、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。

石器実測は人手による原寸実測、原寸素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト（Illustrator CS2）により加工し版下を作成した。（鈴木）

#### (4)写 真

##### a スタジオ撮影

**撮影方法**：光量の安定性、色再現の忠実性などの理由からストロボを用いて撮影を行っている。土器片や石器などは、トヨ無影撮影台とトヨウエイトスタンド（WEIGHT STAND-101）を使用し俯視撮影を行った。その際、遺物は発砲スチロールや脱脂粘土などで傾きを調整した。

復元土器は、撮影台に白い背景紙を垂らして立面撮りを行なった。集合写真など、撮影台に遺物が乗り切らない時は、背景紙を床に直に垂らして撮影した。現場での撮影と同様に、同じ条件（ライティング・シャッタースピード・露出）で2コマ撮影し、それをもって1セットとした。

**撮影機材**：ストロボ機材は、2400W/Sの電源部（コメットCB-2400a）を2～3台、発光部（CL-25H、CLX-25miniH）を2～4灯、ディフューザーは、主にライトバンク・ディフューザーフィルムを使用した。カメラはMamiya RZ67PRO II及びトヨビュー45GXを用い、フィルムはブローニーサイズのコダックT-Max100・フジフィルムPROVIA100Fを主に使用した。

##### b 現像

**フィルム現像**：カラーリバーサルフィルムは外注している。モノクロフィルムに関しては、自動現像機（ILFORD ILFOLAB FP40）での自家処理となっている。

ペーパー現像：モノクロ写真の焼き付けは自家処理しており、写真館版用の焼付けや密着焼きを行っている。

### c 保管・管理

**写真台帳**：写真台帳はパソコンに入力しデジタルデータ化して管理しており、写真の検索が瞬時に行なえる。また、画像を画面上で見ることが出来るため、不必要にオリジナルのフィルムに触れる機会が減少し、フィルムの劣化・破損などを防ぐことが出来る。

**フィルム**：フィルムには1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。フィルムに触れる時は必ず手袋を着用し、油分からの変色・劣化やカビの発生を防いでいる。また、同一条件で撮影した2コマのうち1コマはオリジナルフィルムとして使用しないようにした。使用頻度や貸し出し依頼の多いカットに関しては、デュープを作成し対応している。アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。(菊池)

## 5 保 管

今回の報告に関する図面等・写真・出土遺物は平成23年3月現在、北海道立埋蔵文化財センターで保管している。図面等は全てA2版図面ファイルに調査年度・北埋調報番号・遺跡名をつけて収納している。写真アルバムは全ての調査・整理作業が終了した後、定温・定湿に保たれた特別収蔵庫に保管される。出土遺物に関しては、土器片や石器等はコンテナに収納する。コンテナには調査年度・北埋調報番号・遺跡名・遺物名・分類・収納番号を記したラベルを貼った。木古内町教育委員会が保管管理する予定である。

## 6 遺物の分類

### (1)土 器

I群とはa類・b類に共通する属性を含む縄文土器。b類が大平4遺跡から出土している。

a類：貝殻腹縁圧痕文・条痕文のある土器群

b類：縄文・燃糸文・絡条体圧痕文・組紐圧痕文・貼付文のある土器

b1類：東銅路Ⅱ・Ⅲ式 b2類：中茶路式 b3類：コッタロ式 b4類：東銅路Ⅳ式

II群とはa類・b類に共通する属性を含む縄文土器。b類が大平・大平4遺跡から出土している。

a類：胎土に繊維を含み厚手で縄文が施された丸底・尖底の土器群

b類：円筒土器下層式

III群とはa類・b類に共通する属性を含む縄文土器。a類が大平遺跡から出土している。

a類：円筒土器上層式

b類：椀林式・大安在B式・ノダップⅡ式

IV群とはa類・b類・c類に共通する属性を含む縄文土器。a～c類が大平4遺跡から出土している。

a類：余市式～入江式・大津式 b類：船泊上層式～エリモB式 c類：堂林式～御殿山式

V群とはa類・b類・c類に共通する属性を含む縄文土器。b類が大平4遺跡から出土している。

a類：大洞B・BC式・上ノ国式 c類：大洞A式・A'式

b類：大洞C<sub>1</sub>式・大洞C<sub>2</sub>式

大平遺跡からはII群b類の出土が極めて多く、そのうち円筒土器下層cd式がほとんどである。大平

4遺跡からはⅠ群b類とⅡ群b類が多く出土し、Ⅰ群はb4類（東鋼路Ⅳ式）、Ⅱ群はb類のうち円筒土器下層b式がほとんどである。  
(鈴木)

## (2)石器等

石器等は剥片石器類、磨製石器類、礫石器類、石製品、礫に大別される。

剥片石器類には石鎌、石槍、石錐、石匙、篋状石器、削器、搔器、両面加工石器、二次加工ある剥片、微細剥離痕ある剥片、剥片石器片、剥片、石核がある。

磨製石器類には磨製石斧、礫石器類にはたたき石、凹石、すり石、半円状扁平打製石器、北海道式石冠、石鋸、砥石、台石、石皿、加工痕ある礫、これらの加工時に生じた剥片がある。

上記三つの石器類に含まれない石製遺物は石製品とし、加工痕、使用痕とも認められないものは礫とした。  
(山中)



### Ⅲ 遺跡の環境

#### 1 位置

##### (1) 所 在

木古内町は北海道の南西部、松前半島の北東を占め、北は北斗市、南は知内町に接している。大平遺跡、大平4遺跡はJR木古内駅から約2 km離れた木古内町街の北東側にある。大平遺跡は孫七川下流右岸、大平4遺跡は孫七川下流左岸にあり、河口からは約200m遡った標高10m前後の段丘上に立地する(図Ⅲ-1)。

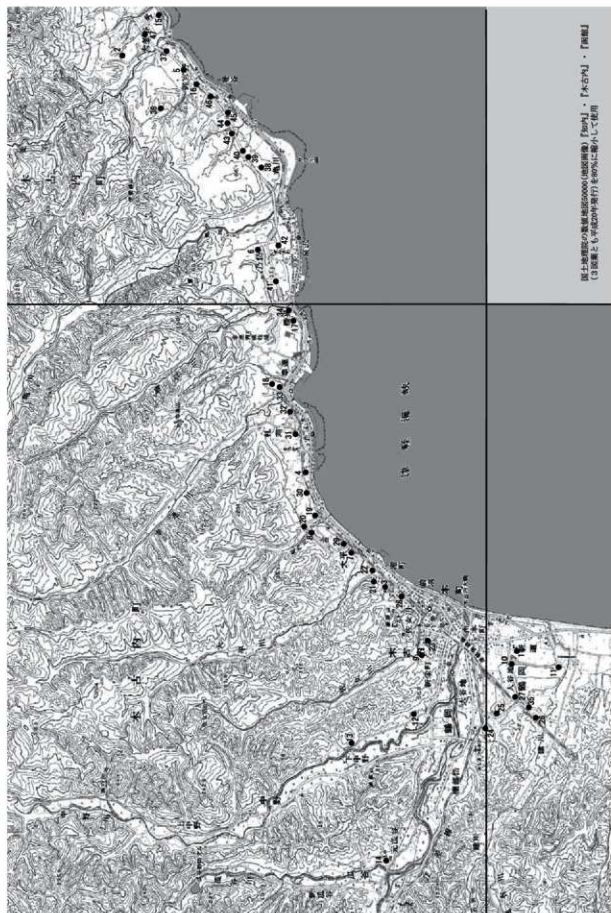
##### (2) 地 名

遺跡所在の行政地名は、大正5年発行土地連絡実測原図(法務局蔵)に字名として「大平」「蛇内」が見え、昭和4年に「蛇内」は「大平」に統合される。また地名の初出は、宝暦8年刊著者不詳『松前蝦夷聞書』に「おひら山」、寛政11年刊渋江長伯『東渡奇勝』に「大平川」と漢字表記される(木古内町教育委員会木元豊氏教示)。「大平」はアイヌ語の「おひら」に当て字したものと推定され、地形地名の「o-pira:(河)口にある崖」があてられる。大平遺跡南東側にある海岸段丘崖をさしているものと考えられる。

また、安政4年刊の松浦武四郎『竹四郎廻浦日記』には喜古内村の内に、「ヲヒラ川:ヌフケサワの川の名也」とあり、隣接して札苅村側に「ヌフケサワ:小川あるよし」、さらに隣接して札苅村側に「ヘビナイ:沢内ひろし。川有」とある。「ヲヒラ川」の注釈から「ヲヒラ川」は「ヌフケサワ」の一部であり、「ヌフケサワ」には別に小川が流れているので、「ヲヒラ川」と「ヌフケサワ」は合流していたと解釈される。現在の位置関係は南から大平川・孫七川・蛇内川であるから、「ヲヒラ川」は大平川、「ヌフケサワ」の小川は孫七川であり、大平川と孫七川の合流点から河口部までが「ヌフケサワ」と推定される。



図Ⅲ-1 遺跡の位置

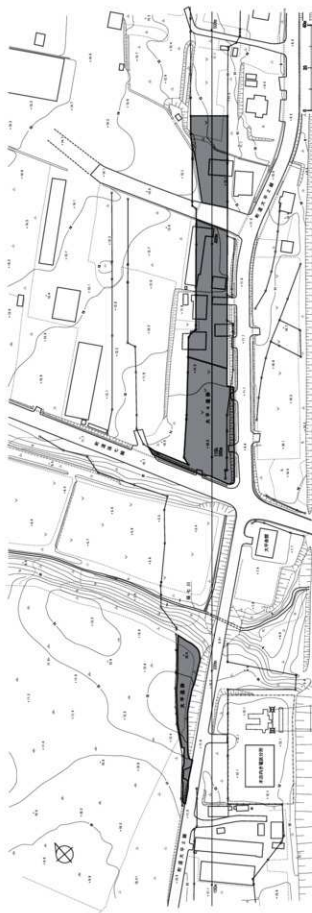


図III-2 木古内町の道跡分布図

表III-1 木古内町の道跡一覧

登録番号	道跡名	種別	時期	供養番号	道跡名	種別	時期	遺構番号	道跡名	種別	時期
B-05-01	新道道跡	遺物包含地	縄文	B-05-17	扇形道跡	遺物包含地	縄文・縄縄文(前中期)	B-05-33	幸道2道跡	遺物包含地	不明
B-05-02	大塚谷道跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	B-05-18	平波道跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	B-05-34	扇似2道跡	遺物包含地	不明
B-05-03	木古内道跡	集落跡	縄文(前期・中期)	B-05-19	蛇内2道跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	B-05-35	建川2道跡	集落跡	縄文(前期～晩期)
B-05-04	杜島道跡	集落跡	縄文(晩期)	B-05-20	蛇内3道跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	B-05-36	釜谷3道跡	遺物包含地	縄文(後期)
B-05-05	釜谷道跡	集落跡	縄文(中期～晩期)・縄文	B-05-21	大平2道跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	B-05-37	釜谷4道跡	遺物包含地	出合遺構、縄文(早期～後期)
B-05-06	桑江道跡	遺物包含地	縄文	B-05-22	大平3道跡	遺物包含地	縄文(中期)	B-05-38	亀川道跡	遺物包含地	縄文(晩期)
B-05-07	大平道跡	集落跡	縄文(前期～後期)	B-05-23	高校高台道跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	B-05-39	亀川2道跡	遺物包含地	縄文(中期～晩期)
B-05-08	蛇内道跡	集落跡	縄文(前期～後期)	B-05-24	扇形道跡	遺物包含地	縄文	B-05-40	亀川3道跡	集落跡	縄文(早期～晩期)
B-05-09	新室町道跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	B-05-25	扇形2道跡	遺物包含地	縄文(前期～晩期)・縄縄文	B-05-41	泉沢2道跡	集落跡	縄文(前期～晩期)・縄文
B-05-10	新道3道跡	集落跡	縄文(中期・後期)	B-05-26	東川道跡	遺物包含地	縄文(早期～晩期)	B-05-42	泉沢3道跡	遺物包含地	縄文(後期)
B-05-11	新道2道跡	集落跡	縄文(中期・後期)	B-05-27	新道4道跡	集落跡	縄文(早期・縄縄文(前期～晩期)・巨石器、縄縄文(前期～晩期)・土器)	B-05-43	亀川4道跡	遺物包含地	縄文
B-05-12	中野A道跡	遺物包含地	縄文(前期)	B-05-28	木古内2道跡	遺物包含地	縄文(中期)	B-05-44	釜谷5道跡	集落跡	縄文(早期～晩期)
B-05-13	中野B道跡	遺物包含地	縄文	B-05-29	大平4道跡	遺物包含地	縄文(早期・前期・晩期)	B-05-45	釜谷6道跡	遺物包含地	縄文
B-05-14	瓜谷道跡	遺物包含地	縄文	B-05-30	杜島2道跡	遺物包含地	不明	B-05-46	釜谷7道跡	遺物包含地	縄文
B-05-15	大塚谷2道跡	遺物包含地	縄文(前期・中期)	B-05-31	杜島3道跡	遺物包含地	不明	B-05-47	大塚谷3道跡	集落跡	縄文(前期～晩期)
B-05-16	釜谷2道跡	遺物包含地	縄文	B-05-32	杜島4道跡	遺物包含地	不明				

※登録番号以外の数字は、図解中の1～47と一致する(出典:遺構群発見台帳番号)



図III-3 道跡周辺の状況図

## 2 地形など

遺跡は津軽海峡と後背の山地に挟まれた海岸段丘上にあり、太平洋側水系に属する大平川・孫七川・蛇内川がそれを開析する。海岸段丘のうち標高10～15mの低位段丘は木古内市街北半から泉沢にかけてあり、遺跡付近は最も低位段丘が発達している。また、地質分類では後背山地は新第三系、遺跡のある海岸段丘は第四系に属する。海岸段丘は基盤のシルト岩の上に、礫層、礫混じりローム質粘土層・ローム質粘土層・腐植土が乗る。礫層を構成する礫種はチャート・粘板岩・硬質頁岩・泥岩、円磨度は比較的良好（秦 光男・垣見俊弘1979年『木古内地域の地質』地質調査所）。

## 3 周辺の遺跡

木古内町内にある登録遺跡は47か所であるが、当該遺跡と同様に低位海岸段丘に立地するのは14か所であり、佐女川右岸から幸連川右岸にかけて分布する。新栄町遺跡・高校高台遺跡・木古内遺跡群（うち、1・2）・大平遺跡群（うち、1～4）・蛇内遺跡群（うち、2）・札苺遺跡群（うち、1～4）・幸連2遺跡である。そのうち平成21年度までに調査が行われた遺跡は大平遺跡・大平4遺跡・蛇内2遺跡・札苺遺跡であった（図Ⅲ-2）。

木古内町内の既調査遺跡のうち、大平遺跡（縄文前期後半；円筒下層c d式期の集落）と同時期で同じ性格の遺跡には新道2・4遺跡、亀川3遺跡、釜谷5遺跡、釜谷遺跡があり、新道2・4遺跡、釜谷遺跡は時期が重なる。大平4遺跡（縄文早期後葉；東銅路Ⅳ式期の土坑群）については今のところ調査例はない。

## 4 地 層

確認した台地上の標準的な地層は表土層～黄褐色ローム質土層で、調査対象は黒～褐色シルト質土である（図Ⅲ-4）。自然堆積は呼称を設けローマ数字で表記し、遺構内の人為堆積物はアラビア数字で表記した。

I層（表土層）：近現代耕作土

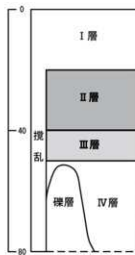
II層（腐植質火山灰土）：黒色シルト質土、縄文時代早前期～晩期の遺構・遺物を包含する。白色火山灰（駒ヶ岳d降下火山灰、略称Ko-d）を上位に、暗褐色火山灰（白頭山-苦小牧火山灰、略称B-Tm）を下位に、両火山灰は斑状に含まれる。IV層上部が腐植土化したもの。

III層（腐植火山灰土）：褐色シルト質土、II層とIV層の漸移層、縄文時代早期の遺物を包含する。IV層上部が腐植土化したもの。

IV層（火山灰土）：黄褐色ローム質土、下部にはチャート・硬質頁岩・泥岩・凝灰岩の垂角礫が混じるローム質土がある。

大平遺跡において、I層は厚い所で80cmあり、平均で20cmくらいである。II・III層は18ラインより北東側に遺存し、孫七川に向かって層厚を増す。IV層は16・17ラインにおいて下部の礫混じりローム層が耕作による削平によってI層の直下に露頭していた。

大平4遺跡において、I層は平均で20cmくらいである。II・III層は調査区全面に遺存し、孫七川に向かってやや層厚を増す。IV層について下部の礫混じりローム層は確認できなかった。（鈴木）



図Ⅲ-4 土層柱状模式図

## Ⅳ 大平遺跡

### 1 遺 構

#### (1)概 要

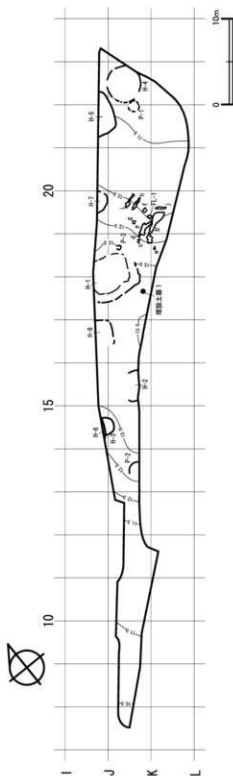
今回の調査は周知範囲の北東端に当たり、周知範囲面積(2,500㎡)の1.6%を占める。当遺跡の遺構構築層準はⅡ層の下位である。遺構位置は標高11.5m以上の丘陵尾根・斜面にあり、調査区のほぼ全面に広がる。遺構のほとんどは、長畧作付けによる溝状の掘削によって、寸断されていた。

竪穴住居跡8軒(縄文時代前期後半)、土坑が3基(縄文時代前期後半が2基、縄文時代前期後葉のフラスコ状土坑1基)、埋設土器1か所(縄文時代前期後半)、剥片集中1か所(縄文時代前期後半)が検出された。竪穴住居跡は縄文時代前期後半のうち円筒下層c～d式期に構築されている。平面形は隅丸長方形・楕円形で、長軸は東-西、北西-南東の2方向がある。住居跡どうしの新旧関係は、H-6がH-3より新しい、H-5がH-4より新しい、ということが判明している。(鈴木)

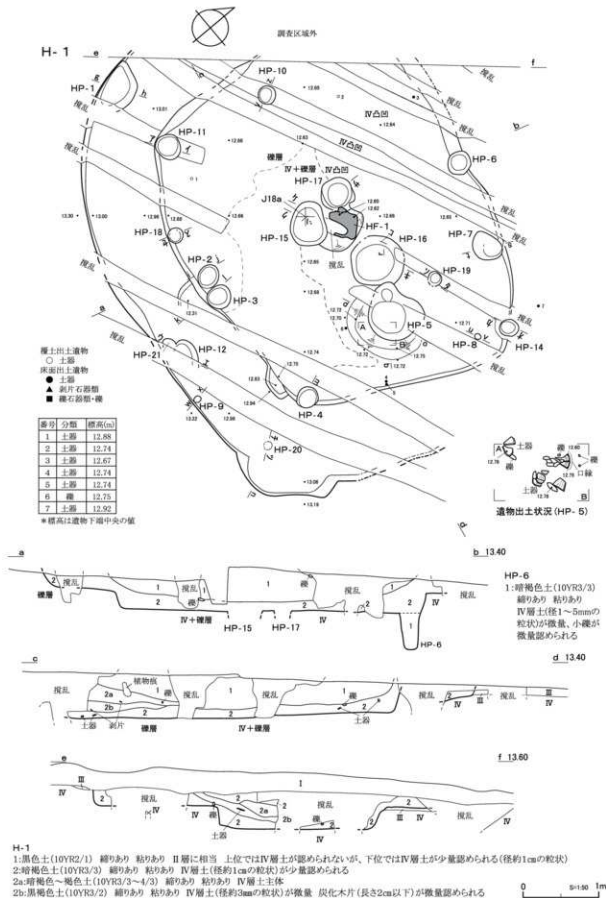
#### (2)竪穴住居跡

##### H-1 (図Ⅳ-2・3、図版2～5)

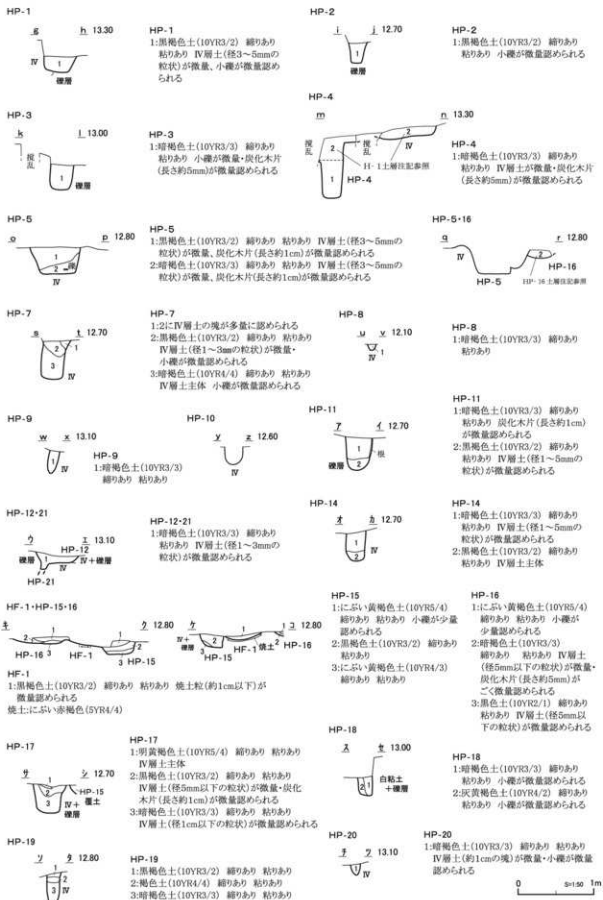
Ⅳ層上部で黒色土等が長径約6m、短径約5mの楕円形に広がっており、その規模から竪穴住居跡があることを予想した。土層堆積状況の観察と床面を確認するため、楕円形の長軸と短軸にトレンチを設定して掘削したところ、床とみられる平坦面を二段検出した。トレンチの各壁面で堆積状況を観察したが、重複する遺構はなく床面が二段の竪穴住居跡であると判断して、引き続き竪穴の覆土除去、炉跡や柱穴等の検出を行った。遺物は覆土から土器片3,167点、剥片石器類815点、磨製石器類3点、礫石器類72点、石製品1点、礫191点が出土している。覆土2層上位では円筒土器上層a1式の大きな破片が、覆土2層でも円筒土器上層式1個体が潰れた状態で出土している。床面の遺物は土器10点、剥片4点、礫1点で、まとまって出土したものはない。



図Ⅳ-1 遺構位置図



図Ⅳ-2 H-1(1)



図IV-3 H-1(2)

上述したように本住居跡には二段の床面がある。住居跡の北東部分は調査区外にあるが、平面形は上位の床面が楕円形、下位の床面は隅丸方形に近い形状で、長軸は東-西の方向である。両者の比高は20~30cmを測り、立ち上がりはどちらも垂直に近い部分が多い。上位の床面の南東部は輪郭が整っていない。土層観察用の土手を残しながら調査したが、覆土に変化はなく攪乱で失われている部分もあり、土坑等と重複しているのか判断しなかった。

住居跡に付属する遺構は21か所ある。HF-1は下位の床面中央で検出した地床炉で、皿状のくぼみ内にある。被熱による赤化部分はまばらにしか認められず、住居廃絶時に焼土が削りとられた可能性がある。柱穴はHP-2~4・6~11・14・17・18~21の15か所である。このうちのHP-2~4、6・7・10・11・14・18が下位の床面の壁付近にあり、主柱穴と考えられる。HP-17は部分的に黄褐色土で粘土されており、柱穴ではない可能性もある。内部から頁岩製の剥片45点、石核1点が出土している。HP-19は他の柱穴と異なり、覆土の締りが強く、地山であるIV層との色調差が小さい。HP-1・5・15・16は柱穴とは考えられない形態のものである。HP-5は下位の床面の長軸上、HF-1の東側にある。攪乱により全体の様子は明らかでないが、上端に沿った土手状の高まりがある。覆土上位で円筒土器下層式の破片がまとまって出している。北西側に柱穴状の輪郭があるが、攪乱によりHP-5との関係はわからなかった。HP-15・16は、ともに上部の一部が黄褐色土で粘土されていた。

本住居跡はII層から掘り込まれたとみられ、覆土1層は住居跡のくぼみに堆積したII層、2層が掘り上げ土等の流れ込みであろう。北西部分では、他の住居の掘り上げ土の可能性のある黄褐色土(2a層)の広がりを出した。2a層の下位には黒褐色土(2b層)があり、上述したように円筒土器上層式1個体が潰れた状態で出している。2a層以下で出土した遺物は2'層として取り上げた。南西側の床面と壁で見られた礫層は、断面が波打っていることから、凍上現象により下位の礫層が持ち上げられたものであろう。このため床面は礫層の部分、IV層の部分、IV層に礫が含まれる部分に分けられる。

時期は住居に付属するHP-5で出土した土器から、縄文時代前期後半(円筒土器下層d式期)であろう。なお、HF-1で採取した炭化木片2点について、放射性炭素年代測定を依頼したところ、補正年代で4,660±40yrBP、4,730±40yrBPという値が得られている(Ⅴ章1節参照)。(山中)

## H-2 (図Ⅳ-4、図版6)

J15とその周辺は、耕作によりII・III層とIV層上半が攪乱されていた。住居の検出は、耕作土を除去したIV層で行なった。耕作土を除去したところ黒褐色の広がりを確認した。調査区東側が道路切通し法面となっていたので、そこで掘りの断面を確認したところ16cmくらいの深さが残る竪穴と判断し、竪穴内の調査を開始した。

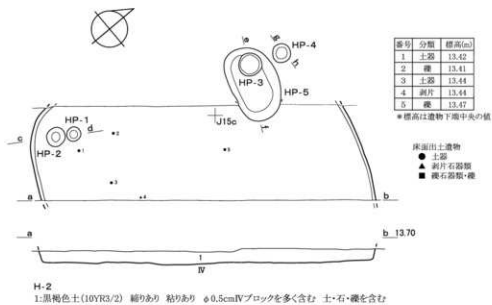
下端平面形は残存する状況から長軸が北西-南東の隅丸長方形と推定され、床面は掘削痕がなく平坦、立ち上がりは明瞭で角があり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面は不明。1層は覆土下部の残存した一部である。

竪穴内では柱穴4個(HP-1~4)・土坑1個(HP-5)が検出できた。柱穴は竪穴内に配置され、2個ずつが接近している。柱穴の深さ14~26cmと浅い。柱穴先端は断面がいずれも平坦で、柱穴先端面は床面に対し並行であり、柱は床面に対して垂直に立てられていた。土坑HP-5はHP-3を取り囲むようにあり、覆土も同じ土質なので柱穴掘り方の可能性もある。

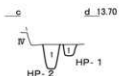
覆土からはフレイク22点、礫17点が出土した。床面からは土器片(II群b)2点、剥片1点、礫4点が出土した。柱穴からは土器片(II群b)20点、剥片1点、礫1点が、土坑からは礫3点が出土した。



H-2



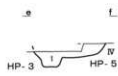
HP-1・2



HP-1  
 1:黒褐色土(10YR3/2)  
 粘りなし 粘りあり  
 φ0.5cmIVブロックを  
 多く含む

HP-2  
 1:黒褐色土(10YR3/2)  
 粘りなし 粘りあり  
 φ1.0cmIVブロックを  
 多く含む 土礫を少量  
 含む

HP-3・5



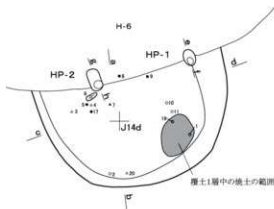
HP-3・5  
 1:黒褐色土(10YR3/2)  
 粘りなし 粘りあり  
 φ0.5cmIVブロックを  
 多く含む

HP-4



HP-4  
 1:黒褐色土(10YR3/2)  
 粘りなし 粘りあり  
 φ0.5cmIVブロックを  
 多く含む

H-3

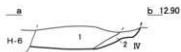


番号	分類	標高(m)
1	土器	12.90
2	土器	12.79
3	石積	12.81
4	銅片	12.86
5	土器	12.66
6	礎	12.68
7	銅片	12.63
8	礎	12.60
9	礎	12.59
10	土器	12.68
11	土器	12.67
17	土器	12.63
19	土器	-

\*標高は遺物下層中央の値

層土出土遺物  
 ○ 土器  
 △ 銅片・石器類  
 ■ 礎・石器類・礎

床面出土遺物  
 ● 土器  
 ▲ 銅片・石器類  
 ■ 礎・石器類・礎



H-3  
 1:黒褐色土(10YR3/2) 粘りあり 粘りあり  
 φ0.5cm炭化材、土器、石器を多く含む  
 2:黒色土(10YR1.7/1) 粘りなし 粘りあり

HP-1



HP-2



HP-1-2

HP-1-2  
 1:黒褐色土(7.5YR3/1) 粘りなし 粘りあり φ0.5cm  
 IVブロック少量  
 2:黒色土(7.5YR1.7/1) 粘りなし 粘りあり

0 0+1.0m 1m

図IV-4 H-2・3

遺構の時期は伴出土器より縄文時代前期後半である。

(鈴木)

### H-3 (図Ⅳ-4、図版7)

J14とその周辺は、耕作によりⅡ・Ⅲ層とⅣ層上半が攪乱されていた。住居の検出は、耕作土を除いたⅣ層で行なった。H-6の調査中に黒色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、掘りの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒褐色土を最下層埋土とする堅穴と判断し、平面形・断面形確定後に堅穴内の調査を開始した。

下端平面形は残存する状況から長軸が北西-南東の楕円形と推定され、床面は掘削痕がなく平坦、立ち上がりは彎曲し、壁は直線的に外上方へ立ち上がる。構築面は不明。1・2層は流れ込みで、1層下部では焼土が斑状に広がって堆積していた。その焼土は斑状の広がり・塊状であるのから二次的に堆積したと推定される。

堅穴内では柱穴2個(HP-1・2)が検出できた。柱穴は堅穴立ち上がりと床やや中央に配置され、2個は並んでいる。柱穴の深さ24~32cmとやや深い。柱穴先端は断面が尖り、柱穴は片側の壁が床面に対し斜行でもう片面が垂直であることから、柱は床面に対して垂直に立てられていた。

覆土からは土器片(Ⅱ群b)46点、石核1点、剥片27点、礫6点が出土した。床面からは土器片(Ⅱ群b)2点、剥片1点、礫2点が出土した。

遺構の時期はH-6よりも古い。伴出土器より縄文時代前期後半である。

(鈴木)

### H-4 (図Ⅳ-5・6、図版8~10)

I~J22は、耕作によりⅡ層のほとんどとⅢ層上半が攪乱されていた。住居の検出は、Ⅱ層を調査中に黒褐色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、十字にベルトを設定し、堅穴内の調査を開始した。断面(a-b、c-d)を確認したところ、黒褐色土・暗褐色土を最下層覆土とする堅穴住居跡と判断した。

下端平面形はほぼ円形、床面は平坦で、立ち上がりは明瞭であり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下位と考えられる。1~11層は流れ込み覆土で、3層はH-5の掘り揚げ土が流れ込んだもの。12層は焼土粒・炭化物を多く含み、地床炉に関連するもの。

堅穴内では柱穴7基(HP-1~7)、土坑4基(HP-8~11)、焼土3か所(HP-1~3)が検出できた。HP-1~5は堅穴の壁から20~30cm離れたところ、HP-6・7は堅穴の中央に配置されている。HP-1~4が主柱穴であり、柱間約2.2mでほぼ正方形に配置されている。HP-5はHP-2と3の中間に位置している。HP-1~4の先端断面形は平坦面をもち、その立ち上がりはやや角があるものの丸味がある。HP-1~4の深さは50~60cmと深く、HP-5~7は20~30cmとやや浅い。柱穴覆土の状況から、柱は床面に対して垂直に立てられており、設置されたまま腐朽したと見られる。

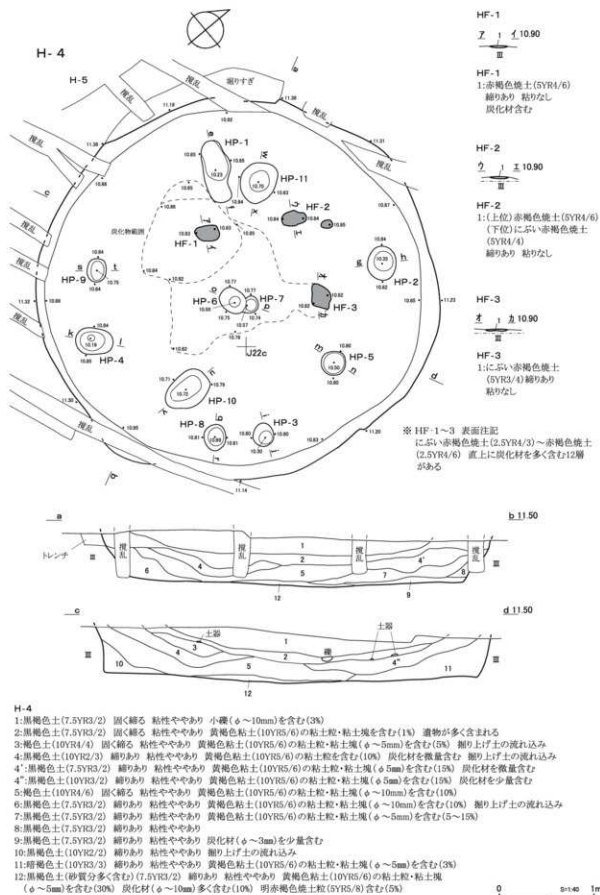
HP-8~11は楕円形で深さ10cmほどの浅い掘り込みである。HP-8・9は、底面が平坦で立ち上がりが明瞭である。HP-10・11は皿状の底面で緩やかに立ち上がる。HP-11の覆土から剥片1点が出土した。

HP-1~3は、地床炉と考えられる。堅穴の中央部が乱れていることから、住居の廃絶時に地床炉を削った可能性がある。HP-1周囲の直上には炭化材の集中が見られる。放射性炭素年代測定では、補正年代で4,680±40yrBP、4,820±40yrBPという測定値を得ている(Ⅵ章1節参照)。

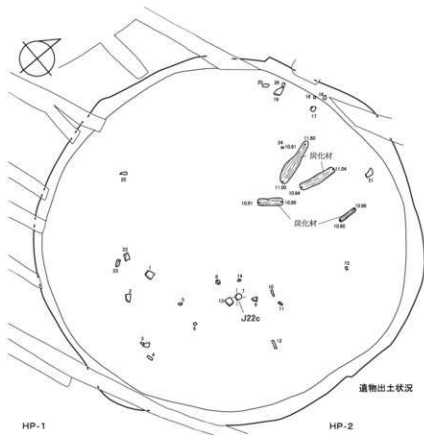
覆土からは土器片(Ⅱ群b)263点、剥片石器等7点、礫石器等8点、剥片38点、礫42点が出土した。床面からは剥片石器等3点、剥片5点、礫石器等4点、礫2点が出土した。

遺構の時期はH-5よりも古い。伴出土器と放射性炭素年代測定の測定結果から、縄文時代前期後半である。

(酒井)



図IV-5 H-4(1)



番号	分類	標高(m)
1	土器	10.87
2	土器	10.89
3	土器	10.88
4	削片	10.89
5	礎	10.84
6	土器	10.87
7	礎	10.83
8	土器	10.79
9	半円状扁平 打製石器	10.83
10	削片	10.88
11	土器	10.83
12	削片	10.82
13	半円状扁平 打製石器	10.78
14	礎	10.76
15	削片	10.84
16	削片	10.87
17	鉄線刺摩痕 ある削片	10.86
18	削片	10.88
19	削片	10.90
20	両面加工土器	10.90
21	削片	10.86
22	半円状扁平 打製石器	10.83
23	礎	10.84
24	削片	10.81
25	半円状扁平 打製石器	10.81
26	削片	10.89

※標高は遺物下層中央の値

HP-1



HP-1

- 1: 暗褐色土(10YR3/3) 締りあり 粘性ややあり  
褐色粘土(7.5YR4/6)の塊(φ~5mm)含む(20%)
  - 2: 黄褐色土(10YR5/6) 固く締る 粘性あり  
灰白色粘土(2.5GY8/1)の塊含む(1%)
  - 3: 黒褐色土(10YR3/4) 締りなし 粘性ややあり
  - 4: 褐色土(10Y4/6) 締りなし 粘りあり
  - 5: 黄褐色土(10YR5/6) やや締る 粘りあり
- ※3が柱痕、4-5は粘り方

HP-2



HP-2

- 1: 褐色土(10YR4/4) やや締る 粘りあり  
灰白色粘土(2.5GY8/1)の塊(φ~5mm)  
を含む(2%)
  - 2: 褐色土(7.5YR4/6) 締りなし 粘性ややあり  
黒褐色土(10YR3/1) 締りなし 粘性ややあり
  - 3: 黄褐色土(10YR5/6) やや締まる 粘りあり
- ※2が柱痕、3は粘り方

HP-3



HP-3

- 1: 黒褐色土(7.5YR2/2)  
締りなし 粘性やや  
あり 褐色土(7.5YR  
4/6)粒を含む(1%)
  - 2: 褐色土(7.5YR4/6)  
締りあり 粘りあり
- ※1が柱痕、2は粘り方

HP-4



HP-4

- 1: 褐色土(10YR4/4) 締りあり  
粘りあり 灰白色粘土(2.5  
GY8/1)塊を含む(5%)
  - 2: 黒褐色土(7.5YR2/2) 締りなし  
粘性ややあり 褐色粘土(2.5  
YR4/6)粒を含む(1%)
  - 3: 褐色土(7.5YR4/6) やや締る  
粘性ややあり 灰白色粘土  
(2.5GY8/1)塊を含む(5%)
  - 4: 褐色土(7.5YR4/6) 締りあり  
粘りあり
- ※2が柱痕、3-4は粘り方

HP-5



HP-5

- 1: 黒褐色土(7.5YR2/2)  
やや締る 粘性ややあり  
褐色土(7.5YR4/6)  
含む(1%)
- ※柱穴、HP-2-3間の中間にある

HP-6・7



HP-6

- 1: 黒褐色土(10YR3/2) やや締る 粘りあり  
褐色土(7.5YR4/6)粒を含む(5%) 炭化材  
(φ~3mm)を含む(1%)
- 2: にぶい黄褐色土(10YR5/4) やや締る 粘りあり

HP-8



HP-8

- 1: 黒褐色土(10YR3/2)  
やや締る 粘性ややあり  
褐色土(7.5YR4/6)塊を  
含む(3%)

HP-9



HP-9

- 1: 黒褐色土(10YR3/2)  
締りあり 粘性ややあり  
褐色土(7.5YR4/6)粒  
含む(1%)

HP-6

- 1: にぶい黄褐色土(10YR4/3) やや締る 粘性ややあり  
褐色土(7.5YR4/6)を含む(3%)  
炭化材(φ~1mm)を含む(1%)
- ※主柱穴(HP-1~5)の配列の中心に位置する

HP-10



HP-10

- 1: 黒褐色土(10YR3/2) 締りあり  
粘性ややあり 褐色土(7.5YR  
4/6)塊を含む(3%)

HP-11



HP-11

- 1: 黒褐色土(10YR3/2)  
締りあり 粘性ややあり  
褐色土(7.5YR4/6)塊  
(φ~5mm)を含む(3%)



図IV-6 H-4(2)

## H-5 (図IV-7、図版11)

I～J21～22は、耕作によりⅡ層のほとんどとⅢ層上半が攪乱されていた。住居の検出はⅡ層精査したところ黒色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した(a-b)。断面を確認したところ、調査区外にまたがり、暗褐色土を最下層覆土とする堅穴と判断し、平面形・断面形確定後に堅穴内の調査を開始した。

下端平面形は長軸が北西-南東の隅丸長方形と推定され、床面は平坦で亀裂が断続するような掘削痕があり、立ち上がりは明瞭で角があり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下位。1～3層は流れ込み覆土で、Ⅳ層の塊土を含む4・5層は上層下半を覆う屋根土の可能性がある。なおH-4内にH-5の掘揚げ土(H-4覆土3層)が流れ込んでいる。

堅穴内では柱穴1個(HP-1)が検出できた。柱穴は堅穴側面に壁から離れて配置されている。柱の掘方は上端が隅丸方形、下端は円形に近い隅丸方形で、柱穴の深さ70cmと深い。柱穴先端は断面が平坦で、柱穴先端面は床面に対し並行であり、柱は床面に対して垂直に立てられていた。柱穴覆土は1・2・4・5・7層が流れ込み覆土、3・6・8層は垂直にずり下がった堆積である。3・6・8層の堆積は柱が設置されたまま腐朽したことを示す。

覆土からは土器片(Ⅱ群b)247点、剥片石器等5点、礫石器等25点、フレイク80点、礫47点が出土した。床面からは土器片(Ⅱ群b)12点、石核1点、礫石器等1点、剥片5点、二次加工ある剥片2点、礫20点が出土した。柱穴からは礫石器1点、礫15点が出土した。

遺構の時期はH-4よりも新しい。伴出土器より縄文時代前期後半である。(鈴木)

## H-6 (図IV-8、図版12)

I13～14とその周辺は、耕作によりⅡ・Ⅲ層とⅣ層上半が攪乱されていた。住居の検出は、耕作土を除去したⅣ層で行なった。耕作土を除去したところ黒褐色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した(c-d)。断面を確認したところ、調査区外にまたがり、暗褐色土を最下層覆土とする堅穴と判断し、平面形・断面形確定後に堅穴内の調査を開始した。

下端平面形は長軸が北西-南東の隅丸長方形と推定され、床面は平坦で、立ち上がりは明瞭で角があり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面は不明。1層は他の堅穴住居の掘揚げ土で、2層は流れ込み覆土である。

覆土からは土器片(Ⅱ群b:32、Ⅲ群a:2)34点、剥片石器等2点、磨製石器1点、礫石器等1点、フレイク39点、礫5点が出土した。床面からは剥片石器等1点、礫石器等1点、剥片1点、礫2点が出土した。

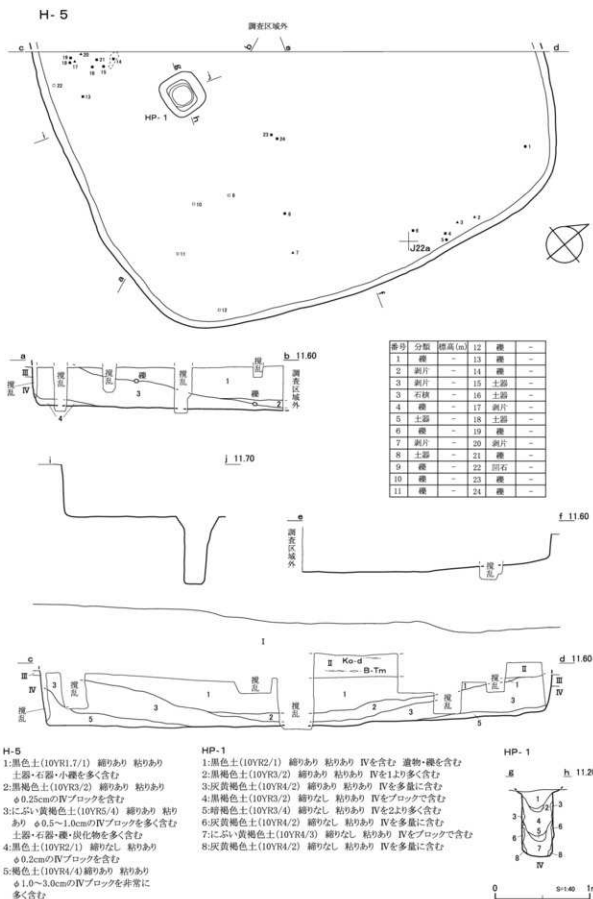
遺構の時期はH-3よりも新しい。伴出土器より縄文時代前期後半である。(鈴木)

## H-7 (図IV-9、図版12・13)

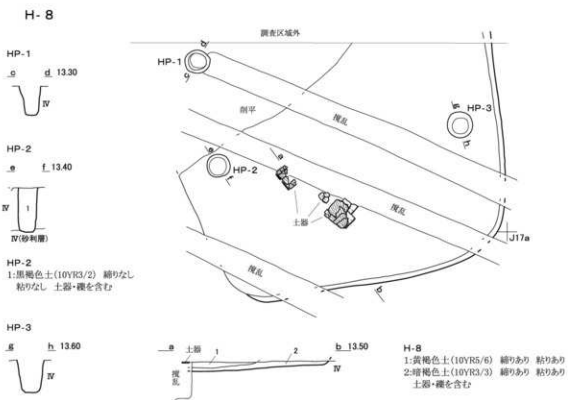
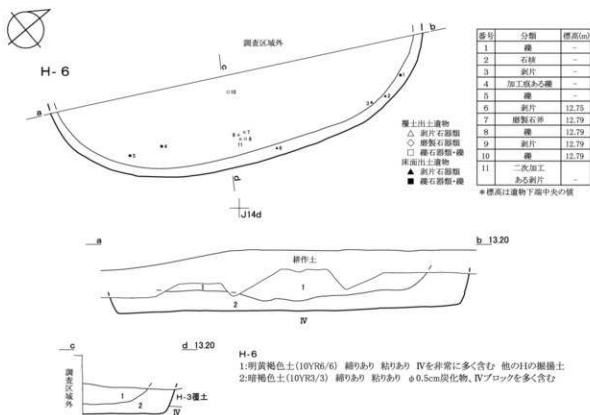
I19とその周辺は、耕作によりⅡ層とⅢ層上半が攪乱されていた。住居の検出は、耕作土を除去したⅢ層で行なった。耕作土を除去したところ黒褐色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に攪乱を利用した試掘坑を設定した。断面(a-b)を確認したところ、調査区外にまたがる堅穴住居跡と判断し、堅穴内の調査を開始した。

下端平面形は長軸が北-南の隅丸長方形と推定され、床面は平坦で東側が緩やかに傾斜する。立ち上がりは明瞭で角があり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面は不明。1・2層は流れ込み覆土で、3層は壁面の崩落土である。2層にはHF-1のものと見られる炭化材が含まれる。

堅穴内では土坑2基(HP-1・2)、焼土1か所(HF-1)を検出した。HP-1は、床面に黒褐色土の拡がりが出されたことから南側を半截したところ、壁面と底面に遺物の拡がり確認された。



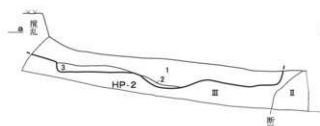
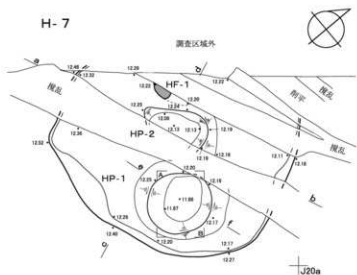
図IV-7 H-5



0 3:40 1m

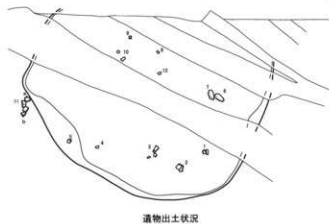
図IV-8 H-6・8

H-7



H-7

- 1:黒褐色土(10YR2/3) 粘りあり 粘性ややあり 黄褐色粘土(10YR5/6)の塊(φ2~5mm)を含む(5%)  
 2:黒褐色土(10YR2/2) 粘りあり 粘性ややあり 炭化材(φ~5mm)を含む(5%)  
 赤褐色土(5YR4/6)粒含む  
 3:褐色土(7.5YR4/4) 粘りあり 粘性ややあり



遺物出土状況



調査区域外

J20a

b\_12.70

d\_12.50

調査区域外



遺物出土状況(HP-1)

f\_12.30

遺物出土状況(HP-1エレベーション)

番号	分類	標高(m)
1	土器	12.17
2	土器	12.23
3	土器	12.27
4	縄	12.27
5	土器	12.37
6	たたき石	12.23
7	縄	12.16
8	土器	12.24
8	土器	12.24
8	土器	12.24
9	土器	12.24
10	土器	12.29
11	土器	a)12.49 b)12.53

\*標高は遺物下端中央の値

HP-1-2

土坑周囲に3cm程の高まりが回っている

HP-1

赤褐色粘土(5YR4/6)固く締る、粘りなし  
 北側を覆乱して削平される  
 炭被熟した厚さが薄い為、断面は取っていない  
 上記は表面を観察したものである

HP-1



- 1:黒褐色土(7.5YR2/2) 粘りあり 粘りあり  
 黄褐色粘土(10YR5/6)塊(φ~3mm)含む(3%)  
 炭化材(φ~2mm)微量を含む  
 2:黒褐色土(7.5YR2/2) 粘りあり 粘りあり  
 黄褐色粘土(10YR5/6)塊(φ~30mm)を含む(10%)

番号	分類	標高(m)
1	台石	12.02
2	縄	11.97
3	縄	12.05
4	縄	11.97
5	台石	11.96
6	縄	11.98
7	縄	11.93
8	縄	11.94
9	縄	11.96
10	縄	11.94
11	縄	11.93
12	たたき石	11.98
13	石楯	11.99
14	縄	11.97
15	縄	11.97
16	縄	11.90
17	縄	11.91
18	縄	11.89
19	銅片	11.95
20	縄	11.94
21	銅片	11.91
22	縄	11.97
23	縄	11.94
24	石楯	11.97
25	縄	11.97
26	銅片	11.96
27	縄	12.01
28	縄	11.99
29	縄	11.96
30	縄	11.98
31	縄	12.00
32	縄	11.98
33	銅片	11.96
34	縄	11.95
35	銅片	11.96
36	縄	11.90
37	縄	11.98

\*標高は遺物下端中央の値

0 5:140 1m

図N-9 H-7



平面形の上端はほぼ円形・下端は楕円形、坑底は平坦で壁面の立ち上がりは明瞭である。上端の周囲に高さ2～3cmほどの土手状の高まりが廻っている。HP-2は、土層断面(a-b)で確認された。攪乱により南側が削平されているが、平面形は上端・下端ともに楕円形と推定される。坑底は皿状で壁面の立ち上がりはなだらかである。HP-1と同様に、土手状の高まりが廻っている。HF-1は、赤褐色の薄い拡がり地床炉と考えられる。北側を攪乱によって削平されている。

覆土からは、土器片(Ⅱ群b)152点、剥片石器等2点、礫石器等4点、剥片28点、礫9点が出土した。HP-1からは、土器片(Ⅱ群b)8点、剥片石器等3点、礫石器等3点、剥片7点、礫37点が出土した。

遺構の時期は、伴出土器より縄文時代前期後半である。(酒井)

#### H-8 (図Ⅳ-8、図版13)

I～J16とその周辺は、耕作によりⅡ・Ⅲ層とⅣ層上半が攪乱されていた。住居の検出は、耕作土を除去したⅣ層で行なった。耕作土を除去したところ暗褐色の広がりを確認した。調査区外にまたがり、暗褐色土を最下層覆土とする竅穴と判断し、平面形・断面形確定後に竅穴内の調査を開始した。

下端平面形は長軸が北西-南東の隅丸長方形と推定され、床面は平坦で亀裂が断続するような掘削痕があり、立ち上がりは明瞭で角があり、壁は直線的に上方へ立ち上がる。構築面は不明。1・2層は流れ込み覆土である。

竅穴内では柱穴3個(HP-1～3)が検出できた。柱穴は竅穴立ち上がり寄りに配置されている。柱穴の深さ30～46cmとやや深く、HP-2の先端面はⅣ層中の砂礫面に届いている。柱穴先端は断面が平坦で、柱穴先端面は床面に対し並行であり、柱は床面に対して垂直に立てられていた。床面からは2個体分の土器片(Ⅱ群b)202点、柱穴からは礫3点が出土した。

遺構の時期はH-6よりも新しい。伴出土器より縄文時代前期後半である。(鈴木)

### (3)土 坑

#### P-1 (図Ⅳ-10、図版14)

Ⅳ層上部で直径1.2mほどの灰黄褐色土等の広がりを確認した。攪乱の溝を利用して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片103点が出土している。土器片の大半は土坑北側の覆土中でややまとまっていた。攪乱により失われている部分があるが、平面形は上端が円形、下端が楕円形、坑底は北側へやや傾き、壁の立ち上がりは南側を除き緩やかである。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は遺物出土状況から1・2層とも埋め戻しの可能性がある。時期は出土した土器から、縄文時代前期後半(円筒土器下層d<sub>2</sub>式期)であろう。(山中)

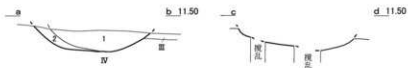
#### P-2 (図Ⅳ-10、図版14・15)

J13とその周辺は、耕作によりⅡ・Ⅲ層とⅣ層上半が攪乱されていた。土坑の検出は、耕作土を除去したⅣ層で行なった。耕作土を除去したところ直径1.3mくらいの黒色の広がりを確認した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した(a-b)。断面を確認したところ、鈍い黄褐色土を最下層埋土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に竅穴内の調査を開始した。

下端平面形は円形。断面形は三角フラスコ形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は直線的に内傾し、後に上方へ、最後に外上方に立ち上がる。構築面は不明。

1～3層は下半部埋没後の流れ込み覆土、5～7層は遺構放棄後における開口部の崩落土・廃棄埋土、4層は壁の崩落土。5～7層に夾する焼土・炭化物の薄層は廃棄に伴う二次堆積である。なお、

P-1

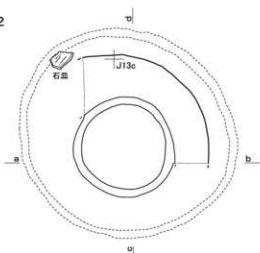


P-1

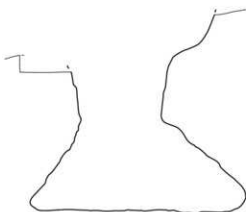
- 1: 灰黄褐色土(10YR4/2) 締りあり 粘りあり IV層土(径約5mmの粒状)が少量認められる
- 2: 黒褐色土(10YR3/1) 締りあり 粘りあり IV層土が微量認められる

\* 遺物は全て土器

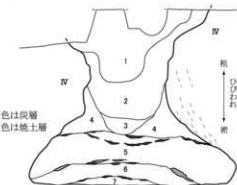
P-2



d 12.70



b 12.40



\* 暗灰色は炭層  
明灰色は焼土層

P-2

- 1: 黒色土(10YR1.7/1) 締り弱 粘りあり φ0.5~1.0cmの円礫を含む
- 2: 黄褐色土(10YR5/6) 締りあり 粘りあり φ0.5~2.0cmの重円礫(基盤層に含まれる)を含む
- 3: 黄褐色土(10YR5/6) 締りあり 粘りあり 礫を含まない
- 4: にぶい黄褐色土(10YR5/4) 締りなし 粘りあり 炭化物・重円礫を少し、IVをブロックで含む
- 5: 10YR5/4と10YR5/6の互層 締りなし 粘りあり φ1.0cmの炭化材
- 6: 明赤褐色(7.5YR5/8)の焼土塊を多く含む
- 7: にぶい黄褐色土(10YR5/4) 締りなし 粘りあり 炭化材を少し含む

P-3

J18d



\* 礫・剥片以外は土器

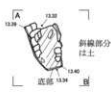
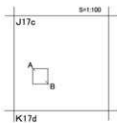


P-3

- 1: 黒褐色土(10YR3/1) 締りあり 粘りあり IV層土(約3mm以下の粒状)が微量認められる

0 S=1:40 1m

埋設土器 1



0 S=1:20 0.5m

図IV-10 P-1~3・埋設土器 1

東側壁が内傾する部分のⅣ層は亀裂が著しい。

覆土から土器片（Ⅱ群 b：234、Ⅲ群 a：2）234点、剥片石器等27点、磨製石器1点、軽石石製品1点、礫石器等6点、フレイク727点、礫85点が出土し、坑底面から土器片（Ⅱ群 b）2点、石皿が1点出土した。覆土遺物のほとんどは土坑中央、開口部直下にあった。石皿は坑底面の縁に単独でたてかけられていたことから、6層の包含遺物ではなく、そこに置かれた可能性が高い。

遺構の時期は伴出土器より縄文時代前期後半（円筒下層d式期）である。なお、坑底炭化材についての放射性炭素年代測定では、補正年代値4,460±40yrBP、4,390±40yrBPを得た（Ⅵ章1節参照）。

（鈴木）

#### P-3（図Ⅳ-10）

Ⅲ層で直径0.5mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がりの南東側半分を掘り下げて土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片49点、剥片2点、礫1点が出土している。坑底より約10cm上で土器片がややまとまっていた。

攪乱により失われている部分があるが、平面形は上端・下端ともほぼ円形、坑底は平坦、壁の立ち上がりは明瞭である。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は遺物出土状況から埋め戻しの可能性がある。隣接するH-1に付属する遺構の可能性もあるが、削平・攪乱によりはっきりしなかったため、単独の土坑として扱った。時期は出土した土器から、縄文時代前期後半（円筒土器下層d式期）であろう。

（山中）

#### (4)埋設土器

##### 埋設土器1（図Ⅳ-10、図版16）

J17のⅣ層で、ほぼ完形の土器が倒れた状態で出土した。土器（円筒土器下層d式）は口縁部を西側に向け、やや潰れており、Ⅳ層からむき出しになっていた部分は小破片となっていた。周囲には、掘り込みや住居跡の床とみられる面がなく、埋設土器として扱った。J17とその周辺は耕作によりⅡ層からⅣ層の上部までが失われており、埋設土器より上位の状況は不明である。

（山中）

#### (5)土器集中

##### 土器集中a～j（図Ⅳ-11、図版16）

土器集中は調査区北東斜面から裾にかけて分布する。土器は竪穴住居とテラス部分を受け斜面上、数群をなして廃棄されていた。いづれの集中もⅡ群b類のみで構成されており、竪穴住居がいとなまわっていた時期（縄文前期後半）にほぼ一致する。

一括a：K18d斜面に位置する、下層c式が主体の土器集中。土器片（Ⅱ群b）17点

一括b：I18c・K19a斜面に位置する最大の土器集中、下層c式が主体で下層d<sub>2</sub>を含む。土器片（Ⅱ群b）1,260点

一括c：I18c斜面に位置する土器集中。土器片（Ⅱ群b）38点

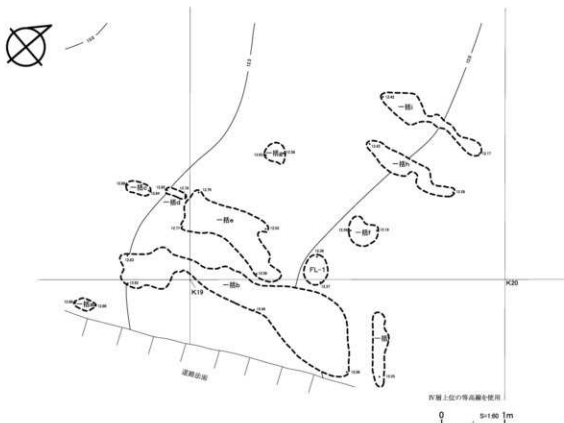
一括d：I18c斜面に位置する土器集中。土器片（Ⅱ群b）13点

一括e：I19b斜面に位置する土器集中。下層c式が主体で下層d<sub>2</sub>を含む。土器片（Ⅱ群b）763点

一括f：I19c斜面裾に位置する、下層c式が主体の土器集中。土器集中。土器片（Ⅱ群b）48点

一括g：I19b斜面に位置する土器集中。土器片（Ⅱ群b）39点

一括h：I19c斜面裾に位置する、下層d1式が主体の土器集中。土器片（Ⅱ群b）179点



図IV-11 土器集中 a～j・FL-1

一括 i : I 19cd斜面裾に位置する、下層 c 式が主体の土器集中。土器片 (Ⅱ群 b) 138点

一括 j : K19d斜面裾に位置する、下層 c 式が主体の土器集中。土器片 (Ⅱ群 b) 181点 (鈴木)

#### (6)剥片集中

##### FL-1 (図IV-11)

J 19のⅡ層で、頁岩の剥片等が直径約50cmの範囲に集中していたので、剥片集中 (FL-1) とした。FL-1として取り上げた遺物は、両面加工石器1点、剥片67点、石核3点、土器片8点である。また、剥片等が包含されていた土壌を2mmと5mmの篩を用いて水洗したところ、頁岩の微細な剥片590点等が得られた。水洗篩別で収集した遺物の集計は表IV-12に示してある。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代前期後半であろう。(山中)

## 2 土 器

### (1)遺構出土の土器

#### a 復元土器 (図IV-12~15、図版17~20、表IV-3)

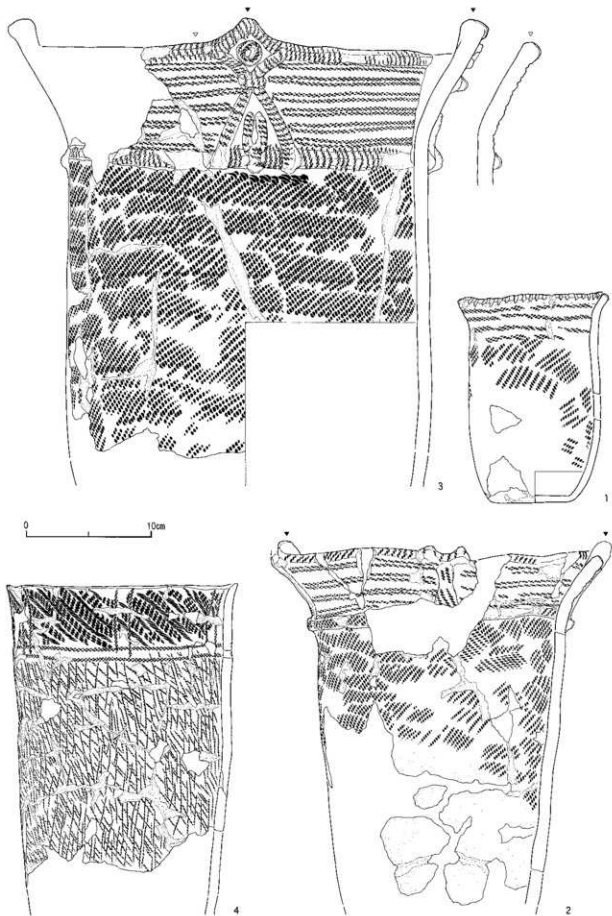
1 (円筒下層d)、礫を含まないがやや粗な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に胴部は横位回転LRを施文する。そのあと口頸部には横位縄線文を3本、口唇にはLR縄線文を押捺する。外底面はナデ。外面は明~暗褐色に変色し、外底面から胴部立ち上がりの2cmが暗褐色であるから、土中に2cm埋けて使用されていたのであろう。H-1・HP-5 覆土出土。2 (円筒下層d)、4~2mmの垂円礫を少量含む密な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に口頸部には波頂から垂下する縦位貼付帯→口頸部と胴部の境には横位貼付帯を付け、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を4束捺し、その後縦位貼付帯上には縦位回転LR→横位貼付帯上には横位回転LRを施文。胴部は横位回転LRを施文の後にところどころに縦位回転LRを重ねる。全体の1/3底部側が明褐色に変色する。H-1・覆土2層出土。3 (円筒上層a)、3~2mmの垂円礫を含む密な胎土、深鉢、口頸部と胴部の境に横位貼付帯→波頂から縦位に貼付帯とボタン状突起を付け、それらと口唇にLR縄線文を捺す。そして口頸部にはLR縄線文を貼付帯で折り返して横位に施文する。胴部は結束第1種LRを横位回転施文する。残存部1/2底部側が明黄褐色~明橙褐色に変色する。H-1・覆土2層出土。

4 (円筒下層c・古)、繊維を少量含む礫は含まない密な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に口頸部には横位回転LR、胴部には縦位回転R網目状燃系を施文する。そのあと口頸部にはLR横位縄線文を2本→縦位LR→斜位LR捺す。内面はタデミガキ。H-8・床面出土。5 (円筒下層c・古)、繊維を含み礫は含まない密な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に口頸部には横位回転LR、胴部には横位回転LRを施文する。そのあと口頸部横位隆帯の上下にはLR横位縄線文を1本づつ捺す。外底面はナデ。2/3底部側が明褐色に変色する。H-8・床面出土。

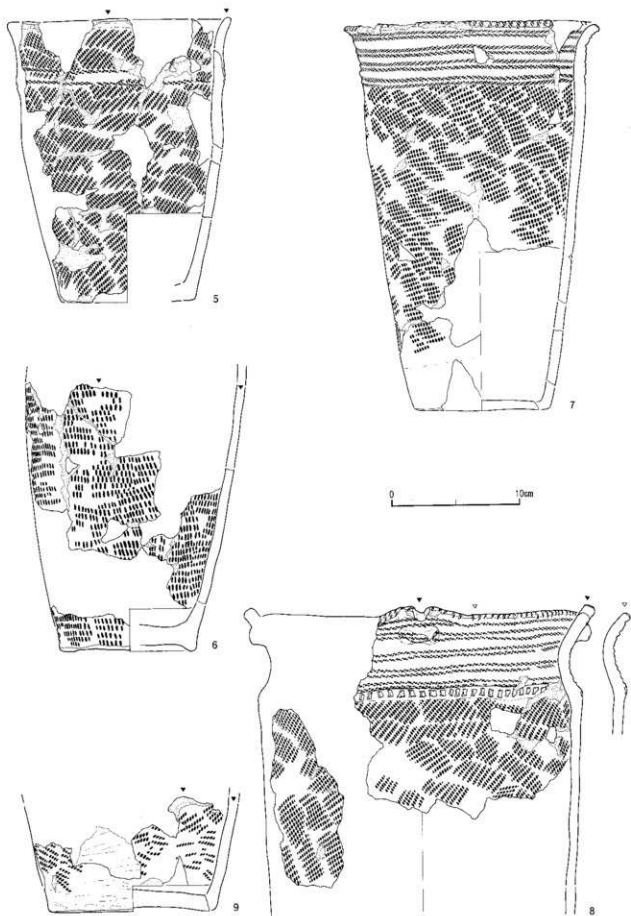
6 (円筒下層d)胴~底部片、縦位回転多軸絡条体R燃系を施文、揚げ底の外底面は未調整、P-1・覆土1層出土。

7 (円筒下層d)、礫を含まないがやや粗な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に胴部には斜位回転横走LRを施文する。そのあと口頸部にLR・RL2条一組の横位縄線文を4束捺す。口唇にはLR縄線文を押捺する。外底面はナデ。全体が明褐色に変色する。P-2、覆土4層出土。8 (円筒下層d)、3~2mmの垂円礫を極少量含む密な胎土、深鉢、波頂下に截円錐形の突起を、口頸部~胴部をナデた後に口頸部には9条の横位LR縄線文を捺し、胴部上半は横位回転LRを下半は斜位回転横走LRを施す。その後隆帯状には刺突文を横位に施文。口唇にはLR縄線文を押捺する。全体の1/2底部側が明褐色に変色する。P-2、ほとんどが覆土3層出土、うち3片は覆土4層出土。9 (円筒下層d)、底径約11.5cmの大型深鉢、4~2mmの垂角礫を多く含む粗な胎土、深鉢、胴部下半は斜位回転横走LRを施す。内外底面はナデ。残存部全体が明褐色に変色する。P-2・覆土4層出土。10 (円筒下層d)、4~2mmの垂角礫を多く含む粗な胎土、深鉢、単峰と双峰の波頂を交互に4箇所、波頂から垂下する縦突起を、口頸部~胴部をナデた後に口頸部には9条の横位LR縄線文を捺し、縦突起にLR縄線文を縦位に捺し、胴部上半は横位回転結束第2種LRを施す。口唇には閉じた縄の端を押捺する。外底面はナデ。上半の円周1/4が明褐色に変色する。P-2、約過半数が覆土4層出土、残りは覆土2層出土。

11 (円筒下層d)、繊維を含み礫は含まない密な胎土、深鉢、口頸部~胴部をナデた後に胴部には横位回転LRを施文する。そのあと口頸部にLR横位縄線文を3本捺す。口唇にはLR縄線文を押捺する。



圖IV-12 遺構出土復元土器(1)

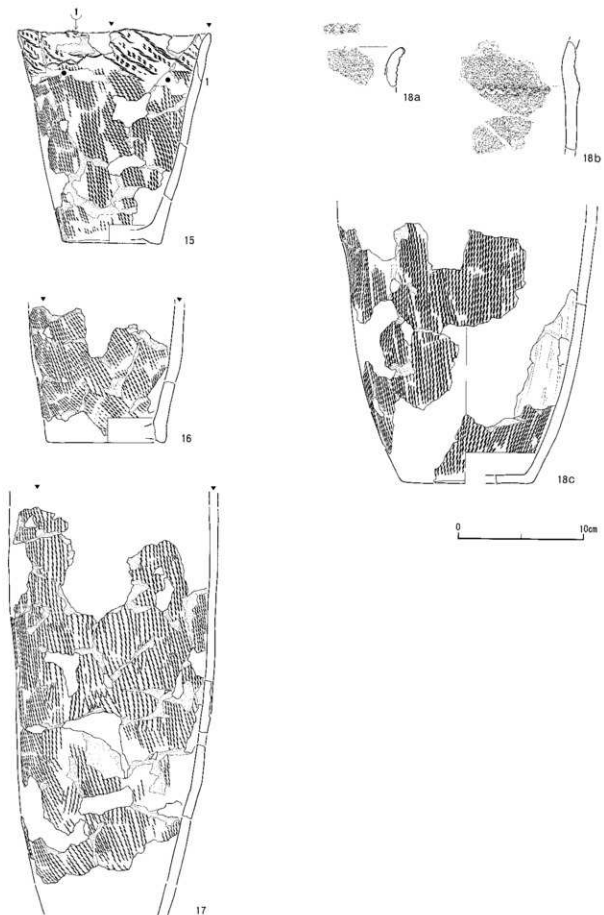


圖IV-13 遺構出土復元土器(2)



圖 IV-14 遺構出土復元土器(3)





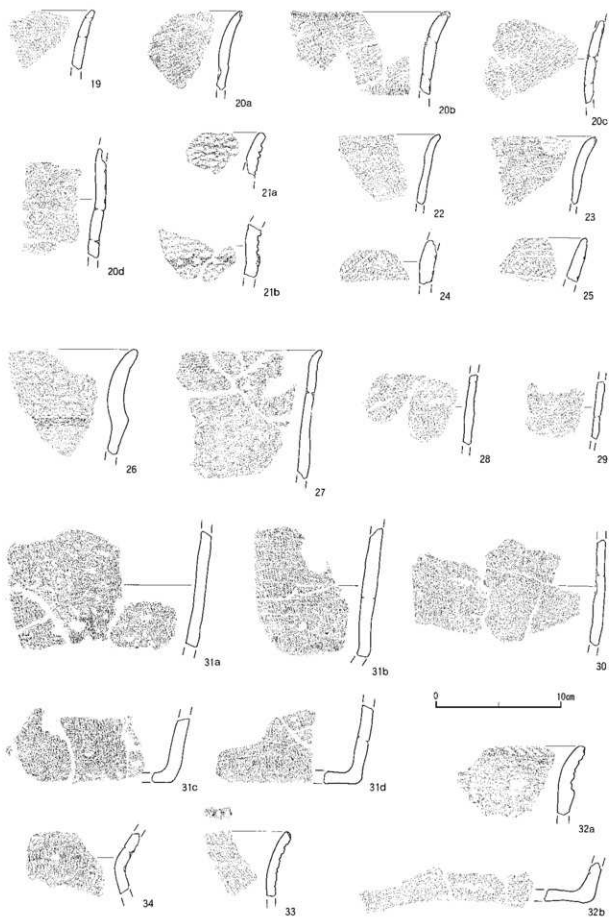
圖IV-15 遺構出土復元土器(4)

外底面はナデ。2/3底部側が明黄褐色に変色し、外底面から胴部立ち上りの0.5cmが暗褐色であるから、この土器は埋設に転用される以前は土中に0.5cm埋けて使用されていたのであろう。埋設土器1出土。12(円筒下層c・古)、繊維を少量含み礫は含まない密な胎土、深鉢、外傾接合、口頸部～胴部をナデた後に胴部にはほぼ縦位回転R燃系を施し、そのあと口頸部と胴部の境を巾約2cmヨコナデをし、そこに横位貼付帯を付け、貼付帯上には刻み目をつける。口頸部は横位回転結節LRを施す。内面はタテミガキ。やや揚げ底の外底面はナデ。1/4底部側が暗黄褐色に変色する。土器集中一括b・e出土。13(円筒下層c)、繊維を少量含み礫は含まない密な胎土、深鉢、外傾接合、胴部をナデた後に胴部には横位回転RRLを施し、外底面はナデ。残存部全体が明褐色に変色する。土器集中一括b出土。14(円筒下層c)、繊維を少量含み礫は含まない密な胎土、深鉢、外傾接合、口頸部～胴部をナデた後に胴部にはRを付加した横位回転LRを施し、外底面はナデ。残存部3/4底部側が明黄褐色に変色し、外底面から胴部立ち上りの0.5cmが暗褐色であるから、土中に0.5cm埋けて使用されていたのであろう。土器集中一括b出土。15(円筒下層c)、やや多い繊維と2mmの亜円礫を含む密な胎土、深鉢、外傾接合、胴部をナデた後に胴部は縦位回転R燃系を施す。底部はやや揚げ底、外底面未調整、周縁には不詳縄文が施される。1/2底部側が明褐色に変色する。土器集中一括b出土。16(円筒下層c)、繊維と4～2mmの亜円礫を多く含む密な胎土、深鉢、胴部をナデた後に口頸部にはRを付加した横位回転LRを施し、胴部は縦位回転R燃系を施す。底部はやや揚げ底、外底面未調整、周縁には不詳縄文が施される。残存部全体が明黄褐色に変色する。土器集中一括b出土。17(円筒下層c)、繊維を含む密な胎土、深鉢、胴部をナデた後に胴部は縦位回転R燃系を施す。残存部1/2底部側が明黄褐色に変色する。土器集中一括j出土。18a～d(円筒下層d)口頸部～胴部片、繊維と3～2mmの亜円礫を含むやや密な胎土、口頸部～胴部をナデた後に胴部には縦位回転L燃系を施す。そのあと口頸部にLR横位縄線文を複数本捺す。口唇にはLR縄線文を捺す。外底面はナデ。内面はタテミガキ。土器集中一括h出土。

#### b 拓本土器片 (図Ⅳ-16～23、図版21～27、表Ⅳ-3)

19(円筒下層c古)口縁部片、ナデのあとL・L2条一組の縄線文を捺す。H-1・床面出土。20a～d(円筒下層c古)口頸部片、口頸部に斜位回転LLRを施し、RLを一部重ねて横位回転して施す。その後単軸絡条体Rを縦位に、口縁と頸部に単軸絡条体Rを横位に捺す。H-1・覆土2層出土。21ab(円筒下層c)口頸部片、ナデのあと口頸部にRRL・RRL2条一組の横位縄線文を捺す。隆帯には管先端の刺突を捺す。H-1・覆土2層出土。22(円筒下層c)口頸部片、頸部にRを付加するLRを横位回転施し、ナデのあとR・R2条一組の横位縄線文と捺し、その間に結節部分を回転捺す。H-1・覆土2層出土。23(円筒下層c)口頸部片、口頸部に斜位回転LLRを施す。H-1・覆土2層出土。24(円筒下層c)口頸部片、単軸絡条体を横位・斜位に捺して三角形の文様を描く。H-1・覆土2層出土。25(円筒下層c)口頸部片、ナデのあと横位回転LRを施し上下に沈線を引く。H-1・攪乱出土。

26(円筒下層d)口頸部片、全体が摩滅して胴部文様は不明、口縁部はナデのあとLRの横位縄線文を捺す。H-1・覆土2層出土。27(円筒下層d)頸胴部片、胴部に縦位回転LLRを施し、頸部にはナデのあとL・R2条一組の横位縄線文を捺し、その下位には横位回転の結束第1種LR・RLを施す。H-1・覆土2層出土。28(円筒下層d)胴部片、縦位回転L燃系を施し、ナデのあとL・R2条一組の横位縄線文を捺す。H-1・覆土2層出土。29(円筒下層d)胴部片、ナデのあと縦位回転L燃系を施した後、横位回転の結束第1種LR・RLを施し、間隔において縦位回転の結束第1種LR・RLを施す。H-1・覆土出土。30(円筒下層d)胴部片、縦位回転L燃系→横位回転結束第1種LRを施し、



圖IV-16 遺構出土拓本土器(1)

H-1・攪乱層出土。31a～d(円筒下層d) ab胴部片、cd胴～底部片、縦位回転単軸絡条体第4類R燃糸を施文、外底面はナデ、残存部は明橙黄褐色に変色し、外底面から胴部立ち上がり0.5cmが暗褐色であるから、土中に0.5cm埋けて使用されていたのであろう。H-1・攪乱層出土。32ab(円筒下層d)口頸・底部片、b胴部に縦位回転L燃糸を施し、a口頸部にはナデのあとLR横位縄線文を捺し、口唇にはLRの側面を捺す。やや揚げ底の外底面はナデ。H-1・攪乱層出土。33(円筒下層d)口頸部片、ナデのあとLR・LR2条一組の横位縄線文を捺し、口唇にはLRの側面を捺す。H-1・攪乱層出土。

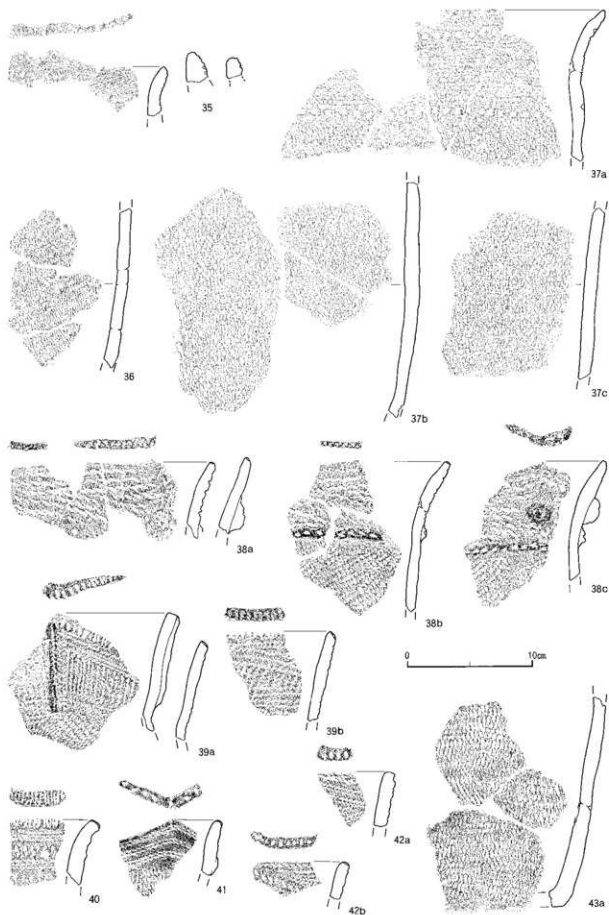
34(円筒下層d) 頸部、単軸絡条体Rを横位に捺し、胴部は横位回転RLを施す。H-1・攪乱層出土。

35(円筒下層d) 口縁波頂部、閉じた縄端圧痕とLR縄線文を捺す。H-1・覆土2層出土。36(円筒下層d) 胴部片、縦位回転多軸絡条体R燃糸を施文、H-1・覆土2層出土。

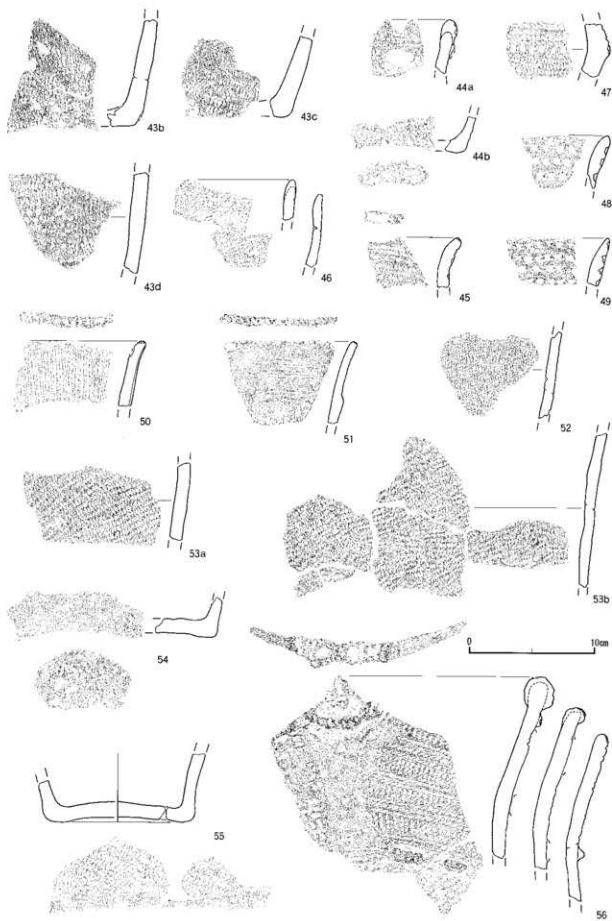
37a～c(円筒下層d) 口縁～胴部、a口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を5束捺し、その上下に閉じた縄端による刺突文を捺す。bc胴部は縦位回転多軸絡条体R施文する。H-1・覆土2層出土。38a～c(円筒下層d) 口頸～胴部片、口頸部と胴部の境に横位貼付帯、波頂下にボタン状突起を付け、口頸部にはLR縄線を横位に捺す。横位貼付帯には閉じた縄端圧痕、口唇にはLRを回転押捺す。胴部はLRを横位回転施文する。H-1・覆土2層出土。39ab(円筒下層d) 口頸部片、口頸部と波頂下縦位貼付帯には縦位RL縄線文を捺し、その上下に横位RL縄線文を捺す。胴部は横位回転RLを施文する。H-1・覆土2層出土。40(円筒下層d) 口頸部片、口頸部には縦位RL縄線文を捺し、その上下に横位LR・RL・LR3条一組の横位縄線文を捺し、口唇にはRの側面を捺す。H-1・覆土2層出土。41(円筒下層d) 口頸部片、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を3束捺す。隆帯は無文、胴部は縦位回転多軸絡条体R施文する。H-1・覆土2層出土。42ab(円筒下層d) 口頸部片、口頸部はナデのあとL・R2条一組横位縄線文とLR縄線文を捺す。口唇には丸棒の側面を捺す。H-1・覆土2層出土。43a～d(円筒下層d) 胴底部、胴部は縦位回転多軸絡条体R施文する。外底面はナデ。H-1・覆土2層出土。44ab(円筒下層d) 口縁と底部、aには横位RL縄線文を捺し、bには横位回転LRを施す。H-1・覆土1層出土。45(円筒下層d) 口縁部、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を3束捺し、その間に角棒の丸い先端による押し引き気味の刺突文がある。口唇にはLRの側面を捺す。H-1・覆土1層出土。46(円筒下層d) 口頸部片、ナデのあと斜位回転多軸絡条体Rを捺す。H-1・攪乱層出土。47(円筒下層d) 口頸部片、口頸部には横位LR縄線文を複数本捺す。隆帯には閉じた縄端圧痕、胴部は縦位回転多軸絡条体R施文する。H-1・攪乱層出土。48(円筒下層d) 口頸部、角棒先端による押し引き気味の刺突文がある。H-1・攪乱層出土。49(円筒下層d) 口頸部、角棒先端による押し引き気味の刺突文がある。H-1・攪乱層出土。50(円筒下層d) 口頸部、縦位に沈線を引く。口唇には角棒先端による刺突文がある。H-1・覆土1層出土。51(円筒下層d) 口頸部、頸部には横位に沈線を引き、胴部には縦位に沈線を引く。口唇には笠先端による刺突文がある。H-1・覆土1層出土。52(円筒下層) 胴部片、斜位回転LLRを施す。H-1・2覆土出土。53ab(円筒下層) 胴部片、斜位回転横走LRを施文、明赤橙色に変色、H-1・覆土2層出土。54(円筒下層) 底部片、胴部は縦位回転R燃糸を施文する。外底面はRL回転施文する。H-1・覆土2層出土。55(円筒下層) 底部片、斜位回転横走RLを施文、外底面はナデ。H-1・床面出土。56(円筒上層a) 口頸部片、口頸部と胴部の境に横位貼付帯→波頂からは背反するJ字縦位貼付帯を付け、それらと口唇にLR縄線を捺す。そして口頸部にはRL横位縄線を捺し、その間にLR縦位縄線を捺す。H-1・覆土2層出土。

57(円筒下層d) 胴部片、縦位回転多軸絡条体R施文する。H-2・HP-2覆土出土。

58(円筒下層c) ミニチュア深鉢の胴底部片、胴部に横位回転RRLを施す。揚げ底の外底面はナデ。



圖IV-17 遺構出土拓本土器(2)



圖IV-18 遺構出土拓本土器(3)

H-3・覆土1層(焼土中)出土。59(円筒下層c)口縁部片、LR縄線文を捺す。H-3・覆土出土。  
60(円筒下層cd)口縁部片、LR・LR2条一組の横位縄線文を3束以上捺す。H-3・覆土出土。

61(円筒下層c)口縁部片、R縄線文を捺す。H-4・覆土9層出土。62(円筒下層c)胴底部片、外面に横位回転RRLを施す。内面は縦ナデ。H-4・覆土9層出土。73と同一個体の可能性がある。  
63(円筒下層c)頸部片、上半にR縄横位線文を捺し、下半には縦位回転R燃系を施文する。H-4・覆土2層出土。64(円筒下層c)胴底部片、外面に斜位回転RRLを施す。内面は縦ナデ。H-4・覆土出土。62と同一個体の可能性がある。65a～c(円筒下層d)口縁～胴部片、縦位回転R燃系→横位回転結束第2種LRを施文、そのあと口縁部にはL縄線を横位に4条ほど捺す。H-4・覆土出土。

66(円筒下層d)胴部片、縦位回転L・L・Rを巻く燃系を施した後、横位回転の結束第2種LR・RLを施す。H-4・覆土3層出土。67a～c(円筒下層d)口縁～胴部片、口頸部にはRL横位縄線文を捺し、胴部には縦位回転多軸絡条体Rを施した後、横位回転の結束第1種LR・RLを施す。断面三角形の低平な隆帯が認められる。補修工あり。H-4・覆土2層出土。

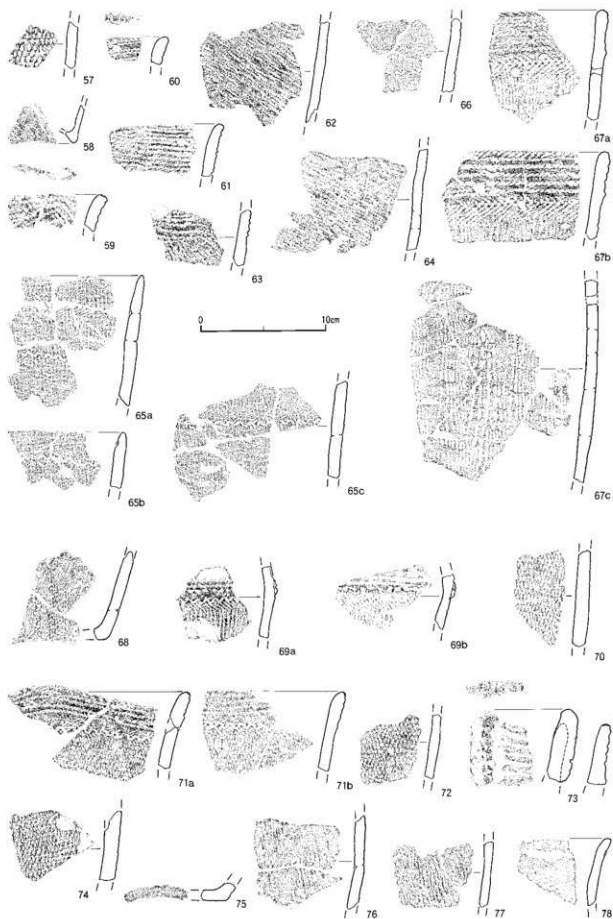
68(円筒下層c)胴～底部片、縦位回転L木目状燃系を施文、外底面はナデ、残存部は明黄褐色に変色、H-5・覆土2層出土。

69ab(円筒下層d)頸部片、隆帯より上にはLR縄横位線文を捺し、下には縦位回転R燃系を施した後、横位回転の結束第2種LR・RLを施す。隆帯上には閉じた縄端による刺突文を捺す。H-5・覆土1・2層出土。70(円筒下層d)胴部片、縦位回転多軸絡条体を施文する。H-5・床面出土。71ab(円筒下層d)口頸部片、口縁部にはLR・RL2条一組の横位縄線文2束を捺し、胴部には縦位回転多軸絡条体Rを施した後、横位回転の結束第2種LR・RLを施す。H-5・覆土2層出土。72(円筒下層d)胴部片、縦位回転多軸絡条体Rを施文する。H-5・覆土2層出土。73(円筒下層d)口頸部片、横位貼付帯を付け口頸部～胴部をナデ後に、突起下に縦位貼付帯を付け、それらに横位R縄線文を捺し、口唇にRを捺す。H-5・覆土1層出土。74(円筒下層d)胴部片、縦位回転多軸絡条体Lを施す。H-5・覆土1層出土。75(円筒下層d)底部片、縦位回転L燃系を施す。外底面は未調整。H-5・覆土2層出土。76(円筒下層)胴部片、縦位回転R燃系を施す。H-5・覆土1層出土。77(円筒下層)胴部片、縦位回転R燃系を施す。H-5・覆土1層出土。78(円筒下層)口縁部片、斜位回転RRL?を軽く捺す。H-5・覆土1層出土。

79(円筒下層d)胴部片、縦位回転R燃系を施した後、横位回転の2個の結節を持つLRを施す。H-6・覆土2層出土。80(円筒下層d)胴部片、縦位回転多軸絡条体Rを施す。H-6・覆土2層出土。

81(円筒下層d)口頸部片、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文4束を捺し、横位貼付帯上には角棒先端による押し引き気味の刺突文を捺す。H-6・覆土2層出土。

82(円筒下層c)口縁部片、斜位回転RRLを施し、そのあとRの縄線文を捺す。H-7・覆土1層出土。83(円筒下層c)口縁部片、横位回転LRを施す。H-7・覆土出土。84(円筒下層d)口縁部片、横位回転の結束第1種LR・RLを市松文様に配する。H-7・覆土1層出土。85(円筒下層d)口頸部片、口頸部にはLR・RL2条一組の横位縄線文3束を捺し、縦位回転L燃系を施した後、横位回転の結束第1種LR・RLを施す。H-7・覆土1層出土。86(円筒下層d)胴部片、縦位回転L木目状燃系を施した後、横位回転の結束第1種LR・RLを施す。H-7・覆土1層出土。87(円筒下層d)胴部片、横位回転RRLを施し、そのあとRRLの横位縄線文を捺す。H-7・覆土1層出土。88(円筒下層d)口頸部片、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文6束を捺し、口唇には閉じた縄端による刺突文を捺す。H-7・覆土1層出土。89(円筒下層d)口頸部片、縦位回転R燃系を施した後、口頸部に横位回転の2個の結節を持つLRを捺す。H-7・覆土出土。90(円筒下層)胴部片、縦位回転多軸絡条



圖IV-19 遺構出土拓本土器(4)

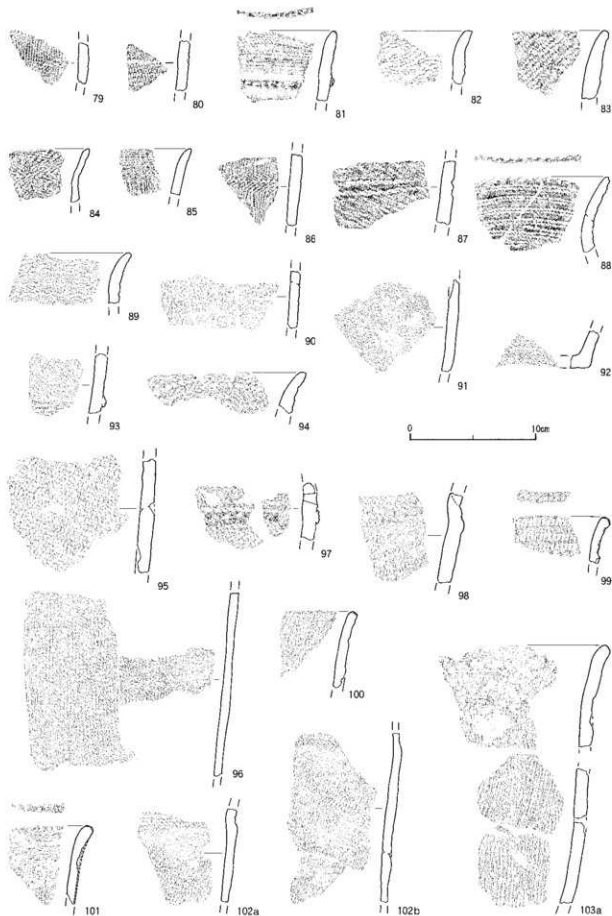


体Rを施す。H-7・覆土1層出土。91(円筒下層) 胴部片、縦位回転R燃系を施す。H-7・覆土1層出土。92(円筒下層) 底部片、縦位回転L燃系を施す。外底面は未調整。H-7・覆土1層出土。93(円筒下層) 頸部片、横位貼付帯をつけたあとと胴部には横位回転RRL?を施す。H-7・覆土1層出土。

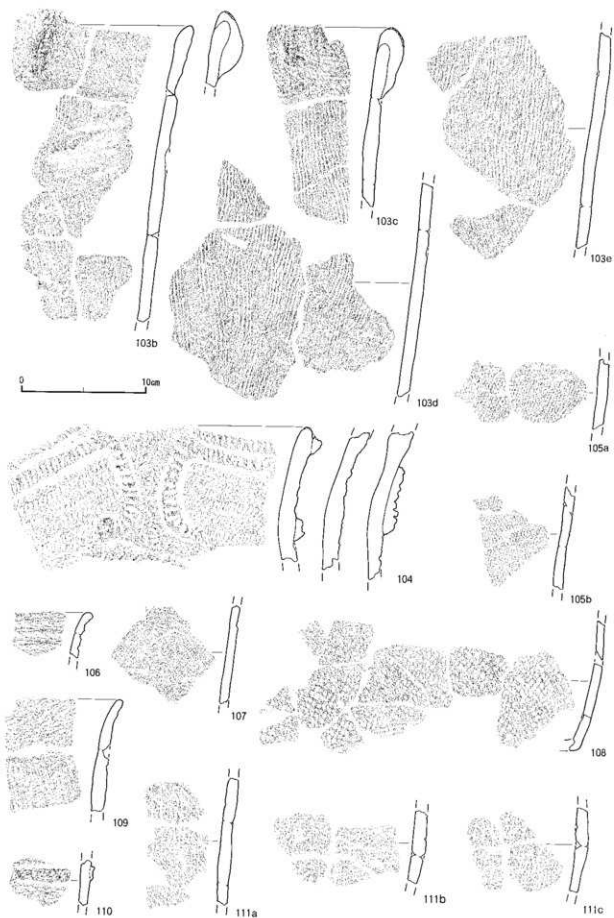
94(円筒下層) 口縁部片、横位回転LRを施したあとLR横位縄線文を捺す。H-8・床面出土。

95(円筒下層) 胴部片、斜位回転RRL?を施す。P-2・覆土4出土。96(円筒下層) 胴部片、縦位回転R燃系を施す。P-1・覆土1層出土。97(円筒下層c) 口頸部片、横位貼付帯を付け口頸部～胴部をナデた後に、横位貼付帯には角棒先端による刺突文。横位LR縄線文を捺し、胴部には横位回転LRを施す。P-2・覆土4層出土。98(円筒下層c) 口頸部片、横位LR縄線文を捺し、胴部には縦位回転単軸絡条体第4類R燃系を施す。P-2・覆土3出土。99(円筒下層d) 口縁部片、単軸絡条体R燃系を横位に捺す。口唇にはRLの側面を捺す。P-2・覆土4出土。100(円筒下層d) 口縁部片、縦位回転多軸絡条体R燃系を施す。口唇には多軸絡条体R燃系の側面を捺す。P-2・覆土4出土。101(円筒下層d) 口縁部片、縦位に集合沈線を捺す。口唇には縄の側面を捺す。P-2・覆土4出土。102ab(円筒下層d) 頸部片、頸部はナデのあとLR・LR2条一組横位縄線文を捺す。胴部は斜位回転横走LLRを施す。P-2・覆土4出土。103a～e(円筒下層d) 口頸部～胴部片、4～2mmの垂円礫を多く含むやや粗な胎土、口頸部～胴部をナデた後に口頸部に波頂から垂下する縦位突起を付け、貼付帯上にLR縄線文を縦位に捺し、そのあと口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を3束捺す。口頸部と胴部の境には単軸絡条体R燃系を横位に捺す。胴部には縦位回転R燃系を施文。全体の1/3底部側が明橙色に変色する。P-2・ほとんどが覆土2層出土、1片が覆土4層出土。104(円筒上層a) 口頸部片、ナデのあと縦位貼付帯間にはRL縄線を右巻きに3か所捺す。口頸部と胴部の境に横位貼付帯→波頂からは相反するJ字縦位貼付帯を付け、それらと口唇にRL縄線を捺す。そして口頸部には単軸絡条体Rを横位に捺す。胴部には横位回転LRを施す。P-2・覆土2出土。105ab(円筒下層d) 胴部片、縦位回転多軸絡条体L燃系を施す。P-3・覆土1出土。

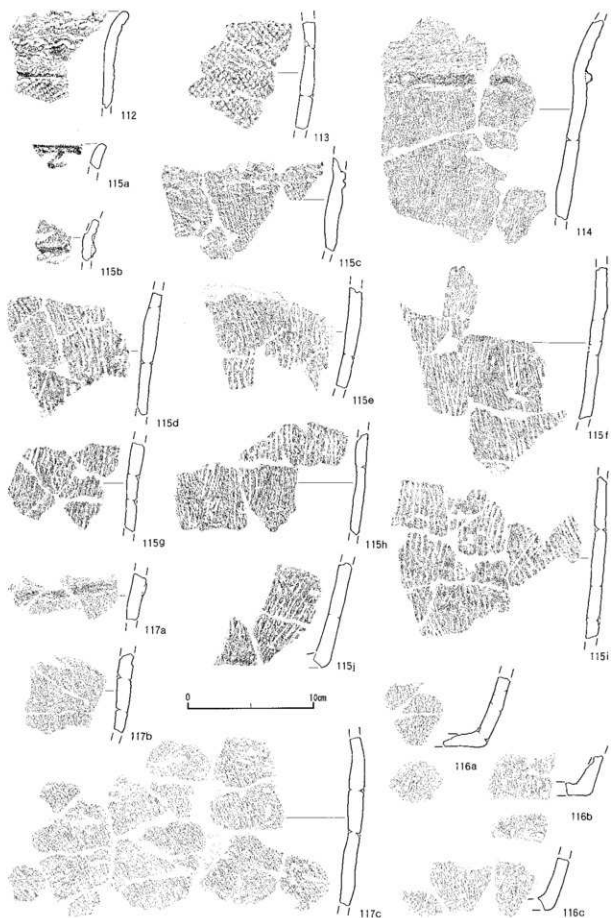
106(円筒下層c) 口縁部片、LR縄線を横位に捺す。土器集中一括a出土。107(円筒下層c古) 頸部片、頸部には斜位回転横走RLを施し、胴部には横位回転RLを施す。その後横位RLを捺す。土器集中一括b出土。108(円筒下層c古) 底部片、横位回転LRRを施す。外底面未調整。土器集中一括b出土。109(円筒下層c) 口頸部片、胴部にはRを付加した縦位回転R燃系を施す。口頸部には斜位回転LLR?を施し、LLR?を横位に捺す。土器集中一括b出土。110(円筒下層c) 頸部片、横位貼付帯には閉じた縄端による刺突文を施す。土器集中一括b出土。111a～c(円筒下層c) 胴部片、斜位回転R燃系を施す。土器集中一括b。112(円筒下層d) 口頸部片、口頸部に横位回転の2個の結節を持つLRを捺す。胴部にはRを付加した横位回転LRを施す。土器集中一括b出土。113(円筒下層d) 胴部片、横位回転RRLを施す。土器集中一括b。114(円筒下層) 頸部片、横位貼付帯を付け口頸部～胴部をナデた後に、口頸部と貼付帯下にはRRL縄線文を横位に捺し、斜位回転縦走RRLを施文、土器集中一括b出土。115a～j(円筒下層) 口縁～底部片、aは口縁、bは口頸部と胴部境の隆帯、c～iは胴部、jは底部。横位隆起帯を付けて口頸部をナデて、縦位回転R燃系を施文した後に口頸部にLR縄線文を横位に捺す。底部はやや揚げ底、外底面未調整。土器集中一括b出土。116a～c(円筒下層) 胴～底部片、a～cは胴～底部、縦位回転R網目状燃系を施す。外底面はR燃系を施す。土器集中一括d出土。117a～c(円筒下層c古) 胴部片、aは口頸部と胴部境の隆帯胴部、bcは胴部。隆帯の上下脇にはR縄線文を横位に捺し、胴部には横位回転RRLを施す。土器集中一括e出土。118(円筒下層c古～b) 口頸部片、斜位回転縦走LLRを施した後にLLR縄線文を捺す。土器集中一括e出土。



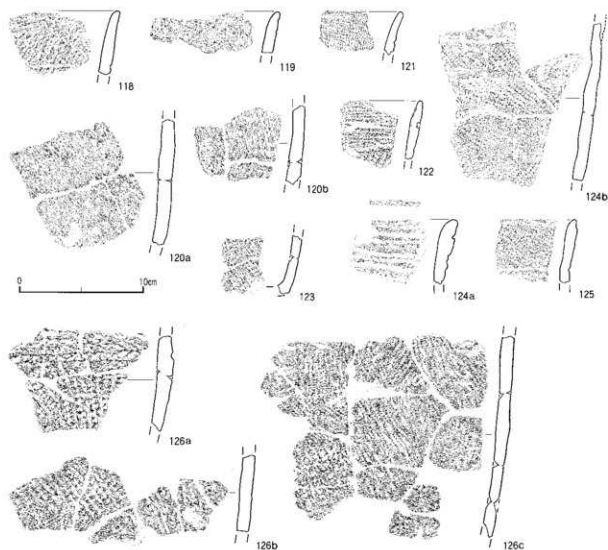
圖IV-20 遺構出土拓本土器(5)



圖IV-21 遺構出土拓本土器(6)



圖IV-22 遺構出土拓本土器(7)



図IV-23 遺構出土土拓本(8)

119(円筒下層c) 口縁部片、LR縄線文を捺す。土器集中一括e出土。120ab(円筒下層d) 胴部片、縦位回転L網目状捺系を施す。土器集中一括e出土。121(円筒下層) 口縁部片、斜位回転横走RLを施す。土器集中一括e出土。122(円筒下層c) 口頸部片、胴部には横位回転LRを施す。頸部にはLR縄線文を施し、口縁部にはLR縄線文をRを横位に捺す。土器集中一括f出土。123(円筒下層) 胴部片、縦位回転Rを施す。土器集中一括f出土。124ab(円筒下層c) 口頸部片、横位回転RLを施した後、LR縄線文を捺す。土器集中一括h出土。125(円筒下層c古) 口頸部片、横位回転RLを施した後、その上下にLR縄線文を捺す。土器集中一括i出土。126a~c(円筒下層c) 頸~胴部片、繊維と3~2mmの垂円礫を多く含む粗な胎土、胴部には斜位回転RRLを施し、その後、Rを付加したLRを頸部側には重ねて横位回転して施す。そのあと頸部にRを付加したLR横位縄線文を捺す。土器集中一括i出土。(鈴木)

## (2)包含層出土の土器

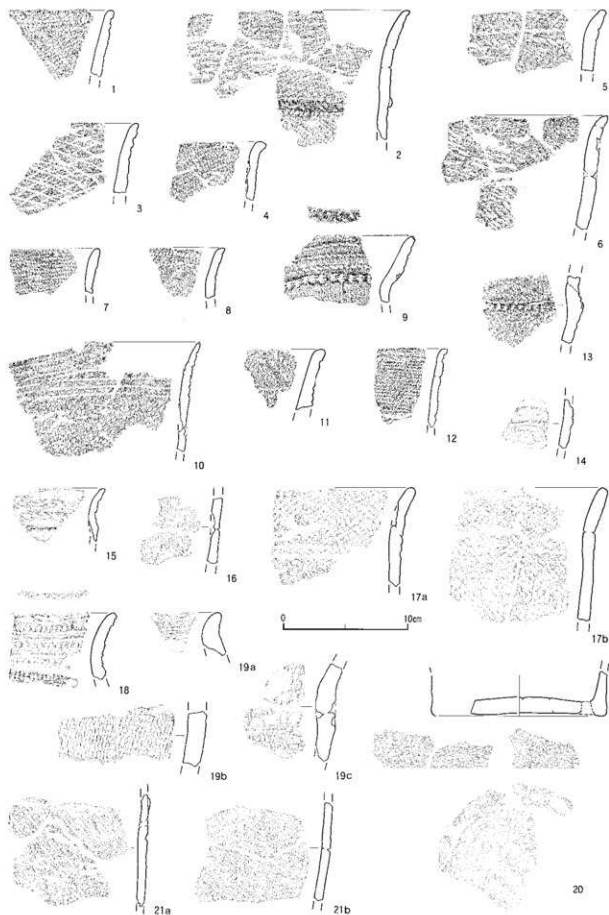
### a 拓本土器片 (図Ⅳ-24・25、図版28・29、表Ⅳ-3)

1 (円筒下層c古~b2) 口頸部片、斜位回転横走R燃系を施した後、単軸絡条Rの側面を捺す。Iの19、II層出土。2 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口頸部片、横位貼付帯を設けた後、斜位回転横走RRLを施し、胴部にはRRLを横位回転施文する。横位貼付帯にはRRLを横位回転施文、脇には単軸絡条Rの側面を捺す。Iの20、II層出土。3 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口縁部片、ナデのあと横位回転R網目状断り系を捺す。Jの19、II層出土。4 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口縁部片、斜位回転横走LLRを施文する。Jの20、II層出土。5 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口縁部片、斜位回転横走0段多縄LRを施した後、0段多縄LRの側面を捺す。Jの20、II層出土。6 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口縁部片、斜位回転横走RRLを施文する。Kの19、II層出土。7 (円筒下層c古~b<sub>2</sub>) 口縁部片、斜位回転横走RRLを施文する。Kの19、II層出土。8 (円筒下層c) 口縁部片、ナデのあと単軸絡条Rの側面を捺す。Iの20、II層出土。9 (円筒下層c) 口頸部片、頸部はナデのあとLR縄線文、隆帯は角棒先端による押し引き気味の刺突。Jの11、II層出土。10 (円筒下層c) 口頸部片、頸部はナデのあとLR縄線文、隆帯は角棒先端による押し引き気味の刺突。Jの18・Kの19、II層出土。11 (円筒下層c) 口頸部片、頸部はナデのあとLR縄線文、胴部は横位回転LRL?を捺す。Jの19、II層出土。12 (円筒下層c) 口縁部片、ナデのあと横位回転R燃系を捺し、その後LR縄線文を捺す。Jの21、II層出土。13 (円筒下層c) 頸胴部片、頸部はナデのあとLR縄線文、隆帯は半截管の先端による刺突、胴部は結節のある原体を横位回転施文する。Iの14、II層出土。14 (円筒下層c) 頸胴部片、頸部はナデのあと縄線文、隆帯はその脇に単軸絡条Lの側面を捺す。胴部は横位回転RRL施す。Jの20、II層出土。15 (円筒下層cd) 口頸部片、ナデのあと0段多縄LRL横位縄線文を捺す。Jの19、II層出土。

16 (円筒下層d) 胴部片、縦位回転L燃系を施した後、横位回転の結束第1種LR・RLを捺す。Jの22、II層出土。17ab (円筒下層d) 口縁部片、横位回転の結束第1種LR・RLを捺し、斜位回転横走多軸絡条体R燃系を捺す。そのあとLRの側面を捺す。Iの19・Iの20、II層出土。18 (円筒下層d) 口頸部片、口頸部はナデのあとLR横位縄線文、その間に折り曲げたLの側面を捺す。横位貼付帯にはLRの側面を捺す。Jの11、II層出土。19 (円筒下層d) 口縁~胴部片、a・cは縦位回転多軸絡条Rを捺す。隆帯には隆帯は角棒先端による刺突。Jの20、II層出土。20 (円筒下層) 底部片、胴部には横位回転RRLを捺す。外底面はナデのあと軽く回転RRL施す。Kの19、II層出土。

21 (円筒下層) 胴部片、隆帯脇にはRRL側面を横位に捺す。胴部には横位回転RRLを捺す。Kの19、II層出土。

22 (円筒上層a) 口縁部~胴部片、3~2mmの垂円礫を含む密な胎土、内傾接合?の深鉢、口頸部と胴部の境に横位貼付帯→波頂から縦位に貼付帯を付け、それらと口唇にL縄線文を捺す。そして、波頂下の縦位貼付帯間にはR・R2条一組を曲げて馬蹄形に捺す。口頸部にはL・R・L3条一組の横位縄線文を3束捺す。胴部は結束第2種LRを横位回転施文する。Jの11、II層出土。23 (円筒上層a) 口頸部片、波頂からは反転するJ字縦位貼付帯を付け、口頸部にはLR・LR2条一組の横位縄線文を3束捺し、それらの間に角棒の先端による押し引き気味の刺突文を捺す。口唇と縦位貼付帯にLR縄線文を捺す。Jの19、II層出土。24 (円筒上層a) 口頸部片、横位貼付帯を付け、口頸部にはR・L・R・L4条一組の横位縄線文を4束捺し、それらの間に角棒の先端による押し引き気味の刺突文を捺す。口唇と縦位貼付帯にR縄線文を捺す。Jの12、II層出土と表採。25 (円筒上層a) 頸部片、横位貼付帯を付け、口頸部にはR・R・R3条一組の横位縄線文を2束以上捺し、それらの間に多截管による刺突文を、横位縄線文の上から篋の先端による刺突文を捺す。Jの11、II層出土。(鈴木)



図IV-24 包含層出土拓本土器(1)

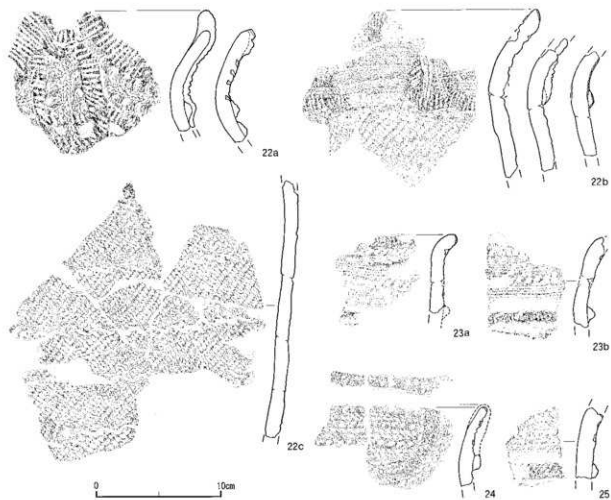


图 IV-25 包含层出土拓本土器(2)





### 3 石器等

今回の調査区から出土した石器等を合計した点数は7,220点、重量は317.8kgである。石器類ごとに見ると、剥片石器類5,139点、磨製石器類14点、礫石器類309点、石製品5点、礫1,753点となる。

定型的な石器で多いものを挙げると、剥片石器類では削器の244点が突出しており、礫石器類では半円状扁平打製石器が71点、すり石が49点、たたき石が39点、北海道式石冠が35点である。出土した土器は円筒土器下層c式、同d式を主体とすることから、石器の大半はこの時期のものだと判断してよいであろう。

剥片石器類の石材はほとんどが珩質頁岩であるが、黒曜石が8点、瑪瑙が3点ある。黒曜石は原産地同定を依頼し、5点が赤井川産、1点が出来島産と判定された（Ⅵ章3節参照）。残り2点は、肉眼ではわからなかったが、強く被熱していたようで原産地は不明である。磨製石器類は少ないが、石材には緑色泥岩、青色片岩が見られ、安山岩で製作された磨製石斧が2点ある。礫石器類の石材は安山岩と砂岩が多い。板状の安山岩と半円状扁平打製石器、閃緑岩と北海道式石冠のように、特定の石器と結び付きの強い石材がある。

礫としたものの中には、大きさと石材によっては、剥片石器製作の原石、あるいは礫石器になり得るものが含まれているので、その長径を測り「細礫・小礫・中礫・大礫・巨礫・巨岩」に区分して集計し、石材分類と組み合わせて表Ⅳ-13に示した。板状の安山岩や砂岩がごく少数あるが、大半は転礫である。礫の区分にあたっては、『土壌調査ハンドブック 改訂版』（ペドロジスト懇談会 1997）を参考にした。

#### (1)遺構出土の石器等

遺構から出土した石器等を合計した点数は2,645点、重量は101.1kgである。表Ⅳ-4～6には、石器等の点数・重量・石材を遺構ごとに集計し、図示した石器の出土位置・計測値・石材等は表Ⅳ-8に示した。

##### 剥片石器類（図Ⅳ-27・28）

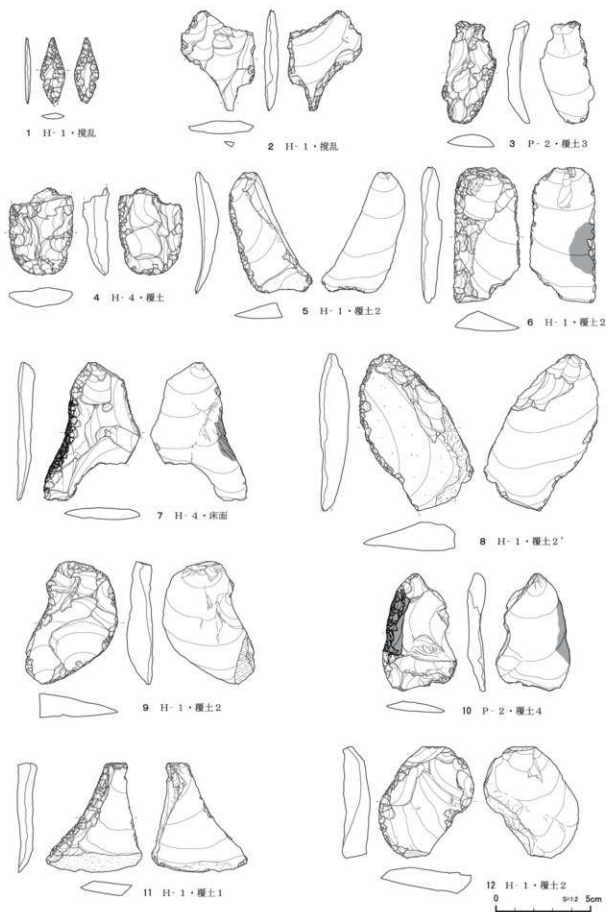
1は尖基の石鏃である。2は石錐で、剥片の一端に尖端部が作り出される。3は縦型の石匙で、正面右側縁に刃部がある。4は篋状石器とした。5～15は削器である。5～12は一側縁に刃部があり、6・7の正面右側縁には微細剥離痕が連続する。13は両側縁に刃部が作り出される。14は円形きみで、打面を除いた正面のほぼ全周に二次加工が加えられる。15は横長きみの剥片を素材とする。削器のうち、刃部の裏面が部分的に光沢を帯びているものは6・7・10・14・15で、そのうち7・10・14・15は正面にある二次加工痕の近くにも光沢が認められる。16は搔器とした。縦長剥片の末端に急角度の二次加工が加えられる。17～20は両面加工石器とした。17は細身で端部が尖りきみである。19は折れ面で接合できたものである。20は扁平で幅が広く尖端となる。

##### 磨製石器類（図Ⅳ-29）

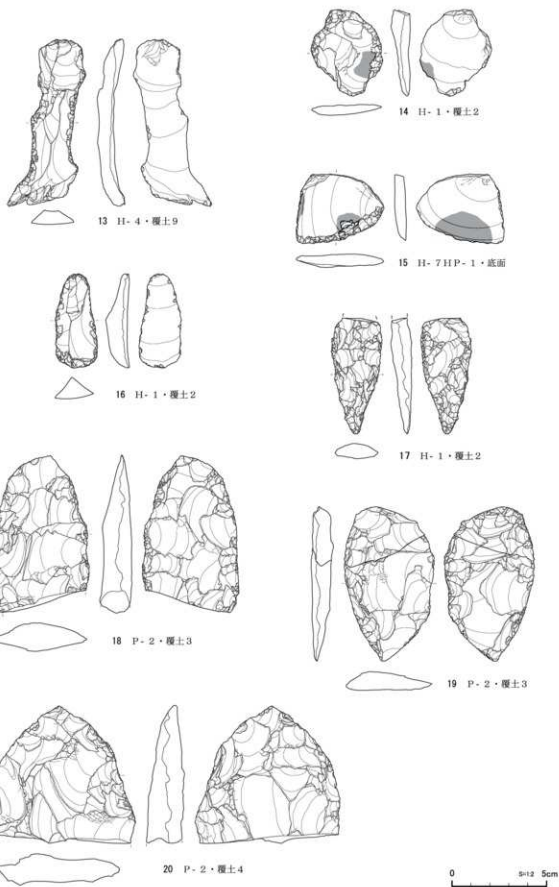
21～23は磨製石斧である。21は小型のもので、石材は緑色泥岩である。22・23の石材は安山岩である。どちらも肉眼では擦痕が観察できないが、全体的に非常に滑らかな感触があり、研磨により整形されたとみられる。22は基端にざらざらしたすり面が形成され、正面の折損部分に敲打痕がある。23の基端には敲打痕がある。

##### 礫石器類（図Ⅳ-29～32）

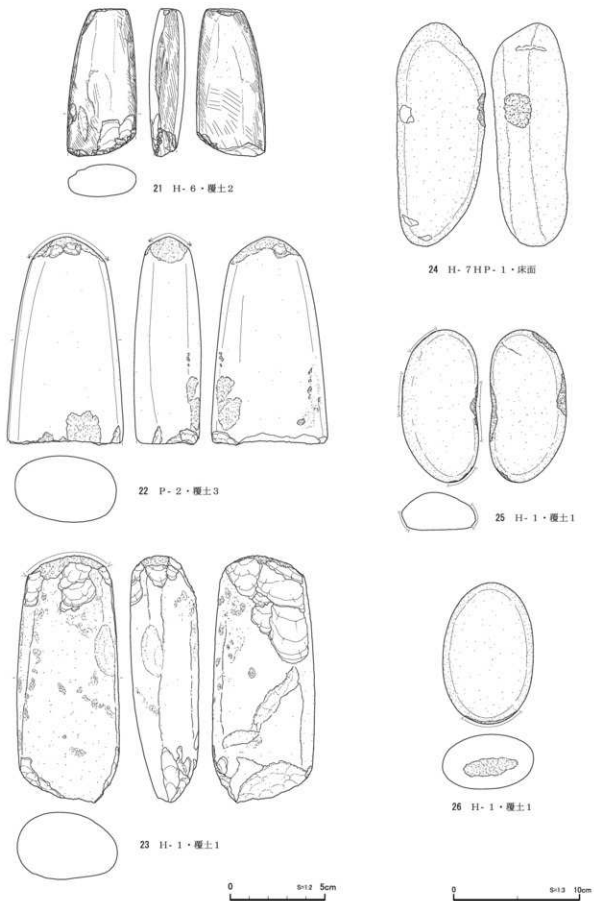
24～28はたたき石である。24は棒状礫の一種に敲打痕がある。25～27は小判状礫の側縁や端部に敲



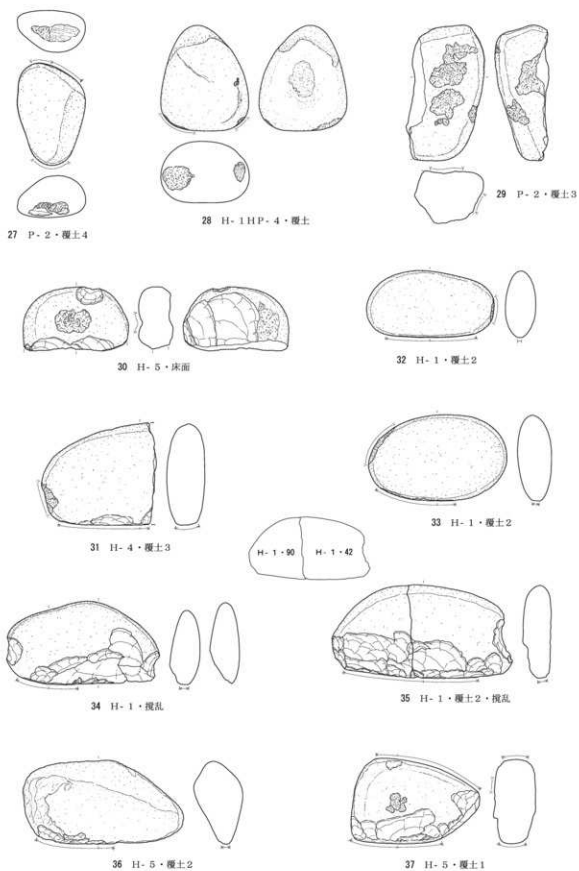
圖IV-27 遺構出土石器(1)



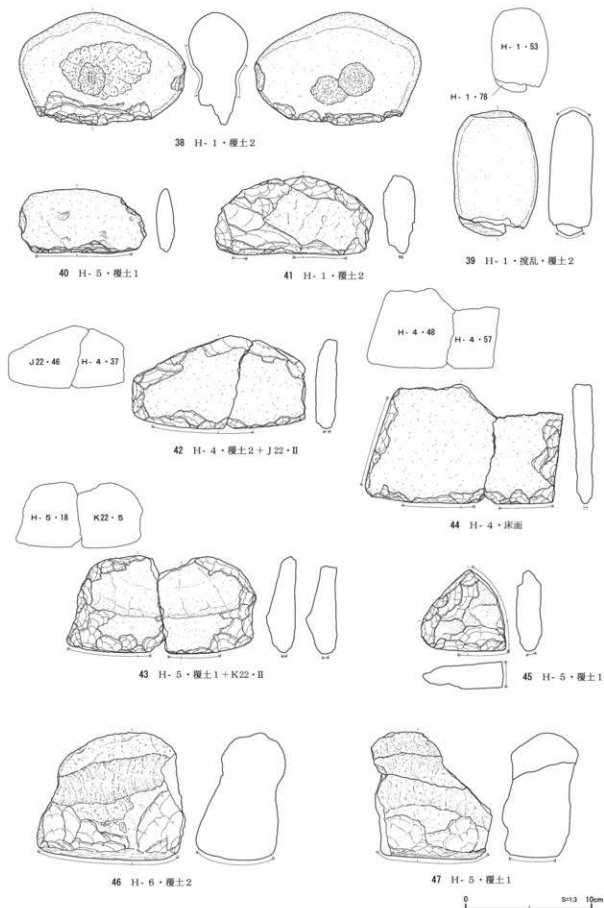
圖IV-28 遺構出土石器(2)



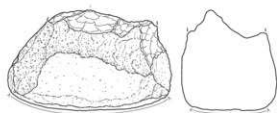
図IV-29 遺構出土石器(3)



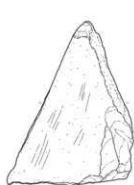
図IV-30 遺構出土石器(4)



図IV-31 遺構出土石器(5)



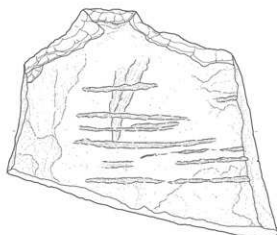
48 P-2・覆土4



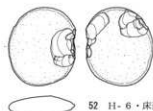
49 H-4・覆土



50 H-7 H P-1・底面



51 P-2・坑底



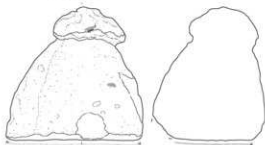
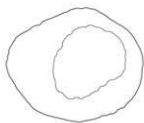
52 H-6・床面



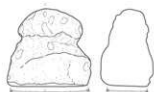
H-7  
HP-1  
-8

H-7  
HP-1  
-12

0 10cm



53 P-2・覆土4



54 H-1・覆乱

0 5cm

図IV-32 遺構出土石器(6)・石製品



打痕があり、27は一端に敲打痕、もう一端には敲打痕とすり面が複合している。28は三角形の礫の端部と裏面中央に敲打痕がある。図の上端は自然面が擦り剥けたようになっており、すり石として使われた可能性もある。29・30は凹石で、29は亜角礫、30は小判状礫が用いられている。31～40はすり石である。31～35は小判状礫を用いている。32・33はどちらも長軸の一端に敲打痕がある。31の長軸端にも敲打痕がある。34は長軸両端の両面が打ち欠かされている。正面には大きな剝離痕が見られるが、把握しやすくするための加工かもしれない。35は長軸の一端が打ち欠かされている。37は二側縁にすり面が形成され、正面中央に敲打痕がある。38は素材礫の両面に敲打によるくぼみがつけられている。正面のくぼみは右手親指、裏面のくぼみは中指と薬指の指先の位置にあたる。下端は打ち欠き痕が顕著で、すり面は形成されていない。39は小判状礫の長軸両端がすり面として使用されている。40は凝灰岩の礫片を素材とする。41～45は半円状扁平打製石器である。いずれも板状の安山岩を素材とする。44は幅の狭いすり面が二側縁にある。45は端部の破片で、折れ面はすり石として使用されている。46～48は北海道式石冠である。46・47は全体が敲打整形されている。48は素材礫の自然面を広く残す。底面にはすり面が形成されておらず、敲打整形痕が認められる。49は砥石とした。板状の安山岩の両面が平滑化している。50は台石の破片とした。明瞭な敲打痕ではないが、礫の平坦面が所々で浅くくぼんでいる。51は板状の砂岩を用いた石皿である。皿状の浅いくぼみには溝状の擦痕が数条認められる。裏面と側面は風化が進み多数の亀裂が入っていたので、バラロイドB72の7%溶液を塗布して強化してある。52は加工痕ある礫とした。小判状礫の両面が打ち欠かされている。

#### 石製品 (図IV-32)

53・54は北海道式石冠を小型化させた形態の軽石製品である。53には赤色顔料のようなものが付着している。両者は発泡形態や鉱物の組み合わせに違いがあり、異なる軽石を素材とする。

#### H-7 HP-1 底面出土の礫

H-7 HP-1の底面でまとまって出土した36点の礫について、図版38に写真を、表IV-11に計測値等を示した。

## (2) 包含層出土の石器等

包含層から出土した石器等を合計した点数は4,575点、重量は216.7kgである。図IV-43～46は、分類ごとの出土点数をグリッドで表したものである。土器集中a～jが検出された19ラインの北東向き斜面周辺から石器等も多く得られている。なお14～19ラインの間は、包含層であるⅡ層の大半が削平されていた。表IV-7には、石器等の点数・重量・石材を層位ごとに集計し、図示した石器の出土位置・計測値・石材等は表IV-9に示した。

#### 剥片石器類 (図IV-33～35)

1～8は石鏃である。1は三角形、2～5は尖基、4は未成品かもしれない。5の石材は黒曜石で、原産地同定の結果、赤井川産と判定された。6～8は有茎で、いずれも基部のかえしが明瞭ではない。9・10は石槍とした。10は左右の側縁が非対称で、正面右側縁の二次加工が他の部分に比べて粗い。11～14は石錐である。11～13は剥片の一端に先端部が作り出される。13には正面右側縁に連続する二次加工が加えられる。14は両面加工のものである。尖基鏃の形態と似るが、先端部に磨滅が認められるので石錐とした。石材は瑪瑙である。15～24は石匙である。15は正面全面が加工される。裏面右側縁に連続する二次加工は、正面の剝離痕より新しい。16～21は正面の側縁に連続する二次加工が加えられる。16の石材は黒曜石で、原産地同定の結果、赤井川産と判定された。17・18は折損しているが、素材剥片の末端近くに両面から二次加工を加えて先端部を作り出している。19の末端にも先端部が作

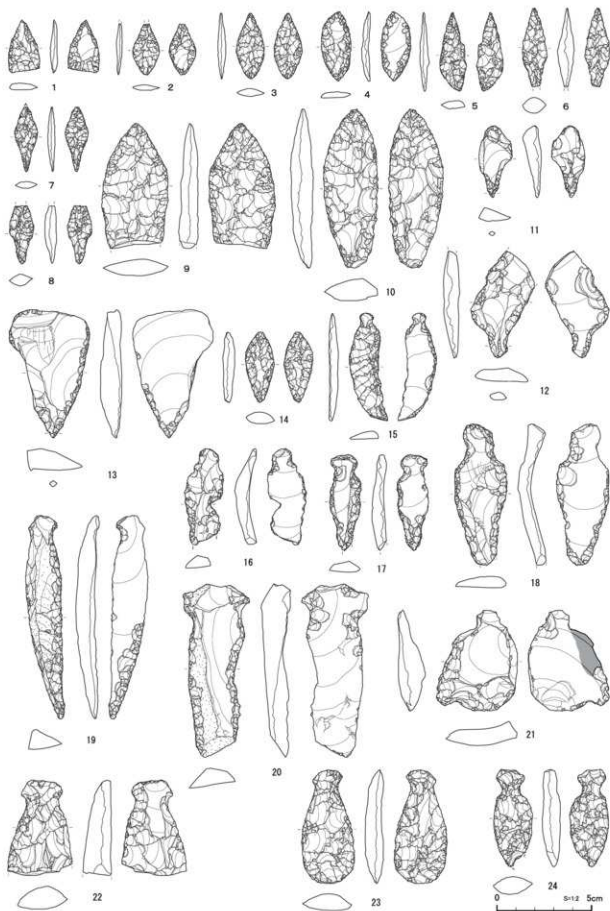
られる。20は対向する抉りが浅い。21は横長剥片を素材とする。裏面右側縁には光沢が認められる。22～24は両面全面加工である。23は筒状、24は先端部がある。23・24の石材は黒曜石で、原産地同定の結果、どちらも赤井川産と判定された。25～36は削器である。25は左右の側縁に抉り状の二次加工が加えられる。26は「く」の字形をした側縁の上部は裏面側に、下部は正面側に二次加工が連続する。29は打面を除いたほぼ全周に二次加工が加えられる。30は裏面右側縁と正面右側縁に二次加工が加えられる。後者の二次加工は急角度である。31～34は横長剥片を素材とする。34の刃部は内弯する。35・36は先端部があるもので、35は縦長剥片の末端を除いたほぼ全周、36は横長剥片の打面を除いたほぼ全周に二次加工が加えられる。削器のうち、刃部の裏面が部分的に光沢を帯びるものは27・28・31・32で、そのうち28・32には正面にある二次加工痕の近くにも光沢が認められる。37～43は両面加工石器とした。37は小形で細身である。38は石槍としたものより加工が粗く、側面の後縁が凸凹している。39～41はいずれも同じ位の幅で、39は長方形、40は一端が先端状、41は一端がやや円みを帯びる。43は扁平で幅が広く先端となる。44は器種まで分類できなかった剥片石器の破片である。両面全面が加工され、側縁に対向する浅い抉りが入る。石材は黒曜石で、原産地同定の結果、出来島と判定された。

#### 磨製石器類 (図Ⅳ-35・36)

45～48は磨製石斧である。45は小型で刃部を欠損する。石材は青色片岩である。46は基部側の破片どうしが接合している。研磨前の打ち欠き成形痕が所々に認められる。47・48には擦切り痕が認められる。47は基部の破片である。正面右側縁に敲打痕の凹みがある。48は刃部側の破片である。46～48の石材は緑色泥岩である。

#### 礫石器類 (図Ⅳ-36～38)

49～51はたき石である。49は棒状礫の両端に、50は小判状礫の両端や側縁に敲打痕がある。51は図の上端に敲打痕、下端にすり面がある。剥離面以外は非常に平滑で、図Ⅳ-29-22・23に図示した安山岩で製作された磨製石斧に似た印象を受ける。52～56は凹石である。52は棒状礫の両面に敲打痕がある。53～55は小判状礫が用いられており、敲打痕は53が片面、54・55は両面にある。55の石材となった砂岩には、9mm以下の礫が目立つ。56は立方体形の礫が用いられている。57～66はすり石である。57は横断面が三角形であったすり石が、把握しやすくするためか、一稜が除去されている。58～64は小判状礫が用いられている。59の上端は両面とも打ち欠かされている。60～63は長軸両端が両面とも打ち欠かれており、61～63は両面の打ち欠き間が敲打で潰れている。60・61には大きな剥離痕が見られるが、把握しやすくするための加工かもしれない。63にはすり面が形成されていない。64は幅が6.3cmと小型、65は破片で石材は片麻岩、66は安山岩の礫片が用いられている。67～70は半円状扁平打製石器とした。68の素材は砂岩の円礫片である。69・70は板状の安山岩を素材とする。70は折損した石鋸を加工して半円の弧を作り出している。打ち欠きにより機能部が作られているが、すり面は形成されていない。71～79は北海道式石冠である。いずれも全体が敲打整形されたものである。上面から北海道式石冠の厚きを見ると、71～74はすり面側が張り出し、75～78は把握部とすり面側で大きな差はない。73は把握部の横断面がやや角張る。把握部上にあった丸みを、打ち欠きと敲打によって除去したように見受けられる。75は溝状のくぼみが斜めにめぐっており、側面以外は溝が二条になっている。78は把握部とすり面側が幅・厚きともほぼ等しい形態である。79はすり面端部の破片どうしが接合したものである。80・81は石鋸で、横断面が「U」字形のすり面が三側縁に形成されている。80は板状の安山岩を素材とし、図下端では、「U」字形のすり面を切って幅の狭いすり面が形成されている。82～84は砥石である。82・83は凝灰岩または泥岩を用いた有溝砥石で、同一地点から出土した。風化が進んで脆くなっていたので、バラロイドB72の7%溶液を塗布して強化してある。両者の溝を重ね



圖IV-33 包含層出土石器(1)

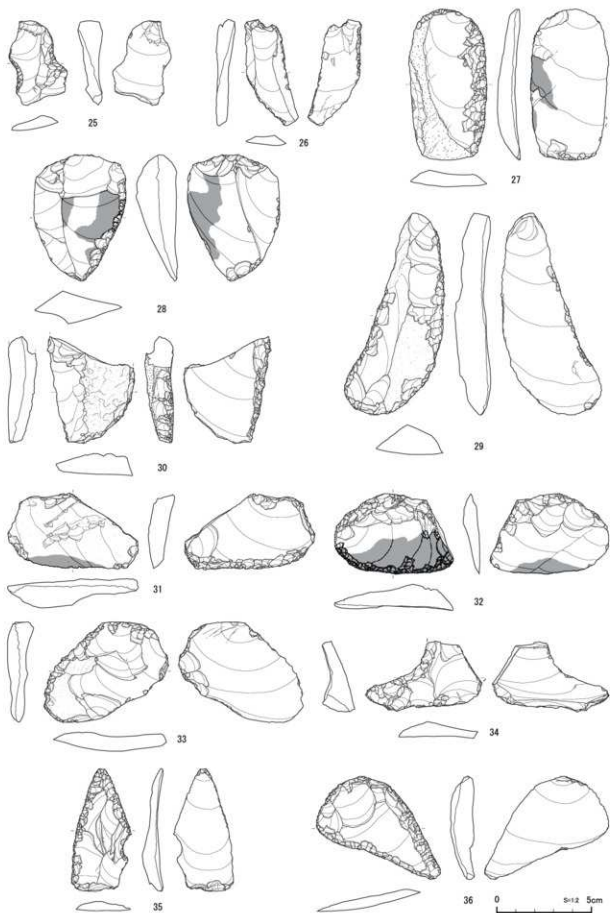


图 IV-34 包含层出土石器(2)

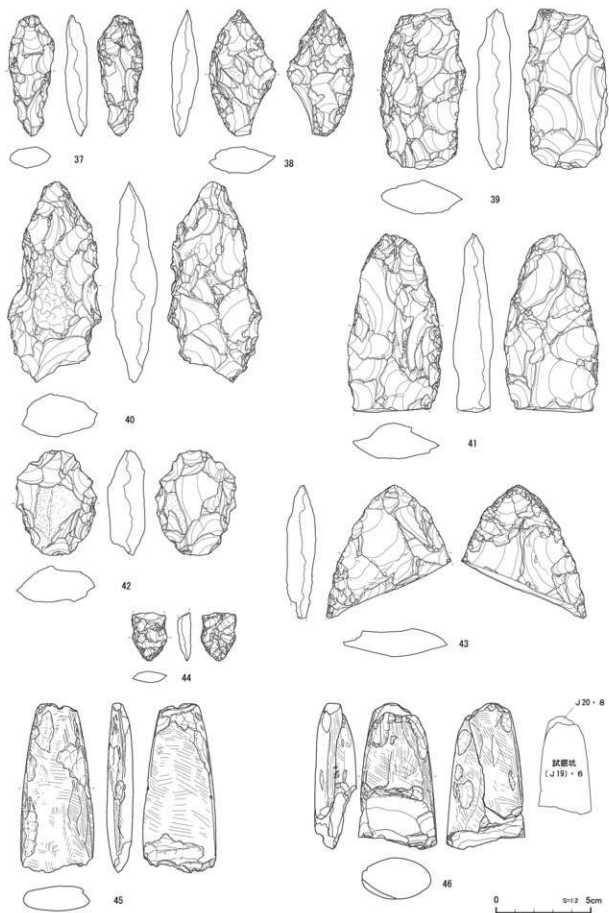
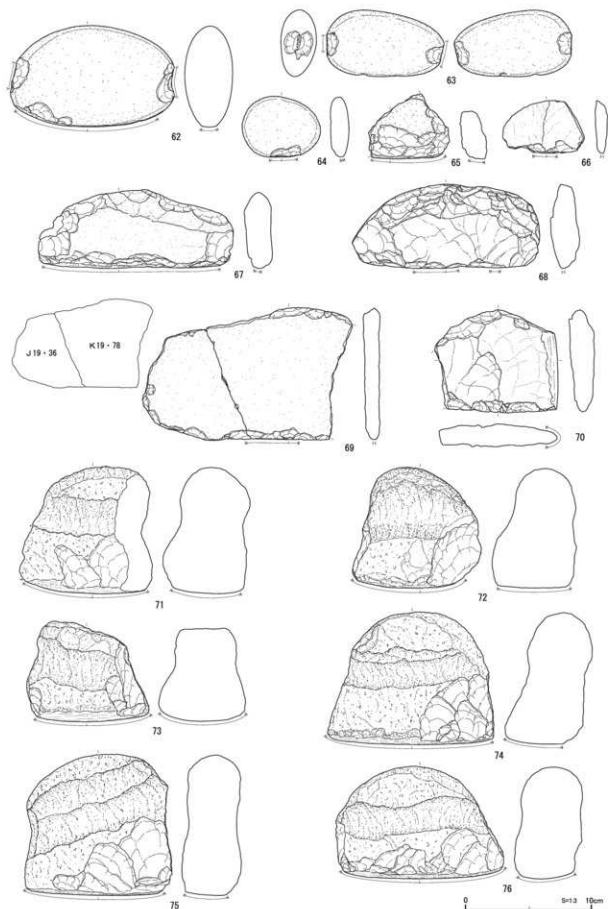


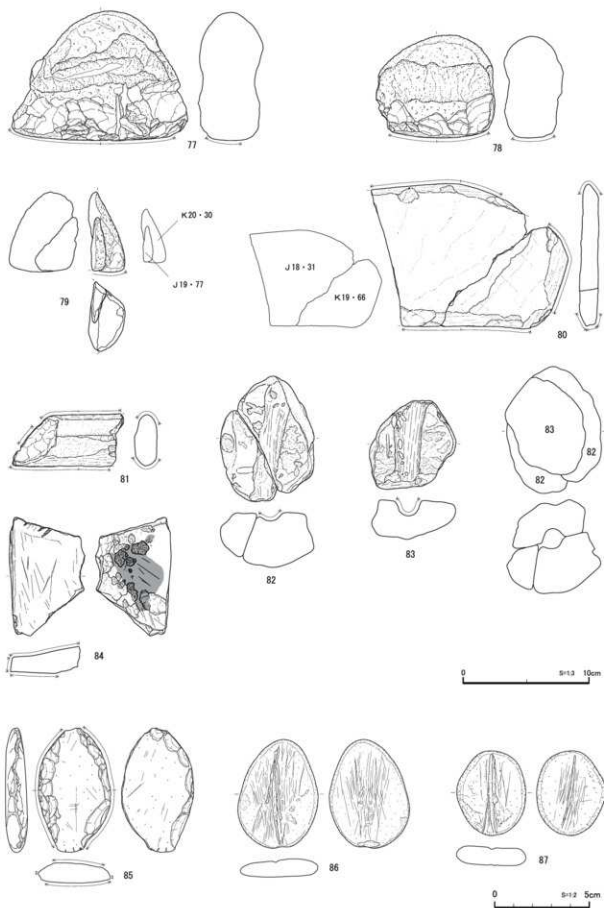
圖 IV-35 包含層出土石器(3)



图IV-36 包含层出土石器(4)



圖IV-37 包含層出土石器(5)



图IV-38 包含层出土石器(6)·石製品



合わせると円形の横断面となる。全体が磨耗しているの不確かではあるが、溝を重ね合わせた部分で接合している感触があり、礫を半割して製作された可能性もある。84は板状の砂岩を用いたもので、両面と一側縁に砥面が形成されている。裏面には敲打痕が多く見られ、やや光沢のある黒色物質が付着している。

#### 石製品 (図Ⅳ-38)

85は小判状礫の側縁が打ち欠かれ、すり面が形成されている。両面に擦痕がまばらに認められ、下端の両面に短い線刻がある。石材は凝灰岩または泥岩とみられる。86・87はどちらも小判状礫の長軸上に深い線刻があり、その周囲には浅い線刻がある。同一グリッドから出土しており、石材はともに泥岩である。

### (3)接合資料

珪質頁岩の剥片を中心とした接合作業の結果、69件の接合資料が得られた。その中には、原石からの剥離工程を知り得るまで接合できたものがあり、フラスコ状土坑P-2で出土した剥片類・石核からなる接合資料4・5では、原石の分割で生じた面を作業面として、自然面から求心的な剥片剥離が行われている。

図示した接合資料は6件で、接合資料のあとの算用数字は整理番号を表す。石材はいずれも珪質頁岩である。表Ⅳ-10には接合した剥片等の出土位置・計測値等を示し、表Ⅳ-14には接合剥片のうち、完形とみなされるものの計測値を一覧表にしてある。なお、磨製石器類・礫石器類でも接合作業を行い、22件の接合資料が得られた。その一部は図Ⅳ-30～32・35・37・38に図示してある。

#### 接合資料7 (図Ⅳ-39)

1は剥片14点、石核1点が接合しており、重量は134.1g、大きさは5.6×11.1×6.4cmである。素材は転礫から剥離された分厚い剥片であろう。素材の側縁に複数回の打撃を加えて自然面を除去し(段階1)、その作業面を打面として複数の剥片が剥離されている(段階2)。すべてH-1HP-17の覆土から出土した。

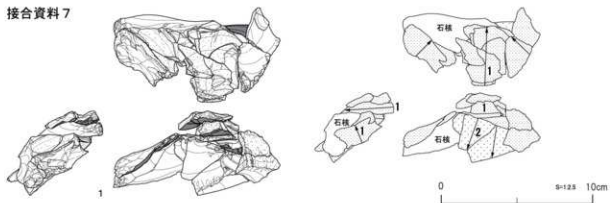
#### 接合資料4 (図Ⅳ-39・40)

2(2a+2b)は剥片18点、石核2点が接合しており、重量は649.1g、大きさは11.6×10.5×10.8cmである。素材は球状の転礫で、接合はしていないが、2cも同じ素材から分割されたものとみてよい。2aは剥片11点、石核1点が接合しており、重量は413.1g、大きさは9.9×10.4×6.6cm(図中aの剥片3点を含む)、2bは剥片3点、石核1点が接合しており、重量は220.7g、大きさは8.7×7.8×3.4cm、2cは削器1点、剥片6点、石核1点が接合しており、重量は291.2g、大きさは8.2×9.4×5.2cmである。図中にaで示した剥片3点、bで示した2点を含め、いずれもP-2の覆土から出土した。

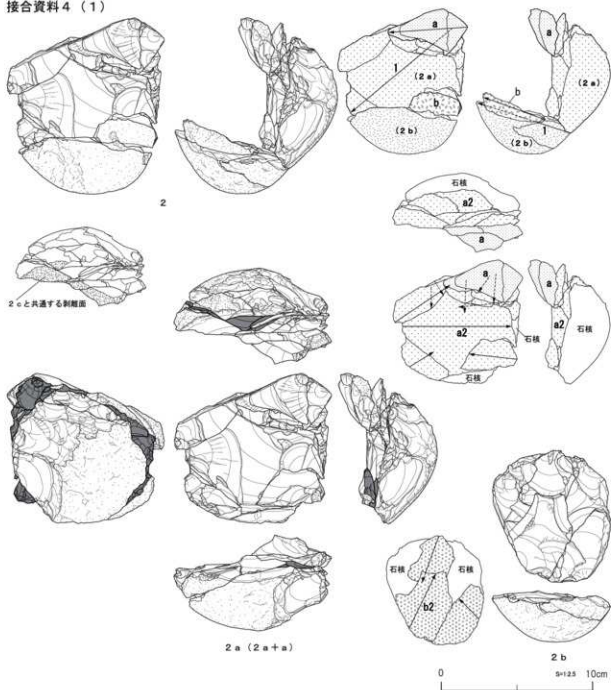
剥離作業は礫の分割から始められる(段階1)。接合によって2a・2b・2cに分割されたことを確認したが、2aと2cに共通する広い剥離面があるので、礫は四つに分割されたと考えられる。接合資料だけで見ると、2b、2aの順に分割されている。なお、図中にaで示した剥片3点が2aと接合するが、後述する2cの剥離作業で生じた剥片とみられ、2aから剥離されたものではない。また図中にbで示した剥片1点が2bと接合するが、2bから剥離されたものではなく、これも2cの剥離作業で生じたものであろう。

2aは分割面を作業面として、側縁から求心方向を主とした剥片剥離が行われる(段階a2)。次の段階にあたる接合はないが、段階a2の作業面を打面として、自然面が剥離されている。2bも分割

接合資料 7

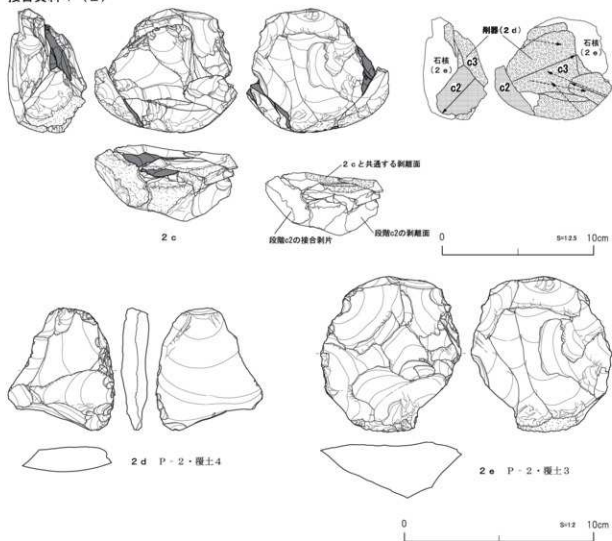


接合資料 4 (1)

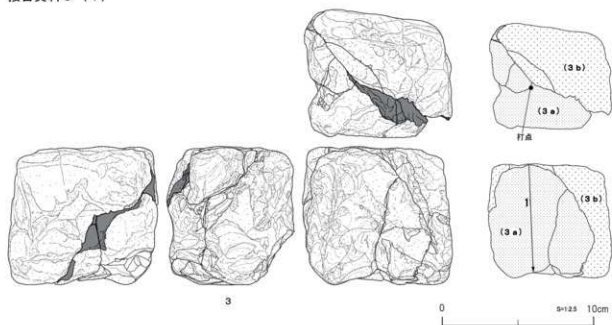


図IV-39 接合資料(1)

## 接合資料 4 (2)

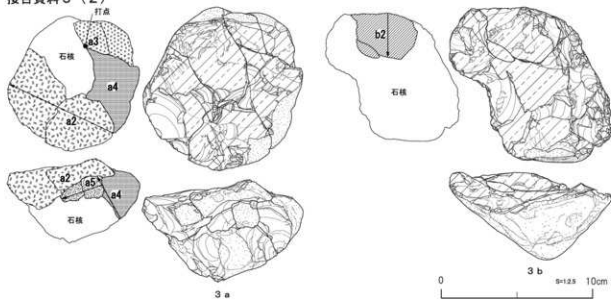


## 接合資料 5 (1)

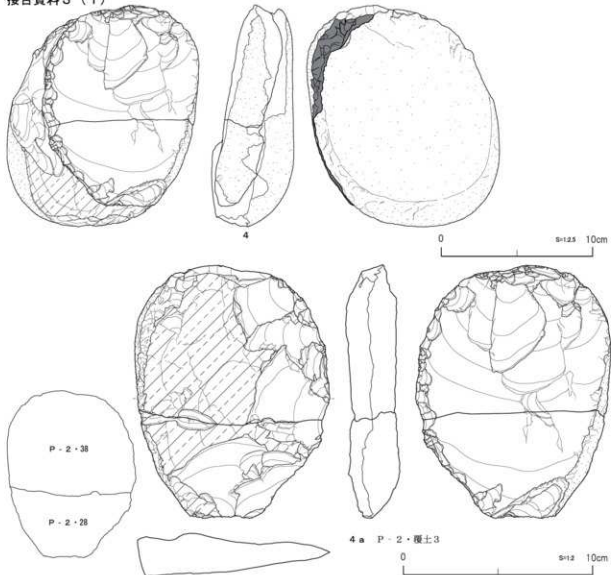


図IV-40 接合資料(2)

接合資料 5 (2)

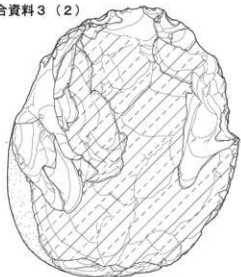


接合資料 3 (1)

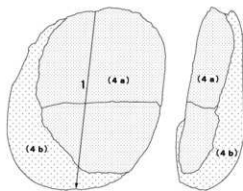


図IV-41 接合資料(3)

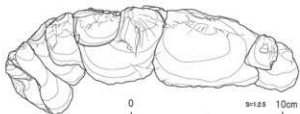
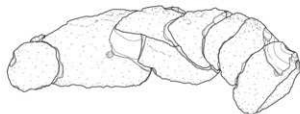
## 接合資料 3 (2)



4 b P-2・層土3



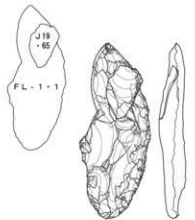
## 接合資料 6



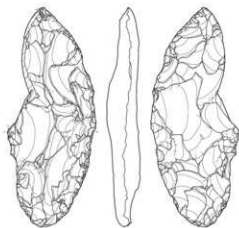
5



## 接合資料 1



6



6 a FL-1-II



図IV-42 接合資料(4)

面を作業面として、側縁から求心方向の剥離が行われている（段階b2）。

2a・2bは分割された礫を石核素材とするが、2cは分割時に残った部分を素材にしている。2cと2aの正面どうしを向き合わせると、両者に共通する剥離面が見られる。この剥離面の形成は2cから2aが分割される前である。2cの剥離作業は両面で行われ、早い段階で模式図a・bの剥片が剥離されたようである（段階a・b）。その後、正面両側縁への打撃で模式図2の剥片を剥離し（段階c2）、その剥離面を打面として求心方向の剥離が行われる（段階c3）。

2dは段階c3で得られた剥片を素材とした削器である。2eは2cの剥離作業終了後の石核である。図の下端に自然面が残るが、両面とも剥離面で覆われる。

#### 接合資料5（図IV-40・41）

3（3a+3b）は剥片7点、石核2点が接合しており、重量は1060.2g、大きさは9.2×9.9×8.5cmである。素材は立方体に近い亜角礫で、節理が多く入る。3aは剥片6点、石核1点が接合しており、重量は623.1g、大きさは10.8×10.6×6.8cm、3bは剥片1点、石核1点が接合しており、重量は437.1g、大きさは10.3×10.7×5.8cmである。3a・3bともP-2の覆土から出土した。

剥離作業は、礫の分割から始められる（段階1）。分割によって生じた面は風化が進んでおり、節理に沿って割れたのであろう。3aは分割面を打面として剥片が剥離された後、側縁の自然面（段階a2・a5）、裏面の自然面（段階a4）、分割面（段階a3）と頻りに打面を変えて剥離が行われている。3bは、分割された面を作業面として求心方向の剥片剥離が行われている（段階b2）。

#### 接合資料3（図IV-41・42）

4は削器2点、剥片1点、石核1点が接合しており、重量は1023.2gである。大きさは14.7×12.7×5.4cmで、円盤状の転礫を素材とする。すべてP-2の覆土から出土した。

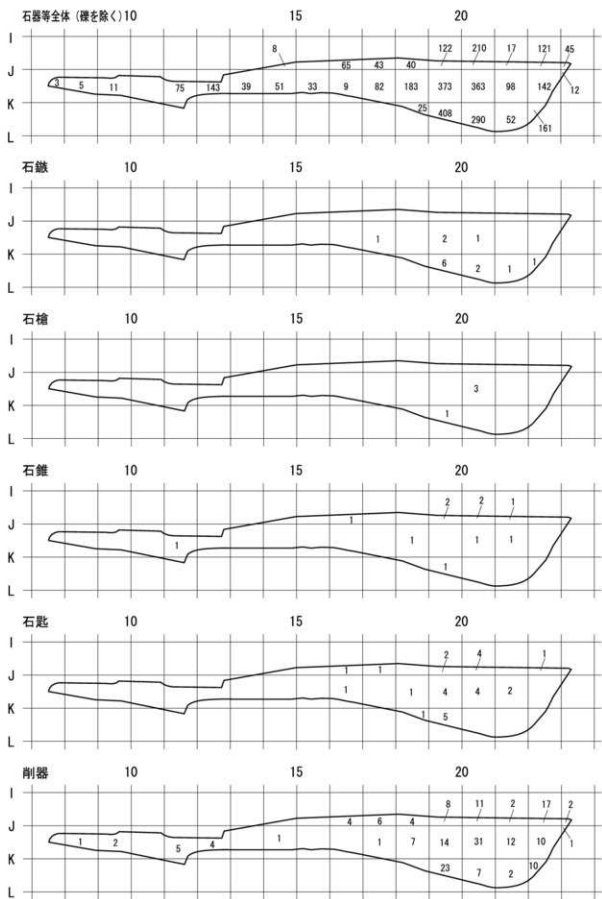
剥離作業は礫の分割から始められる。分割によって生じた面は風化が進んでおり、節理に沿って割れたのであろう（段階1）。その後、4a側の上部に打面を作り出し、4bとの分割面を背面側にして4aの素材剥片が剥離される。4aは大型剥片を素材とした削器で、折れ面で接合している。図示していないが、正面右側の剥離痕に二次加工で生じた剥片1点が接合する。4bは石核で、分割後の剥離痕が複数認められる。裏面は自然面である。

#### 接合資料6（図IV-42）

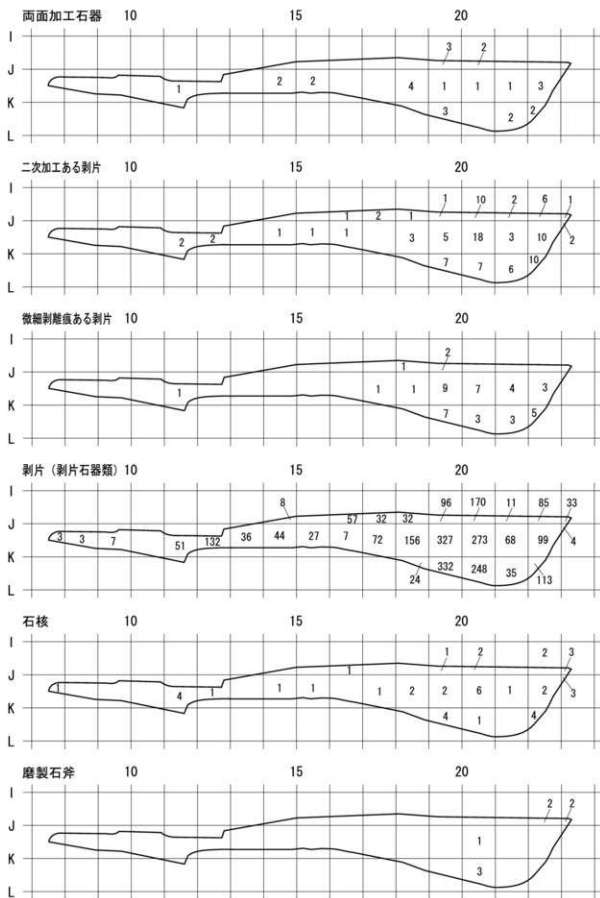
5は剥片10点が接合しており、重量は157.9gである。大きさは19.4×7.2×4.5cmで、素材は小判状の転礫とみられる。すべてP-2の覆土から出土した。礫の側縁に沿って打撃を行い、自然面が連続して除去されている。

#### 接合資料1（図IV-42）

6は柳葉形の両面加工石器1点と剥片1点が接合している。6aはFL-1から出土した。一側縁にある折れ面は他の面よりもくすんでいるので、節理で生じた割れによるものであろう。正面右側縁の中央から下にかけて、微細剥離痕が比較的連続して見られる。（山中）

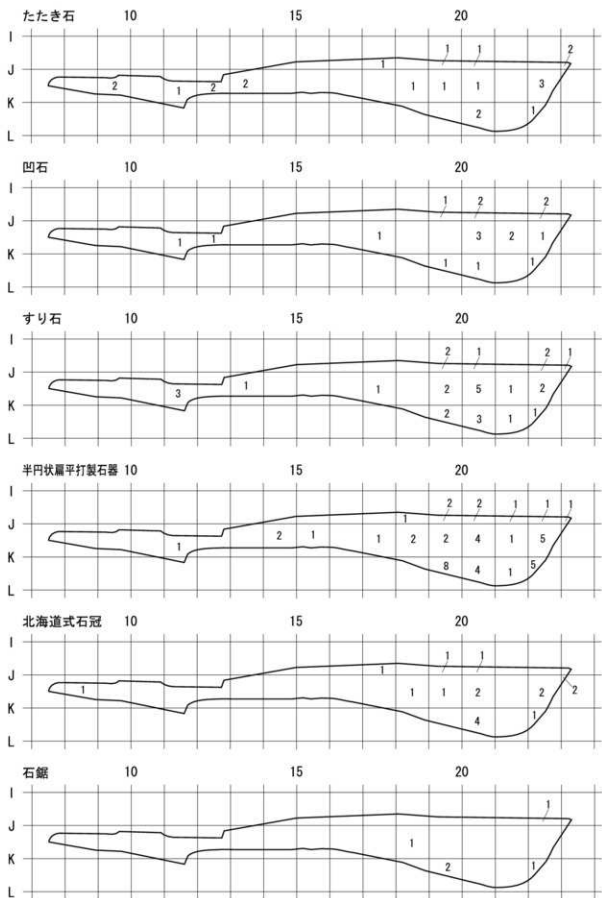


圖IV-43 石器等分布図(1)

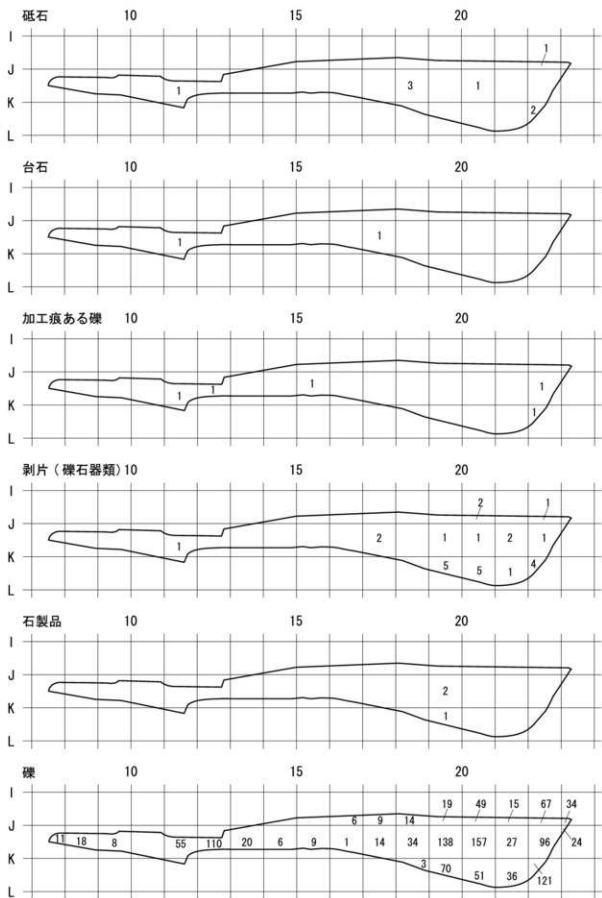


図IV-44 石器等分布図(2)





図IV-45 石器等分布図(3)



図IV-46 石器等分布図(4)

表IV-1 遺構計測値一覧

遺構名	礎部		床面・底面		深さ(m)
	長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)	
H-1(上部)	0.53	(0.28)	(0.45)	(0.17)	0.16
H-1(下部)	4.98	4.08	4.92	3.84	0.24
H-1HP-1	(0.60)	0.50	(0.51)	0.30	0.21
H-1HP-2	0.32	0.28	0.24	0.20	0.26
H-1HP-3	0.32	0.32	0.25	0.20	0.33
H-1HP-4	0.29	0.27	0.26	0.21	0.50
H-1HP-5	0.77	0.74	0.46	0.42	0.35
H-1HP-6	0.32	0.30	0.21	0.21	0.48
H-1HP-7	0.43	0.34	0.25		0.50
H-1HP-8	0.08	0.08			0.08
H-1HP-9	0.10	0.08			0.30
H-1HP-10	0.24	0.22	0.19	0.15	0.23
H-1HP-11	0.32	0.32	0.28	0.26	0.44
H-1HP-12	(0.32)	(0.25)	(0.24)	(0.18)	(0.08)
H-1HP-14	0.25	0.22	0.18	0.15	0.40
H-1HP-15	0.58	0.48	0.44	0.38	0.19
H-1HP-16	0.68	0.68	0.50	0.47	0.10
H-1HP-17	0.47	0.44	0.30	0.26	0.40
H-1HP-18	0.20	0.20	0.14		0.26
H-1HP-19	0.20	0.18	0.14	0.13	0.40
H-1HP-20	0.12	0.10			0.15
H-1HP-1	0.40	0.38			0.01
H-2	(2.00)	3.40	(2.00)	3.32	0.17
H-2HP-1	0.16	0.15	0.09	0.08	0.12
H-2HP-2	0.21	0.20	0.10	0.09	0.26
H-2HP-3	0.25	0.25	0.20	0.20	0.16
H-2HP-4	0.20	0.20	0.12	0.12	0.14
H-2HP-5	0.80	0.32	0.63	0.34	0.14
H-3	(1.24)	(2.06)	(1.13)	(1.65)	0.43
H-3HP-1	0.17	0.12	0.08	0.06	0.32
H-3HP-2	0.24	0.13	0.09	0.09	0.26
H-4	4.30	4.04	4.00	3.76	0.60
H-4HP-1	0.67	0.30	0.43	0.24	0.62
H-4HP-2	0.36	0.30	0.21	0.19	0.59
H-4HP-3	0.25	0.22	0.14	0.14	0.60
H-4HP-4	0.40	0.28	0.26	0.20	0.66
H-4HP-5	0.26	0.26	0.23	0.22	0.30
H-4HP-6	0.30	0.24	0.12	0.11	0.22
H-4HP-7	(0.21)	0.17	0.13	0.12	0.20
H-4HP-8	0.28	0.24	0.20	0.16	0.12
H-4HP-9	0.26	0.20	0.20	0.14	0.09
H-4HP-10	0.51	0.36	0.36	0.20	0.07
H-4HP-11	0.26	0.38	0.24	0.21	0.14
H-4HP-1	0.26	0.16			0.02
H-4HP-2(大)	0.27	0.16			0.02
H-4HP-2(小)	0.13	0.09			0.02
H-4HP-3	0.31	0.22			0.02
H-5	(3.60)	5.13	(3.54)	4.99	0.60
H-5HP-1	0.45	0.44	0.24	0.24	0.72
H-6	(0.98)	4.02	(0.87)	3.85	0.44
H-7	(1.94)	2.51	(1.86)	2.45	0.41
H-7HP-1	0.68	0.68	0.50	0.40	0.39
H-7HP-2	0.72	(0.32)	0.54	(0.30)	0.12
H-7HP-1	(0.21)	(0.12)			
H-8	(2.55)	(3.32)	(2.50)	(3.44)	0.10
H-8HP-1	0.26	0.24	0.18	0.15	0.31
H-8HP-2	0.25	0.24	0.19	0.19	0.47
H-8HP-3	0.27	0.27	0.17	0.17	0.34
P-1	(1.21)	1.21	1.12	0.86	0.28
P-2	(1.72)	(0.90)	2.18	1.98	2.10
P-3	(0.46)	0.48	(0.41)	0.38	0.14
埋設土器1	0.26	0.18			
-括土器a	0.36	0.29			
-括土器b	4.07	1.03			
-括土器c	0.40	0.19			
-括土器d	0.35	0.11			
-括土器e	1.91	0.54			
-括土器f	0.47	0.45			
-括土器g	0.33	0.31			
-括土器h	1.60	0.33			
-括土器i	0.82	0.45			
-括土器j	1.18	0.25			
FI-1	0.49	0.38			

表IV-2 土器点数集計

部土位置	層位/分類	II b	II b (7層位)	III a	III a (1層a)	構成 粘土塊	合計 点数
H-1	覆土1	395		9			404
	覆土2	1,457	1	11	39	1	1,498
	覆土3	226		17			243
	床面	10					10
	埋瓦	864		60			924
H-1HP-1	覆土1	11					11
	覆土1	2					2
H-1HP-2	覆土1	4				4	
H-1HP-3	覆土1	4				4	
H-1HP-4	覆土1	6				6	
H-1HP-5	覆土1	56				56	
	覆土2	1				1	
H-1HP-9	覆土1	1				1	
H-1HP-11	覆土1	2				2	
H-1HP-12	覆土1	5				5	
H-1HP-14	覆土1	1				1	
H-1HP-15	覆土1	8				8	
H-1HP-17	覆土3	2				2	
H-1HP-18	覆土1			3		3	
H-1HP-19	床面	3,055	1	90	39	1	3,175
H-2	覆土1						2
H-2HP-1	覆土1	16					16
H-2HP-2	覆土1	1					1
H-2HP-3	覆土1	2					2
H-2HP-4	覆土1	1					1
H-2HP-4	覆土1	1					1
H-2HP-4	覆土1	22					22
H-3	覆土1	35					35
	敷土(覆土1)	4					4
	覆土2	4					4
	覆土3	3					3
	床面	2					2
H-3合計点数		48				48	
H-4	覆土1	97					97
	覆土1	17					17
	覆土2	89					89
	覆土3	39					39
	覆土4	2					2
H-4合計点数		263				263	
H-5	覆土1	154					154
	覆土2	93					93
	床面	12					12
H-5合計点数		259				259	
H-6	覆土2	25		2			27
	覆土1	2					2
H-7	覆土1	119					119
	埋瓦	8					8
	覆土1	6					6
	底面	2					2
H-7合計点数		160				160	
H-8	床	202					202
H-8HP-1	覆土1	5					5
H-8合計点数		207					207
P-1	覆土1	11					11
	覆土1	192					192
P-1合計点数		203				203	
P-2	覆土1	17					17
	覆土2	47					47
	覆土3	41		1			42
	覆土4	129		1			130
P-2合計点数		234		2		236	
P-3	覆土1	49					49
埋設土器1	-	229					229
-括土器a	II	17					17
-括土器b	II	1,260					1,260
-括土器c	II	38					38
-括土器d	II	13					13
-括土器e	II	763					763
-括土器f	II	48					48
-括土器g	II	39					39
-括土器h	II	179					179
-括土器i	II	138					138
-括土器j	II	181					181
-括土器k	II	8					8
埋設土器合計点数		7,347	1	94	39	1	7,471
包含層		7,526	104	2	1	6	7,639
埋瓦		355					355
表面採集		64	1				65
瓦片		12	39				51
包含層合計点数		7,957	135	2	1	6	8,101
埋瓦・包含層合計点数		13,304	136	96	31	7	13,574

表IV-3 掲載土器一覽

編年層番号	層位	遺物番号	点数	取上地点	層名	取上行年月日
<b>遺跡Ⅰ(西宮区)</b>						
1	2	37		H-1・HP-5	層+1	2009.8.31
2	1	22, 64		H-1	層+2'	2009.8.25
	23	1		H-1	層+2'	2009.8.25
3	16	11, 20		H-1	層+2	2009.8.25
4	3	2, 106		H-1a	床面	2009.8.26
	3	22		H-1b	覆土	2009.8.20
5	4	1, 20		H-1a	床面	2009.8.26
	3	9		H-1b	覆土	2009.8.20
6	1	20		P-1	層+1	2009.8.11
	4	1		P-1	層+1	2009.8.11
	5	1		P-1	層+1	2009.8.11
7	5	2, 9		P-2	層+4	2009.8.23
	3	24		P-2	層+4	2009.8.24
8	6	3		P-2	層+4	2009.8.24
	5	1		P-2	層+2	2009.8.20
	6	5		P-2	層+3	2009.8.23
	7	6		P-2	層+3	2009.8.23
	8	1		P-2	層+3	2009.8.23
	9	1		P-2	層+3	2009.8.23
9	8	3, 8		P-2	層+4	2009.8.24
10	7	2, 5		P-2	層+4	2009.8.23
	3	10		P-2	層+4	2009.8.24
	12	9		P-2	層+3	2009.8.18
11	9	1, 112		埋設土器1	層+3	2009.8.11
12	10	1		一括b	層	2009.8.19
	1	36		一括e	層	2009.8.19
	2	4		J19	層	2009.8.4
	3	1		J19	層	2009.8.5
	7	8		J19	層	2009.8.20
13	11	5		K19	層	2009.8.20
14	12	1		一括b	層	2009.8.19
	1	16		一括b	層	2009.8.19
	2	24		一括b	層	2009.8.20
	5	1		K19	層	2009.8.20
15	13	2, 23		一括b	層	2009.8.20
16	14	2, 16		一括b	層	2009.8.20
17	15	1, 54		一括j	層	2009.8.19
	2	10		K19	層	2009.8.11
	3	2		K19	層	2009.8.18
	1	16		K19	層	2009.8.19
18	18	1, 27		一括b	層	2009.8.11
<b>遺跡Ⅱ(西宮区)</b>						
19	2	3		H-1	床面	2009.8.31
20	1a	13, 1		H-1	層+2	2009.8.25
	1b	2, 2		J19	層	2009.8.4
	3	2		J19	層	2009.8.5
	1c	1, 3		一括a	層	2009.8.11
	1d	1, 2		一括a	層	2009.8.11
	1	1		J19	層	2009.8.6
21	3a	43, 1		H-1	覆土	2009.8.19
	3b	7, 1		H-1	層+2	2009.8.18
	12	1		H-1	層+2	2009.8.24
22	4	9, 1		H-1	層+2	2009.8.20
23	5	10, 1		H-1	層+2	2009.8.23
27	6	12, 1		H-1	層+2	2009.8.24
25	7	56, 1		H-1	層+2	2009.8.31
26	10	1		H-1	層+2	2009.8.24
27	11	9, 4		H-1	層+2	2009.8.20
	14	1		H-1	層+2	2009.8.26
28	9	9, 3		H-1	層+2	2009.8.20
29	8	8, 1		H-1	層+2	2009.8.19
30	1	43, 5		H-1	覆土	2009.8.19
31	2a	8, 1		H-1	層+2	2009.8.19
	12	1		H-1	層+2	2009.8.24
	22	1		H-1	層+2'	2009.8.25
	30	1		H-1	層+1	2009.8.19
2b	43	2		H-1	覆土	2009.8.19
3c	9	1		H-1	層+2	2009.8.20
	43	3		H-1	覆土	2009.8.19
3d	8	1		H-1	層+2	2009.8.19
	30	1		H-1	層+1	2009.8.19
32	12a	47, 1		H-1	層+2	2009.8.23
	12b	47, 3		H-1	層+2	2009.8.23
33	13	47, 1		H-1	層+2	2009.8.23
34	14	40, 1		H-1	層+2	2009.8.10
35	20	13, 1		H-1	層+2	2009.8.25
	14	1		H-1	層+2	2009.8.26

編年層番号	層位	遺物番号	点数	取上地点	層名	取上行年月日
36	4	9, 1		H-1	層+2	2009.8.20
	10	3		H-1	層+2	2009.8.23
37	20a	10, 2		H-1	層+2	2009.8.23
	49	3		H-1	層+2	2009.8.24
	20b	26, 1		H-1	層+2	2009.8.10
	40	1		H-1	層+2	2009.8.10
	45	1		H-1	層+2	2009.8.20
	20c	34, 1		H-1	層+2	2009.8.23
38	15a	6, 1		H-1	層+2	2009.8.10
	9	2		H-1	層+2	2009.8.20
	15b	10		H-1	層+2	2009.8.23
	15c	10		H-1	層+2	2009.8.23
39	17a	10, 1		H-1	層+2	2009.8.23
	17b	10, 1		H-1	層+2	2009.8.23
40	18	10, 1		H-1	層+2	2009.8.23
41	19	10, 1		H-1	層+2	2009.8.24
42	104a	10, 1		H-1	層+2	2009.8.23
	104b	3, 1		J19	層	2009.8.5
43	20a	5, 1		H-1	層+2	2009.8.10
	40	1		H-1	覆土	2009.8.10
	51	1		H-1	覆土	2009.8.25
	29b	7, 2		H-1	層+2	2009.8.18
	29c	23, 1		H-1	層+2'	2009.8.25
	29d	9, 1		H-1	層+2	2009.8.20
44	23a	32, 1		H-1	層+1	2009.8.20
	23b	47, 2		H-1	覆土	2009.8.23
45	27	37, 1		H-1	層+1	2009.8.25
46	14	56, 3		H-1	覆土	2009.8.31
47	16	49, 1		H-1	覆土	2009.8.24
48	25	43, 1		H-1	覆土	2009.8.19
49	26	45, 1		H-1	覆土	2009.8.10
50	21	32, 1		H-1	層+1	2009.8.23
51	22	28, 1		H-1	層+1	2009.8.18
52	30	8, 1		H-1	層+2	2009.8.19
53	5a	12, 1		H-1	層+2	2009.8.24
	5b	23, 3		H-1	層+2	2009.8.25
	25	3		H-1	層+2	2009.8.1
54	31	9, 1		H-1	層+2	2009.8.20
55	32	4, 3		H-1	床面	2009.8.31
	47	1		H-1	覆土	2009.8.23
	48	9		H-1	層+1	2009.8.23
56	115	24, 3		H-1	層+1	2009.8.25
57	53	1, 1		H-2・HP-2	層+1	2009.8.18
58	30	8, 1		H-2	結合部	2009.8.18
59	3a	9, 2		H-2	層+1	2009.8.11
60	3b	9, 1		H-2	層+1	2009.8.11
61	37	3, 1		H-4	層+3	2009.8.26
62	38	1, 1		H-4	層+3	2009.8.26
63	39	12, 1		H-4	層+3	2009.8.20
64	40	17, 1		H-4	層+3	2009.8.23
	3	2		J22	層	2009.8.25
65	3a	12, 4		H-4	層+2	2009.08.20
	17	3		H-4	層+1	2009.08.23
	3b	12, 2		H-4	層+2	2009.08.20
	17	2		H-4	層+1	2009.08.23
	3c	12, 1		H-4	層+2	2009.08.20
	17	4		H-4	層+1	2009.08.23
66	41	11, 1		H-4	層+2	2009.8.26
	12	4		H-4	層+1	2009.8.20
67	114a	9, 1		H-5	層+2	2009.8.25
	114b	17, 1		H-4	層+2	2009.8.23
	1	2		J22	層	2009.8.4
	114c	1, 11		J22	層	2009.8.4
68	6	7, 1		H-5	層+2	2009.8.23
	12	1		H-5	層+2	2009.8.23
69	42a	7, 1		H-5	層+2	2009.8.23
	42b	11, 3		H-5	層+1	2009.8.20
70	41	4, 1		H-5	床面	2009.8.25
71	46a	14, 2		H-5	層+1	2009.8.26
	46b	8, 2		H-5	層+2	2009.8.24
	46c	14, 1		H-5	層+1	2009.8.26
72	45	7, 1		H-5	層+2	2009.8.23
73	48	12, 1		H-5	層+1	2009.8.23
74	47	12, 1		H-5	層+1	2009.8.23
75	43	6, 1		H-5	層+2	2009.8.23
76	49	12, 2		H-5	層+1	2009.8.23
77	50	12, 2		H-5	層+1	2009.8.23
78	51	12, 1		H-5	層+1	2009.8.23

編號	採石場	遺跡	遺物	取上地点	層名	取上日 年月日
79	52	1	1	H-6	層+2	2009.8.19
80	53	1	1	H-6	層+2	2009.8.19
81	54	1	1	H-6	層+2	2009.8.19
82	61	1	1	H-7	層+1	2009.8.19
83	62	1	1	H-7	層+1	2009.8.19
84	70	2	1	H-7	層+1	2009.8.20
85	87	2	1	H-7	層+1	2009.8.20
86	55	1	1	H-7	層+1	2009.8.19
87	58	2	1	H-7	層+1	2009.8.20
88	59	1	3	H-7	層+1	2009.8.19
89	60	11	1	H-7	層+1	2009.8.24
90	63	1	2	H-7	層+1	2009.8.19
91	64	2	1	H-7	層+1	2009.8.20
92	65	3	1	H-7	層+1	2009.8.25
93	66	4	1	H-7	層+1	2009.8.19
94	67	1	3	H-8	表面	2009.8.26
95	74	16	3	F-2	層+1	2009.8.10
96	68	3	1	F-1	層+1	2009.8.11
		4	2	F-1	層+1	2009.8.11
97	69	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
		4	2	F-2	層+3	2009.8.19
98	70	6	1	F-2	層+3	2009.8.25
99	71	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
100	72	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
101	73	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
102	109a	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
	109b	3	1	F-2	層+4	2009.8.24
		4	1	F-2	層+3	2009.8.19
103	7a	12	3	F-2	層+2	2009.8.18
	7b	2	1	F-2	層+4	2009.8.23
		11	1	F-2	層+2	2009.8.11
		12	4	F-2	層+2	2009.8.18
	7c	12	3	F-2	層+2	2009.8.18
	7d	12	3	F-2	層+2	2009.8.18
	7e	12	3	F-2	層+2	2009.8.18
104	116	15	1	F-2	層+2	2009.8.20
105	110a	1	4	F-3	層+1	2009.8.31
	110b	1	3	F-3	層+1	2009.8.31
106	75	1	2	-粘土	層	2009.8.11
107	76	1	1	-粘土	層	2009.8.19
108	11	1	4	-粘土	層	2009.8.19
		2	7	-粘土	層	2009.8.20
		5	2	K19	層	2009.8.20
109	78	1	2	-粘土	層	2009.8.19
110	79	1	1	-粘土	層	2009.8.19
111	106a	1	3	-粘土	層	2009.8.19
	106b	1	4	-粘土	層	2009.8.19
	106c	1	4	-粘土	層	2009.8.19
112	77	1	1	-粘土	層	2009.8.19
113	112	1	3	-粘土	層	2009.8.19
114	9	1	6	-粘土	層	2009.8.19
115	10a	1	1	-粘土	層	2009.8.19
	10b	1	1	-粘土	層	2009.8.19
	10c	1	4	-粘土	層	2009.8.19
	10d	1	6	-粘土	層	2009.8.19
	10e	1	3	-粘土	層	2009.8.19
		2	1	K19	層	2009.8.11
	10f	1	7	-粘土	層	2009.8.19
	10g	1	6	-粘土	層	2009.8.19
	11b	2	4	K19	層	2009.8.11
	10i	1	9	-粘土	層	2009.8.19
	10j	3	3	K19	層	2009.8.18
116	12a	1	1	-粘土	層	2009.8.11
		1	3	-粘土	層	2009.8.11
	12b	1	1	-粘土	層	2009.8.11
	12c	1	1	-粘土	層	2009.8.11
	12d	1	4	-粘土	層	2009.8.11
117	13a	1	3	-粘土	層	2009.8.19
	13b	1	4	-粘土	層	2009.8.19
	13c	1	15	-粘土	層	2009.8.19
		2	1	J19	層	2009.8.20
118	82	1	1	-粘土	層	2009.8.19
119	84	1	2	-粘土	層	2009.8.19
120	113a	1	3	-粘土	層	2009.8.19
	113b	1	3	-粘土	層	2009.8.19
121	83	1	1	-粘土	層	2009.8.19
122	80	1	2	-粘土	層	2009.8.11
123	81	1	2	-粘土	層	2009.8.11

編號	採石場	遺跡	遺物	取上地点	層名	取上日 年月日
124	85a	1	1	-粘土	層	2009.8.11
	85b	1	3	-粘土	層	2009.8.11
125	86	1	1	-粘土	層	2009.8.11
126	15a	1	5	-粘土	層	2009.8.11
	15b	1	6	-粘土	層	2009.8.11
	15c	1	13	-粘土	層	2009.8.11

遺物採出高表						
層	採石場	遺跡	遺物	取上地点	層名	取上日 年月日
1	87	2	1	J19	層	2009.8.11
2	88	1	8	J20	層	2009.8.18
3	89	2	2	J19	層	2009.8.4
4	90	1	1	J20	層	2009.8.4
5	91	1	2	J20	層	2009.8.4
6	92	5	5	K19	層	2009.8.20
7	103	2	1	K19	層	2009.8.11
8	95	1	1	J20	層	2009.8.18
9	97	2	1	J11	層	2009.8.10
10	98	2	1	J18	層	2009.8.20
		3	6	K19	層	2009.8.18
11	99	3	1	J19	層	2009.8.6
12	100	2	1	J21	層	2009.8.6
13	95	1	1	J14	層	2009.8.18
14	102	1	1	J20	層	2009.8.4
15	101	3	1	J19	層	2009.8.5
16	108	2	3	J22	層	2009.8.5
17	94a	5	3	J19	層	2009.8.2
	94b	1	4	J20	層	2009.8.2
18	103	6	2	J11	層	2009.8.10
19	107a	3	1	J20	層	2009.8.5
	107b	1	1	J20	層	2009.8.4
		3	1	J20	層	2009.8.5
	107c	2	2	J20	層	2009.8.4
20	18	2	7	K19	層	2009.8.11
21	111a	3	3	J19	層	2009.8.5
	111b	3	4	K19	層	2009.8.18
22	17a	2	1	J11	層	2009.11.26
	17b	3	6	J11	層	2009.8.10
	17c	2	9	J11	層	2009.11.26
23	117a	4	3	J12	層	2009.8.9
	117b	4	2	J12	層	2009.8.9
24	118	4	1	J19	層	2009.8.5
		3	1	表層	層	2009.8.5
25	119	3	1	J11	層	2009.8.10











表IV-8 遺構出土掲載石器・石製品一覧

種別	掲載番号	図版	分類	遺構 ドリット	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考	遺構図 中番号
N-27	1	30	石鏃	H-1	135	覆土	(3,5)	1.3	0.3	1.0	珪質頁岩		
"	2	"	石鏃	H-1	61	覆土	5.3	3.9	0.7	11.4	珪質頁岩		
"	3	"	石鏃	P-2	37	覆土3	5.4	2.9	0.8	10.6	珪質頁岩		
"	4	"	器具状石器	H-4	14	覆土	(4,6)	3.4	1.2	15.2	珪質頁岩		
"	5	"	削器	H-1	46	覆土2	6.4	4.4	1.0	13.5	珪質頁岩		
"	6	"	削器	H-1	121	覆土2	7.2	3.5	1.0	26.9	珪質頁岩		
"	7	"	削器	H-4	61	床面	7.3	(5,1)	0.9	18.4	珪質頁岩		26
"	8	"	削器	H-1	222	覆土2	(8,3)	6.1	1.6	60.2	珪質頁岩		
"	9	"	削器	H-1	122	覆土2	6.5	4.9	1.4	34.9	珪質頁岩		
"	10	"	削器	P-2	58	覆土4	6.2	3.9	0.9	17.2	珪質頁岩		
"	11	"	削器	H-1	96	覆土1	5.8	5.1	1.0	14.9	珪質頁岩		
"	12	"	削器	H-1	47	覆土2	5.9	5.0	1.4	37.8	珪質頁岩		
N-28	13	"	削器	H-4	47	覆土9	8.8	4.1	0.9	22.2	珪質頁岩		
"	14	"	削器	H-1	101	覆土2	4.6	3.8	1.0	12.3	珪質頁岩		
"	15	"	削器	H-7HP-1	40	底面	3.7	4.7	0.7	11.7	珪質頁岩		33
"	16	"	掻器	H-1	102	覆土2	5.0	2.2	1.2	10.3	珪質頁岩		
"	17	"	両面加工石器	H-1	124	覆土2	(6,1)	2.7	1.1	16.2	珪質頁岩		
"	18	"	両面加工石器	P-2	36	覆土3	(8,3)	5.1	1.6	69.5	珪質頁岩		
"	19	"	両面加工石器	P-2	35	覆土3	8.2	4.8	1.1	38.7	珪質頁岩	接合	
"	20	"	両面加工石器	P-2	53	覆土4	(7,3)	7.7	1.9	92.4	珪質頁岩		
N-29	21	"	磨盤石片	H-6	12	覆土2	(7,8)	3.7	1.9	89.3	緑色泥岩		
"	22	"	磨盤石片	P-2	46	覆土3	(11,0)	6.2	3.6	385.6	安山岩		
"	23	"	磨盤石片	H-1	15	覆土1	(13,1)	5.4	3.6	385.3	安山岩		
"	24	31	たたく石	H-7HP-1	19	床面	17.9	7.1	6.0	944.9	安山岩		12
"	25	"	たたく石	H-1	180	覆土1	12.2	6.0	3.0	353.2	砂岩		
"	26	"	たたく石	H-1	67	覆土1	11.3	7.3	4.4	512.2	砂岩		
N-30	27	"	たたく石	P-2	65	覆土4	8.2	5.5	3.3	174.2	凝灰岩		
"	28	"	たたく石	H-1HP-4	2	覆土	8.5	7.1	4.9	414.8	砂岩		
"	29	"	凹石	P-2	44	覆土3	10.9	(6,3)	4.9	287.6	凝灰岩又は流石		
"	30	"	凹石	H-5	70	床面	(5,1)	8.5	3.4	140.8	凝灰岩又は流石		22
"	31	"	すり石	H-4	40	覆土3	8.2	(9,2)	3.0	346.0	安山岩		
"	32	"	すり石	H-1	79	覆土2	5.4	10.3	2.5	201.7	砂岩		
"	33	"	すり石	H-1	158	覆土2	6.9	11.1	2.7	302.9	砂岩		
"	34	"	すり石	H-1	236	覆土	6.7	12.3	2.4	269.4	砂岩		
"	35	"	すり石	H-1	42	覆土2						接合	
"				"	90	覆土	7.5	14.5	2.5	389.1	安山岩		
"	36	"	すり石	H-5	7	覆土2	6.7	12.9	3.8	383.9	安山岩		
"	37	"	すり石	H-5	17	覆土1	6.9	10.3	3.4	275.2	砂岩		
N-31	38	"	すり石	H-1	118	覆土2	9.1	13.4	4.7	445.6	凝灰岩又は流石		
"	39	"	すり石	H-1	53	覆土	10.1	6.8	3.4	372.8	安山岩		
"	40	"	すり石	H-5	16	覆土1	5.2	10.2	1.5	69.9	凝灰岩		
"	41	"	半円状扁平打撃石器	H-1	107	覆土2	6.4	12.7	3.0	283.7	安山岩		
"	42	"	半円状扁平打撃石器	H-4	37	覆土2	7.5	13.9	1.7	244.6	安山岩	接合	
"				J22	46	II							
"	43	32	半円状扁平打撃石器	H-5	18	覆土1	7.9	15.2	2.4	383.5	安山岩	接合	
"				K22	5	II							
"	44	"	半円状扁平打撃石器	H-4	48	床面	9.6	15.9	1.7	360.4	安山岩	接合	13
"				"	57	"							22
"	45	"	半円状扁平打撃石器	H-5	14	覆土1	(6,5)	(6,8)	2.1	113.2	安山岩		
"	46	"	北海道式石冠	H-6	3	覆土2	10.2	(11,9)	6.5	1043.0	四稜岩		
"	47	"	北海道式石冠	H-5	19	覆土1	10.2	(9,8)	5.4	775.9	四稜岩	接合	
N-32	48	"	北海道式石冠	P-2	71	覆土4	(8,1)	13.2	7.6	1188.0	安山岩		
"	49	"	砥石	H-4	22	覆土	(13,2)	(10,1)	4.5	647.6	安山岩		
"	50	"	台石	H-7HP-1	8	底面	(16,8)	(6,2)	(8,8)	1052	安山岩	接合	1
"				"	72	"							5
"	51	"	石鏃	P-2	74	坑底	18.3	21.7	4.7	1860	砂岩	番号なし	
"	52	"	加工痕ある礫	H-6	9	床面	6.3	5.4	1.4	61.8	泥岩	4	
"	53	"	石製品	P-2	73	覆土4	7.1	7.2	6.0	61.8	軽石	北海道式石冠形	
"	54	"	石製品	H-1	253	覆土	4.1	4.4	2.8	15.0	軽石	北海道式石冠形	

\* 遺構図 (図N-2~10) に出土位置が示されている石器は、「遺構図中番号」欄に図中での番号を記した。

表IV-9 包含層出土掲載石器・石製品一覧

種目	掲載番号	図版	分類	グリッド	遺物番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
IV-33	1	33	石鏃	J19	37	II	2.8	1.7	0.4	1.5	珪質頁岩	
	2	33	石鏃	K21	18	II	2.7	1.4	0.3	0.9	珪質頁岩	
	3	33	石鏃	K19	12	II	3.5	1.5	0.4	1.6	珪質頁岩	
	4	33	石鏃	K19	16	II	3.7	1.6	0.4	2.4	珪質頁岩	
	5	33	石鏃	K20	13	II	4.2	1.4	0.5	2.0	黒曜石	赤井川産
	6	33	石鏃	J19	38	II	(4.2)	1.3	0.9	3.5	珪質頁岩	
	7	33	石鏃	K19	33	II	(3.4)	1.2	0.4	1.1	珪質頁岩	
	8	33	石鏃	表面採集	3		3.1	1.3	0.6	2.2	珪質頁岩	
	9	33	石槍	K19	15	II	6.6	3.5	1.0	23.3	珪質頁岩	
	10	33	石槍	I20	37	II	8.4	2.9	1.2	28.4	珪質頁岩	
	11	33	石鏃	I20	29	II	3.8	1.8	0.8	4.3	珪質頁岩	
	12	33	石鏃	I19	40	II	5.7	3.4	0.8	12.8	珪質頁岩	
	13	33	石鏃	J11	36	II	6.8	4.3	1.1	25.9	珪質頁岩	
	14	33	石鏃	I20	43	II	3.7	1.6	0.6	3.6	瑪瑙	
	15	33	石鏃	K19	84	II	5.7	2.1	0.5	4.3	珪質頁岩	
	16	33	石鏃	I20	40	II	5.1	2.1	0.7	6.4	黒曜石	赤井川産
	17	33	石鏃	J21	1	II	(5.1)	1.7	0.7	5.2	珪質頁岩	
	18	33	石鏃	I19	31	II	(7.5)	2.8	0.9	15.4	珪質頁岩	
	19	33	石鏃	J19	12	II	10.8	2.0	1.0	19.1	珪質頁岩	
	20	33	石鏃	J20	20	II	9.2	3.5	1.6	31.6	珪質頁岩	
	21	33	石鏃	J19	2	試掘	5.3	4.3	1.4	25.3	珪質頁岩	
	22	33	石鏃	K19	65	II	(5.0)	3.4	1.5	20.6	珪質頁岩	
	23	33	石鏃	K19	13	II	6.0	2.8	1.0	14.6	黒曜石	赤井川産
	24	33	石鏃	J19	20	II	(5.1)	2.1	1.0	8.8	黒曜石	赤井川産
IV-34	25	34	削器	K19	60	II	4.5	3.1	1.3	8.6	珪質頁岩	
	26	34	削器	J12	15	II	5.6	2.8	0.9	6.9	珪質頁岩	
	27	34	削器	K19	34	II	8.0	4.2	1.0	37.1	珪質頁岩	
	28	34	削器	J12	9	II	6.7	4.9	2.1	47.2	珪質頁岩	
	29	34	削器	J11	27	II	10.7	5.3	1.6	64.0	珪質頁岩	
	30	34	削器	J9	3	II	5.6	4.6	1.4	33.0	珪質頁岩	
	31	34	削器	J19	41	II	4.0	6.9	1.4	33.8	珪質頁岩	
	32	34	削器	I20	39	II	4.3	6.3	1.2	25.1	珪質頁岩	
	33	34	削器	I22	46	II	5.3	6.6	1.2	30.4	珪質頁岩	
	34	34	削器	J9	2	II	(3.7)	6.2	1.6	21.9	珪質頁岩	
	35	34	削器	J20	39	II	6.5	3.2	0.9	11.8	珪質頁岩	
	36	34	削器	I20	42	II	5.5	6.6	1.2	18.9	珪質頁岩	
IV-35	37	34	両面加工石器	J20	66	II	6.4	2.4	1.1	16.5	珪質頁岩	
	38	34	両面加工石器	I20	41	II	6.7	3.6	1.4	28.4	珪質頁岩	
	39	34	両面加工石器	J15	18	II	8.5	4.5	1.8	70.9	珪質頁岩	
	40	34	両面加工石器	I19	13	II	10.6	5.0	2.3	97.0	珪質頁岩	
	41	34	両面加工石器	K22	37	II	(9.5)	5.0	2.1	93.5	珪質頁岩	
	42	34	両面加工石器	J11	35	II	5.6	4.3	1.9	43.4	珪質頁岩	
	43	34	両面加工石器	K19	24	II	(7.1)	6.6	1.5	47.0	珪質頁岩	
	44	34	剥片石器片	K22	57	I	2.6	1.9	0.7	3.1	黒曜石	出来島産
	45	34	磨製石斧	I22	21	II	(9.0)	3.9	1.4	76.9	青色片岩	
	46	34	磨製石斧	J19	6	試掘	(7.7)	4.2	2.2	89.7	緑色泥岩	接合
IV-36	47	34	磨製石斧	I23	1	II	(7.7)	4.7	3.8	276.1	緑色泥岩	
	48	34	磨製石斧	K20	42	II	(5.3)	6.3	2.8	152.8	緑色泥岩	
	49	34	たたき石	J19	27	II	11.9	5.4	3.9	309.6	チャートまたは珪岩	
	50	34	たたき石	I19	12	II	10.0	7.6	3.1	329.0	砂岩	
	51	34	たたき石	K22	10	II	8.6	5.6	3.1	240.6	砂岩	
	52	34	凹石	I22	23	II	(8.4)	4.4	2.4	100.2	凝灰岩または泥岩	
	53	34	凹石	J20	52	II	12.0	5.9	3.3	305.8	安山岩	
	54	34	凹石	I20	22	II	12.0	7.4	2.4	267.0	砂岩	
	55	34	凹石	J21	20	II	(8.8)	6.8	2.6	192.2	凝灰岩または泥岩	
	56	34	凹石	J12	19	II	5.8	5.8	4.6	213.4	安山岩	
	57	34	すり石	I23	18	I	6.8	9.6	5.4	394.6	砂岩	
	58	34	すり石	J22	56	II	8.4	10.4	2.3	233.5	砂岩	
	59	34	すり石	J19	33	II	7.4	11.6	1.8	224.0	安山岩	
	60	34	すり石	J20	3	II	7.8	13.1	2.5	370.5	安山岩	
61	34	すり石	I19	9	II	6.9	11.8	2.6	316.8	砂岩		
IV-37	62	34	すり石	I20	12	I	8.1	13.2	3.9	396.6	砂岩	

種別	掲載番号	図版	分類	グリッド	遺物番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
IV-37	63	35	すり石	K21	1	Ⅱ	9.4	5.4	2.9	202.3	砂岩	
〃	64	〃	すり石	I22	26	Ⅱ	4.9	6.3	1.5	70.7	砂岩	
〃	65	〃	すり石	K19	51	Ⅱ	(5,2)	(6,5)	2.1	93.5	片麻岩	
〃	66	〃	すり石	J20	96	Ⅱ	4.2	6.6	1.0	27.7	凝灰岩または泥岩	
〃	67	〃	半円状扁平打撃石器	I18	11	複層	6.3	15.7	2.5	333.3	安山岩	
〃	68	〃	半円状扁平打撃石器	J15	2	Ⅱ	6.8	15.0	2.6	329.2	砂岩	
〃	69	〃	半円状扁平打撃石器	J19	36	Ⅱ	10.7	(16,8)	1.3	366.5	安山岩	接合
〃	70	〃	半円状扁平打撃石器	K19	78	Ⅱ						
〃	71	〃	半円状扁平打撃石器	K20	38	Ⅱ	8.2	(9.9)	2.1	208.2	安山岩	
〃	72	〃	北海道式石冠	J8	9	Ⅱ	10.2	(10.7)	6.7	989.3	閃緑岩	
〃	73	〃	北海道式石冠	J23	23	I	9.7	(10.3)	7.2	854.4	安山岩	
〃	74	〃	北海道式石冠	J22	71	Ⅱ	8.1	(9.8)	7.0	711.2	閃緑岩	
〃	75	〃	北海道式石冠	K22	58	Ⅱ	10.6	13.3	(6.1)	1130	閃緑岩	
〃	76	〃	北海道式石冠	I17	16	複層	11.3	11.8	5.4	1130	閃緑岩	
〃	77	〃	北海道式石冠	表面採集	23	Ⅱ	9.0	(13.5)	5.3	998.3	閃緑岩	
IV-38	78	36	北海道式石冠	表面採集	22	Ⅱ	10.4	14.1	5.0	983.4	閃緑岩	
〃	79	〃	北海道式石冠	K20	27	Ⅱ	8.2	9.6	4.7	519.0	安山岩	
〃	80	〃	石剣	J19	77	Ⅱ	(6.4)	(5,5)	(2.7)	93.2	安山岩	接合
〃	81	〃	石剣	K20	30	Ⅱ						
〃	82	〃	石剣	J18	31	Ⅱ	11.7	(15,8)	1.5	396.9	安山岩	接合
〃	83	〃	石剣	K19	66	Ⅱ	4.3	(9,0)	1.9	94.7	安山岩	
〃	84	〃	磁石	J18	29a	Ⅱ	10.1	7.5	4.4	190.1	凝灰岩または泥岩	
〃	85	〃	磁石	J18	29b	Ⅱ	7.1	6.9	3.5	89.1	凝灰岩または泥岩	
〃	86	〃	石製品	J20	1	Ⅱ	(9.5)	(6,1)	2.0	135.3	凝灰岩	
〃	87	〃	石製品	K19	11	Ⅱ	6.6	3.8	1.2	27.4	凝灰岩または泥岩	
〃	88	〃	石製品	J19	1	Ⅱ	5.8	4.2	1.0	27.1	泥岩	
〃	89	〃	石製品	J19	59	Ⅱ	4.5	3.7	1.1	19.8	泥岩	

表IV-10 掲載接合資料一覧

種別	掲載番号	図版	分類等	遺構 グリッド	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
IV-39	1	36	接合資料7				15	5.6	11.1	6.4	134.1	
			剥片	H-1 HP-17	2	覆土3	14				93.7	
			石核	〃	7	〃	1				40.4	
IV-39	2	36	接合資料4				20	11.6	10.5	10.8	649.1	2a+2b+a+b
〃	2a		接合資料4a				12	9.9	10.4	6.6	413.1	aの剥片を含む
			剥片	P-2	10	覆土2	3				179.3	
			〃	〃	34	覆土3	8					
			石核	〃	40	〃	1				207.8	
			剥片	P-2	10	覆土2	1				12.5	aの剥片
			〃	〃	34	覆土3	2				13.5	〃
IV-39	2b		接合資料4b				4	8.7	7.8	3.4	220.7	
			剥片	P-2	34	覆土3	2					
			〃	〃	59	覆土4	1				37.3	
			石核	〃	42	覆土3	1				183.4	
IV-40	2c	36	接合資料4c				8	8.2	9.4	5.2	291.2	
〃	2d		削器	P-2	83	覆土4	1	6.5	5.7	1.4	49.1	
			剥片	〃	10	覆土2	2				13.1	
			〃	〃	34	覆土3	3				36.8	
			〃	〃	59	覆土4	1				20.7	
IV-40	2e		石核	〃	39	覆土3	1	8.2	7.5	2.9	171.5	
			剥片	〃	34	〃	1				15.3	bの剥片
IV-40	3	37	接合資料5				9	9.2	9.9	8.5	1060.2	3a+3b
IV-41	3a		接合資料5a				7	10.8	10.6	6.8	623.1	
			剥片	P-2	14	覆土3	4				273.4	
			〃	〃	59	覆土4	2					
			石核	〃	15	〃	1				349.7	

種目	掲載番号	図版	分類等	遺構 グリッド	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
IV-41	3b		接合資料 5b				2	10.3	10.7	5.8	437.1	
			測片	P-2	14	覆土 3	1				19.6	
			石核	※	15	※	1				417.5	
IV-41	4	37	接合資料 3				4	14.7	12.7	5.4	1023.2	4a+4b
			削器	P-2	28	覆土 3	2	13.4	10.3	2.7	256.5	折れ面接合
			測片	※	10	覆土 2	1	3.2	1.5	0.2	1.0	2の正面に接合
IV-42	4b		石核	※	43	覆土 3	1	14.4	12.3	5.4	765.7	
IV-42	5	37	接合資料 6				10	19.4	7.2	4.5	157.9	
			測片	P-2	10	覆土 2	2					
			※	※	28	覆土 3	1				157.9	
			※	※	34	覆土 3	7					
IV-42	6	37	接合資料 1				2	11.6	(4.7)	1.6	76.7	
			※									
			※									
※	6a		両面加工石器	FL-1	1	Ⅱ	1	11.6	(4.7)	1.6	74.6	
			測片	J19	65	Ⅱ	1	2.8	3.3	0.2	2.1	

表IV-11 H-7HP-1底面出土礫計測表

図版	掲載番号	遺物番号	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	遺構図 中番号
38	1	2	6.0	5.1	2.2	41.0	凝灰岩		
※	2	2				6.5	凝灰岩	礫片	
※	3	3	5.7	3.8	2.0	56.1	泥岩		
※	4	3	4.0	3.9	1.8	33.9	泥岩		
※	5	4	2.3	2.0	1.4	9.0	片麻岩		
※	6	5	4.3	2.9	1.5	22.7	安山岩		
※	7	6	4.6	3.7	1.7	44.0	頁岩		
※	8	6	4.1	3.7	2.3	51.0	頁岩		
※	9	7	5.3	4.0	2.1	61.2	チャート		
※	10	9	4.9	4.5	2.6	93.9	チャート		2
※	11	10	5.1	3.6	2.4	56.5	液状岩		3
※	12	11	3.7	3.3	2.9	42.7	チャート		4
※	13	13	4.2	3.7	1.3	21.6	泥岩		6
※	14	14	4.6	4.1	2.5	57.1	泥岩		7
※	15	15	6.0	5.7	2.1	74.5	泥岩		8
※	16	16	5.0	4.8	2.3	70.9	頁岩		9
※	17	17	5.3	4.6	3.0	100.6	チャート		10
※	18	18	6.8	4.9	2.9	112.1	泥岩		11
※	19	21	5.3	4.8	1.9	68.7	頁岩		14
※	20	22	5.2	4.2	2.0	58.7	泥岩		15
※	21	23	4.8	4.5	2.0	65.1	砂岩		16
※	22	24	4.8	4.0	2.6	60.4	泥岩		17
※	23	25	5.0	4.6	2.1	65.1	頁岩		18
※	24	27	9.0	5.3	2.1	135.0	砂岩	打ち欠き重?あり	20
※	25	29	2.2	1.5	0.5	1.8	凝灰岩		22
※	26	30	5.3	5.0	2.6	71.6	液状岩		23
※	27	32	4.9	4.1	3.3	71.8	チャート		25
※	28	34				21.7	チャート	礫片	27
※	29	35	5.8	4.4	3.5	99.6	チャート		28
※	30	36	6.5	6.3	2.8	139.0	泥岩		29
※	31	37	2.3	1.9	0.8	4.0	泥岩		30
※	32	38				11.8	安山岩	礫片	31
※	33	39	(4.5)	3.4	1.5	22.3	凝灰岩	礫片	32
※	34	41				6.3	凝灰岩	礫片	34
※	35	43	2.4	2.1	0.6	4.7	チャート		36
※	36	44				1.0	軽石	礫片	37

\*遺構図(図IV-9)に出土位置が示されている礫は、「遺構図中番号」欄に図中での番号を記した。

表IV-12 FL-1水洗篩別遺物集計

遺構名	層位	大きさ	土器			頁岩 剥片			礫		
			土器	頁岩 剥片	礫	合計 点数	土器	頁岩 剥片	礫	合計重量 (g)	
FL-1	Ⅱ	5mm以上	16	276	30	322	9.4	173.1	55.8	238.3	
		2mm以上5mm未満		314	21	335		9.4	1.2	10.6	
		合計	16	590	51	657	9.4	182.5	57.0	248.9	

表IV-13 礫の大きさ

石材\区分	細礫	小礫	中礫	大礫		巨礫	巨岩	破片	合計
	(0.2~1cm)	(1~5cm)	(5~10cm)	(10~15cm)	(15~20cm)	(20~30cm)	(30cm以上)		
道構	瑪瑙		1	2				1	4
	安山岩		5	16	3	1		16	41
	チャート		40	34	2	1		7	84
	花崗岩		1						1
	泥岩		42	50	9	2		26	129
	軽石							1	1
	流紋岩		8	10	3			2	23
	砂岩		13	25	8	2		38	86
	珪質頁岩		19	49	5	1		11	85
	凝灰岩		5	5	2	1		52	65
不明							2	2	
道構合計		134	191	32	8				156
包含層	瑪瑙		2						2
	安山岩		9	28	19	5		43	104
	チャート		108	103	8			11	230
	閃緑岩		1	1				1	3
	緑色泥岩				1				1
	泥岩		142	150	11	2		64	369
	軽石							1	1
	流紋岩		18	34	3			6	61
	砂岩		45	57	13	2		41	158
	片岩							1	1
	珪質頁岩		65	80	8			51	204
	粘板岩							1	1
	凝灰岩		10	15	5			55	85
不明		2	2	2			6	12	
包含層合計		402	470	70	9		281	1,232	
道構・包含層合計		536	661	102	17		437	1,753	

表IV-14 接合資料完形剥片計測値一覧

接合資料	段階	道構グリッド	道物番号	柱番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考											
3	a	19	45	3	a2	2.8	3.3	0.2	2.1												
						P-2 19 1	覆土2	3.2	1.5	0.2	1.0										
						P-2 19 3	覆土2	5.5	2.3	1.3	12.2										
						P-2 19 3	覆土2	3.1	5.8	1.5	25.1										
						P-2 34 1	覆土3	4.7	1.8	1.3	13.4										
						P-2 34 2	覆土3	2.2	4.8	1.5	9.8										
						P-2 34 3	覆土3	4.2	2.9	0.7	6.5										
						P-2 34 4	覆土3	7.4	8.7	1.2	85.6										
						P-2 34 5	覆土3	2.4	5.5	0.6	6.8										
						P-2 10 2	覆土2	3.2	4.1	1.3	12.5										
P-2 34 9	覆土3	5.4	4.2	1.2	13.5	接合															
4c	c3	19	30	a	a2	2.4	3.9	0.5	3.7												
						P-2 34 16	覆土3	5.2	6.5	1.3	24.7										
						P-2 34 17	覆土3	3.2	2.7	0.9	5.1										
						P-2 14 2	覆土3														
5a	a2	59	2	a	a2	9.2	5.9	3.3	145.3	接合											
						P-2 59 2	覆土4														
接合資料	段階	道構グリッド	道物番号	柱番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考											
											5a	a3	P-2 14 4	覆土3	4.7	5.0	2.5	44.0	接合		
															P-2 14 5	覆土3	4.2	6.0	2.5	77.4	
															P-2 14 1	覆土3	3.6	5.4	1.2	19.6	
															P-2 10 1	覆土2	5.3	6.2	1.0	31.4	
											6		P-2 10 2	覆土2	3.3	5.3	0.7	8.8			
															P-2 28	覆土3	5.4	7.3	1.2	43.4	
															P-2 34 1	覆土3	4.2	2.6	1.0	7.3	
															P-2 34 2	覆土3	5.4	4.0	1.1	24.5	
															P-2 34 3	覆土3	4.8	3.2	0.9	12.6	
P-2 34 4	覆土3	4.5	3.7	0.8	8.2																
7	1	H-1HP-17	2	覆土3	3.3	5.1	0.9	8.9	接合												
					H-1HP-17 2	覆土3															
					H-1HP-17 2	覆土3															
					H-1HP-17 2	覆土3															
7	2	H-1HP-17	2	覆土3	4.1	5.3	1.2	16.2	接合												
					H-1HP-17 2	覆土3															

## V 大平4遺跡

### 1 遺 構

#### (1)概 要

今回の調査は周知範囲の北西外側に当たり、周知範囲面積(3,600㎡)に1,172㎡(24.5%を占める)が加わる。当遺跡の遺構構築層はⅡ層の下半である。遺構位置は標高9.5~11.0mの丘陵斜面にあり、調査区南東側に集中する。土坑が26基(縄文時代早期後半22基、前期後半2基、晩期中葉2基)、礫集中1か所(縄文時代前期後半)、焼土3か所(縄文時代前期後半)、剥片集中14か所(縄文時代前期後半)が検出された。(鈴木)

#### (2)土 坑

##### P-1 (図V-2、図版40)

M46cのⅢ層上部において直径0.9mくらいの黒褐色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は隅丸長方形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層中部。1・2層は流れ込み覆土である。1層から礫が1点出土した。坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は構築面と覆土より縄文時代前期後半の可能性が高い。(鈴木)

##### P-2 (図V-2、図版40)

L46b・M46aのⅢ層上部において直径1.1mくらいの黒色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ暗褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層中部。1層は埋め戻し埋土、2層はベンガラである。覆土・坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は構築面と覆土より縄文時代前期後半の可能性が高い。(鈴木)

##### P-3 (図V-2、図版40)

Ⅳ層上部で直径0.7mほどの暗褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から石核1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形、坑底は南側へ傾き、壁の立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は1・2層とも埋め戻しの可能性がある。覆土1層には細礫が含まれている。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。

(山中)

##### P-4 (図V-2、図版41)

Ⅳ層上部で直径1.1mほどの黒色土等の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。当初は単独の土坑を想定していたが、土層断面図を作成した位置で幅が細くなることから、

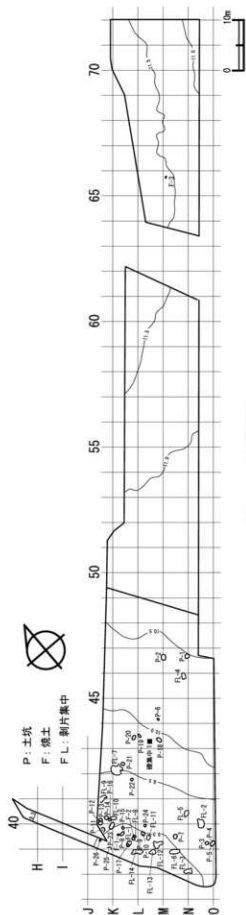


図 V-1 遺構位置図

後になって西側で別の土坑（P-5）と重複していると判断した。遺物は覆土から剥片3点が出土している。

平面形は上端・下端とも円形から方形、坑底は平坦、壁の立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。（山中）

#### P-5（図V-2、図版41）

上述したP-4の調査中に土坑と判断した。東側がP-4と重複している。P-5として取り上げた遺物はない。

平面形は上端・下端とも楕円形、坑底は平坦、壁の立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。（山中）

#### P-6（図V-2、図版41）

L44bのⅣ層上面において直径0.5mくらいの鈍い黄褐色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ赤色ベンガラを最下層埋土とする土坑墓と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部か。1・2層は埋土である。埋土・坑底面から遺物は出土しなかった。

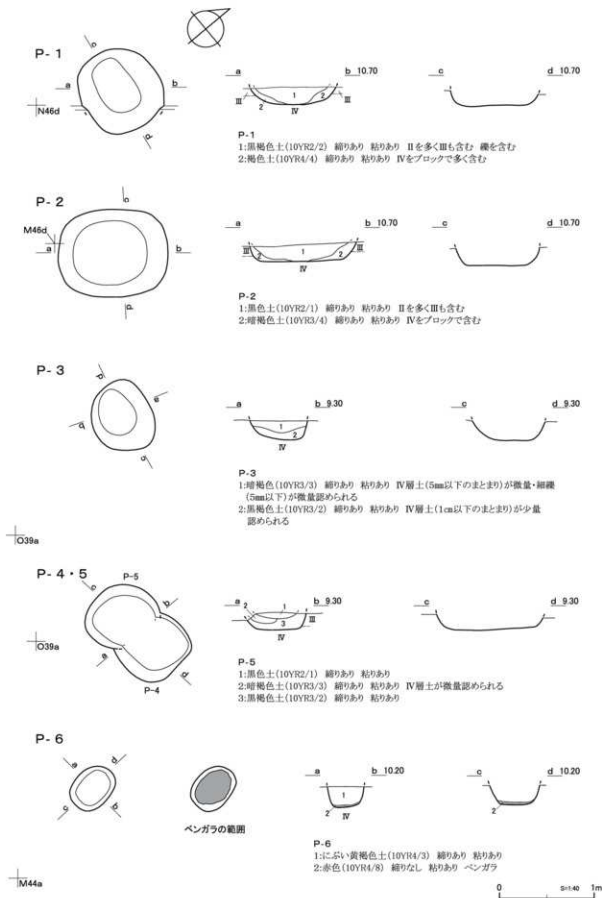
遺構の時期は構築面と埋土より縄文時代早期後半の可能性が高い。（鈴木）

#### P-7（図V-3、図版42）

Ⅲ層で直径1.0mほどの暗褐色土等の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は出土していない。

平面形は上端・下端とも楕円形、坑底は丸みがあり、壁は外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。1層にはにぶい赤褐色土が含まれる。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。（山中）





図V-2 P-1～6

**P-8 (図V-3、図版42)**

Ⅲ層上部で直径1.0mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片2点、剥片1点、礫2点、覆土下位から礫1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形で長軸は東-西を向く。坑底は概ね平坦で壁は垂直きみである。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、Ⅳ層土の塊が混在する覆土は埋め戻しであろう。時期は土坑の形態等から、縄文時代晩期中葉と推測される。(山中)

**P-9 (図V-3、図版42)**

Ⅳ層上部で直径0.6mほどの黒色土等の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から石匙1点、剥片6点、礫4点が出土している。石匙と4点の礫は土坑中央部にまとまっていた。

平面形は上端・下端とも円形である。坑底は平坦で、壁の立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、遺物出土状況から覆土は埋め戻しの可能性がある。時期は出土遺物等から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

**P-10 (図V-3、図版43)**

Ⅲ層で直径0.9mほどの黒色土等の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片1点、剥片6点、礫1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形で長軸は南-北を向く。坑底は北側がやや高く、壁は垂直きみである。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、時期は土坑の形態から、縄文時代晩期中葉の可能性もある。(山中)

**P-11 (図V-3、図版43)**

Ⅳ層上部で黒褐色土の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は出土していない。

西側半分が調査区外にあるが、平面形は上端・下端とも円形と推定される。坑底は丸みがあり、壁は外に傾く。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

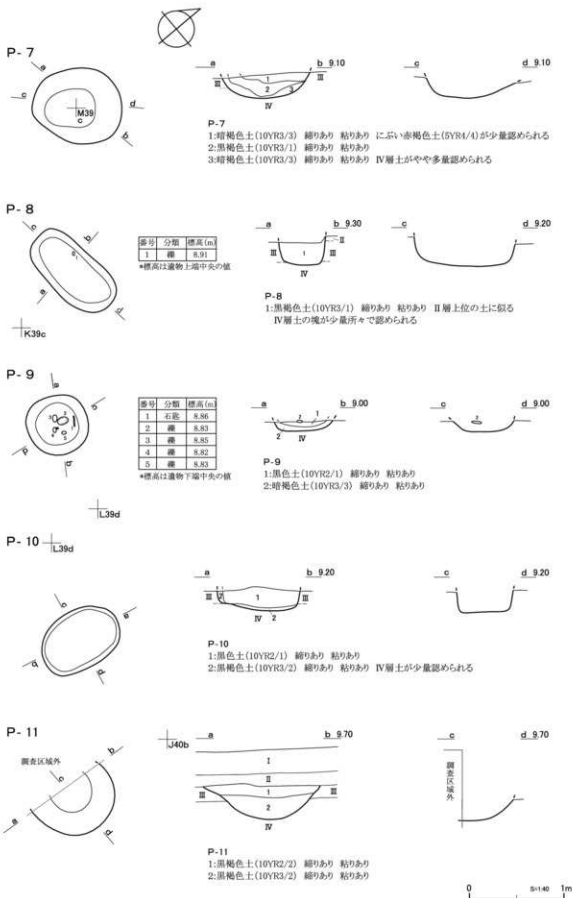
**P-12 (図V-4、図版43)**

Ⅳ層上部で直径0.9mほどの黒褐色土等の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は出土していない。

北東部がP-13と重複するが、平面形は上端が円形・下端が楕円形である。坑底は概ね平坦で、壁は外に傾く。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

**P-13 (図V-4、図版43)**

Ⅳ層上部で直径0.7mほどの黒色土等の広がりを確認した。広がり中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から剥片2点、すり石1点が出土している。



図V-3 P-7~11

南西部がP-12と重複するが、平面形は上端・下端とも楕円形である。坑底は短軸南西側がややくぼみ、壁は外に傾く。Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は埋め戻しの可能性がある。重複するP-12との先後関係は、断面での観察により本土坑が新しい。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

#### P-14 (図V-4、図版44)

Ⅳ層上部で直径0.8mほどの黒色土等の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は出土していない。

平面形は上端・下端ともほぼ円形である。坑底は南側がややくぼむが概ね平坦、壁は外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

#### P-15 (図V-4、図版44)

Ⅲ層で直径0.6mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片2点、二次加工ある剥片1点、剥片1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形ぎみである。坑底は丸みがあり、壁は外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、時期は出土遺物等から、縄文時代早期後半と推測される。(山中)

#### P-16 (図V-4、図版44)

Ⅲ層で直径0.7mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から剥片2点、礫1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形ぎみである。坑底は概ね平坦で、立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、周囲の遺物出土状況から、時期は縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

#### P-17 (図V-4、図版45)

Ⅳ層で直径0.6mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から剥片4点、石核1点、凹石1点、礫4点が出土している。

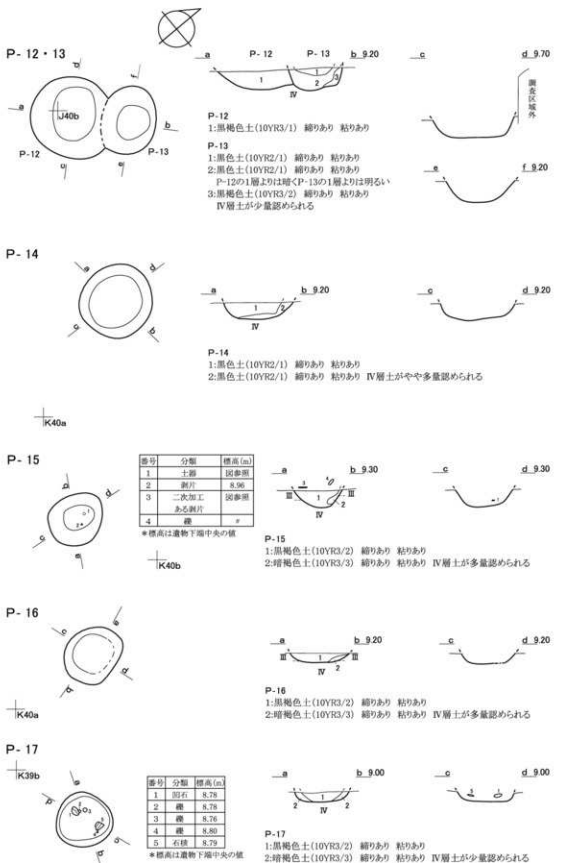
平面形は上端・下端とも円形ぎみである。坑底は平坦、壁の立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、遺物の出土状況から覆土は埋め戻しの可能性もある。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。(山中)

#### P-18 (図V-5、図版45)

L43bのⅢ層中部において長軸1.1mくらいの黒褐色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部か。1層は流れ込み覆土である。覆土からは剥片石器等1点、礫石器等1点、フレイク65点、礫2点が出土し、坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は構築面と埋土より縄文時代早期後半の可能性が高い。(鈴木)



図V-4 P-12~17

**P-19 (図V-5、図版45)**

L43aのⅡ層下部において長軸0.8mくらいの黒色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部。1・2層は流れ込み覆土である。覆土からは土器片（I群b）11点、剥片石器等1点、フレイク50点が出土し、坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は伴出土器より縄文時代早期後半である。 (鈴木)

**P-20 (図V-5、図版46)**

L43aのⅢ層中部において長軸1.1mくらいの黒色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部。1・2層は流れ込み覆土である。覆土からは土器片（I群b）3点、剥片石器等2点、フレイク16点が出土し、坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は伴出土器より縄文時代早期後半である。 (鈴木)

**P-21 (図V-5、図版46)**

K42aのⅣ層上面において長軸0.8mくらいの黒褐色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。

下端平面形は楕円形、坑底面は平坦、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部。1・2層は流れ込み覆土である。覆土からは土器片（I群b）189点、剥片石器等1点、礫石器等3点、フレイク288点が出土し、坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は伴出土器より縄文時代早期後半である。 (鈴木)

**P-22 (図V-5、図版46)**

K41cのⅣ層上面において長軸0.6mくらいの黒褐色土の楕円形の拡がりを検出した。堆積状況・下端・壁面確認のため、拡がりの中央に試掘坑を設定した。断面を確認したところ黒褐色土を最下層覆土とする土坑と判断し、平面形・断面形確定後に坑内の調査を開始した。下端平面形は楕円形、坑底面は皿状、立ち上がりは彎曲、壁は内湾気味に外上方へ立ち上がる。構築面はⅡ層下部。1層は流れ込み覆土である。覆土からはフレイク4点が出土し、坑底面から遺物は出土しなかった。

遺構の時期は構築面と埋土より縄文時代早期後半の可能性が高い。 (鈴木)

**P-23 (図V-6、図版47)**

Ⅱ～Ⅲ層で直径1.5mほどの黒色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片1点、剥片6点、坑底から剥片1点が出土している。

平面形は上端・下端とも楕円形で長軸は東北東-西南西を向く。坑底は短軸方向に丸みがあり、北側の一部を除き溝がめぐる。Ⅱ層から掘り込まれており、Ⅳ層土の塊が混在する覆土は埋め戻しであろう。時期は土坑の形態等から、縄文時代晩期中葉と推測される。 (山中)

**P-24 (図V-6、図版47)**

Ⅳ層で直径0.6mほどの黒褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状

P-18



番号	分類	標高(m)
1	礎	9.91
2	礎	9.88
3	たたき石	9.83

\*標高は遺物下層中央の値

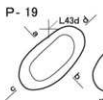


P-18

1:黒褐色土(10YR3/2) 締りあり 粘りあり 礎を含む

+M43d

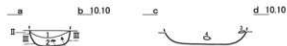
P-19



遺物出土状況

番号	分類	標高(m)
1	剥片	9.93
2	剥片	9.93
3	剥片	9.93
4	剥片	9.86
5	剥片	9.88

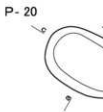
\*標高は遺物下層中央の値



P-19

1:黒色土(10YR1.7/1) 締りあり 粘りあり IIを多く含む 剥片・土器を多く含む  
 2:黒褐色土(10YR3/2) 締りあり 粘りあり IIIを多くIIも含む 剥片・礎を含む

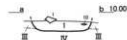
P-20



遺物出土状況

番号	分類	標高(m)
1	石礎	9.99
2	剥片	9.85
3	剥片	9.91
4	剥片	9.82
5	剥片	9.84
6	剥片	9.83
7	剥片	9.85
8	剥片	9.87
9	剥片	9.87
10	剥片	9.87

\*標高は遺物下層中央の値



P-20

1:黒色土(10YR1.7/1) 締りあり 粘りあり IIを多く含む 剥片を多く含む



P-21



遺物出土状況(覆土1)

+K42a

遺物出土状況(覆土2)

番号	分類	標高(m)
1	たたき石	9.72
2	すり石	9.52
3	たたき石	9.54
4	土器片集中部	9.53
4'	石礎	9.53
5	剥片	9.52
6	土器片・剥片集中部	9.59
7	剥片	9.46
8	剥片	9.44
9	剥片集中部	9.46

\*標高は遺物下層中央の値

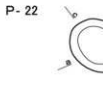


P-21

1:黒色土(10YR1.7/1) 締りあり 粘りあり 遺物を多く含む  
 2:黒褐色土(10YR3/2) 締りあり 粘りあり 遺物を多く含む



P-22



P-22

1:黒褐色土(10YR3/2) 締りあり 粘りあり 剥片を含む



+L42a

図V-5 P-18~22

0 5:1.40 1m

況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から土器片45点、剥片3点、礫4点が出土している。土器片では垂直になって出土したものや、口縁部を含む大きなものがあり、石器では黒曜石製の小剥片2点などがある。2点の黒曜石について原産地同定を依頼したところ、どちらも赤井川産と判定された（Ⅵ章3節参照）。

平面形は上端・下端とも楕円形であり、坑底は丸みがあり、立ち上がりは外に傾く。Ⅱ層またはⅢ層から掘り込まれたと考えられ、覆土は遺物出土状況から埋め戻しの可能性がある。時期は出土遺物から縄文時代早期後半である。なお、覆土で採取した炭化木片2点について、放射性炭素年代測定を依頼したところ、補正年代で6,260±40yrBP、6,410±40yrBPという値が得られている（Ⅵ章2節参照）。

(山中)

#### P-25 (図V-6、図版47)

Ⅳ層で黒色土等の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から剥片6点、礫3点、坑底から剥片7点が出土している。

大部分が調査区外にあるが、平面形は上端・下端とも楕円形とみられ、坑底は概ね平坦、壁は垂直であり、Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、時期は土坑の形態等から、縄文時代晩期中葉の可能性もある。

(山中)

#### P-26 (図V-6、図版48)

Ⅲ層で直径0.4mほどの黒色土の広がりを確認した。広がりの中央より南側を掘削して土層の堆積状況や断面形を観察した結果、Ⅳ層まで掘り込まれた土坑であることがわかり、引き続き坑内を調査した。遺物は覆土から鉢形土器の大きな破片が出土している。

平面形は上端・下端とも円形、坑底は平坦、壁は直立であり、Ⅱ層から掘り込まれたと考えられ、Ⅳ層土の小塊が混在する覆土は埋め戻してであろう。時期は出土遺物から縄文時代晩期中葉である。

(山中)

### (3) 礫 集 中

#### 礫集中1 (図V-6、図版48)

L43のⅡ層下位で、礫3点、台石1点、石皿1点がまとまって出土したので礫集中1とした。断面からの観察も行ったが、掘り込み等は認められなかった。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。

(山中)

### (4) 焼 土

#### F-1 (図V-6、図版48)

Ⅱ層下部で直径0.5mほどの暗赤褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して断面を観察した結果、Ⅱ層下部からⅢ層を被熱層とする焼土であることが判明した。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。

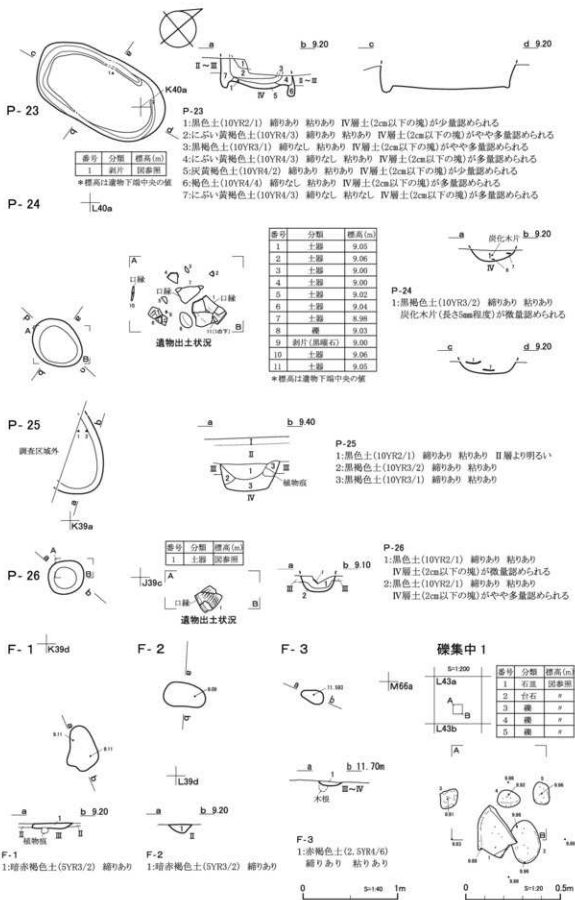
(山中)

#### F-2 (図V-6、図版48)

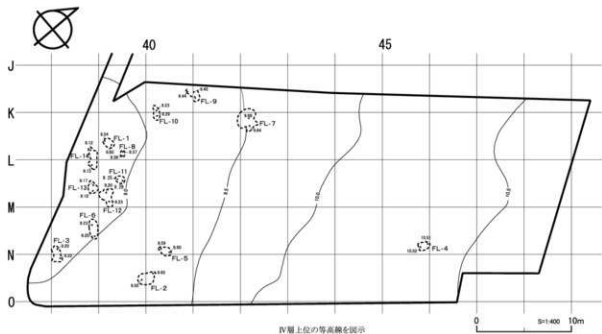
Ⅱ層下部で直径0.5mほどの暗赤褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部分を掘削して断面を観察した結果、Ⅱ層下部を被熱層とする焼土であることが判明した。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半と推測される。

(山中)





図V-6 P-23~26・F-1~3・礎集中1



図V-7 FL-1～14

### F-3 (図V-6)

Ⅲ層下部で直径0.25mほどの赤褐色土の広がりを確認した。広がりの中央部を半載して断面観察を行った結果、Ⅲ～Ⅳ層を被熱層とする焼土であることが判明した。時期は周囲から出土している遺物、検出層位から見て縄文時代前期後半と推測される。(立川)

### (5)剥片集中

#### FL-1～14 (図V-7、図版48)

おおよそ43ラインより南西側のⅡ層では、頁岩の剥片が多数出土している。その中でも剥片が特に集中していた14か所を剥片集中 (FL-1～14) とした。剥片が包含されていた土壌については、微細な剥片を収集する目的で、2mmと5mmの篩を用いて水洗した。表V-12に水洗篩別で収集した遺物の集計を示してある。

FL-1～3・5～14はいずれも43ラインより南西側のⅡ層で検出し、特にK38・39、J38・39にまとまりがある。時期は周囲の遺物出土状況からみて、縄文時代早期後半または前期後半の可能性はある。FL-4はM45のⅡ層下位で検出した。上記した13か所に比べ、剥片の大きさが一回り小さいものが多い。時期は周囲の遺物出土状況から、縄文時代早期後半または前期後半の可能性はある。(山中)

## 2 土 器

### (1)遺構出土の土器

#### a 復元土器 (図V-8、図版49、表V-3)

1(東銅路IV)、礫を含まない密な胎土、深鉢、口唇断面は尖る。口頸部～胴部をナデたあとに、横位回転自縄自巻RLと横位回転自縄自巻LRを上下交互に配して羽状縄文に施す。全体の1/2底部側が明黄褐色に変色する。補修孔1か所あり。P-24・覆土1層出土。2(東銅路IV)、礫を含まない密な胎土、深鉢、口唇断面は端面がある隅丸。口頸部～胴部をナデたあとに、横位回転RLと横位回転LRを上下交互に配して羽状縄文に施す。そのあと口頸部にはLRの縄端を6段捺す。全体の1/2底部側が明黄褐色に変色する。P-24・覆土1層出土。3(大洞C)、礫を含まない密な胎土、内傾接合の鉢、口頸部外面に横位4木の段状沈線、口唇内側に1木の段状沈線を施し磨く。胴部には斜位回転縦走LRを施す。全体の1/3中間が明褐色に変色する。P-26・覆土1層出土。

#### b 拓本土器片 (図V-8、図版49、表V-3)

4(東銅路IV) 胴部片、横位回転自縄自巻LRを施す。P-10・覆土出土。5(東銅路IV) 口頸部片、口唇断面は端面がある隅丸。口頸部をナデたあとに、L横位縄線文、横位回転自縄自巻RLを施し、その上に閉じた縄端圧痕を捺す。口縁端面にはRLを捺す。P-15・覆土出土。6(円筒下層b) 胴底部片、繊維を多く含む粗な胎土、胴部に斜位回転縦走RRL?、底部付近は横位回転RRL?を施す。外底面の一部に縄文がある。FL-7出土。7(円筒下層) 胴部片、繊維を多く含む粗な胎土、斜位回転横走複節縄文を施す。FL-11出土。8(円筒下層) 胴部片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転LRを施す。FL-12出土。9(円筒下層) 胴部片、繊維を多く含む粗な胎土、斜位回転横走LRLを施す。FL-13出土。10(円筒下層) 底部片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転LRを施す。揚げ底の外底面は未調整。FL-14出土。  
(鈴木)

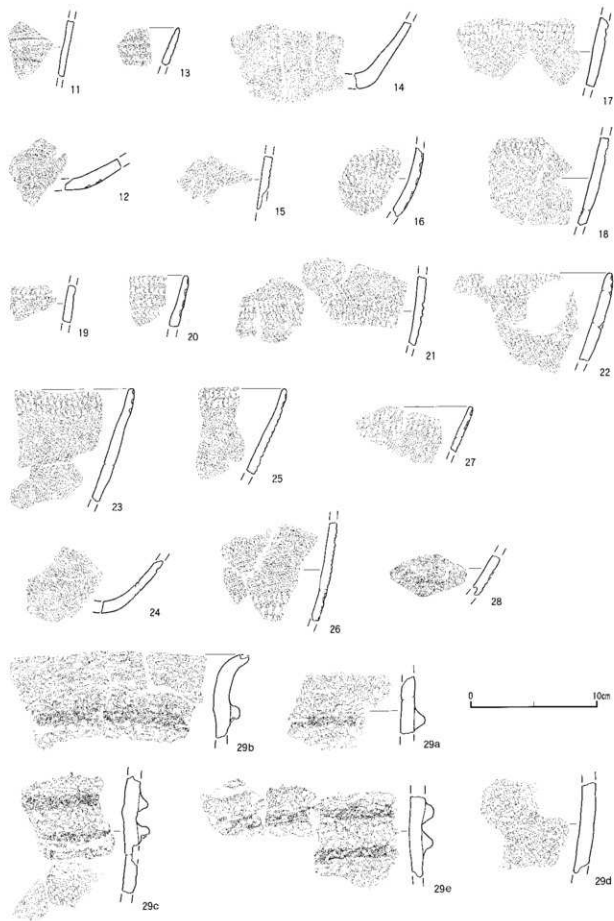
### (2)包含層出土の土器

#### a 拓本土器片 (図V-9～12、図版50～52、表V-3)

11(中茶路) 胴部片、ナデたあとに、横位回転RLと横位微隆起文を交互に施す。Nの39、II層出土。12(東銅路IV) 底部片、ナデたあとに、L横位縄線文、その下位に半截管による刺突文を施す。Kの39、II層出土。13(東銅路IV) 頸部片、ナデたあとに、LR横位縄線文を施す。Lの39、II層出土。14(東銅路IV) 底部片、ナデたあとに、横位回転自縄自巻RLと横位回転自縄自巻LRを上下交互に配して羽状縄文に施す。Lの41、II層出土。15(東銅路IV) 胴部片、ナデたあとに、Rを2条付加した自縄自巻LRを横位回転して転写する。Mの39、II層出土。16(東銅路IV) 底部片、縦位LRの側面圧痕と縄端を含む縦位LR側面圧痕を上下交互に配して捺す。Mの39、II層出土。17(東銅路IV) 頸胴部片、ナデたあとに、横位回転RLと横位回転LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、その上に縄端圧痕を3列以上捺す。Mの40、II層出土。18(東銅路IV) 頸胴部片、ナデたあとに、横位回転自縄自巻RLと横位回転自縄自巻LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、その上に縄端を含むRL側面圧痕を3列以上捺す。Mの40、II層出土。19(東銅路IV) 口頸部片、口唇断面は端面がある隅丸。口頸部をナデたあとに、横位回転自縄自巻LRを施し、その上に閉じた縄端圧痕を1列捺す。Mの41、II層出土。20(東銅路IV) 口頸部片、口唇断面は端面がある隅丸。口頸部をナデたあとに、閉じた縄端圧痕を4列捺す。Mの41、II層出土。21(東銅路IV) 頸胴部片、ナデたあとに、横位回転RLと横位回転LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、その間に閉じたRL縄端圧痕を3列捺す。Mの42、II層出土。22(東



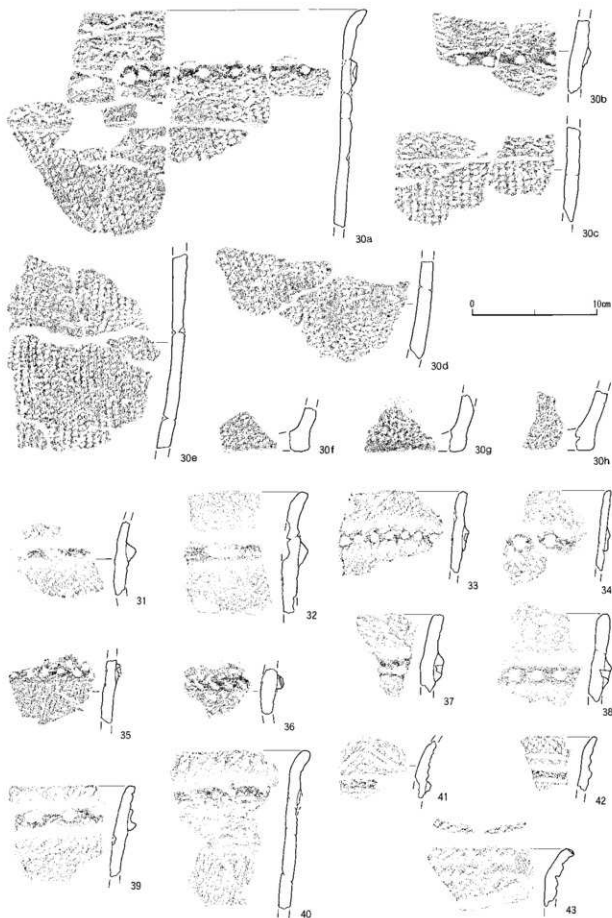
圖V-8 遺構出土復元·拓本土器



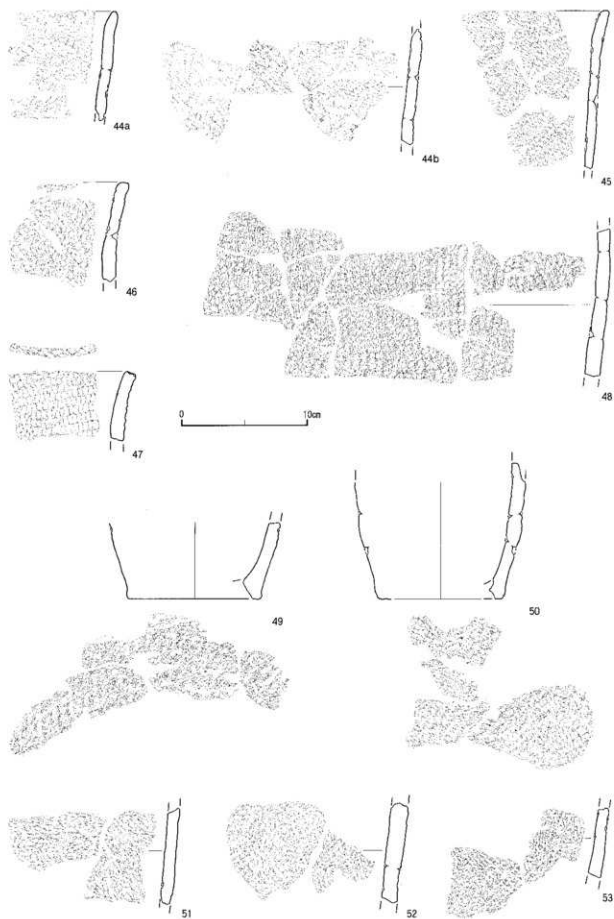
図V-9 包含層出土拓本土器(1)

**鋼路Ⅳ**) 口頸部片、ナデたあとに、横位回転RLと横位回転LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、口唇側に閉じた縄端圧痕を3列捺す。27と同一個体か。Mの42、Ⅱ層出土。23(東鋼路Ⅳ) 口頸部片、ナデたあとに、横位回転RLと横位回転LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、口唇側に閉じた縄端圧痕を3列捺す。22と同一個体か。Mの42、Ⅱ層出土。24(東鋼路Ⅳ) 底部片、横位回転LRを施し、LR横位縄線を捺す。Mの43、Ⅱ層出土。25(東鋼路Ⅳ) 口頸部片、口唇断面は丸い。口頸部をナデたあとに、横位回転自縄自巻RLと横位回転自縄自巻LLを上下交互に配して羽状縄文に施し、その上に閉じた縄端RL圧痕を捺す。Nの38、Ⅱ層出土。26(東鋼路Ⅳ) 頸部片、ナデたあとに、横位回転自縄自巻LLと横位回転自縄自巻LRを上下交互に配して羽状縄文に施し、その上にLR側面圧痕を3列以上縦位に捺す。Nの39、Ⅱ層出土。27(東鋼路Ⅳ) 口頸部片、口唇断面は尖る。ナデたあとに、横位回転RLを施し、口唇側に閉じた縄端LR圧痕を2列捺す。Nの39、Ⅱ層出土。28(東鋼路Ⅳ) 底部片、RL横位縄線を間隔を置いて捺す。Nの40、Ⅱ層出土。

29a~e(円筒下層b) 口頸~胴部片、剥落が著しい。繊維を多く含む粗な胎土、口頸部に2列の断面三角形の高い横位貼付帯を設ける。貼付帯より上には斜位回転横走LLR?を施し、貼付帯間には閉じた縄の端を捺す。胴部に横位回転LRを施す。Mの40、Ⅱ層出土。30a~h(円筒下層b) 口頸~底部片、剥落が著しい。繊維を多く含む粗な胎土、口頸部に断面三角形の横位貼付帯を設ける。貼付帯には指頭による刺突文、貼付帯下には綾線文、口頸部に斜位回転横走LRL?を施す。胴部~底部は斜位回転縦走LRLを施す。外底面は砂粒圧痕。Mの40、Ⅱ層出土。31(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面三角形の高い横位貼付帯、口頸部にはRを付加したLRを横位回転転写する。Lの39、Ⅱ層出土。32(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面三角形の高い横位貼付帯、口頸部には横位回転LRLを弱く施す。Lの43、Ⅱ層出土。33(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面三角形の横位貼付帯、横位貼付帯には円管による刺突文。口頸部には横位回転LRを施す。Lの43、Ⅱ層出土。34(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の横位貼付帯、横位貼付帯には指頭による刺突文。口頸部には横位回転RL?を施す。Mの40、Ⅱ層出土。35(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の横位貼付帯、横位貼付帯には円管による刺突文。口頸部には斜位回転縦走LR?を施す。Mの40、Ⅱ層出土。36(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の横位貼付帯、横位貼付帯には爪形文。口頸部には横位回転RL?を施す。Nの38、Ⅱ層出土。37(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の横位貼付帯、横位貼付帯には円管による刺突文。口頸部には綾線りのあるRL?を横位回転転写する。Nの42、Ⅱ層出土。38(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面三角形の横位貼付帯、横位貼付帯には円管による刺突文。口頸部には横位回転RL?を施す。Oの42、Ⅱ層出土。39(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面三角形の横位貼付帯、横位貼付帯には指頭による刺突文。口頸部には横位回転LRを施す。Kの43、Ⅱ層出土。40(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の低平な横位貼付帯、口頸部と口縁端面には斜位回転縦走LLRを施す。Nの38、Ⅱ層出土。41(円筒下層b) 頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の横位貼付帯、横位貼付帯には回転縄文?。口頸部には綾線りのある縄文を斜位回転転写し、その上から沈線文を引く。Mの40、Ⅱ層出土。42(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、断面四角形の低平な横位貼付帯、口頸部には横位回転RLRを施す。その上から沈線文を引く。Kの39、Ⅱ層出土。43(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転LRを施す。その上から横位縄線LRを捺す。Mの40、Ⅱ層出土。44ab(円筒下層b) 口頸~胴部片、繊維を多く含む粗な胎土、斜位回転RRLを施す。Lの38、Ⅱ層出土。45(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、Rを付加したRL?

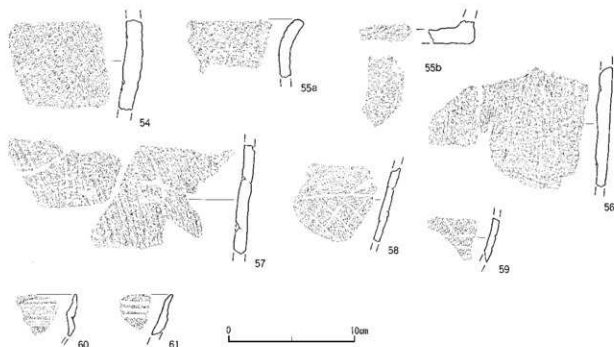


图V-10 包含層出土拓本土器(2)



图V-11 包含层出土拓本土器(3)





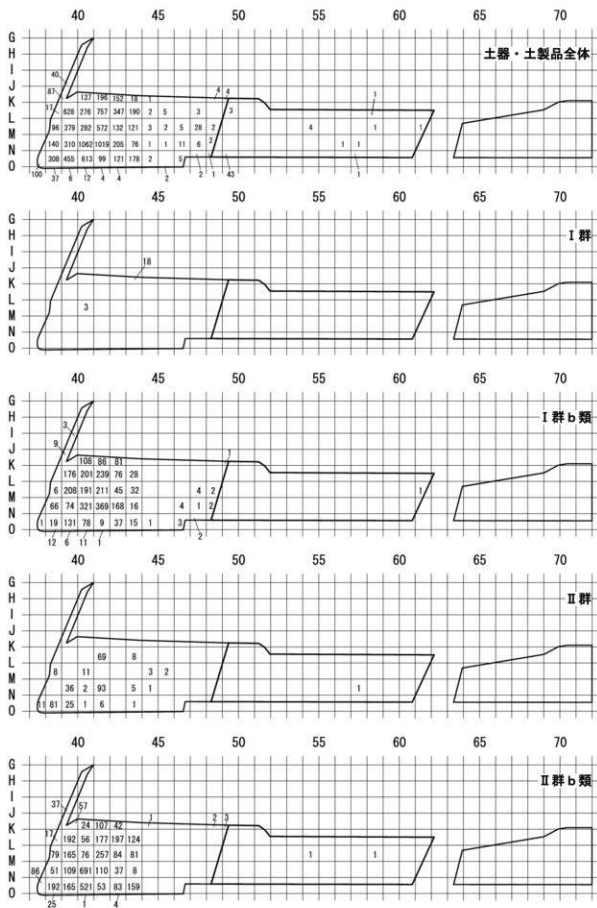
図V-12 包含層出土拓本土器(4)

を横位回転施す。Kの39、II層出土。46(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、口頸部には横位回転RLRを施す。Kの42、II層出土。47(円筒下層b) 口頸部片、繊維を多く含む粗な胎土、口頸部と口縁端面には斜位回転横走0段多縄LRを施す。Mの39、II層出土。48(円筒下層b) 胴部片、繊維を含むやや粗な胎土、斜位回転縦走LRLを施す。Nの42、II層出土。49(円筒下層b) 胴底部片、繊維を多く含む粗な胎土、胴部に斜位回転縦走LLRを施す。Mの40、II層出土。50(円筒下層b) 底部片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転0段多縄?LRを施す。外底面は未調整。Jの41、II層出土。51(円筒下層b) 胴片、繊維を多く含む粗な胎土、RRを付加する原体を斜位回転縦走転写する。Jの41、II層出土。52(円筒下層b) 胴片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転RR転写した後で、縦位回転RR転写する。Kの41、II層出土。53(円筒下層b) 胴片、繊維を多く含む粗な胎土、横位回転RR然糸を転写した後で、縦位回転RR然糸を転写する。Lの41、II層出土。54(円筒下層b) 胴部片、繊維を多く含む粗な胎土、縦位回転0段多縄?LRと縦位回転0段多縄?RLを交互に施し羽状縄文にする。Mの40、II層出土。55a(円筒下層b) 口頸部と底部片、繊維を多く含む粗な胎土、横位貼付帯の痕がある。a 口頸部斜位回転縦走LR?を施す。b 外底面はナデのあと縄文を回転施文する。Nの41、II層出土。56(円筒下層b) 胴片、繊維を多く含む粗な胎土、縦位回転RR然糸を転写する。Nの37、II層出土。57(円筒下層b) 胴片、繊維を多く含む粗な胎土、縦位回転RR然糸を転写する。Nの43、II層出土。

58(IV群c) 胴片、砂を多く含むやや粗な胎土、横位回転LRを転写後に沈線文を描く。Mの47、II層出土。59(IV群c) 胴片、砂を多く含むやや粗な胎土、横位回転LRを転写後にすり消し帯を作り、そのあと沈線文を描く。Lの47、II層出土。

60(大洞C) 口頸部片、密な胎土、鉢、口頸部外面に横位4本の段状沈線、そのあと刺突文、受け口上の口唇内側に1本の段状沈線を施し磨く。胴部は斜位回転縦走LRを施す。Jの39、II層出土。

61(大洞C) 口頸部片、密な胎土、鉢、口頸部外面に横位3本の段状沈線、口唇内側に1本の段状沈線を施し磨く。胴部は斜位回転縦走LRを施す。Jの39、II層出土。(鈴木)



図V-13 土器・土製品分布図(1)





### 3 石器等

今回の調査区から出土した石器等を合計した点数は30,174点、重量は479.4kgである。石器類ごとに見ると、剥片石器類25,230点、磨製石器類9点、礫石器類326点、石製品2点、礫4,607点となる。なかでも珪質頁岩の剥片は24,250点を数え、多数の接合資料が得られている。

典型的な石器で多いものを挙げると、剥片石器類では石匙が132点、削器が104点、石鏃が62点、礫石器類では砥石が46点、すり石が41点、たき石が29点、半円状扁平打製石器が28点である。大平遺跡で35点を数えた北海道式石冠は4点しかない。出土した土器は東銅路Ⅳ式と円筒土器下層b式を主体とすることから、石器も両者の時期のものが大半を占めるのであろう。

剥片石器類の石材はほとんどが珪質頁岩であるが、黒曜石が217点（水洗篩別で収集した62点を含む）、瑪瑙が38点ある。黒曜石のうち36点について原産地同定を依頼し、28点が赤井川産、4点が出来島産、2点が豊浦産、1点が赤石山産と判定された（Ⅵ章3節参照）。残り1点は肉眼ではわからなかったが、被熱の度合いが強かったようである。磨製石器類は少ないが、石材には緑色泥岩、蛇紋岩が見られ、砂岩で製作された磨製石斧が1点ある。礫石器類の石材は砂岩と安山岩が多い。板状の安山岩は半円状扁平打製石器によく用いられている。

礫については、Ⅳ章3節で述べたように、その長径を測り「細礫・小礫・中礫・大礫・巨礫・巨礫」に区分して集計し、石材分類と組み合わせると表V-13に示した。大半は転礫で、特に小判状の砂岩が目につく。なお、泥岩の点数が非常に多いが、これは自然面だけから泥岩と珪質頁岩とを区別し難かったことによるもので、泥岩とした中には、多数の珪質頁岩が含まれている。

#### (1) 遺構出土の石器等

遺構から出土した石器等を合計した点数は5,300点、重量は38.5kgである。表V-4～6には、石器等の点数・重量・石材を遺構ごとに集計し、図示した石器の出土位置・計測値・石材等は表V-7に示した。

##### 剥片石器類（図V-16）

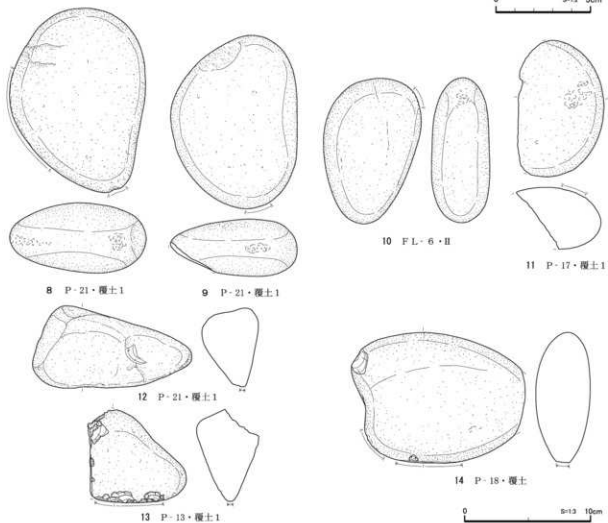
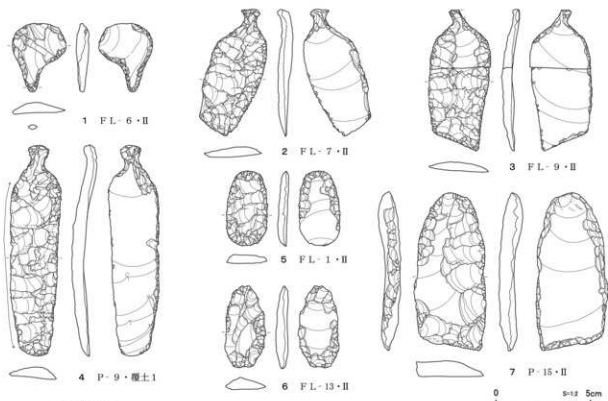
1は石錐で、剥片の一端に尖端部が作り出される。2～4は正面全面が加工された縦型石匙である。2・3は裏面の右側縁を連続して剥離した後、正面の左側縁が剥離される。範囲を示していないが、3の裏面左側縁は光沢を帯びており、正面との稜の一部が磨滅している。4は裏面右側縁の剥離が正面左側縁の剥離より新しく、縁辺はやや磨滅している。5は篋状石器とした。正面全面と裏面上半の側縁に二次加工が加えられる。6・7は二次加工ある剥片とした。7は正面のほぼ全面と裏面の周縁に二次加工が加えられる。裏面の剥離痕を打面として正面の平坦剥離を行う製作技法や、剥片の形態から石匙の未成品の可能性がある。

##### 礫石器類（図V-16・17）

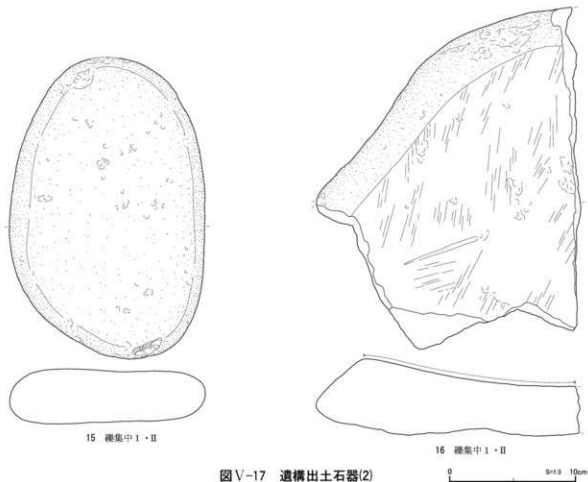
8～10はたき石で、小判状礫の長軸端近くに敲打痕が認められる。11は小判状礫の平坦部に敲打痕があり、凹石とした。12～14はすり石である。12・13は横断面が三角形の礫の一面をすり面とする。14は小判状礫の側縁にすり面があり、端部には敲打痕も認められる。15は明瞭な使用痕が認められないが、形状から台石とした。16は石皿である。

##### 遺構出土の礫

礫集中1等の遺構から出土した礫について、図版64に写真を、表V-11に計測値等を示した。



圖V-16 遺構出土石器(1)



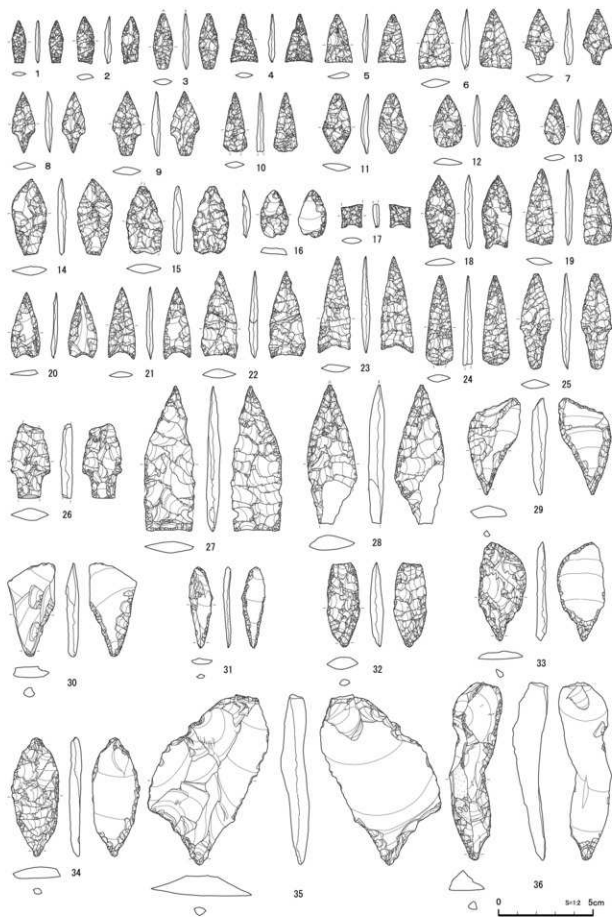
図V-17 遺構出土石器(2)

**(2)包含層出土の石器等**

包含層から出土した石器等を合計した点数は24,874点、重量は440.9kgである。図V-40～46は、分類ごとの出土点数をグリッドで表したものである。剥片集中1～3・5～14が検出された調査区南西側で石器も多く得られているが、その大半は珪質頁岩の剥片である。K39、N38～40では剥片の出土点数が1,000点を上回る。一方、標高10m以上の調査区、おおよそ44ラインより北東側は、耕作等により包含層の多くが失われていた。表V-8には、石器等の点数・重量・石材を層位ごとに集計し、図示した石器の出土位置、計測値、石材等は表V-9に示した。

**剥片石器類 (図V-18～23)**

1～26は石鏃である。1～3は五角形、4～6は三角形、7～10は有茎、11は尖基、12・13は円基、14～16は未成品かもしれない。17～23は無茎で、19を除いて基部に挟りが入る。24～26は大型の有茎鏃である。1・2・4・15～18の石材は黒曜石で、4以外の6点について原産地同定を依頼したところ、いずれも赤井川産と判定された。9の石材は瑪瑙である。27・28は石槍とした。29～36は石鏃である。29～31・35・36は剥片の一端に尖端部が作り出される。36の正面右側縁には連続する二次加工が加えられる。32は両面全体が加工されている。33・34は正面全面と裏面の側縁に二次加工が加えられており、破損した石匙を利用した可能性がある。37～72は石匙である。37～48は正面全面が加工され、裏面の側縁に連続する二次加工が加えられる。正面の平坦剥離は裏面の剥離痕を打面として行われる。素材はいずれも縦長剥片で、打点側につまみ部分が作り出される。ただし、43は裏面が他方向からの剥離痕で覆われていて判断できない。先端部は切出し形のような形態で、横断面は扁平である。44・45・49は裏面に光沢が認められる。49の裏面の右側縁は微細剥離痕が連続し、側縁の稜が



图V-18 包含层出土石器(1)



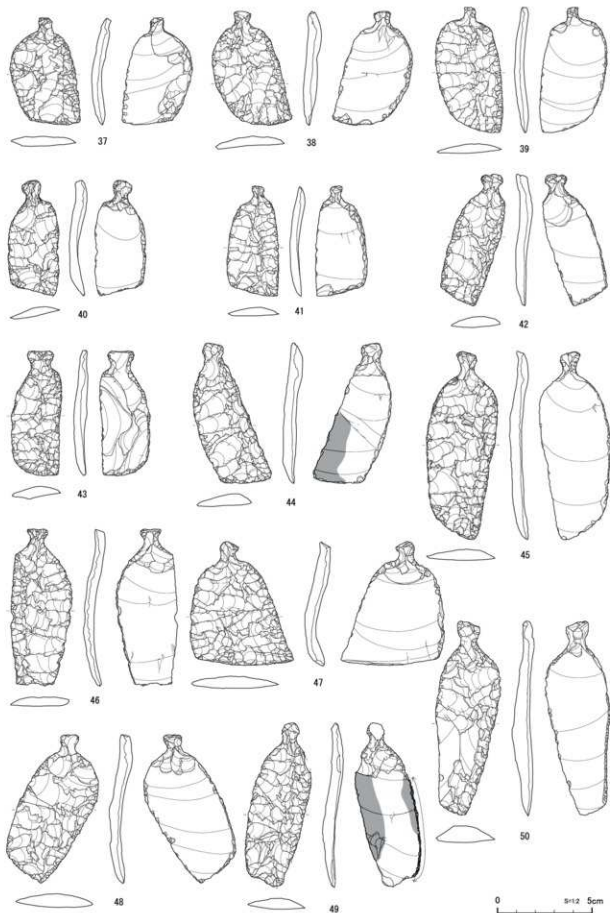
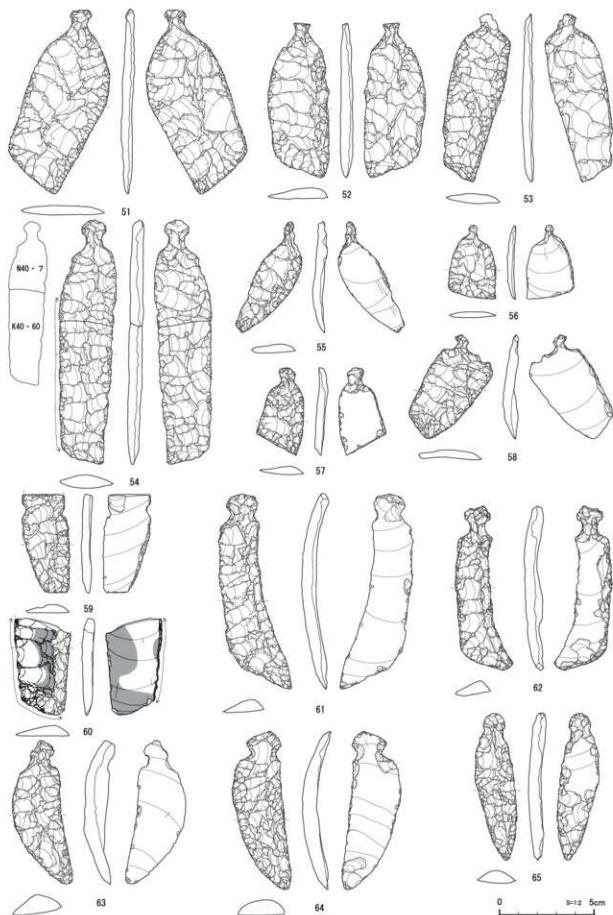
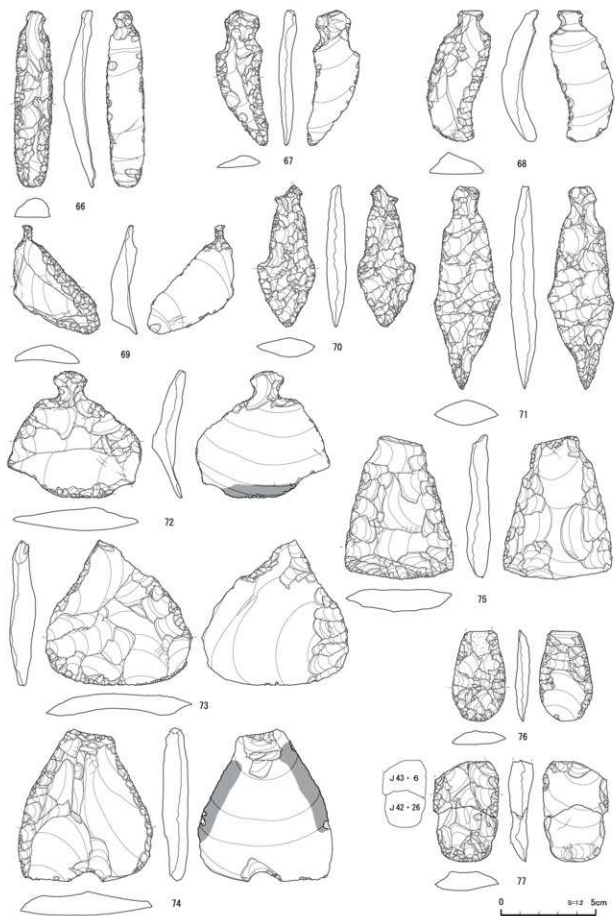


圖 V-19 包含層出土石器(2)



图V-20 包含層出土石器(3)



図V-21 包含層出土石器(4)

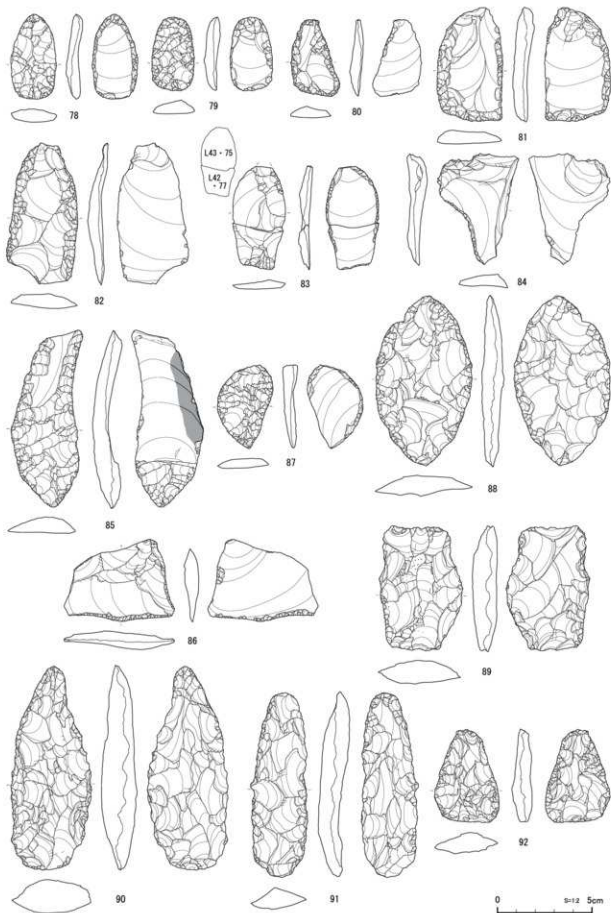


图 V-22 包含层出土石器(5)

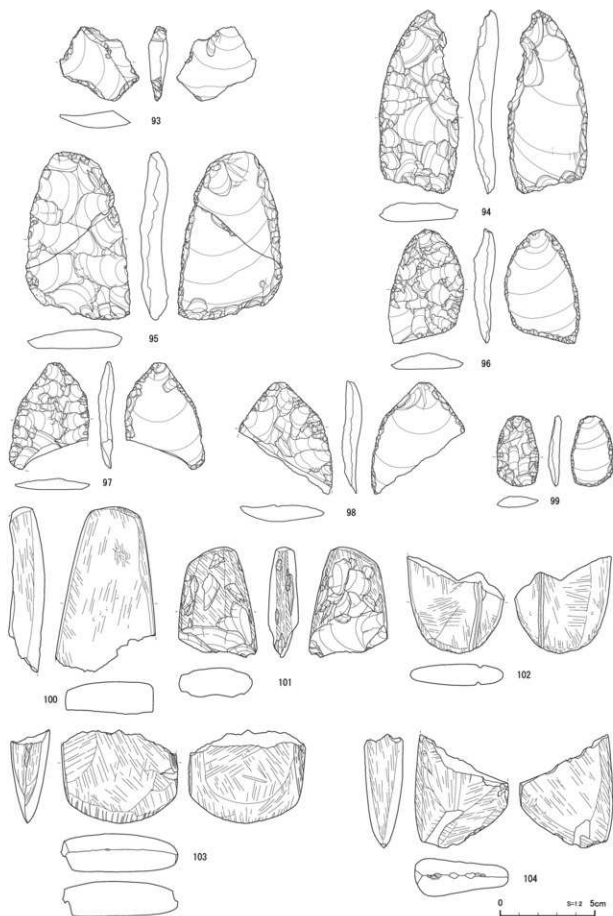
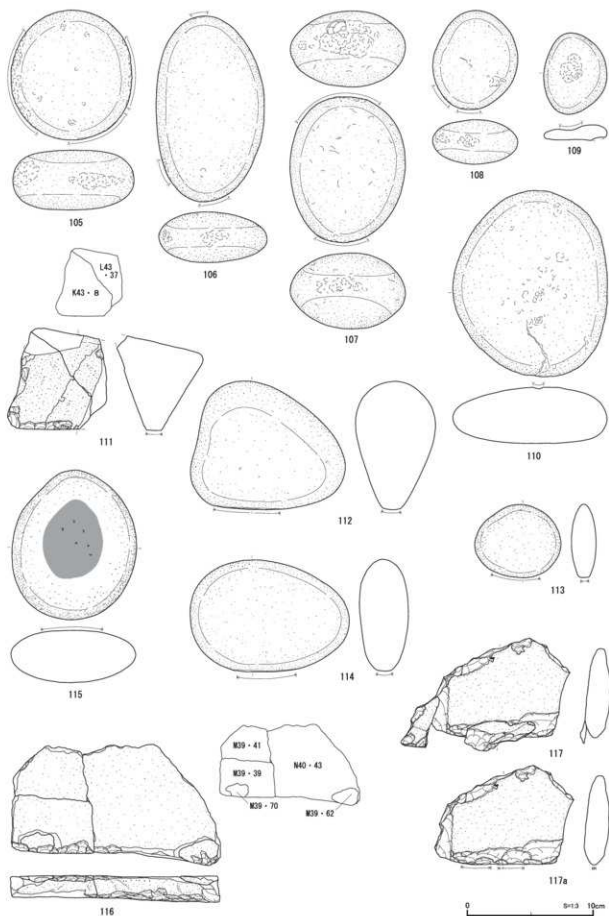


圖 V-23 包含層出土石器(6)



图V-24 包含层出土石器(7)

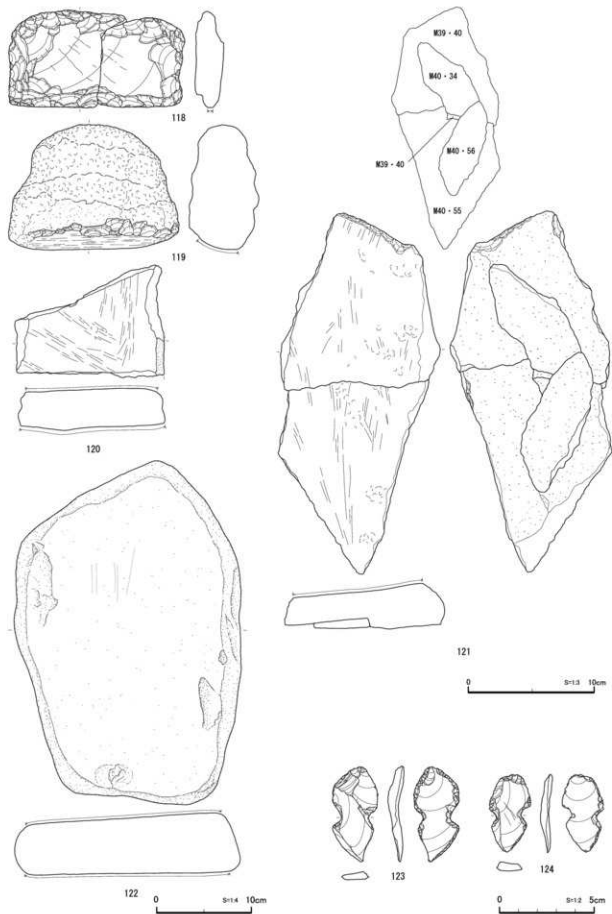


圖 V-25 包含層出土石器(8)・石製品

磨滅している。範囲を示していないが、45の裏面右側縁は光沢を帯びており、正面との稜及び裏面左側縁に連続する剥離痕の稜は磨滅している。50は正面の下半分に素材の背面が残る。裏面右側縁の中央から下方にかけて微細剥離痕が連続する。51～54は前頁の石匙と同じ形態であるが、両面全面が加工されている。54の正面左側縁は稜がやや磨滅している。56は小型、57～59は破損品が再加工されたものである。57は折損後に折れ面からの二次加工が加えられる。折損した石匙を再加工して、58にはつまみ部、59には対向する浅い抉りが作り出されている。60は裏面の両側縁に光沢が認められ、正面左側縁は稜付近が磨滅している。61～66は正面全面が加工され、横断面が三角形や蒲葺の断面のようである。66以外は尖端で、63・64は素材剥片の打面側を尖端とする。67～69は主に正面の側縁に二次加工が加えられる。70・71は両面全面が加工され尖端部が作り出される。つまみ部を有することから石匙に含めた。72は横型石匙である。裏面下端に光沢が認められる。73～81は篋状石器とした。73～75は撥のような形態である。74は裏面の両側縁に光沢が認められる。76は上部を破損するが、裏面の下端を除く全体に二次加工が加えられる。77は両側縁が平行する形態である。78・79は長さ4 cmほどで、正面全面と裏面の周縁に二次加工が加えられる。80～82・84～86は削器である。80は打面近くを除く全周に二次加工が加えられる。81の正面左側縁の二次加工は、裏面右側縁の剥離痕を打面とする。82は正面両側縁に二次加工が連続する。84は刃部が内湾する。85は両面加工の尖端部がある。裏面右側縁に光沢が認められる。86は横長剥片を素材とする。87は裏面右側縁の剥離痕を打面として正面左側縁の平坦剥離が行われる。88～92は両面加工石器とした。88は木葉形、89は長方形、90・91は篋形、92は撥形である。83・93～99は二次加工ある剥片とした。93は側縁にやや急角度の二次加工が加えられる。83・94・96～99は裏面側縁の剥離痕を打面として正面の剥離が行われる。95にも裏面の剥離痕を打面とした剥離があるが、裏面左側縁の中央から下部にかけての剥離は、正面の剥離面を切っている。

#### 磨製石器類 (図V-23)

100～104は磨製石斧である。100・101は基部の破片で、101には成形時の打ち欠き痕がある。102・103には擦切り技法が見られる。103の刃部は円みを帯びる。正面の刃縁には、研磨前に付けられた線刻状の浅いくぼみが数条認められる。104の刃部は偏刃である。石材は100・101が泥岩、102・103が蛇紋岩、104が砂岩である。

#### 礫石器類 (図V-24・25)

105～108はたたき石である。いずれも小判状礫の端部や側縁に敲打痕が認められる。109・110は凹石である。どちらも小判状礫の平面が敲打され、くぼんでいる。111～115はすり石である。111は横断面が三角形の礫の一稜をすり面とする。112～114は小判状礫の側縁がすり面となる。115は小判状礫の中央付近が光沢を帯びている。116～118は半円状扁平打製石器である。116は機能部が打ちかかっているが、すり面は形成されていない。打ち欠き時に生じた剥片が2点接合した。117は半円状扁平打製石器の破片1点と、打ち欠き時に生じた剥片1点が117aに接合した状況である。119は北海道式石冠である。ほぼ全面が敲打整形され、溝状のくぼみが二条めぐる。120は砥石とした。石材は砂岩で両面に砥面がある。121・122は台石とした。どちらも安山岩を用いている。121の正面は非常に平滑で、裏面には板状の礫片が2点接合した。122は両面が平滑化している。122だけは縮尺が4分の1である。

#### 石製品 (図V-25)

123・124は石製品とした。剥片の中央に対向する抉りが入られる。



### (3)接合資料

珪質頁岩の剥片を中心とした接合作業の結果、369件の接合資料が得られた。その中には、原石からの剥離工程を知り得るまで接合できたものがあり、素材となる礫の形状の違いによって、大きく二つの剥片剥離技術が確認できた。

一つは、転礫の上部を除去して作り出された打面から、縦長の剥片が連続的に剥離されるものである。素材の厚みが元の半分ほどになると、打面が頻りに移されることが多い。接合資料5・6・7・8・10・9が含まれる。もう一つは、直方体状の素材の両面で、求心的な剥片剥離が行われるものである。接合資料1・2・3・11・4が含まれる。

ところで、今回出土した石匙の大半は、正面全面と裏面の側縁に二次加工が加えられている。二次加工ある剥片とした中にも上記の加工が見られるものが多いことから、本遺跡では石匙を主とする石器製作が行われていたとみられ、その素材となる縦長の剥片は、前者の剥片剥離技術によって生産されたと考えられる。一方後者では、接合資料1のように、両面加工石器が製作される例があり、接合資料2・3はその製作途中の段階で廃棄された可能性もある。

図示した接合資料は15件で、接合資料のあとの算用数字は接合作業での整理番号を表す。石材はいずれも珪質頁岩である。表V-10には接合した剥片等の出土位置・計測値等を示し、表V-14には接合剥片のうち、完形とみなされるものの計測値を一覧表にしてある。なお、磨製石器類・礫石器類でも接合作業を行い、8件の接合資料が得られた。その一部は図V-24・25に図示してある。

#### 接合資料5 (図V-26・27)

1は石錐1点、削器1点、二次加工ある剥片2点、剥片24点、石核1点が接合しており、重量は840.4gである。大きさは13.6×12.3×6.2cmで、小判状の転礫を素材とする。石核はP-17の覆土、剥片類は半数ほどがM41のⅡ層で取り上げられている。

接合資料で確認できるのは、素材上部の剥離面を打面として、模式図に1で示した範囲の剥片が剥離される段階からである(段階1)。次に、素材上部に打面が再び作り出され(段階2)、剥片剥離が繰り返し行われる(段階3)。1aは段階1・2の接合剥片を取り除いた状態で、素材上部に段階3のための打面が準備されたことがわかる。続いて素材下部を打面として、段階3と逆向きの剥離を数回行ってから、再び上部の打面に戻って1d等が剥離される(段階4)。段階4の作業面から裏面の一部が剥離されており(段階5)、1fの石核には、その剥離面を打面とした剥離痕がある。なお、模式図にaで示した剥片が段階1以前に剥離されている。

1bは削器、1cは二次加工ある剥片である。両者は四つに割れた同一剥片を素材とし、段階1で剥離されている。1dも二次加工ある剥片で、段階4で剥離されている。正面には腹面とは逆向きの剥離痕があり、段階4の前に素材下部から剥離が行われたことがわかる。1c・1dとも折れ面に二次加工が加えられる。1eは石錐で、段階4の剥片を素材とする。1fは剥離作業終了後の石核で、裏面には自然面が広く残る。

#### 接合資料6 (図V-27・28)

2は剥片38点、石核2点が接合しており、重量は1,861.5gである。大きさは、18.2×14.5×9.2cmで、円盤状の転礫を素材とする。剥片のうち10点がP-19の覆土、他の剥片の大半はK43、L42・43のⅡ層で取り上げられている。

剥離作業は、礫の上部を除去することから始められる(段階1)が、礫の下部にも打撃が加えられ、剥離面が生じている(段階2)。段階1と2は順序が逆の可能性もある。2aは段階1の接合剥片を取り除いた状況である。段階1で素材上部に準備された広い打面から、剥片剥離が繰り返し行われてい

ることがわかる(段階3)。段階1と3の接合剥片の大半を取り除いた状況が2bである。段階3の剥離で素材の厚みが元の半分ほどになると、一側縁から剥離が行われ(段階4)、生じた剥離面を打面として、裏面の自然面の多くが除去される(段階5)。段階5で最初に剥離された剥片と段階4は順序が逆の可能性もある。段階5の後は素材下部に移り、段階2の剥離面から剥片が剥離され(段階6)、以後は、段階6の剥離面を段階7の打面とするように、前段階の剥離面を打面とする剥片剥離が行われる(段階8～10)。段階11は、段階7の剥離面を打面とする。なお、段階1でとられた分厚い剥片から、複数の剥片が剥離されている。

2cは段階11で剥離された剥片を素材とした石核である。剥片1点が接合している。

#### 接合資料7(図V-29)

3は削器1点、剥片18点、石核1点が接合しており、重量は670.5gである。大きさは、11.0×9.2×7.3cmで、球状～立方体状の転礫を素材とする。剥片のうち1点がP-9の覆土、他の剥片の半数近くはK・L39のⅡ層、二次加工ある剥片はF L-1で取り上げられている。

剥離作業は、礫の上部を除去することから始められる(段階1)。次に、段階1で生じた広い剥離面を打面として、剥片剥離が繰り返し行われる(段階2)。3aは段階1の接合剥片を取り除いた状況で、素材上部に段階2のための打面が準備されたことがわかる。

3bは二次加工ある剥片である。段階2で得られた剥片の末端に、急角度の二次加工が加えられている。3cは剥離作業終了後の石核で、裏面には自然面が広く残る。

#### 接合資料8(図V-30)

4aは剥片4点が接合しており、重量は280.0g、4bは剥片18点が接合しており、重量は821.9gである。両者は接合していないが、同じ素材から剥離されたものであろう。4bは素材の形状がおおよそ判断でき、大きさは17.7×16.4×8.7cm、円盤状の転礫を素材とする。剥片の大半はK・L43のⅡ層で取り上げられている。

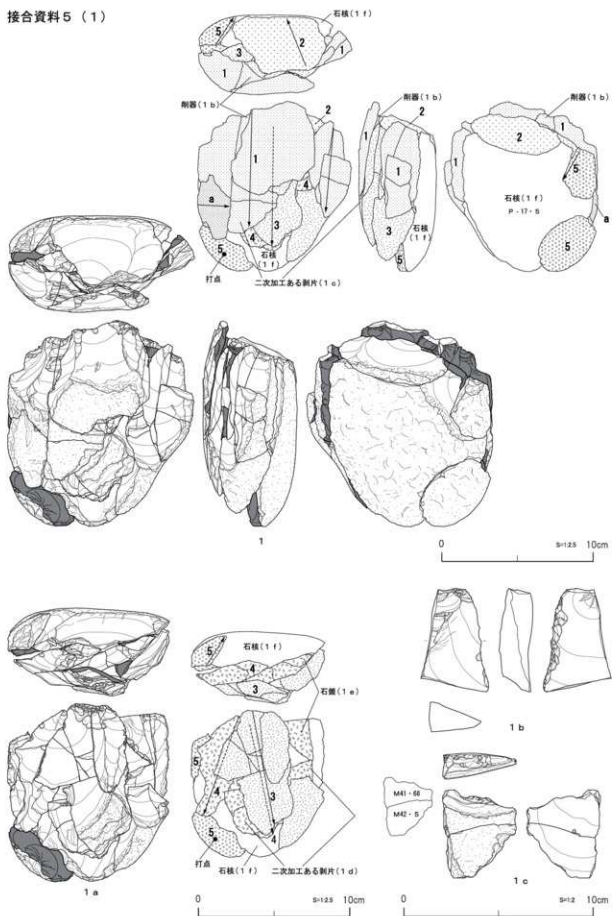
接合資料で確認できるのは、素材上部に打面を作り出す段階からである。4a上部の剥片が水平方向から剥離され(段階a1)、その剥離面を打面として剥片剥離が行われる(段階a2)。4b正面図左上の剥片も、段階a1の剥離面を打面としているようである(段階b2)。次に、b2で生じた剥離面から、素材裏面で剥片が複数剥離される(段階b3)。続いて反対側の側縁に移り、打面と作業面を入れかえながら、素材の両面で剥離が行われる(段階b4)。段階b4の後は、素材下部からの打撃で模式図中のb5が剥離される(段階b5)。なお、8bの下部で分厚い剥片が剥離されている。この剥離は段階3よりも前であるが、段階1・2との前後関係は判断できない(段階a)。

#### 接合資料10(図V-30・31)

5は剥片57点、石核4点が接合しており、重量は3,835.6gである。大きさは24.7×15.8×10.1cmで、直方体に近い垂角礫を素材とする。P-18の覆土から剥片1点、P-19の覆土から剥片8点と石核1点、P-20の覆土から剥片9点と石核1点、他の剥片の大半はこれらの土坑周辺のⅡ層で取り上げられている。M42のⅢ層から出土した石核が1点ある。なお、P-20遺物出土状況(図V-5)にある番号6と9の剥片は、本資料に接合しているが、他の剥片が重なっているため、模式図中で位置を示すことができなかった。6は後述する段階8で、9は段階2で剥離された剥片である。

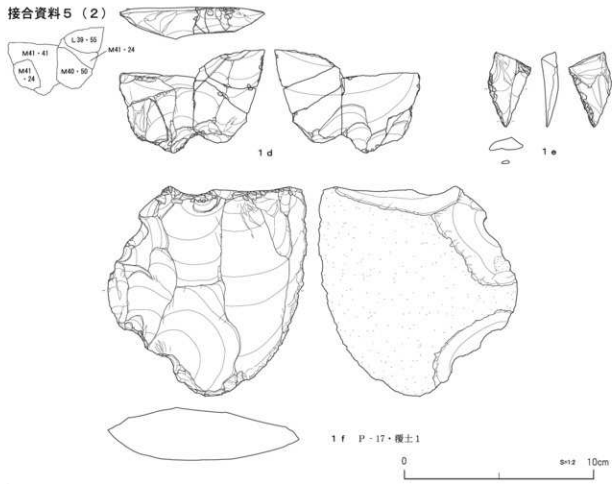
剥離作業は、礫の上部を除去することから始められる(段階1)。次に、段階1で生じた剥離面を打面として、剥片剥離が繰り返し行われる(段階2)。5aは段階1の接合剥片を取り除いた状況で、素材上部に段階2のための打面が準備されたことがわかる。続いて打面を素材側面に移し、自然面から数回の打撃が加えられ(段階3)、素材は元の大きさの半分になる。

接合資料 5 (1)

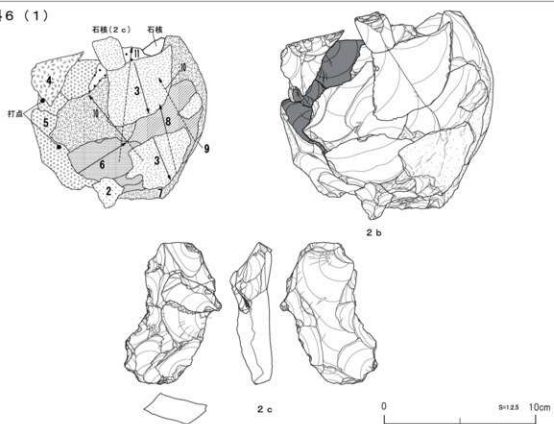


図V-26 接合資料(1)

接合資料 5 (2)

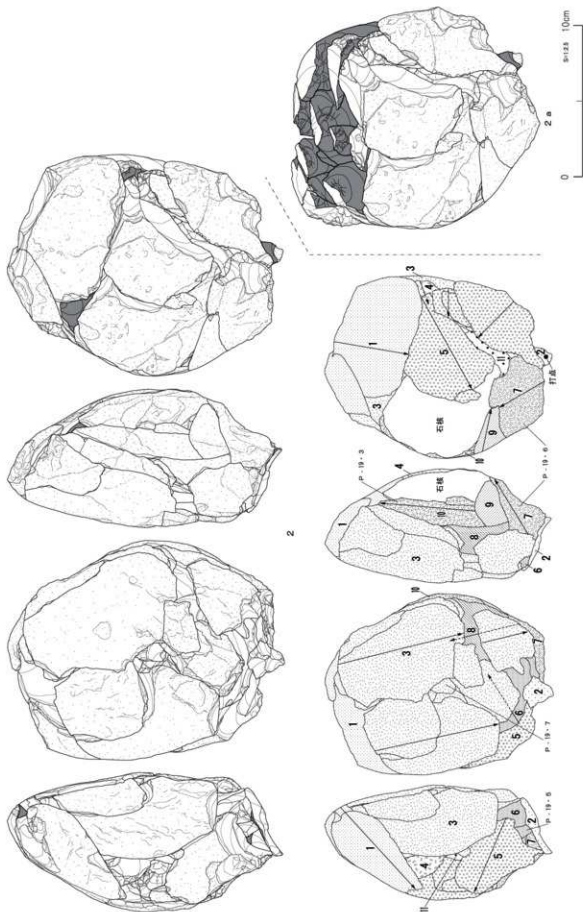


接合資料 6 (1)



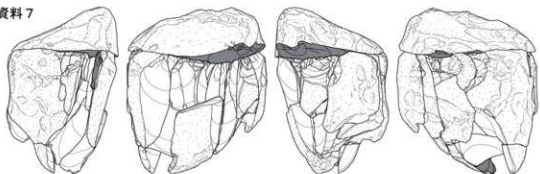
図V-27 接合資料(2)

接合資料6 (2)

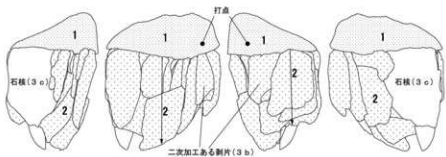


図V-28 接合資料(3)

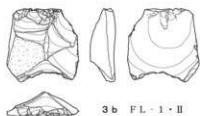
接合資料 7



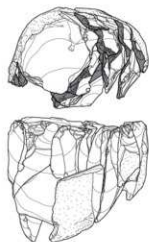
3



0 5+2.5 10cm

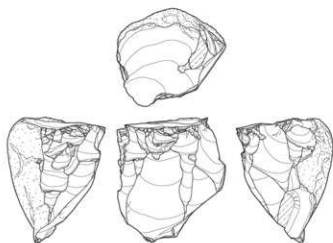


3b FL-1-II



3a

0 5+2.5 10cm

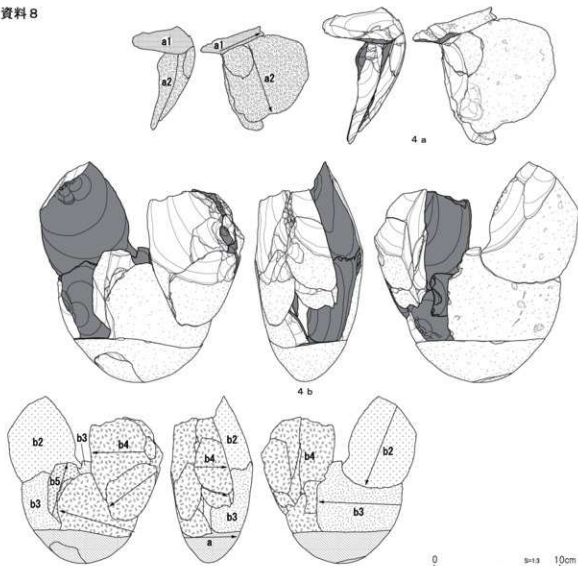


3c

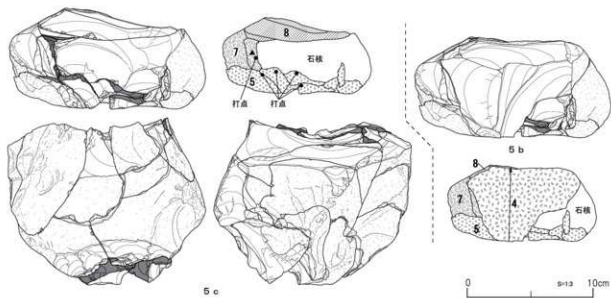
0 5+2 10cm

図V-29 接合資料(4)

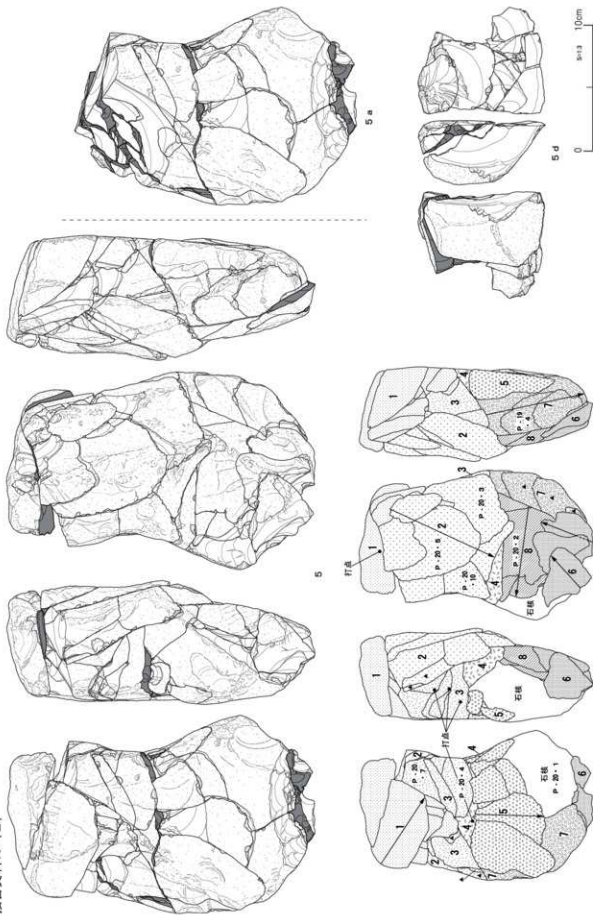
## 接合資料8



## 接合資料10 (1)



図V-30 接合資料(5)



図V-31 接合資料(6)



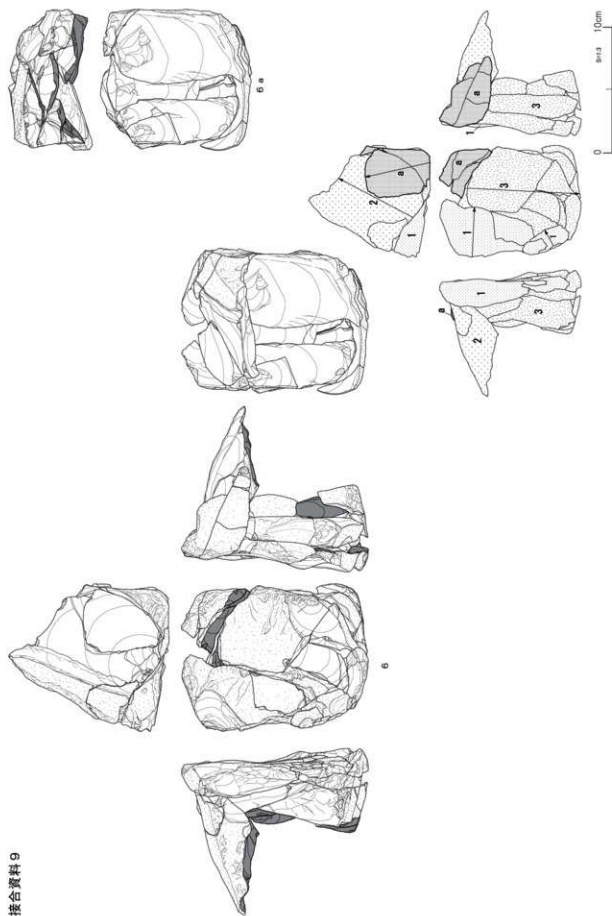
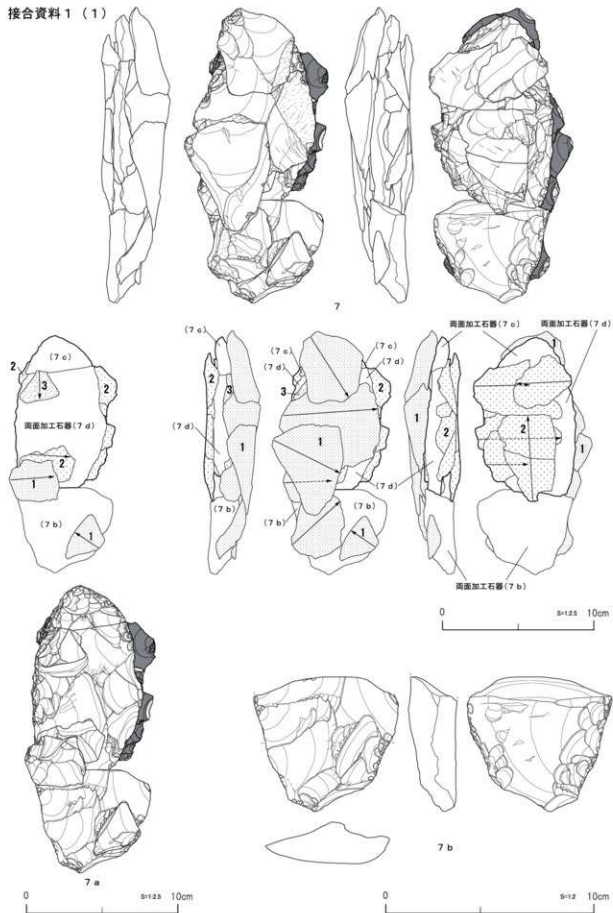


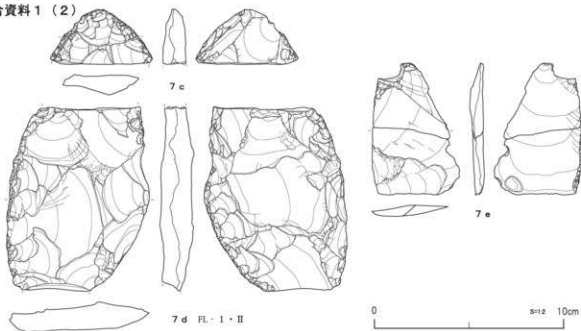
図 V-32 接合資料(7)

接合資料 1 (1)

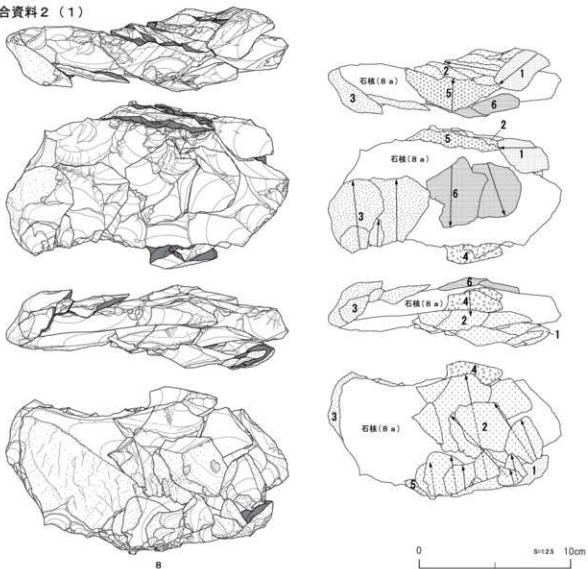


図V-33 接合資料(8)

接合資料 1 (2)

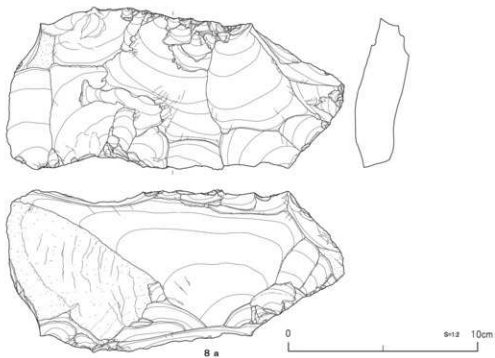


接合資料 2 (1)

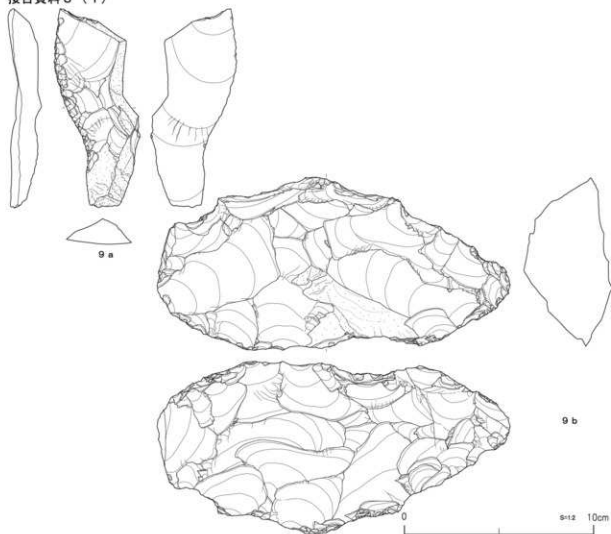


図V-34 接合資料(9)

接合資料 2 (2)

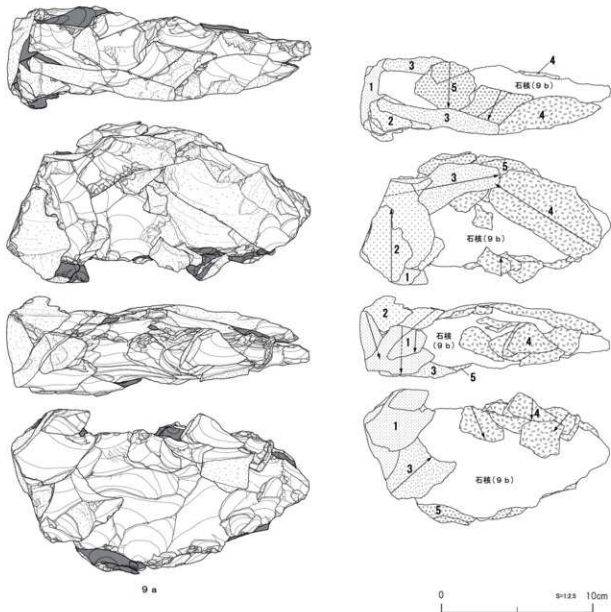


接合資料 3 (1)

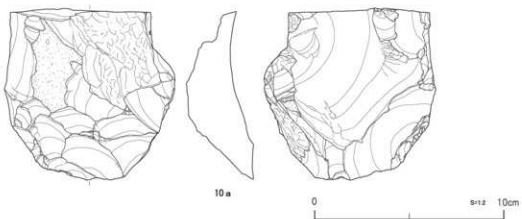


図V-35 接合資料(0)

## 接合資料3(2)

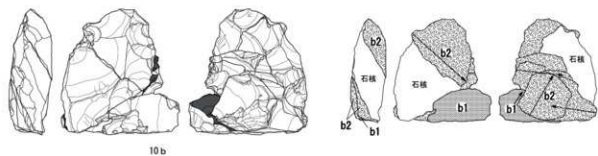


## 接合資料11(1)

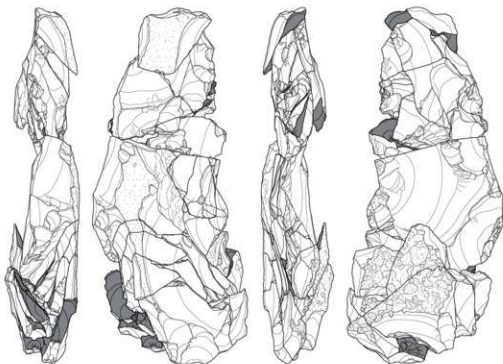


圖V-36 接合資料(1)

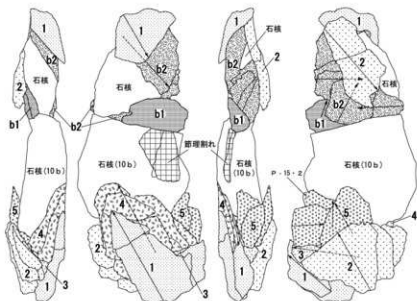
接合資料11 (2)



10b



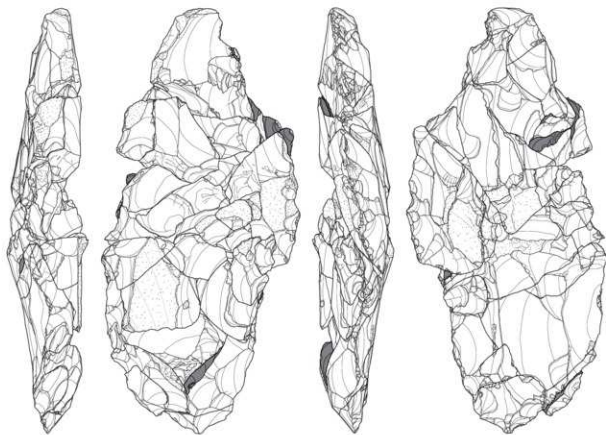
10



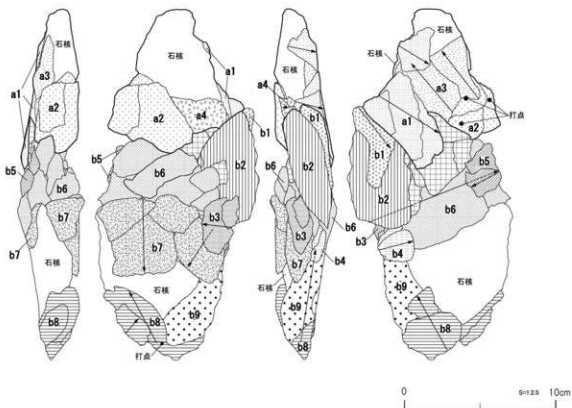
0 9=12.5 10cm

圖V-37 接合資料(2)

## 接合資料 4

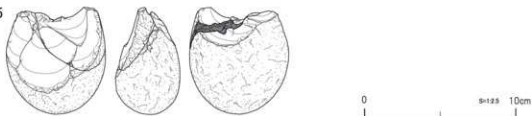


11

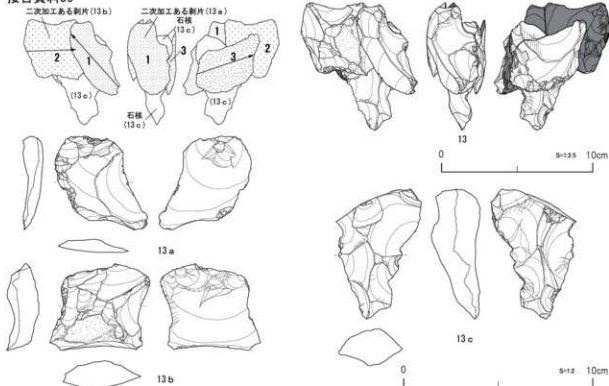


圖V-38 接合資料(3)

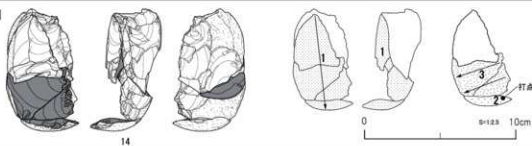
接合資料355



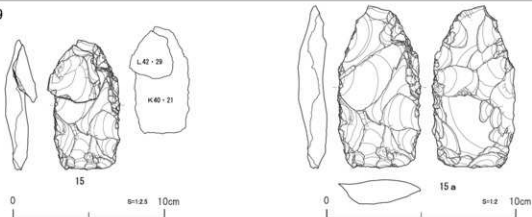
接合資料36



接合資料361



接合資料369



図V-39 接合資料(4)



5bは段階3終了後の上面の状況である。5cは5bから大型剥片を剥離し、次の段階のための打面が準備された状況で(段階4)、この打面から剥片剥離が連続して行われる(段階5)。段階5の後は、素材下部の剥離面から複数の剥片が剥離され(段階6)、それから再び段階5の打面に戻り、礫の一枚を取り込んだ分厚い剥片がとられる(段階7)。最後に、段階7で生じた剥離面から剥片剥離が連続して行われる(段階8)。

なお、段階1・2・3・7で剥離された剥片が石核として利用されている。段階1の分厚い剥片からの剥離は5dに図示し、段階2・3・7の剥片から剥離されたものは、模式図中に▲の記号で表してある。

#### 接合資料9(図V-32)

6は剥片22点が接合しており、重量は1,238.2gである。大きさは15.1×11.8×13.4cmで、素材は立方体に近い直角礫とみられる。剥片のほとんどはJ・K42のⅡ層で取り上げられている。

接合資料で確認できるのは、素材の正面に横方向の剥離が行われるところからである(段階1)。その剥離面を打面として素材上部が水平方向から打撃され(段階2)、生じた広い剥離面から繰返し剥片が剥離される(段階3)。6aは段階1・2の接合剥片を取り除いた状況で、素材上部に段階3のための打面が準備されたことがわかる。なお、上面の右側にある剥片は、段階2よりも前に剥離されているが、段階1との前後関係は判断できない(段階a)。

#### 接合資料1(図V-33・34)

7は削器1点、両面加工石器3点、剥片14点が接合しており、重量は512.7gである。大きさは19.5×9.6×4.5cmで、大型の横長剥片を素材とする。両面加工石器は1点がFL-1、2点がK39のⅡ層、剥片の半数以上はK・L39のⅡ層で取り上げられている。

剥離作業は、素材正面側の剥離から始められ(段階1)、正面で引き続き行われた剥離中に7c・7d側と7bに折損している。7aは段階1の接合剥片のうち、4点を取り除いた状況である。7c・7d側(模式図中に太線で囲んだ部分)では、両面で剥片が剥離され(段階2)、側縁に連続する二次加工が加えられた部分もあるが、途中で先端(7c)が折損したようである。7dの正面には、7cとの折れ面から剥離が行われている(段階3)。

7b~7dは両面加工石器である。7bは早い段階に折損したので素材の腹面が広く残り、厚みがある。7cと7dの折損する前の形状は木葉形である。7eは削器で、段階2の初期に得られた剥片を素材とする。裏面下部に連続する二次加工が加えられている。

#### 接合資料2(図V-34・35)

8は剥片26点、石核1点が接合しており、重量は780.3gである。大きさは11.1×18.7×5.1cmで、素材は立方体に近い扁平な直角礫とみられる。剥片はFL-6で2点、FL-12で1点、その他は主にM39・40、N40のⅡ層で取り上げられている。

剥離作業は、礫の長軸付近から始められる。まず自然面から複数の剥片が剥離され(段階1)、その剥離面を打面として、裏面で剥片剥離が行われる(段階2)。段階2の後半には、短軸の節理面上に打面をずらしている。次に、反対側の側縁に移り、段階2以前の剥離面から剥片剥離が連続して行われる(段階3)。続いて、打面の向きを90度ほど変え、段階3の作業面を打面として複数の剥片が剥離される(段階4)。段階4の後は、段階2の後半で打面となった節理面を水平方向から剥離し(段階5)、生じた剥離面を打面として、正面で剥片剥離が連続して行われる(段階6)。

8aは剥離作業終了後の石核である。正面は求心的に剥離が行われたが、裏面は一側縁から剥離されただけで、自然面が残る。

### 接合資料3 (図V-35・36)

9は削器1点、剥片28点、石核1点が接合しており、重量は966.6gである。大きさは20.1×10.7×6.8cmで、素材は直方体に近い亜角礫とみられる。剥片の半数以上はFL-1で取り上げられている。

剥離作業は、礫の長軸側から始められる。まず、角張った後が剥離され(段階1)、生じた剥離面を打面として剥片剥離が続けて行われる(段階2)。次に、打面を長軸付近の自然面に移し、両面で複数の剥片が剥離される(段階3)。段階3の後は短軸側の側縁に移り、打面と作業面を入れかえながら、剥片剥離が両面で行われる(段階4)。続いて段階4と反対側の側縁に移り、裏面の剥離面から複数の剥片が剥離される(段階5)。

9aは削器で、段階3で得られた剥片を素材とする。9bは剥離作業終了後の石核で、一部に自然面を残すが、ほぼ全体が剥離面で覆われる。長軸の一方が先端となっている。

### 接合資料11 (図V-36・37)

10は剥片29点、石核1点が接合しており、重量は704.0gである。大きさは23.6×10.3×4.9cmで、直方体状の扁平な礫を素材とする。P-8・15から剥片が1点ずつ、その他の剥片の大半はK39・40のⅡ層で取り上げられている。

剥離作業は、素材長軸の両端で始められ、生じた剥離面を打面として両面で剥離が行われる(段階1・2)。続いて、水平方向の剥離が一度行われてから(段階3)、段階1と同じ方向の剥片が複数剥離される(段階4)。段階3の剥離面を打面にするものとしなないものがある。段階4の後は、打面を移しながら自然面が除去され(段階5)、その後10aと10bに折損する。

10bは折損後も剥片剥離が行われる。折れ面付近を裏面から打撃し(段階b1)、生じた剥離面から剥片が剥離され、引き続き求心方向の剥片剥離に移る(段階b2)。

10aは石核である。10bと共通の剥離面が両面にあるが、折損後はほとんど剥離が行われていない。

### 接合資料4 (図V-38)

11は剥片39点、石核4点が接合しており、重量は1,238.6gである。大きさは28.1×13.2×5.4cmで、直方体に近い扁平な亜角礫を素材とする。剥片はFL-1で1点、FL-7で3点、その他の剥片の半数以上はK39・42のⅡ層で取り上げられている。

接合作業では、素材両面の大部分が剥離された段階まで接合できた。この段階からの剥離作業は、節理によって素材が上部と下部に割れるところから確認できる。上部(模式図中の太線で囲んだ部分)では、側縁から裏面への剥離が続けて行われ(段階a1)、次に、裏面の剥離面を打面として複数の剥片が剥離される(段階a2)。以後の剥離は作業面と打面を入れかえながら行われる(段階a3・a4)。

もう一方の素材では、側縁から裏面への剥片剥離が行われ(段階b1)、作業中に側縁が節理で割れている(段階b2)。次に側縁から正面への剥離が行われ(段階b3)、裏面の両側縁でも剥片が剥離される(段階b4・b5)。次に、段階b3の剥離面を打面として、剥片剥離が二度行われるが(段階b6)、素材中央部は珪質分が少ないうえに節理が多く、リング・フィッシャーの向きが打点と異なる方向を向く部分があり、砕けるように割れている(模式図中の方眼模様)。

その後、段階b6の剥離で生じた面(剥離面と節理で割れた面がある)を打面として、素材正面で剥片が剥離される(段階b7)。次に下端に移り、打面と剥離面を入れかえながら剥離が行われ(段階b8)、引き続き素材の側縁を取り込んだ剥片が剥離される(段階b9)。石核に見られる作業面は、段階b9で生じた剥離面を打面としている。

### 接合資料355 (図V-39)

12は剥片1点、石核1点が接合しており、重量は212.2gである。大きさは7.1×6.6×4.3cmで、小

判状の転礫を素材とする。礫の上部に設けられた剥離面打面から、複数の剥片が剥離されている。

**接合資料36 (図V-39)**

13は二次加工ある剥片2点、剥片1点、石核1点が接合しており、重量は119.8g、大きさは8.4×7.7×3.9cmである。剥離が全面で進んだ石核から、打面を移しながら剥片剥離が行われている(段階1～3)。

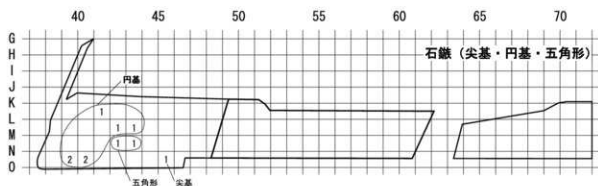
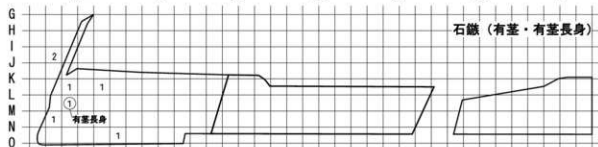
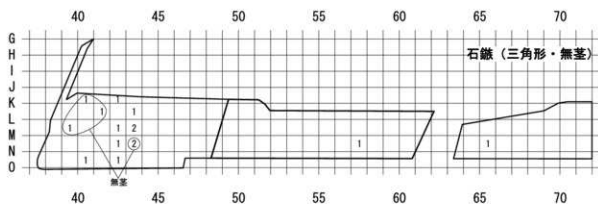
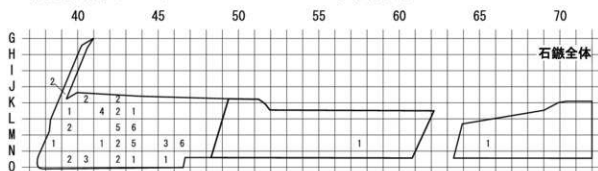
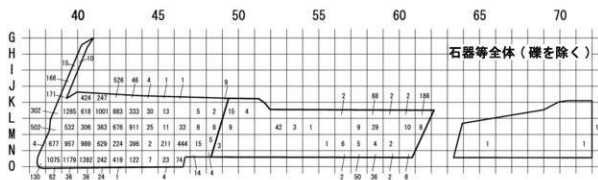
13aは二次加工ある剥片で、段階1の剥片を素材とする。13bも二次加工ある剥片で、段階3の剥片を素材とする。正面左側縁にやや急角度の二次加工が加えられる。13cは剥離作業終了後の石核で、段階3の剥離後も両面で剥片剥離が行われている。

**接合資料361 (図V-39)**

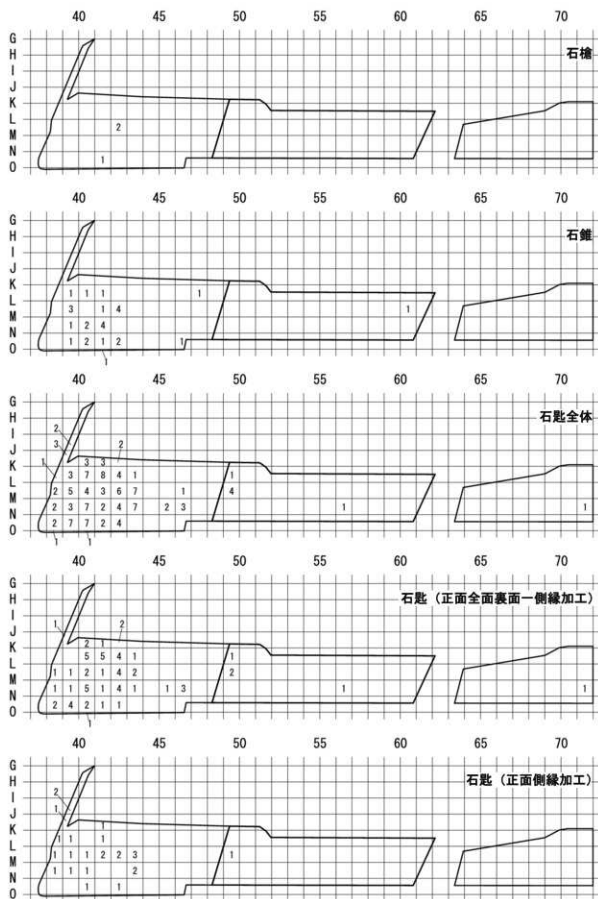
14は、剥片4点、石核1点が接合しており、重量は116.7g、大きさは8.1×4.8×4.7cmで、素材は小判状の転礫とみられる。剥離面打面の石核から、模式図に1で示した剥片がとられ(段階1)、その剥片から剥片剥離が行われている(段階2・3)。なお、段階2の剥片は1より先に剥離されていた可能性もある。

**接合資料369 (図V-39)**

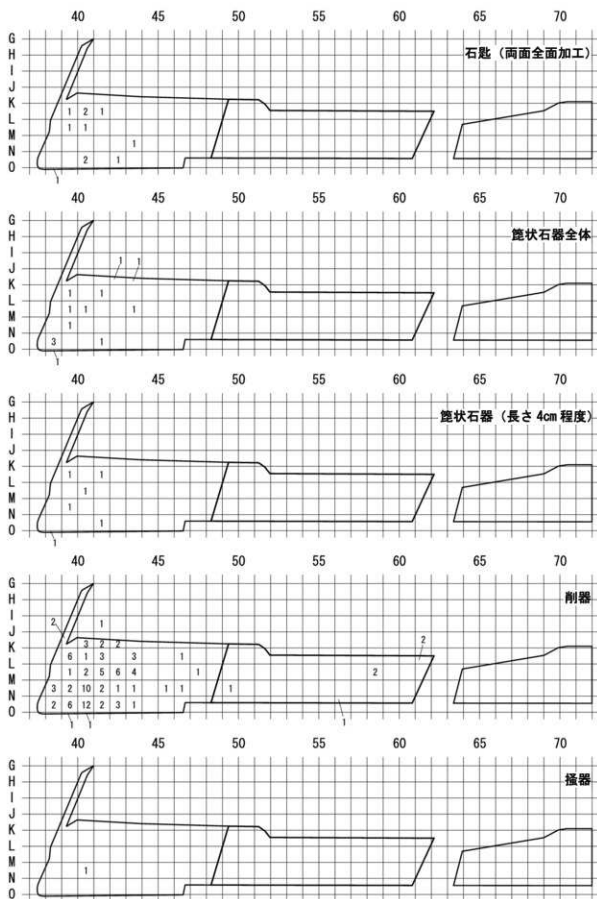
15は、両面加工石器1点と剥片1点が接合している。15aは横長剥片を素材とする。鹿状石器に似るが、刃部は作り出されていない。(山中)



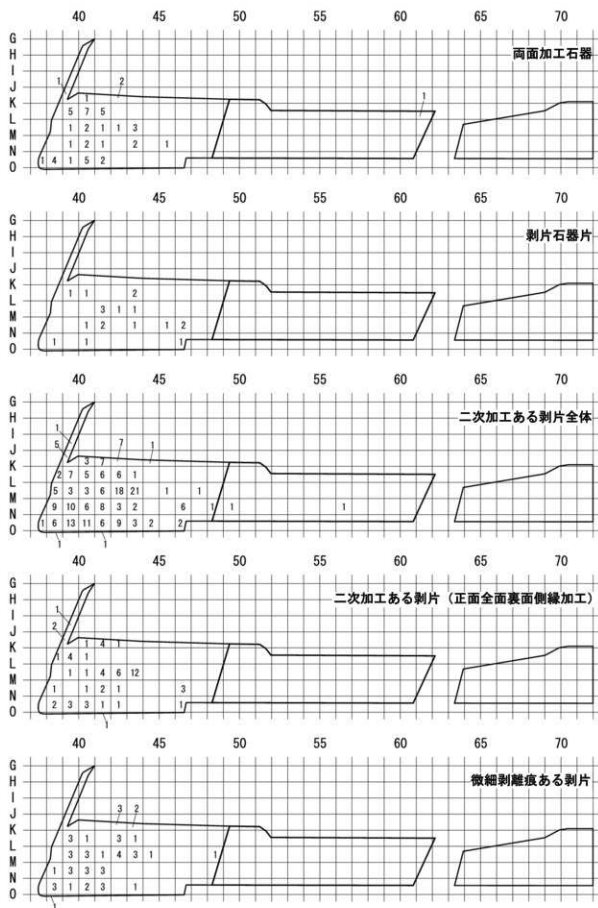
図V-40 石器等分布図(1)



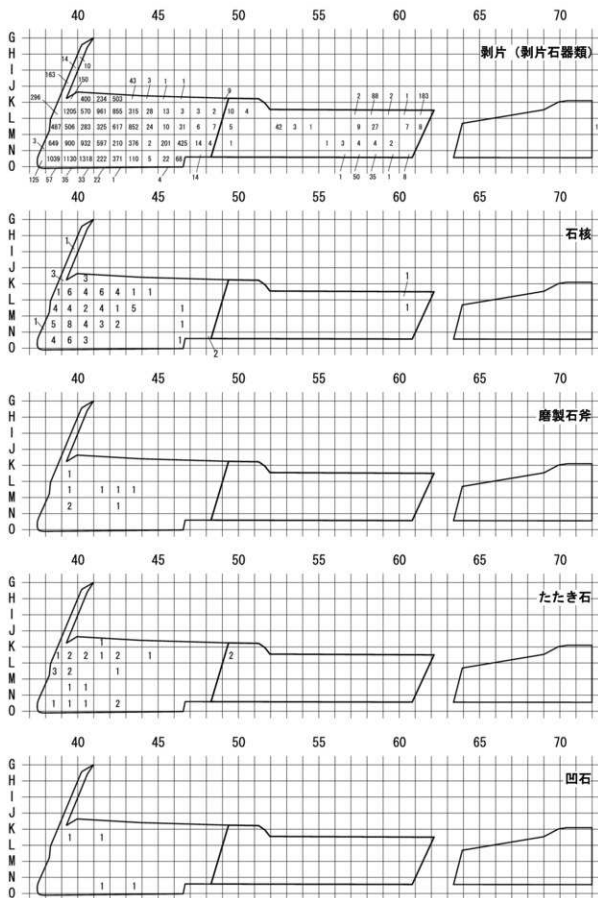
図V-41 石器等分布図(2)



図V-42 石器等分布図(3)

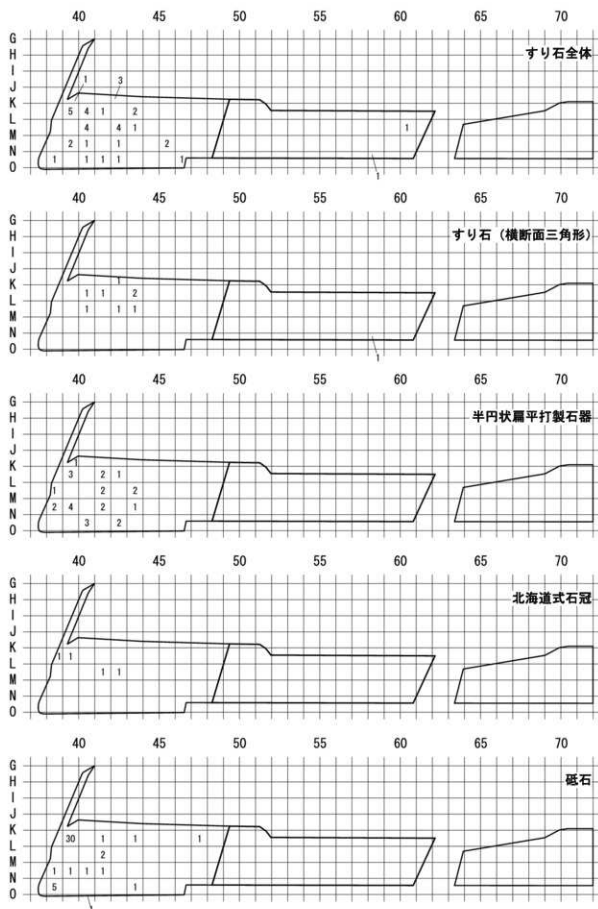


図V-43 石器等分布図(4)



図V-44 石器等分布図(5)





図V-45 石器等分布図(6)



表V-1 遺構計測値一覧

遺構名	確認面		床面・底面		深さ(m)
	長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)	
P-1	0.90	0.86	0.60	0.39	0.19
P-2	1.17	0.93	0.79	0.68	0.20
P-3	0.74	0.65	0.50	0.38	0.21
P-4	0.73	(0.60)	0.55	(0.50)	0.19
P-5	0.80	(0.55)	0.67	(0.60)	0.19
P-6	0.52	0.40	0.40	0.28	0.22
P-7	0.95	0.80	0.54	0.40	0.25
P-8	1.04	0.53	0.91	0.39	0.31
P-9	0.64	0.64	0.44	0.44	0.11
P-10	0.88	0.62	0.81	0.51	0.26
P-11	0.88	(0.54)	0.44	(0.28)	0.38
P-12	0.91	0.85	0.58	0.46	0.21
P-13	0.74	0.58	0.38	0.34	0.24
P-14	0.78	0.74	0.60	0.52	0.17
P-15	0.63	0.54	0.34	0.25	0.18
P-16	0.66	0.55	0.42	0.40	0.10
P-17	0.60	0.60	0.52	0.47	0.10
P-18	1.14	0.72	0.92	0.45	0.13
P-19	0.85	0.44	0.59	0.26	0.17
P-20	1.00	0.63	0.92	0.45	0.11
P-21	0.76	0.67	0.57	0.50	0.20
P-22	0.62	0.53	0.44	0.36	0.20

遺構名	確認面		床面・底面		深さ(m)
	長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)	
P-23	1.46	0.78	1.19	0.60	0.33
P-24	0.58	0.46	0.44	0.35	0.13
P-25	(0.72)	(0.66)	(0.66)	(0.54)	0.32
P-26	0.40	0.36	0.29	0.23	0.17
F-1	0.48	0.35			0.06
F-2	0.45	0.26			0.09
F-3	0.25	0.15			0.05
FL-1	1.20	0.80			
FL-2	2.10	1.40			
FL-3	1.70	1.10			
FL-4	1.30	0.90			
FL-5	1.50	0.90			
FL-6	2.20	0.90			
FL-7	2.30	2.20			
FL-8	0.70	0.50			
FL-9	1.70	1.10			
FL-10	1.60	0.80			
FL-11	1.00	0.70			
FL-12	2.20	1.60			
FL-13	1.40	1.10			
FL-14	2.30	1.00			
建築中1	0.39	0.44			

表V-2 土器点数集計

出土位置等	層位\分類	I	Ib	II	IIa	IIb	IV	IVa	IVb	IVc	V	Vb	不明 縄文	土製品	焼成 粘土塊	陶器	陶磁器	合計 点数
P-8	覆土					2												2
P-10	覆土		1															1
P-15	覆土1		2															2
P-19	覆土		7															7
	覆土2		4															4
P-19合計点数			11															11
P-20	覆土2		3															3
P-21	覆土1		189															189
P-23	覆土		1															1
P-24	覆土		1															1
	覆土1		44															44
P-24合計点数			45															45
P-26	覆土1											10						10
FL-1	II												1					1
FL-2	II		6			22									1			29
FL-3	II					7							3					10
FL-5	II					22							6					28
FL-6	II		110			3												113
FL-7	II		4			16												20
FL-9	II		2			2												4
FL-10	II		3															3
FL-11	II		1			2												3
FL-12	II		6			59												65
FL-13	II					10												10
FL-14	II					9												9
遺構合計点数			384			154												559
包含層	II	21	2,900	363		4,071	20	22	4	29	1	11	1,646	2	17	1	2	9,200
	III		64										5					69
	植込		1	1		4				46			6					58
	表面採集		197	2	1	180	6				1	1	3		2			383
試掘		8			27				1			4	2					42
包含層合計点数		21	3,200	366	1	4,282	26	22	5	75	2	16	1,662	2	19	1	2	9,762
遺構・包含層合計点数		21	3,644	366	1	4,436	26	22	5	75	2	26	1,672	2	20	1	2	10,321

表V-3 掲載土器一覽

編製番号	発掘層番号	遺物番号	点数	取上地点	層名	取上行年月日		
<b>遺跡A(石段)</b>								
1	1	2	5	P-24	覆土1	2009.8.4		
		5	13	P-24	覆土1	2009.8.5		
		6	1	P-24	覆土1	2009.8.5		
		8	1	P-24	覆土1	2009.8.5		
		9	1	P-24	覆土1	2009.8.5		
		10	3	P-24	覆土1	2009.8.5		
		12	1	P-24	覆土1	2009.8.5		
		3	2	L-40	■	2009.7.21		
		6	1	L-40	■	2009.7.22		
		4	2	M40	■	2009.7.15		
		5	1	M40	■	2009.7.15		
		16	2	M40	■	2009.7.22		
		1	2	去括	■	2009.8.2		
		2	2	11	4	P-29	覆土1	2009.8.5
				4	1	L-41	■	2009.7.16
				4	8	M40	■	2009.7.15
9	2			M40	■	2009.7.16		
15	1			M40	■	2009.7.22		
5	4			M41	■	2009.7.1		
9	2			M41	■	2009.7.2		
20	12			M41	■	2009.7.2		
21	1			M41	■	2009.7.5		
5	1			N42	■	2009.7.6		
3				P-26	覆土1	2009.8.6		
<b>遺跡B(木本)</b>								
4	1	1	1	P-10	覆土	2009.8.2		
5	2	2	1	P-15	覆土1	2009.8.5		
6	1	2	2	FL-7	■	2009.8.19		
		8	3	J-41	■	2009.8.24		
		6	3	K-41	■	2009.8.25		
		11	1	K-41	■	2009.8.19		
		30	1	K-41	■	2009.8.19		
		9	1	K-41	■	2009.8.20		
		7	31	2	1	FL-11	■	2009.7.28
		8	22	2	1	FL-12	■	2009.7.28
		9	23	1	2	FL-13	■	2009.7.28
		10	24	1	1	FL-14	■	2009.7.28
<b>遺跡C(木本)</b>								
11	19	20	1	N-20	■	2009.7.6		
12	4	9	1	K-20	■	2009.7.16		
13	4	5	1	L-20	■	2009.7.23		
14	3	4	2	L-41	■	2009.7.18		
15	6	5	2	M-20	■	2009.7.3		
16	7	14	1	M40	■	2009.8.2		
17	8	4	1	M40	■	2009.7.13		
		15	1	M40	■	2009.7.22		
18	9	3	3	M40	■	2009.7.16		
19	10	9	1	M41	■	2009.7.2		
20	11	18	1	M41	■	2009.7.2		
21	12	1	1	M42	■	2009.7.12		
		3	2	M42	■	2009.7.12		
		8	1	M42	■	2009.7.22		
		13	3	M42	■	2009.7.12		
22	13	3	5	M42	■	2009.7.12		
		6	5	M42	■	2009.7.12		
23	14	6	3	M42	■	2009.7.12		
		11	5	M42	■	2009.7.1		
24	15	3	3	N-20	■	2009.7.5		
25	16	1	3	N-20	■	2009.7.5		
26	17	5	4	N-20	■	2009.7.6		
27	18	19	3	N-20	■	2009.7.6		
28	20	11	1	N-40	■	2009.7.20		
29	2a	1	2	L-42	■	2009.7.13		
		5	3	M40	■	2009.7.15		
		10	1	M40	■	2009.7.16		
		3c	5	1	M40	■	2009.7.15	
		2	2	M42	■	2009.7.12		
		2d	2	1	M42	■	2009.7.12	
		3e	2	2	M42	■	2009.7.12	
		5	1	M42	■	2009.7.13		
		30	3a	5	9	M40	■	2009.7.15
				7	1	M40	■	2009.7.15
19	1			M41	■	2009.7.2		
3b	5			1	M40	■	2009.7.15	
10	1			M40	■	2009.7.15		
3c	5			4	M40	■	2009.7.15	
3d	5			2	M40	■	2009.7.15	
3e	5			6	M40	■	2009.7.15	

編製番号	発掘層番号	遺物番号	点数	取上地点	層名	取上行年月日		
31	31	5	1	M40	■	2009.7.15		
		3a	5	1	M40	■	2009.7.15	
		3b	5	1	M40	■	2009.7.15	
		21	20	6	1	L-30	■	2009.7.23
		32	27	2	1	L-43	■	2009.7.13
				5	1	L-43	■	2009.7.15
		33	28	2	1	L-43	■	2009.7.13
		34	29	2	1	M40	■	2009.7.13
				5	1	M40	■	2009.7.15
		35	30	17	1	M40	■	2009.7.15
36	31	2	1	N-36	■	2009.7.5		
37	32	5	1	N-42	■	2009.7.9		
38	33	1	2	O-42	■	2009.7.6		
39	34	3	1	K-43	■	2009.6.30		
40	41	10	4	N-38	■	2009.7.8		
41	35	2	1	M40	■	2009.7.13		
42	37	12	1	K-39	■	2009.7.2		
43	36	14	1	M40	■	2009.7.15		
44	35a	6	1	L-38	■	2009.7.27		
		9	1	L-38	■	2009.7.28		
		20a	6	5	L-38	■	2009.7.27	
		5	2	M36	■	2009.7.17		
45	28	13	5	K-29	■	2009.7.23		
46	29	4	2	K-42	■	2009.7.21		
47	40	11	1	M39	■	2009.7.6		
48	4a	3	1	N-42	■	2009.7.8		
		4b	7	15	N-43	■	2009.7.9	
49	5	5	5	M40	■	2009.7.15		
50	42	6	2	J-41	■	2009.7.26		
		2	2	K-41	■	2009.6.30		
51	43	5	2	L-42	■	2009.7.23		
52	44	6	1	K-41	■	2009.7.13		
		12	1	L-41	■	2009.7.26		
53	45	8	1	L-41	■	2009.7.23		
		12	1	L-41	■	2009.7.23		
54	46	5	1	M40	■	2009.7.15		
55	47a	11	1	N-41	■	2009.7.5		
		47b	11	1	N-41	■	2009.7.5	
56	48	8	2	N-41	■	2009.7.15		
57	49	7	8	N-43	■	2009.7.8		
58	51	1	4	L-42	■	2009.7.9		
59	50	1	1	M-47	■	2009.6.29		
60	52	10	1	L-39	■	2009.7.29		
61	53	5	1	L-39	■	2009.7.28		

表V-4 遺構出土石器等点数集計

遺構名	分類 単位	割片石器類										礫石器類					種	合計 点数
		石鏃	石鏃	石匙	莖状石器	両面加工石器	二次加工 ある割片	微細河原産 ある割片	割片	石核	たたき石	凹石	すり石	台石	石皿			
FL-1	Ⅱ				1	1	2	1,298									11	1,313
FL-2	Ⅱ						1	1,095	1								12	1,110
FL-3	Ⅱ							237									5	242
FL-4	Ⅱ							716									1	717
FL-5	Ⅱ						1	146									6	153
FL-6	Ⅱ		1				2	458		1							3	465
FL-7	Ⅱ			1				113	1								16	132
FL-8	Ⅱ							61	2								2	65
FL-9	Ⅱ			3			2	34									11	50
FL-10	Ⅱ							73									9	82
FL-11	Ⅱ							62									3	65
FL-12	Ⅱ						1	93	1								4	99
FL-13	Ⅱ						1	154									7	162
FL-14	Ⅱ						1	119	3								8	131
P-1	覆土																1	1
P-3	覆土1								1									1
P-4	覆土							3										3
P-8	覆土1							1									1	2
	覆土下位																1	1
P-8合計点数								1									2	3
P-9	覆土1			1				5									4	10
	覆土2							1									1	1
P-9合計点数				1				6									4	11
P-10	覆土							3									1	4
	覆土1							3										3
P-10合計点数								6									1	7
P-13	覆土1							2				1						3
	覆土																1	1
P-15	覆土1							1	1									2
	覆土							1									1	3
P-15合計点数								1	1								2	3
P-16	覆土							2									1	3
P-17	覆土1							4	1		1						4	10
P-18	覆土	1						65				1					2	69
P-19	覆土							26										26
	覆土2							24	1									25
P-19合計点数								50	1									51
P-20	覆土							16	2									18
P-21	覆土1	1						278		2		1						282
	覆土2							10										10
P-21合計点数		1						288		2		1						292
P-22	覆土							4										4
P-23	覆土							6										6
	坑底							1										1
P-23合計点数								7										7
P-24	覆土1							3									4	7
	覆土							5									1	6
P-25	覆土1							1									2	3
	坑底							7										7
P-25合計点数								13									3	16
棟梁中1	Ⅱ												1	1		3		5
合計点数		2	1	5	1	1	12	2	5,130	13	3	1	3	1	1	124		5,300

表V-5 遺構出土石器等重量集計

遺構名	分類/部位	割片石器類							雑石器類						重量	合計重量(g)	
		石鏃	石錐	石匙	板状石器	両面加工石器	一次割片	二次割片	割片	石核	たがき石	凹石	すり石	台石			石皿
FL-1	II			6.4	134.7	24.9		1,980.7								348.7	2,495.4
FL-2	II					1.4	2.7	3,312.0	86.2							1,020.8	4,423.1
FL-3	II							595.5								232.0	827.5
FL-4	II							288.7								0.6	289.3
FL-5	II					7.7		510.1								344.9	862.7
FL-6	II	4.6				19.2		1,150.6		619.8						83.1	1,877.3
FL-7	II		12.7				20.0	782.3	25.8							1,248.6	2,080.4
FL-8	II							273.0	116.2							342.9	732.1
FL-9	II		16.6			22.0		244.0								843.8	1,126.4
FL-10	II							222.3								165.5	387.8
FL-11	II							384.5								48.8	433.3
FL-12	II					149.4		362.4	100.1							544.4	1,156.3
FL-13	II					6.5		365.8								365.7	738.0
FL-14	II					39.5		428.6	65.9							388.0	922.0
P-1	覆土															9.5	9.5
P-3	覆土1								90.0								90.0
P-4	覆土							11.7									11.7
P-8	覆土1							4.6								18.8	23.4
	覆土下位															93.0	93.0
P-8合計重量(g)								4.6								111.8	116.4
P-9	覆土1			23.2				23.3								1,001.4	1,047.9
	覆土2							0.8									0.8
P-9合計重量(g)				23.2				24.1								1,001.4	1,048.7
P-10	覆土							6.6								18.8	25.4
	覆土1							17.9									17.9
P-10合計重量(g)								24.5								18.8	43.3
P-13	覆土1							13.4				256.5					269.9
P-15	覆土															468.4	468.4
	覆土1					39.9		18.3									55.2
P-15合計重量(g)						39.9		18.3								468.4	523.6
P-16	覆土							2.7								4.5	7.2
P-17	覆土1							17.7	353.2		435.4					162.7	969.0
P-18	覆土 1.0							85.7				986.0				670.4	1,743.1
P-19	覆土							602.8									602.8
	覆土2							121.3	165.5								286.8
P-19合計重量(g)								724.1	165.5								889.6
P-20	覆土							737.5	983.6								1,721.1
P-21	覆土1 0.2							290.5		2,072.0		406.5					2,739.2
	覆土2							7.7									7.7
P-21合計重量(g)		0.2						298.2		2,072.0		406.5					2,746.9
P-22	覆土							6.0									6.0
	覆土							15.7									15.7
	坑底							17.7									17.7
P-22合計重量(g)								33.4									33.4
P-24	覆土1							1.9								725.4	727.3
	覆土1							25.6								522.3	547.9
P-25	覆土2							5.6								7.6	13.2
	坑底							13.9									13.9
P-25合計重量(g)								45.1								529.9	575.0
総和中1	II												2,300.0	4,040.0	2,355.0	8,695.0	
合計重量(g)		1.2	4.6	52.5	6.4	134.7	307.5	22.7	12,919.4	1,986.5	2,691.8	435.4	1,649.0	2,300.0	4,040.0	12,945.6	38,597.3

表V-6 遺構出土石器等石材別集計

石材\分類	割片石器類							礫石器類						礫	合計
	石鏃	石鏃	石匙	塊状石器	両面加工石器	二次加工ある割片	指節部彫刻ある割片	割片	石核	たたき石	凹石	すり石	台石		
火成岩	閃緑岩												1		1
	凝灰岩													5	5
	黒曜石	1						17							18
	安山岩											1	1		9
変成岩	砂岩									3	1	1			41
	泥岩											1			32
	珪質頁岩	1	1	5	1	1	12	2	5,112	13					3
	チャート														9
鉱物	凝灰岩														24
	瑪瑙							1							1
合計点数	2	1	5	1	1	12	2	5,130	13	3	1	3	1	1	124
火成岩	閃緑岩													4040.0	4040.0
	凝灰岩													510.5	510.5
	黒曜石	0.2						27.5							27.7
	安山岩											256.5	2300.0		449.9
変成岩	砂岩								2691.8	435.4	986.0				3242.9
	泥岩										406.5				1715.0
	珪質頁岩	1.0	4.6	52.5	6.4	134.7	307.5	22.7	12891.6	1986.5					591.9
	チャート														3330.4
鉱物	凝灰岩														159.4
	瑪瑙							0.3							45.6
合計重量(g)	1.2	4.6	52.5	6.4	134.7	307.5	22.7	12919.4	1986.5	2691.8	435.4	1649.0	2300.0	4040.0	12045.6

表V-7 遺構出土掘載石器・石製品一覧

種別	掲載番号	図版	分類	グリップ	遺物番号	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考	遺構図中番号
V-16	1	53	石鏃	FL-6	1	Ⅱ	3.6	2.8	0.7	4.6	珪質頁岩		
※	2	※	石匙	FL-7	1	Ⅱ	6.7	3.6	0.8	12.7	珪質頁岩	接合	
※	3	※	石匙	FL-9	6	Ⅱ	7.5	3.3	1.0	12.5	珪質頁岩		
※	4	※	石匙	P-9	1	覆土1	11.1	2.7	1.3	23.2	珪質頁岩		1
※	5	※	塊状石器	FL-1	1	Ⅱ	4.0	2.2	0.6	6.4	珪質頁岩		
※	6	※	二次加工ある割片	FL-13	1	Ⅱ	4.4	2.2	0.6	6.5	珪質頁岩		
※	7	※	二次加工ある割片	P-15	1	Ⅱ	8.3	3.8	1.2	36.9	珪質頁岩		3
※	8	※	たたき石	P-21	3	覆土1	14.8	10.9	5.6	1196.0	砂岩		3
※	9	※	たたき石	P-21	1	覆土1	13.9	10.2	4.6	876.0	砂岩		1
※	10	※	たたき石	FL-6	5	Ⅱ	11.6	7.9	4.7	619.8	砂岩		
※	11	※	凹石	P-17	1	覆土1	11.0	6.9	4.9	435.4	砂岩		1
※	12	※	すり石	P-21	2	覆土1	6.6	12.9	4.6	406.5	泥岩		2
※	13	※	すり石	P-13	2	覆土1	7.4	7.9	5.1	256.5	安山岩		
※	14	※	すり石	P-18	8	覆土0	10.5	13.9	4.6	986.0	砂岩		3
V-17	15	※	台石	碑集申1	2	Ⅱ	24.2	15.7	4.5	2300.0	安山岩		2
※	16	※	石皿	碑集申1	1	Ⅱ	27.5	2.1	6.4	4040.0	閃緑岩		1

※遺構図(図V-2~6)に出土位置が示されている石器は、「遺構図中番号」欄に図中での番号を記した。





表V-9 包含層出土掲載石器・石製品一覧

種別	掲載 番号	図版	分類	遺物 タリマ下 番号	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
V-18	1	54	石鏃	N 43	1	II	2.3	0.8	0.2	0.2	黒曜石	赤井川産
	2		石鏃	表面採集	15	II	2.5	0.9	0.4	0.7	黒曜石	赤井川産
	3		石鏃	M42	28	II	(2.9)	1.0	0.3	1.0	珩質頁岩	
	4		石鏃	M65	1	II	2.5	1.5	0.4	0.8	黒曜石	
	5		石鏃	M42	22	II	2.6	1.5	0.3	0.9	珩質頁岩	
	6		石鏃	L 43	1	II	(3.2)	1.7	0.5	2.1	珩質頁岩	
	7		石鏃	J 39	1	II	(2.8)	1.5	0.5	1.3	珩質頁岩	
	8		石鏃	J 39	2	II	3.2	1.2	0.4	1.1	珩質頁岩	
	9		石鏃	K 41	15	II	3.4	1.5	0.5	1.8	黒曜石	
	10		石鏃	M38	1	II	(3.1)	1.2	0.4	1.2	珩質頁岩	
	11		石鏃	N 45	1	II	3.2	1.5	0.4	1.6	珩質頁岩	
	12		石鏃	N 40	1	II	2.7	1.5	0.4	1.6	珩質頁岩	
	13		石鏃	L 42	14	II	2.4	1.1	0.4	0.8	珩質頁岩	
	14		石鏃	M45	19	II	4.0	1.8	0.5	2.9	珩質頁岩	
	15		石鏃	M41	17	II	(3.6)	1.9	0.5	3.2	黒曜石	赤井川産
	16		石鏃	N39	58	II	2.5	1.5	0.4	1.2	黒曜石	赤井川産
	17		石鏃	J 42	7	II	(1.3)	1.1	0.3	0.5	黒曜石	赤井川産
	18		石鏃	L 42	13	II	3.9	1.6	0.4	2.4	黒曜石	赤井川産
	19		石鏃	K 41	49	II	(4.0)	1.5	0.4	2.3	珩質頁岩	
	20		石鏃	L 39	5	II	3.5	1.5	0.4	1.4	珩質頁岩	
	21		石鏃	J 40	1	II	3.8	1.5	0.4	1.6	珩質頁岩	
	22		石鏃	M43	4	II						
				M43	38	II	4.6	1.9	0.5	0.9	珩質頁岩	接合
	23		石鏃	表面採集	14	II	5.1	1.7	0.5	3.0	珩質頁岩	
	24		石鏃	L 39	23	II	(4.7)	1.4	0.5	3.0	珩質頁岩	
	25		石鏃	N 42	1	II	5.0	1.6	0.5	3.5	珩質頁岩	
	26		石鏃	K 39	60	II	(3.9)	2.0	0.6	5.3	珩質頁岩	
	27		石槍	L 42	15	II	7.6	2.7	0.7	13.9	珩質頁岩	
	28		石槍	L 42	21	II	(7.3)	2.6	0.9	13.6	珩質頁岩	
	29		石鏃	L 39	24	II	5.1	2.8	0.8	9.9	珩質頁岩	
	30		石鏃	N 42	4	II	5.0	2.5	0.7	7.7	珩質頁岩	
	31		石鏃	M39	14	II	4.3	1.3	0.4	1.7	珩質頁岩	
	32		石鏃	K 40	2	II	4.4	1.7	0.7	5.6	珩質頁岩	
	33		石鏃	O 41	1	II	5.2	2.5	0.6	7.2	珩質頁岩	
	34		石鏃	M40	51	II	6.3	2.5	0.7	11.3	珩質頁岩	
	35		石鏃	N 40	34	II	9.0	6.4	1.5	52.3	珩質頁岩	
	36		石鏃	K 47	1	II	9.4	2.8	1.8	26.8	珩質頁岩	
V-19	37		石鏃	L 38	28	II	5.7	3.7	1.1	13.1	珩質頁岩	
	38		石鏃	N 42	2	II	6.0	4.2	1.0	15.8	珩質頁岩	
	39		石鏃	L 43	21	II	6.6	3.6	0.8	13.0	珩質頁岩	
	40		石鏃	M40	11	II	6.1	2.7	1.0	10.3	珩質頁岩	
	41		石鏃	N 40	37	II	5.8	2.7	0.8	9.7	珩質頁岩	
	42		石鏃	K 40	3	II	7.0	3.4	0.9	13.1	珩質頁岩	
	43		石鏃	J 40	10	II	6.6	2.7	0.8	11.0	珩質頁岩	
	44		石鏃	K 41	20	II	7.4	4.1	1.1	15.7	珩質頁岩	
	45		石鏃	L 49	1	II	9.9	3.8	1.0	23.4	珩質頁岩	
	46		石鏃	M46	1	II	8.3	3.2	1.1	16.5	珩質頁岩	
	47		石鏃	M39	51	II	6.5	5.5	1.4	25.6	珩質頁岩	
	48		石鏃	O 40	1	II	7.9	4.9	1.2	22.5	珩質頁岩	
	49		石鏃	N 42	37	II	8.7	3.5	1.1	19.1	珩質頁岩	
	50	55	石鏃	N 41	3	II	10.3	3.4	1.2	27.1	珩質頁岩	
V-20	51		石鏃	K 40	22	II	9.7	5.4	0.7	27.4	珩質頁岩	
	52		石鏃	O 38	10	II	8.2	3.3	0.7	21.1	珩質頁岩	
	53		石鏃	L 39	2	II	8.9	3.6	0.7	16.9	珩質頁岩	
				K 40	60	II	12.9	3.0	0.9	19.5	珩質頁岩	接合
				N 40	7	II						
	55		石鏃	L 40	16	II	5.9	3.5	0.8	6.9	珩質頁岩	
	56		石鏃	表面採集	25	II	3.9	2.5	0.5	4.0	珩質頁岩	
	57		石鏃	N 40	4	II	4.7	2.5	0.7	5.8	珩質頁岩	
	58		石鏃	M40	14	II	5.5	4.4	0.9	10.2	珩質頁岩	
	59		石鏃	N 39	49	II	(5.2)	2.5	0.6	8.4	珩質頁岩	
	60		石鏃	L 42	64	II	5.1	3.0	0.6	10.7	珩質頁岩	
	61		石鏃	L 43	2	II	10.3	3.9	1.4	22.7	珩質頁岩	
	62		石鏃	M71	1	II	8.7	3.0	1.0	15.9	珩質頁岩	
	63		石鏃	N 40	50	II	7.6	3.2	1.6	19.5	珩質頁岩	
	64		石鏃	K 41	19	II	8.4	3.1	1.5	21.5	珩質頁岩	
	65		石鏃	M43	1	II	7.8	2.3	0.9	12.8	珩質頁岩	
V-21	66		石鏃	L 39	2	II	9.4	2.1	1.7	21.0	珩質頁岩	
	67		石鏃	L 38	27	II	7.1	2.8	0.9	11.1	珩質頁岩	
	68		石鏃	L 39	7	II	6.9	3.4	2.0	22.7	珩質頁岩	

種別	掲載番号	図版	分類	遺構 タリノ下	遺物 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考
V-21	69	55	石壁	J39	15	II	5.7	4.6	1.4	18.6	珪質頁岩	
	70	55	石壁	K39	95	II	(7.5)	3.1	1.1	19.9	珪質頁岩	
	71	55	石壁	L40	1	II	10.8	3.5	1.4	40.0	珪質頁岩	
	72	55	石壁	K39	37	II	6.7	7.1	1.8	36.6	珪質頁岩	
	73	55	礎状石器	L39	4	II	7.7	7.8	1.4	60.9	珪質頁岩	
	74	55	礎状石器	N38	32	II	8.1	7.2	1.4	74.0	珪質頁岩	
	75	56	礎状石器	N38	10	II	7.6	5.7	1.3	51.7	珪質頁岩	
	76	56	礎状石器	O38	3	II	4.8	2.8	0.8	10.8	珪質頁岩	
	77	56	礎状石器	J42	26	II	(5.3)	3.5	1.4	10.0	珪質頁岩	接合
				L43	6	II						
V-22	78	56	礎状石器	K39	35	II	4.5	2.4	0.9	8.2	珪質頁岩	
	79	56	礎状石器	M39	15	II	3.9	2.3	0.9	7.5	珪質頁岩	
	80	56	削器	N42	33	II	4.1	2.6	0.7	6.0	珪質頁岩	
	81	56	削器	N39	52	II	6.0	3.5	1.1	22.4	珪質頁岩	
	82	56	削器	N39	53	II	7.5	3.8	1.1	20.2	珪質頁岩	
	83	56	二次加工ある剥片	L42	77	II	(5.5)	2.8	0.8	3.2	珪質頁岩	接合
				L43	75	II						
	84	56	削器	K41	2	II	5.9	4.3	1.1	16.8	珪質頁岩	
	85	56	削器	K39	36	II	9.4	3.7	1.5	32.3	珪質頁岩	
	86	56	削器	K39	24	II	4.4	5.9	1.0	17.4	珪質頁岩	
	87	56	削器	J41	10	II	4.5	2.9	0.8	7.5	珪質頁岩	
	88	56	両面加工石器	K41	1	II	9.0	5.0	1.2	48.1	珪質頁岩	
	89	56	両面加工石器	M41	34	II	6.6	4.4	1.3	43.0	珪質頁岩	
90	56	両面加工石器	N40	33	II	10.8	4.2	1.9	81.7	珪質頁岩		
91	56	両面加工石器	K40	1	II	9.5	2.9	1.7	39.2	珪質頁岩		
92	56	両面加工石器	表面採集	3	-	5.0	3.4	1.1	16.4	珪質頁岩		
V-23	93	56	二次加工ある剥片	L40	4	II	3.9	4.2	1.0	11.8	珪質頁岩	
	94	56	二次加工ある剥片	I39	1	II	9.7	4.2	1.6	54.3	珪質頁岩	
	95	56	二次加工ある剥片	J41	9	II	8.9	5.5	1.5	71.5	珪質頁岩	接合
	96	56	二次加工ある剥片	K39	59	II	6.0	4.0	1.1	23.4	珪質頁岩	
	97	56	二次加工ある剥片	M38	2	II	(5.5)	4.2	0.9	15.0	珪質頁岩	
	98	56	二次加工ある剥片	N38	1	II	(6.0)	4.9	1.1	19.9	珪質頁岩	
	99	56	二次加工ある剥片	L43	25	II	3.7	2.2	0.7	5.9	珪質頁岩	
	100	56	磨製石斧	K39	22	II	(8.8)	5.3	2.0	123.0	凝岩	
	101	56	磨製石斧	M39	32	II	(5.4)	4.2	1.6	56.1	凝岩	
	102	56	磨製石斧	M39	33	II	(5.1)	5.1	1.2	41.2	凝岩	
	103	56	磨製石斧	L39	1	II	(4.9)	6.2	2.1	73.2	凝岩	
104	56	磨製石斧	M42	7	II	(6.0)	4.9	2.0	57.1	砂岩		
V-24	105	57	たたき石	K41	59	II	11.3	9.7	4.9	750.2	安山岩	
	106	57	たたき石	K39	16	II	14.9	8.7	4.1	761.0	砂岩	
	107	57	たたき石	N38	32	II	11.7	9.3	6.1	878.8	珪質頁岩	
	108	57	たたき石	N42	31	II	9.0	6.8	3.6	259.5	砂岩	
	109	57	凹石	K41	89	II	6.6	5.1	1.5	61.7	砂岩	
	110	57	凹石	K39	15	II	14.9	12.4	5.0	1130.0	砂岩	
	111	57	すり石	K43	8	II	8.1	8.0	7.2	524.0	砂岩	接合
				L43	37	II						
	112	57	すり石	K41	60	II	10.4	12.4	6.4	1030.0	砂岩	
	113	57	すり石	K40	32	II	5.9	6.9	2.1	119.9	砂岩	
114	57	すり石	K39	18	II	9.0	12.8	4.1	718.7	砂岩		
115	57	すり石	M45	32	II	12.0	10.0	4.2	729.9	砂岩		
116	57	平円状扁平打製石器	M39	39	II	9.6	16.8	2.2	487.5	安山岩	接合	
			M39	41	II							
			N40	43	II							
			M39	62	II							
			M39	70	II							
117	57	平円状扁平打製石器	N42	14	II	9.1	13.5	2.4	238.2	安山岩	接合	
			N42	48	II							
			N42	49	II							
117a	57	平円状扁平打製石器	N42	14	II	8.0	11.1	2.0	223.0	安山岩		
118	57	平円状扁平打製石器	M41	25	II	7.8	14.2	2.3	399.3	安山岩		
119	57	北海道式石冠	K39	50	II	10.1	13.7	5.6	1060.0	閃緑岩		
120	57	砥石	M40	49	II	9.0	12.0	3.3	406.5	砂岩		
121	58	台石	M39	40	II	28.9	13.1	3.6	1682.4	安山岩	接合	
			M40	55	II							
			M40	34	II							
			M40	56	II							
122	58	台石	K49	12	II	36.5	24.1	6.3	9700.0	安山岩		
123	58	石製品	K40	24	II	5.0	2.4	0.9	6.0	頁岩		
124	58	石製品	K40	25	II	4.1	2.2	0.7	3.8	頁岩		

表V-10 掲載接合資料一覧

採回	掲載番号	図版	分類等	遺構 タリ→F	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	遺構図 中番号
V-26	1	59	接合資料 5				29	13.6	12.3	6.2	840.4		
V-27	1e		石鏃	L39	11	Ⅱ	1	4.0	2.3	0.8	4.7		
V-26	1b		指環	M41	19	*	1	(5.5)	3.6	1.7	26.6		
V-27	1d		二次加工ある銅片	L39	55	*	1	5.5	7.7	1.6	7.8		
			銅片	M40	50	*	1				11.5		
			*	M41	24	*	2				9.0		
			*		41	*	1				24.8		
V-26	1c		二次加工ある銅片	M41	68	*	1	4.7	3.9	1.4	11.1		
			銅片	M42	5	*	1				9.8		
			銅片	K39	23	*	1						
			*		38	*	1						
			*	K40	42	*	1						
			*	L39	15	*	1						
			*		30	*	1						
			*	L40	13	*	2						
			*	L41	19	*	1						
			*	M41	9	*	1						
			*		24	*	5						
			*		41	*	1						
			*		53	*	1						
			*	M42	5	*	1						
			*	N29	61	*	1						
			*	M41	12	*	1						
											381.9		
V-27	1f		石核	P-17	5	層土 1	1	11.1	10.6	2.8	353.2		5
V-28	2	59	接合資料 6				40	18.2	14.5	9.2	1861.5		
			銅片	P-19	2	層土 2	3						
			*		3	層土 1	1						1
			*		5	*	1						2
			*		6	*	1						3
			*		7	*	1						4
			*		8	*	3						
			*	K43	5	Ⅱ	2						
			*		23	*	3						
			*		38	*	1						
			*	L42	29	*	9						
			*		47	*	1						
			*		48	*	1						
			*	L43	35	*	5						
			*		44	*	1						
			*		53	*	1						
			*	L44	6	*	1						
			*	M42	16	*	1						
V-28	2c		銅片	L43	10	*	1	9.4	6.4	2.8	4.2		
			石核	L43	29	*	1				109.7		
			石核	L43	54	*	1	8.4	9.9	3.1	296.0		銅片素材(図版1)
			石核	N41	7	*	1				188.0		
V-29	3	59	接合資料 7				20	11.0	9.2	7.3	670.5		
*	3b		二次加工ある銅片	FL-1	2	Ⅱ	1	3.9	3.9	1.3	15.7		
			銅片	P-9	6	層土 1	1						
			*	K39	38	Ⅱ	1						
			*		64	*	4						
			*		83	*	3						
			*	L38	15	*	1						
			*	L39	15	*	1						
			*		30	*	2						
			*		44	*	1						
			*	M40	3	*	1						
			*		1	試掘	1						
			*	M41	2	*	1						
			*		24	*	1						
V-29	3c		石核	L39	10	Ⅱ	1	6.7	5.8	5.2	190.0		
V-30	4a	60	接合資料 8a				4	11.0	11.4	6・7	280.0		
			銅片	K43	5	Ⅱ	2						
			*	K43	22	*	1						280.0

種別	掲載番号	図版	分類等	遺構 タイプ	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	遺構図 中番号
V-30	4b	60	測片	L43	35	Ⅱ	1	17.7	16.4	8.7	280.0		
			接合資料 8b				18				821.9		
			測片	L42	7	Ⅱ	1						
			測片	K43	5	Ⅱ	1						
			測片	L43	10	Ⅱ	1						
			測片	L43	35	Ⅱ	8						
			測片	K43	22	Ⅱ	2			821.9			
			測片	K42	26	Ⅱ	1						
V-31	5	60	接合資料10				61	24.7	15.8	10.1	3835.6		
			測片	P-19	2	覆土 2	2						
			測片	〃	4	覆土	1						2
			測片	〃	8	覆土	5						
			測片	P-20	2	覆土	1						2
			測片	〃	3	覆土	1						3
			測片	〃	4	覆土	1						4
			測片	〃	5	覆土	1						5
			測片	〃	6	覆土	1						段階 8
			測片	〃	9	覆土	1						段階 2
			測片	〃	11	覆土	1						
			測片	表面採集	17	Ⅱ	3						
			測片	K43	5	Ⅱ	1						
			測片	〃	23	Ⅱ	2						
			測片	〃	38	Ⅱ	2						
			測片	L41	19	Ⅱ	1						
			測片	L42	7	Ⅱ	1						
			測片	〃	29	Ⅱ	7						
			測片	〃	47	Ⅱ	1						
			測片	L43	35	Ⅱ	11						
			測片	M43	48	Ⅱ	1						
			測片	N41	22	Ⅱ	1						
			測片	P-20	10	覆土	1						
			石核	P-19	1	覆土 2	1	12.2	8.2	3.0	212.6	折れ面接合	10
			石核	P-20	1	覆土 2	1				629.1		
			石核	P-20	7	覆土	1	12.1	9.1	4.0	349.7	測片素材(段階3)	7
			石核	M42	23	Ⅱ	1	11.9	4.8	5.0	295.6	測片素材(段階7)	1
V-31	5d	60	測片	P-18	4	覆土	1	10.2	8.5	5.2	124.5		
			測片	K43	22	Ⅱ	1						
			測片	〃	23	Ⅱ	1						
			測片	L42	29	Ⅱ	2						
			測片	L43	35	Ⅱ	2						
			測片	M42	5	Ⅱ	1						
			測片	N41	12	Ⅱ	1						
			石核	L43	55	Ⅱ	1						測片素材(段階1)
V-32	6	61	接合資料 9				22	15.1	11.8	13.4	1238.2		
			測片	J42	1	Ⅱ	4						
			測片	J42	16	Ⅱ	7						
			測片	K40	10	Ⅱ	1						
			測片	K42	10	Ⅱ	10						
V-33	7	61	接合資料 1				18	19.5	9.6	4.5	512.7		
V-34	7e	61	削器	K39	110	Ⅱ	1	7.0	4.6	0.7	9.4	折れ面接合	
			測片	〃	83	Ⅱ	1				7.6		
	7d	61	両面加工石器	F L-1	3	Ⅱ	1	9.8	7.6	1.6	134.7		
V-33	7b	61	〃	K39	10	Ⅱ	1	(7.1)	7.7	2.5	114.0		
V-34	7c	61	〃	〃	40	Ⅱ	1	(2.9)	5.4	1.2	15.5		
			測片	F L-1	5	Ⅱ	1						
			測片	〃	103	Ⅱ	1						
			測片	K39	38	Ⅱ	3						
			測片	K40	30	Ⅱ	1						
			測片	L39	15	Ⅱ	2						
			測片	〃	30	Ⅱ	1						
			測片	M38	32	Ⅱ	1						
			測片	M39	31	Ⅱ	1						
			測片	M40	10	Ⅱ	1						
			測片	N39	27	Ⅱ	1						

棟号	階数	図面	分類等	遺構 タイプ	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	遺構図 中番号	
V-34	8	61	総合資料 2				27	11.1	18.7	5.6	780.3			
			割片	FL-6	4	Ⅱ	2							
			割片	FL-12	3	Ⅱ	1							
			割片	L38	20	Ⅱ	1							
			割片	M39	31	Ⅱ	7							
			割片	〃	57	Ⅱ	2							
			割片	〃	68	Ⅱ	1							
			割片	M40	3	Ⅱ	1							
			割片	〃	10	Ⅱ	2							
			割片	〃	29	Ⅱ	1							
			割片	N29	27	Ⅱ	1							
			割片	N40	21	Ⅱ	6							
割片	〃	42	Ⅱ	1										
V-35	8a		石柱	M39	22	Ⅱ	1	8.6	17.9	2.8	487.0			
V-36	9	62	総合資料 3				30	20.1	10.7	6.8	906.6			
V-35	9a		割器	L41	10	Ⅱ	1	10.5	4.6	1.8	47.3			
			割片	FL-1	5	Ⅱ	14							
			割片	〃	103	Ⅱ	2							
			割片	K39	13	Ⅱ	1							
			割片	〃	38	Ⅱ	3							
			割片	L38	20	Ⅱ	1							
			割片	L39	30	Ⅱ	1							
			割片	M38	21	Ⅱ	2							
			割片	M40	10	Ⅱ	1							
			割片	M41	2	Ⅱ	1							
			割片	N40	21	Ⅱ	2							
			V-35	9b		石柱	K41	50	Ⅱ	1	18.7	9.1	4.7	585.5
V-37	10	62	総合資料11				31	23.6	10.3	4.9	704.0			
			割片	P-15	2	覆土1	1						2	
			割片	K39	38	Ⅱ	8							
			割片	K39	64	Ⅱ	2							
			割片	K39	71	Ⅱ	1							
			割片	K39	92	Ⅱ	1							
			割片	K39	98	Ⅱ	1							
			割片	K40	30	Ⅱ	4							
			割片	K40	42	Ⅱ	2							
			割片	K41	29	Ⅱ	1							
			割片	L40	13	Ⅱ	1							
			割片	表面採集	17	Ⅱ	1							
V-36	10a		石柱	K41	33	Ⅱ	1	9.1	9.0	3.9	256.2			
			割片	P-8	1	覆土1	1							
V-37	10b		割片	K39	38	Ⅱ	2							
			割片	〃	90	Ⅱ	1							
			割片	K40	30	Ⅱ	3							
			割片	〃	42	Ⅱ	1							
			割片	M41	2	Ⅱ	1							
			割片	N29	61	Ⅱ	1							
			石柱	L43	77	Ⅱ	1						66.5	
V-38	11	63	総合資料 4				43	28.1	13.2	5.4	1238.6			
			割片	FL-1	5	Ⅱ	1							
			割片	FL-7	4	Ⅱ	1							
			割片	〃	103	Ⅱ	2							
			割片	J39	20	Ⅱ	2							
			割片	J42	1	Ⅱ	1							
			割片	K39	38	Ⅱ	6							
			割片	〃	43	Ⅱ	1							
			割片	〃	64	Ⅱ	3							
			割片	K40	30	Ⅱ	2							
			割片	〃	42	Ⅱ	1							
			割片	K41	34	Ⅱ	1							
			割片	K42	1	Ⅱ	1							
			割片	〃	10	Ⅱ	8							
			割片	〃	31	Ⅱ	2							
			割片	L40	13	Ⅱ	2							

棟号	図版	分類等	遺構 タリ→F	遺物 番号	層位	点数	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	遺構図 中番号					
										868.9							
													〃	L41	4	〃	1
													〃	〃	19	〃	3
													〃	〃	31	〃	1
													〃	L42	29	〃	1
													〃	M40	3	〃	1
				石積	K39	9	〃	〃	1	243.9							
													〃	L41	13	〃	1
V-39	12	63		総合資料355		2	7.1	6.6	4.3	212.2							
				湖片	M41	24	Ⅱ	1				23.0					
				石積	L41	29	〃	1					189.2				
V-39	13	63		総合資料36		4	8.4	7.7	3.9	119.8							
				〃	13b	〃	〃	1	4.5	5.3	1.7	34.6					
				〃	13a	〃	〃	1	4.9	4.9	1.1	16.7					
				湖片	〃	10	〃	1					23.3				
V-39	13c			石積	〃	15	〃	1	6.9	4.5	2.6	45.2					
				総合資料361		5	8.1	4.8	4.7	116.7							
V-39	14	63		湖片	J40	14	Ⅱ	4			49.5						
				石積	〃	28	〃	1				67.2					
				総合資料369		2	8.6	4.8	2.1	63.7							
V-39	15a			両面加工石器	K40	21	Ⅱ	1	8.6	4.4	1.1	58.7					
				湖片	L42	29	〃	1					5.0				

\*遺構図(図V-2~6)に出土位置が示されている石器は、「遺構図中番号」欄に図中での番号を記した

表V-11 FL-1~14水洗篩別遺物集計

遺構名	層位	大きさ	土器	瓦片 湖片	黒曜石 湖片	火山岩 湖片	礎	合計点数	土器	瓦片 湖片	黒曜石 湖片	火山岩 湖片	礎	合計重量 (g)
FL-1	Ⅱ	5mm以上	43	1,645			27	1,715	28.1	473.7				59.4
		2mm以上5mm未満	30	3,367			417	2,817	1.5	79.2	0.1			14.7
		合計	73	4,012			444	4,532	29.6	552.9	0.1			74.1
FL-2	Ⅱ	5mm以上	16	655			80	754	4.4	159.1				38.4
		2mm以上5mm未満	50	1,408			1,626	3,092	2.2	41.8	0.3			55.2
		合計	66	2,063			1,706	3,846	6.6	200.9	1.1			93.6
FL-3	Ⅱ	5mm以上	15	214			18	247	7.0	74.1				13.9
		2mm以上5mm未満	42	281			227	550	1.4	8.8				9.5
		合計	57	495			245	797	8.4	82.9				23.4
FL-4	Ⅱ	5mm以上	5	351			16	373	0.7	45.6	0.1			13.6
		2mm以上5mm未満	10	1,440			68	1,521	0.2	33.8	0.0			3.5
		合計	15	1,991			84	2,094	0.9	79.4	0.1			17.1
FL-5	Ⅱ	5mm以上	87	240			107	434	39.1	88.1				45.0
		2mm以上5mm未満	54	398			2,417	3,169	1.4	29.2	1.3			83.0
		合計	141	638			2,524	3,623	40.5	117.3	1.3			128.0
FL-6	Ⅱ	5mm以上	222	720			28	970	62.6	221.1	0.7			65.2
		2mm以上5mm未満	118	1,414			1,725	3,267	3.7	36.3	0.2			46.7
		合計	340	2,134			1,753	4,237	66.3	257.4	0.9			111.9
FL-7	Ⅱ	5mm以上	41	410			83	534	44.1	194.3				44.2
		2mm以上5mm未満	850	867			1,663	3,300	19.7	20.2	0.2			72.4
		合計	891	1,307			1,744	3,924	63.8	214.5	0.2			116.6
FL-8	Ⅱ	5mm以上	7	117			4	128	3.4	74.9				1.2
		2mm以上5mm未満	118				255	373		4.3				7.4
		合計	7	235			259	501	3.4	79.2				8.6
FL-9	Ⅱ	5mm以上	13	223			37	274	8.9	44.7	1.1			9.8
		2mm以上5mm未満					525	526		0.1				18.4
		合計	13	223			562	800	8.9	44.7	1.2			28.2
FL-10	Ⅱ	5mm以上	2	85			32	119	0.7	26.6				10.3
		2mm以上5mm未満	1	95			711	808	0.1	2.5	0.0			23.0
		合計	3	180			743	927	0.8	29.1	0.0			33.3
FL-11	Ⅱ	5mm以上	78			1	10	90		32.7	0.0	4.3		1.5
		2mm以上5mm未満		74			398	472		1.9				10.4
		合計	78	152		1	406	562		34.6	0.0	4.3		11.9
FL-12	Ⅱ	5mm以上	192	130			6	328	150.3	39.8				2.5
		2mm以上5mm未満	32	307			100	239	1.7	3.5				4.5
		合計	224	437			106	567	152.0	43.3				7.0
FL-13	Ⅱ	5mm以上	2	130			17	149		15.1				10.7
		2mm以上5mm未満		143			1,232	1,375		3.4				28.1
		合計	2	273			1,349	1,524		7.9				38.8
FL-14	Ⅱ	5mm以上	62	175			23	262	25.2	67.6	0.4			10.1
		2mm以上5mm未満		213			807	1,024		6.3	0.0			28.0
		合計	62	388			830	1,286	25.2	73.9	0.4			38.1
合計			1,864	14,638	62	1	12,655	39,220	414.3	1,808.6	5.3	4.3	671.9	2,964.4

表V-12 遺構出土礫計測表

図版	掲載番号	遺構	遺物番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	備考	遺構図中番号
64	1	P-8	3	覆土下位	6.3	4.5	2.8	93.0	流紋岩		1
〃	2	P-9	2	覆土1	12.6	(9, 2)	5.0	786.5	砂岩	スズ?付着	2
〃	3	P-9	3	覆土1	7.4	5.0	2.0	105.5	砂岩		3
〃	4	P-9	4	覆土1	5.9	4.4	1.8	64.8	安山岩		4
〃	5	P-9	5	覆土1	5.0	3.9	1.6	44.6	砂岩		5
〃	6	P-15	3	覆土	14.2	8.1	2.1	468.4	砂岩		4
〃	7	P-17	2	覆土1	6.3	3.3	1.8	53.2	砂岩		2
〃	8	P-17	3	覆土1	5.6	4.6	2.0	74.2	砂岩		3
〃	9	P-17	4	覆土1	2.5	1.6	0.8	3.7	チャート		4
〃	10	P-18	6	覆土	(7, 7)	10.5	4.0	470.5	砂岩		1
〃	11	P-18	7	覆土	8.3	7.5	2.7	199.9	泥岩		2
〃	12	P-24	4	覆土1	9.9	6.5	5.4	461.6	チャート		8
〃	13	礫集中1	3	Ⅱ	9.9	9.3	5.6	730.0	チャート		3
〃	14	礫集中1	4	Ⅱ	11.8	9.3	6.1	920.0	チャート		4
〃	15	礫集中1	5	Ⅱ	12.4	8.6	5.3	705.0	チャート		5

\*「遺構図中番号」欄に、遺構図(図V-2～6)中での番号を記した

表V-13 礫の大きさ

	石材\区分	細礫	小礫	中礫	大礫	巨礫	巨岩	破片	合計
		(0.2~1cm)	(1~5cm)	(5~10cm)	(10~15cm)	(15~20cm)	(20~30cm)		
遺構	馬塚		1						1
	安山岩			3	1			5	9
	チャート		3	3	3				9
	泥岩		15	10	1			6	32
	流紋岩		2	3					5
	砂岩		13	11	2			15	41
	珪質頁岩		2		1				3
	凝灰岩		5	1				18	24
	遺構合計		41	31	8			44	124
	包含層	馬塚		18	8				3
安山岩			39	46	15	3		71	174
玄武岩								1	1
チャート			346	116	4			55	521
礫岩			1						1
花崗岩			1						1
泥岩		1	892	453	17			284	1,647
鮮石					1				1
珪岩			5					3	8
流紋岩			38	41	3			3	85
砂岩			427	429	77	4		416	1,353
閃緑岩					1			1	2
片岩								4	4
珪質頁岩			85	33	3			15	136
粘板岩			1	1				16	18
凝灰岩			193	135	3	1		159	491
不明		5	1				5	11	
包含層合計	1	2,051	1,263	124	8		1,036	4,483	
遺構・包含層合計	1	2,092	1,294	132	8		1,080	4,607	

表V-14 接合資料完形剥片計測値一覧

接合資料	段階	遺物 グリッド	遺物 番号	柱 番号	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	
1	1	P1	20	1		6.2	7.0	0.8	20.5		
			K40	30	1		5.8	4.7	1.3	19.5	
			N39	15	1		6.1	7.1	1.0	26.0	
			K39	38	3		5.2	4.0	0.5	9.3	
			N40	10	2		5.8	3.1	0.6	10.1	
			M40	10	2		5.6	4.1	1.0	9.0	
			M40	21	1		6.2	4.0	1.0	14.0	
			M40	44	1		6.2	5.2	0.9	19.0	
			P1-0	4			3.2	3.3	0.6	5.8	
			M41	11	1		3.0	1.1	0.1	0.7	
2	1	M40	31	4		6.4	3.9	0.7	8.4		
			M40	10	2		4.6	1.2	0.4	2.4	
			N40	11	2		1.6	3.0	0.6	1.3	
			N40	11	5		2.8	3.0	0.6	3.4	
			N40	42	1		2.1	1.4	0.4	0.6	
			M39	11	6		5.2	5.2	0.9	15.2	
			M39	31	7		5.7	5.3	1.9	43.8	統合
			M40	37	1		2.7	4.6	0.9	9.3	
			N40	21	4		2.0	3.4	0.8	3.2	
			K39	39	3		3.4	3.0	1.3	12.8	
3	1	P1	15	6		6.2	6.2	1.1	46.8		
			K39	38	3		5.1	4.4	1.0	24.0	
			P1-1	5	2		1.9	2.6	0.9	2.6	
			P1-1	1	10		3.4	4.0	0.7	7.0	
			P1-1	5	14		3.0	4.8	0.5	5.6	
			M41	103	1		3.9	5.0	1.0	47.2	統合
			M41	37	1		6.0	3.9	1.0	13.2	
			N40	43	1		4.2	1.5	0.2	2.3	
			P1-1	5	7		5.8	5.5	1.4	31.7	
			P1-1	5	3		3.0	3.9	0.5	5.0	
4	1	P1	1	3		2.9	2.4	0.4	2.2		
			P1-1	5	2		2.0	4.4	1.0	10.0	
			P1-1	5	3		2.3	3.3	0.3	1.1	
			P1-1	5	10		1.9	2.6	0.3	1.6	
			P1-1	5	12		3.0	3.0	0.6	3.5	
			N39	38	7		2.8	3.2	1.0	7.0	
			N39	38	7		2.3	3.0	0.5	3.3	
			M40	10	2		5.9	5.4	2.0	25.8	
			M40	11	8		4.1	4.9	1.0	16.8	
			P1-2	30	2		6.0	5.9	0.7	14.0	
a1	1	K42	10	4		4.3	2.0	1.3	6.4		
			K43	10	6		3.4	4.2	0.8	6.0	
			K42	11	2		3.2	2.2	0.8	2.0	
			L41	1	3		3.3	4.0	1.4	12.3	
			L41	11	2		3.2	3.1	0.2	1.3	
			M40	3	1		5.6	6.1	2.0	43.0	
			L40	11	2		3.2	4.0	1.0	22.4	
			L42	1	1		6.2	3.2	1.0	10.1	
			L41	11	3		4.7	3.1	1.7	18.8	
			L41	11	2		4.2	3.1	0.7	4.8	
a2	1	K41	34	3		6.2	10.0	3.5	126.2		
			K42	10	1		1.6	2.7	0.4	1.2	
			K42	10	7		2.0	2.0	0.7	2.7	
			K42	10	1		3.0	2.5	0.5	3.2	
			K42	10	2		2.2	1.8	0.5	1.1	
			L42	1	1		2.6	3.1	0.9	3.9	
			K42	10	6		3.0	2.2	0.8	3.2	
			P1-1	1	1		6.5	8.3	1.9	92.4	統合
			N39	64	2		3.9	5.2	1.3	20.0	
			b8	1	J99	20	1		5.0	5.2	1.3
N40	20	1					3.9	4.7	1.5	21.4	
L41	11	1					2.4	3.6	1.1	9.0	
N39	28	7					6.2	6.1	1.3	36.0	
M41	9	1					1.1	1.1	0.1	0.1	
M41	24	3					9.9	6.9	1.3	62.5	統合
M41	41	1					10.3	7.1	1.8	111.5	統合
M41	68	1					1.7	1.7	0.1	0.1	
M41	68	3					1.7	1.7	0.1	0.1	
J99	15	1					6.7	6.1	1.3	36.0	
3	1	M41	9	1		1.1	1.1	0.1	0.1		
			M41	24	3		9.9	6.9	1.3	62.5	統合
			M41	41	1		1.7	1.7	0.1	0.1	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
			N39	28	7		6.2	6.1	1.3	36.0	
4	1	P-19	2	1	積上	2.8	5.0	0.8	4.9		
			P-19	2	2	積上	1.3	1.3	0.1	0.1	
			P-19	2	2	積上	11.8	5.8	2.2	130.6	統合
			L41	35	3		3.2	3.2	0.3	3.2	
			K43	23	1		1.3	1.3	0.1	1.3	
			L42	20	2		11.6	8.2	1.9	167.6	統合
			L43	25	1		3.2	3.2	0.3	3.2	
			L42	20	2		9.9	7.3	2.1	132.1	
			L43	25	1		3.2	3.2	0.3	3.2	
			L42	20	2		9.9	7.3	2.1	132.1	
5	4	K43	23	2		6.0	9.8	3.0	116.2		
			K43	23	2		4.4	3.2	1.1	11.9	
			L42	19	2		9.3	6.4	1.8	80.9	
			P-19	15	2	積上	4.4	6.5	1.2	30.5	統合
			L43	25	1		4.2	6.8	1.4	32.6	
			P-19	15	2	積上	6.1	6.9	2.5	66.5	
			P-19	15	2	積上	2.0	4.6	1.7	20.7	
			P-19	15	2	積上	4.0	4.8	1.3	21.1	
			P-19	15	2	積上	2.9	2.7	1.7	27.4	
			M42	16	2		8.6	7.3	1.6	71.2	
K43	23	2		4.8	3.2	1.1	10.2				
6	1	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
7	2	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
8	2	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
9	2	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
10	2	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1	
11	2	J99	14	3		6.4	6.4	1.3	37.1		
			P-19	14	3		6.4	6.4	1.3		



## VI 自然科学的分析

### 1 大平遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

#### 1 測定対象試料

大平遺跡は、北海道上磯郡木古内町字大平63（北緯41° 41' 29"、東経140° 26' 54"）に所在する。測定対象試料は、H-1 HF-1 出土木炭（OHIRA-1；IAAA-91847、OHIRA-2；IAAA-91848）、H-4 HF-1 出土木炭（OHIRA-3；IAAA-91849、OHIRA-4；IAAA-91850）、P-2 坑底出土木炭（OHIRA-5；IAAA-91851、OHIRA-6；IAAA-91852）、合計6点である。

#### 2 測定の意義

遺構の構築年代推定の材料とする。

#### 3 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2)酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3)試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4)液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6)グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

#### 4 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxII）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5 算出方法

- (1)年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。
- (2)<sup>14</sup>C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。<sup>13</sup>C

- 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 $^{14}\text{C}$ 年代の誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、試料の $^{14}\text{C}$ 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$  は、試料炭素の $^{13}\text{C}$ 濃度 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ) を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差 (%) で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4)pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。
- (5)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ( $1\sigma=68.2\%$ ) あるいは2標準偏差 ( $2\sigma=95.4\%$ ) で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal 1.04データベース (Reimer et al 2004) を用い、OxCal v4.1較正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## 6 測定結果

$^{14}\text{C}$ 年代は、H-1 HF-1 出土木炭OHIRA-1 が $4660 \pm 40\text{yrBP}$ 、OHIRA-2 が $4730 \pm 40\text{yrBP}$ 、H-4 HF-1 出土木炭OHIRA-3 が $4680 \pm 40\text{yrBP}$ 、OHIRA-4 が $4820 \pm 40\text{yrBP}$ 、P-2 坑底出土木炭OHIRA-5 が $4390 \pm 40\text{yrBP}$ 、OHIRA-6 が $4460 \pm 40\text{yrBP}$ である。H-1 HF-1 とP-2 坑底出土の各2点は、誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) の範囲で重なる部分を持ち、近い年代であることを示す。H-4 HF-1 出土の2点もおおよそ近接した値となっている。H-1 HF-1 とH-4 HF-1 の試料は縄文時代前期後葉から末葉頃、P-2 坑底の試料は縄文時代中期前半頃に相当する年代値である。

炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-91847	OHIRA-1	H-1 HF-1	木炭	AAA	-25.16 ± 0.52	4,660 ± 40	56.01 ± 0.25
IAAA-91848	OHIRA-2	H-1 HF-1	木炭	AAA	-25.28 ± 0.53	4,730 ± 40	55.51 ± 0.25
IAAA-91849	OHIRA-3	H-4 HF-1	木炭	AAA	-25.24 ± 0.52	4,680 ± 40	55.85 ± 0.25
IAAA-91850	OHIRA-4	H-4 HF-1	木炭	AAA	-26.47 ± 0.61	4,820 ± 40	54.85 ± 0.24
IAAA-91851	OHIRA-5	P-2 坑底	木炭	AAA	-26.51 ± 0.58	4,390 ± 40	57.92 ± 0.26
IAAA-91852	OHIRA-6	P-2 坑底	木炭	AAA	-26.38 ± 0.40	4,460 ± 40	57.43 ± 0.25

[# 3274]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91847	4,660 ± 40	55.99 ± 0.25	4,655 ± 36	3508BC - 3427BC (59.4%) 3381BC - 3369BC (8.8%)	3620BC - 3611BC (1.6%) 3521BC - 3361BC (93.8%)
IAAA-91848	4,730 ± 40	55.48 ± 0.24	4,728 ± 35	3630BC - 3581BC (30.3%) 3533BC - 3509BC (13.3%) 3426BC - 3382BC (24.6%)	3635BC - 3551BC (41.3%) 3542BC - 3496BC (20.5%) 3459BC - 3376BC (33.5%)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-91849	4,680 $\pm$ 40	55.82 $\pm$ 0.24	4,678 $\pm$ 36	3517BC - 3493BC (15, 3%) 3468BC - 3390BC (46, 0%) 3386BC - 3375BC ( 6, 9%)	3627BC-3597BC ( 7, 8%) 3527BC-3366BC (87, 6%)
IAAA-91850	4,850 $\pm$ 30	54.69 $\pm$ 0.23	4,823 $\pm$ 35	3652BC - 3631BC (28, 4%) 3578BC - 3573BC ( 3, 6%) 3566BC - 3536BC (36, 2%)	3694BC-3681BC ( 2, 1%) 3665BC-3622BC (35, 1%) 3605BC-3522BC (58, 3%)
IAAA-91851	4,410 $\pm$ 40	57.74 $\pm$ 0.25	4,386 $\pm$ 36	3080BC-3070BC ( 5, 9%) 3025BC-2925BC (62, 3%) 3324BC-3234BC (34, 6%)	3282BC-3256BC ( 0, 6%) 3098BC-2909BC (94, 8%)
IAAA-91852	4,480 $\pm$ 40	57.27 $\pm$ 0.25	4,455 $\pm$ 35	3223BC-3220BC ( 0, 7%) 3173BC-3161BC ( 3, 7%) 3118BC-3083BC (13, 4%) 3067BC-3027BC (15, 8%)	3340BC-3204BC (43, 8%) 3197BC-3012BC (50, 5%) 2978BC-2966BC ( 0, 8%) 2948BC-2944BC ( 0, 3%)

[参考値]

## 参考文献

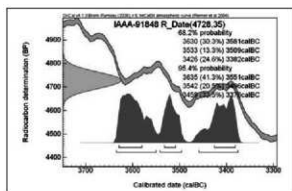
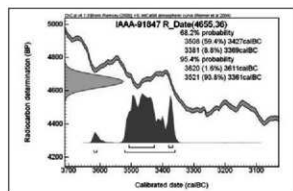
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430

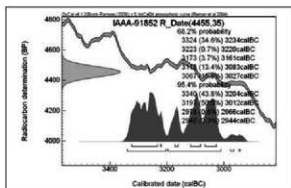
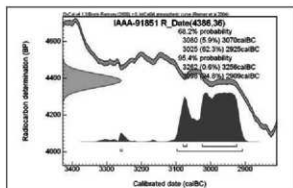
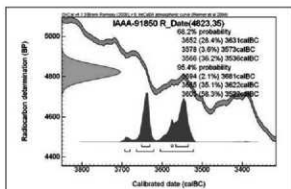
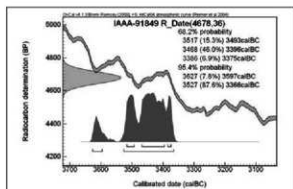
Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program, Radiocarbon 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389

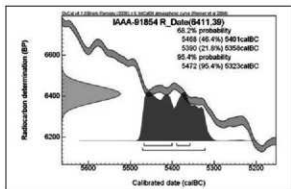
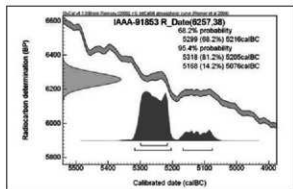
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058



[参考] 暦年較正年代グラフ (大平遺跡)



[参考] 暦年較正年代グラフ (大平遺跡)



[参考] 暦年較正年代グラフ (大平4 遺跡)

## 2 大平4遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

### 1 測定対象試料

大平4遺跡は、北海道上磯郡木古内町字大平60（北緯41° 41′ 33″、東経140° 26′ 58″）に所在する。測定対象試料は、P-24覆土1層出土木炭（OHIRA 4-1；IAAA-91853、OHIRA 4-2；IAAA-91854）2点である。

### 2 測定の意義

遺構の構築年代推定の材料とする。

### 3 化学処理工程

- (1)メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2)酸処理、アルカリ処理、酸処理（AAA：Acid Alkali Acid）により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3)試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4)液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を精製する。
- (5)精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6)グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

### 4 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9SDH-2）を使用する。測定では、米国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

### 5 算出方法

- (1)年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。
- (2)<sup>14</sup>C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中<sup>14</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0 yrBP）として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}C$ によって補正された値である。<sup>14</sup>C年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、<sup>14</sup>C年代の誤差（ $\pm 1\sigma$ ）は、試料の<sup>14</sup>C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}C$ は、試料炭素の<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰）で表される。測定には質量分析計あるいは

加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。

(4)pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の $^{14}\text{C}$ 濃度の割合である。

(5)暦年較正年代とは、年代が既知の試料の $^{14}\text{C}$ 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の $^{14}\text{C}$ 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 $^{14}\text{C}$ 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 $\sigma$ =68.2%)あるいは2標準偏差(2 $\sigma$ =95.4%)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない $^{14}\text{C}$ 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal04データベース(Reimer et al 2004)を用い、OxCalv4.1較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

## 6 測定結果

P-24覆土1層出土試料の $^{14}\text{C}$ 年代は、OHIRA 4-1 が $6260 \pm 40\text{yrBP}$ 、OHIRA 4-2 が $6410 \pm 40\text{yrBP}$ である。縄文時代早期後葉頃に相当する値となっている。

炭素含有率はいずれも60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-91853	OHIRA 4-1	遺構：P-24 層位：覆土1層	木炭	AAA	-25.81 $\pm$ 0.91	6,260 $\pm$ 40	45.89 $\pm$ 0.22
IAAA-91854	OHIRA 4-2	遺構：P-24 層位：覆土1層	木炭	AAA	-27.64 $\pm$ 0.84	6,410 $\pm$ 40	45.02 $\pm$ 0.22

[#3275]

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 $\sigma$ 暦年代範囲	2 $\sigma$ 暦年代範囲
	Age(yrBP)	pMC(%)			
IAAA-91853	6,270 $\pm$ 40	45.81 $\pm$ 0.20	6,257 $\pm$ 38	5299BC-5216BC(68, 2%)	5318BC-5205BC(81, 2%) 5168BC-5076BC(14, 2%)
IAAA-91854	6,450 $\pm$ 40	44.78 $\pm$ 0.21	6,411 $\pm$ 39	5468BC-5401BC(46, 4%)	5390BC-5358BC(21, 8%) 5472BC-5323BC(95, 4%)

[参考値]

## 参考文献

- Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of  $^{14}\text{C}$  data, Radiocarbon 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, Radiocarbon 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program, Radiocarbon 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, Radiocarbon 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, Radiocarbon 46, 1029-1058

### 3 黒曜石原産地同定（木古内町大平遺跡・大平4遺跡）

（株）第四紀地質研究所

#### 1 実験条件

分析はエネルギー分散型蛍光X線分析装置（日本電子製JSX-3200）で行った。

この分析装置は標準試料を必要としないファンダメンタルパラメータ法（FP法）による自動定量計算システムが採用されており、6C～92Uまでの元素分析ができ、ハイパワーX線源（最大30kV、4mA）の採用で微量試料～最大290mmφ×80mmHまでの大型試料の測定が可能である。小形試料では16試料自動交換機構により連続して分析できる。分析はバルクFP法でおこなった。FP法とは試料を構成する全元素の種類と濃度、X線源のスペクトル分布、装置の光学系、各元素の質量吸収係数など装置定数や物性値を用いて、試料から発生する各元素の理論強度を計算する方法である。

実験条件はバルクFP法（スタンダードレス方式）、分析雰囲気＝真空、X線管ターゲット素材＝Rh、加速電圧＝30kV、管電流＝自動制御、分析時間＝200秒（有効分析時間）である。

分析対象元素はSi,Ti,Al,Fe,Mn,Mg,Ca,Na,K,P,Rb,Sr,Y,Zrの14元素、分析値は黒曜石の含水量＝0と仮定し、酸化物の重量％を100％にノーマライズし、表示した。

地質学的には分析値の重量％は小数点以下2桁で表示することになっているが、微量元素のRb,Sr,Y,Zrは重量％では小数点以下3～4桁の微量となり、小数点以下2桁では0と表示される。ここでは分析装置のソフトにより計算された小数点以下4桁を用いて化学分析結果を表示した。

主要元素と微量元素の酸化物濃度（重量％）でSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>、K<sub>2</sub>O-CaOの各相関図、Rb-Srは積分強度の相関図の4組の組み合わせで図を作成した。

#### 2 分析結果

大平遺跡・大平4遺跡出土黒曜石遺物の分析結果は第1表化学分析表に示すとおりである。分析結果に基づいてSiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>-TiO<sub>2</sub>、K<sub>2</sub>O-CaO、Rb-Srの各図を作製した。同定結果に基づいて第2表原産地対比表を作成した。

- 1) 最も多く検出されたのは赤井川で44個の分析のうち28個が該当する。次いで、弱被熱・赤井川が5個で赤井川系が主体である。
- 2) 青森県の出来島が5個、豊浦が2個、赤石山Ⅱが1個検出された。
- 3) 強被熱・不明が2個、被熱・不明が1個である。

#### 引用文献

井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石 北海道編

井上 巖 (2008) 東北日本の原産地黒曜石写真集

第1表 化学分析表

試料名	Na2O	MgO	Al2O3	SiO2	PSO5	K2O	CaO	TiO2	MnO	Fe2O3	Rb2O	SrO	Y2O3	ZrO2	Total	Rb(II)	Sr(II)
大平4-1	4.0283	0.0000	11.5968	76.1551	1.3971	4.6539	0.8672	0.0958	0.1058	0.0716	0.0105	0.0060	0.0039	0.0079	99.9999	817	458
大平4-2	3.1522	0.0000	11.4398	77.4871	1.1854	4.5916	0.8687	0.1435	0.0913	0.0115	0.0153	0.0098	0.0000	0.0108	100.0000	1158	731
大平4-3	3.2966	0.0000	11.6668	76.9133	1.5116	4.5518	0.8705	0.1059	0.0978	0.0394	0.0119	0.0048	0.0000	0.0015	99.9999	932	368
大平4-4	4.4482	0.0460	11.7151	76.7286	1.3229	4.6195	0.8274	0.1214	0.0925	0.0525	0.0101	0.0071	0.0045	0.0072	100.0000	769	528
大平4-5	3.1855	0.0000	11.6659	76.8414	1.1006	4.6146	0.8379	0.1414	0.1016	0.0741	0.0145	0.0016	0.0002	0.0115	99.9999	1097	118
大平4-6	6.6144	0.0163	11.8256	76.5731	1.3763	4.5036	0.7918	0.1366	0.0941	0.0367	0.0161	0.0033	0.0041	0.0100	100.0000	1283	257
大平4-7	3.5146	0.0000	12.0811	76.3131	1.2970	4.6282	0.8284	0.1301	0.0964	0.0971	0.0157	0.0070	0.0000	0.0086	100.0000	1209	530
大平4-8	2.7279	0.0000	11.8741	76.0237	1.1700	4.9774	0.8648	0.1059	0.0952	0.1476	0.0143	0.0099	0.0022	0.0070	100.0000	1031	701
大平4-9	2.6094	0.0000	11.7167	76.5731	1.2999	5.6307	0.8232	0.1181	0.0987	0.0913	0.0155	0.0067	0.0034	0.0130	100.0000	1130	474
大平4-10	3.9232	0.0000	11.6186	75.0271	1.3701	5.4301	0.9356	0.1341	0.1126	0.1071	0.0219	0.0041	0.0000	0.0156	100.0001	1415	258
大平4-11	3.6428	0.0193	11.6553	76.1922	1.3163	4.4833	1.4004	0.1058	0.0880	0.0570	0.0175	0.0084	0.0000	0.0136	99.9999	1277	602
大平4-12	4.1746	0.0000	12.2775	77.2376	1.2843	3.3037	0.7777	0.1230	0.1333	0.6662	0.0076	0.0073	0.0033	0.0040	100.0001	639	600
大平4-13	3.3531	0.0000	11.5621	76.8758	1.3812	4.6796	0.8531	0.1001	0.0569	0.0621	0.0160	0.0058	0.0036	0.0104	99.9998	1205	430
大平4-14	4.3865	0.0000	12.2364	76.6889	1.2735	3.5948	0.8070	0.1295	0.1291	0.7163	0.0122	0.0133	0.0041	0.0075	100.0000	943	1008
大平4-15	3.4303	0.0000	11.8333	76.3384	1.3655	4.8096	0.8836	0.0987	0.0903	0.1163	0.0154	0.0064	0.0018	0.0103	99.9999	1231	504
大平4-16	3.2913	0.0000	12.2619	77.4393	1.3187	4.4819	0.7889	0.1165	0.0948	0.0711	0.0116	0.0039	0.0033	0.0089	100.0001	1310	255
大平4-17	4.0509	0.0481	12.2028	75.7735	1.2920	4.8513	0.8937	0.1046	0.0997	0.1495	0.0153	0.0051	0.0070	0.0097	100.0000	1099	358
大平4-18	3.6671	0.0000	11.9450	76.3652	1.2743	4.5834	0.8155	0.1102	0.1041	0.0864	0.0208	0.0072	0.0040	0.0169	100.0001	1450	492
大平4-19	2.7660	0.8792	11.0322	77.1174	1.0507	4.9438	0.8974	0.1301	0.1247	0.0369	0.0107	0.0036	0.0022	0.0227	100.0000	755	247
大平4-20	3.4344	0.0000	11.8444	76.8534	1.1940	4.5262	0.7992	0.1189	0.0923	0.1265	0.0182	0.0046	0.0033	0.0144	99.9998	1164	287
大平4-21	3.3487	0.0000	12.1272	76.4934	1.2519	4.6940	0.8305	0.0813	0.0894	0.0437	0.0143	0.0051	0.0029	0.0115	99.9999	1099	387
大平4-22	3.8923	0.0000	12.1945	76.2599	1.0330	4.5366	0.8014	0.1102	0.0995	0.0444	0.0111	0.0047	0.0059	0.0065	100.0000	867	369
大平4-23	3.4867	0.0000	11.3328	77.4451	1.2392	3.7156	1.1542	0.1951	0.0960	1.2870	0.0118	0.0143	0.0046	0.0286	100.0001	762	904
大平4-24	4.5268	0.0000	12.1671	75.5064	1.2125	4.8598	0.4838	0.0458	0.0887	0.0772	0.0199	0.0022	0.0017	0.0081	100.0000	1628	176
大平4-25	3.8286	0.0000	11.9066	76.2203	1.1730	4.6498	0.7941	0.1279	0.0946	0.0727	0.0123	0.0058	0.0000	0.0145	100.0000	1276	429
大平4-26	3.2591	0.0000	12.1815	76.6435	1.1730	4.6350	0.8582	0.1034	0.0978	0.0664	0.0165	0.0029	0.0029	0.0099	100.0000	1277	217
大平4-27	4.8399	0.0000	12.7781	75.2795	1.2211	3.8263	0.8265	0.1697	0.1591	0.8643	0.0097	0.0138	0.0001	0.0119	100.0000	749	1051
大平4-28	4.8271	0.0000	12.6679	75.8804	1.2308	3.4998	0.8409	0.1282	0.1394	0.7618	0.0074	0.0081	0.0026	0.0065	99.9999	611	852
大平4-29	3.9699	0.0000	12.0118	75.7572	1.3330	4.7918	0.8278	0.0952	0.0907	0.0772	0.0134	0.0066	0.0012	0.0042	100.0000	1047	506
大平4-30	3.6072	0.0000	11.8995	76.4724	1.1723	4.6536	0.8405	0.1065	0.0924	0.1589	0.0186	0.0071	0.0076	0.0134	100.0000	1274	476
大平4-31	3.1173	0.0000	11.8333	76.5776	1.1825	5.0794	0.8463	0.0932	0.0902	0.1492	0.0141	0.0032	0.0009	0.0118	100.0000	1015	222
大平4-32	3.4846	0.0000	12.0369	76.2556	1.1087	4.8325	0.8640	0.1100	0.1011	0.1570	0.0168	0.0062	0.0051	0.0106	100.0001	1170	423
大平4-33	3.3157	0.7288	11.4926	76.8425	1.0305	4.5747	0.8168	0.0916	0.1187	0.8618	0.0137	0.0016	0.0007	0.0097	100.0001	1084	122
大平4-34	3.7128	0.0000	12.0126	76.1355	1.2527	4.7331	0.8266	0.0987	0.0987	0.0898	0.0179	0.0047	0.0000	0.0109	100.0000	1331	341
大平4-35	3.2517	0.0000	11.8396	76.7998	1.1508	4.6802	0.8187	0.1391	0.0937	0.1177	0.0119	0.0065	0.0013	0.0092	100.0002	885	477
大平4-36	3.8178	0.0000	11.7462	76.7520	1.2754	5.7594	1.2007	0.1863	0.0627	0.2112	0.0284	0.0145	0.0048	0.0153	99.9999	622	1056
大平3-7	2.9548	0.7286	11.6023	76.8877	1.0567	4.6730	0.8438	0.1122	0.1258	0.8894	0.0104	0.0070	0.0008	0.0077	100.0000	755	501
大平3-8	2.9477	0.8372	11.6759	76.4601	1.0429	4.7420	0.9042	0.2046	0.1302	0.0326	0.0086	0.0095	0.0000	0.0203	99.9998	606	853
大平3-9	2.9811	0.8245	11.3039	77.2556	1.0626	4.4779	0.8301	0.1123	0.1273	0.0028	0.0127	0.0085	0.0030	0.0078	100.0001	953	523
大平4-0	3.0332	0.7338	11.0663	77.3864	1.0623	4.5622	0.8453	0.1608	0.1203	0.9976	0.0120	0.0084	0.0025	0.0095	100.0000	874	627
大平4-1	2.7192	0.4716	10.8371	77.6687	0.9663	6.6437	1.5013	0.3453	0.2881	2.3023	0.0249	0.0140	0.0000	0.0208	100.0003	982	539
大平4-2	3.7594	0.8267	11.9818	77.0560	1.0713	5.5024	0.7700	0.1629	0.1476	0.7010	0.0098	0.0074	0.0013	0.0022	99.9999	728	535
大平4-3	1.4110	0.7021	8.1243	74.9160	1.0183	7.4765	1.8027	0.3259	0.2302	1.9406	0.0223	0.0062	0.0036	0.0205	100.0002	964	264
大平4-4	3.6184	0.4973	11.9429	75.6386	1.0283	4.7995	0.9186	0.1128	0.1370	0.9111	0.0077	0.0015	0.0006	0.0075	99.9998	539	1033

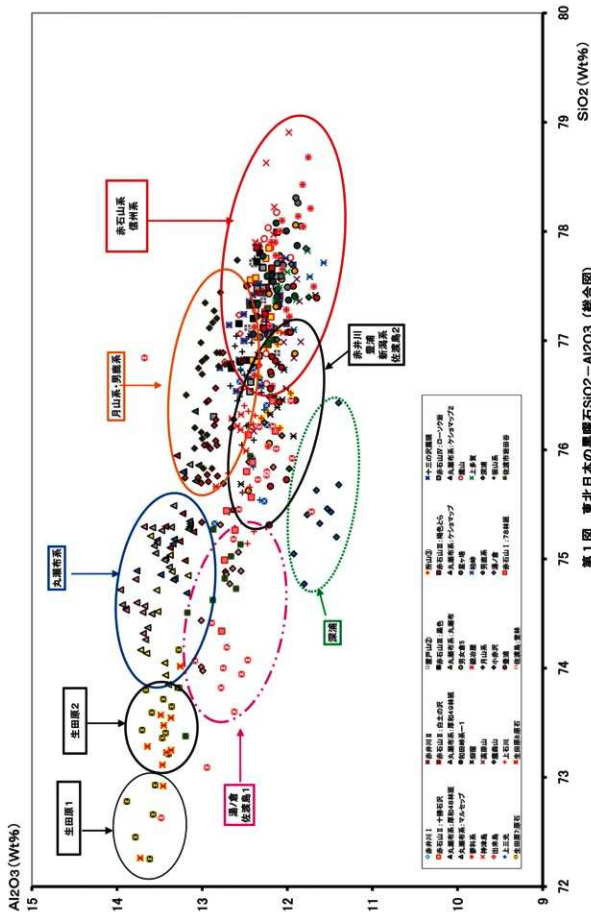
第2表 原産地対比表

試料名	原産地	分類	濃縮 グリップ	濃縮 番号	層位	備考
大平4-1	赤井川	石籠	P-21	4	層土1	
大平4-2	赤井川	石籠	J42	7	II	図V-18-17
大平4-3	赤井川	石籠	L42	13	II	図V-18-18
大平4-4	赤井川	石籠	M41	17	II	図V-18-15
大平4-5	赤井川	石籠	N39	58	II	図V-18-16
大平4-6	赤井川	石籠	N43	1	II	図V-18-11
大平4-7	赤井川	石籠	表採	15		図V-18-2
大平4-11	赤井川	鋼片	FL-11	1	II	
大平4-13	赤井川	鋼片	FL-2	4	II	
大平4-15	赤井川	鋼片	F L-6	3	II	
大平4-17	赤井川	鋼片	P-18	3	層土	
大平4-18	赤井川	鋼片	P-24	5	層土1	
大平4-20	赤井川	鋼片	J41	13	II	
大平4-21	赤井川	鋼片	J43	2	II	
大平4-22	赤井川	鋼片	A9	4	II	
大平4-25	赤井川	鋼片	K40	31	II	
大平4-26	赤井川	鋼片	K41	26	II	
大平4-29	赤井川	鋼片	L39	13	II	
大平4-30	赤井川	鋼片	L41	18	II	
大平4-32	赤井川	鋼片	L43	31	II	
大平4-33	赤井川	鋼片	M41	20	II	
大平4-34	赤井川	鋼片	M41	20	II	

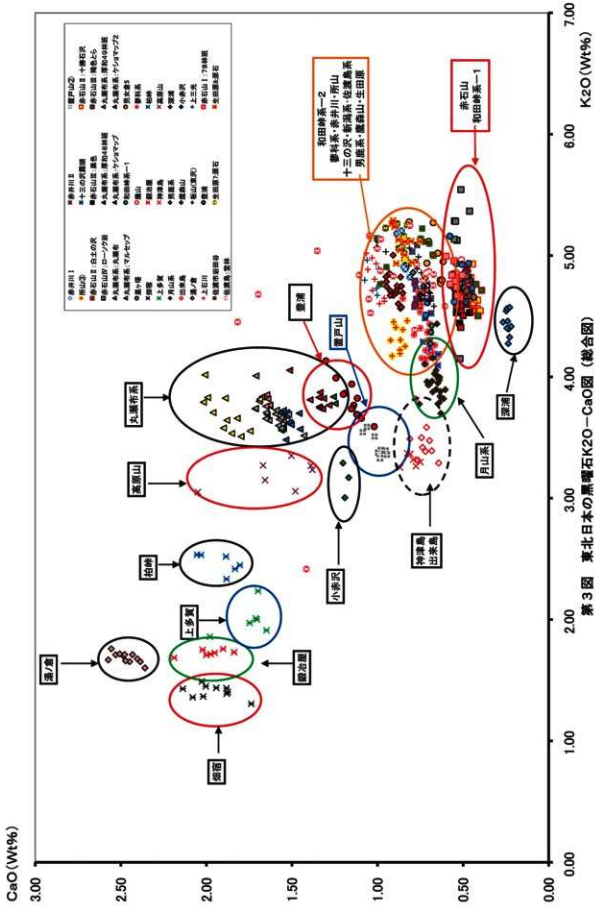
注 試料名末尾の番号は口絵3の番号と一致する

試料名	原産地	分類	濃縮 グリップ	濃縮 番号	層位	備考
大平4-25	赤井川	鋼片	M42	6	II	
大平3-7	赤井川	石籠	K20	40	II	図N-33-16
大平3-8	赤井川	石籠	J 19	20	II	図N-33-24
大平3-9	赤井川	石籠	K 19	13	II	図N-33-23
大平4-0	赤井川	石籠	K 20	13	II	図N-33-5
大平4-4	赤井川	鋼片	J 19	40	II	
大平4-24	赤石山	鋼片	K 39	84	II	
大平4-12	出来島	鋼片	FL-14	4	II	
大平4-14	出来島	鋼片	FL-2	4	II	
大平4-27	出来島	鋼片	K41	26	II	
大平4-28	出来島	鋼片	L 38	16	II	
大平4-42	出来島	鋼片	K 22	57	II	図N-35-44
大平4-23	豊清	鋼片	K 39	72	II	
大平4-36	豊清	鋼片	N42	12	II	
大平4-8	磯碓熱・赤井川	二次加工ある鋼片	K 39	109	II	
大平4-9	磯碓熱・赤井川	二次加工ある鋼片	L 43	45	II	
大平4-16	磯碓熱・赤井川	鋼片	P-18	3	層土	
大平4-19	磯碓熱・赤井川	鋼片	P-24	3	層土1	
大平4-31	磯碓熱・赤井川	鋼片	L 41	18	II	
大平4-10	磯碓熱・不明	鋼片	FL-1	6	II	
大平4-41	磯碓熱・不明	二次加工ある鋼片	I 20	30	II	
大平4-43	磯碓熱・不明	鋼片	I 22	2	II	

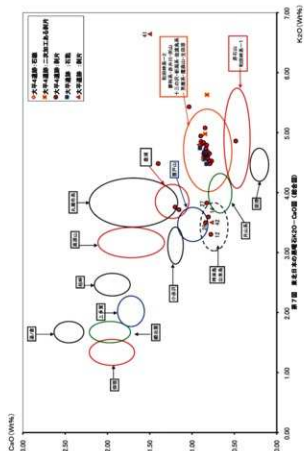
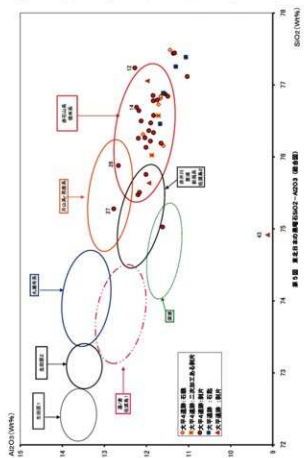
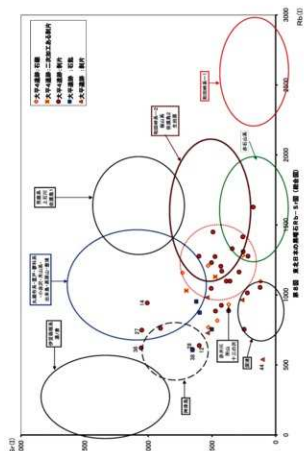
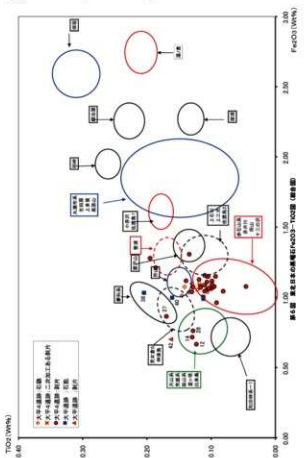


第1図 東北日本の黒曜石SiO<sub>2</sub>-Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub> (総合図)







图 6 某企业在 2002-2003 年期间的  $SO_2$ - $CO_2$  散点图图 7 某企业在 2002-2003 年期间的  $SO_2$ - $SO_2$  散点图图 8 某企业在 2002-2003 年期间的  $SO_2$ - $SO_2$  散点图图 9 某企业在 2002-2003 年期间的  $TO_2$ - $Fe_2O_3$  散点图

## 引用・参考文献

### 論文・書籍等

- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版 標準土色帖』2004年版 日本色研事業株式会社
- 秦 昭繁 1991 「特殊な剥離技法をもつ東日本の石匙—松原型石匙の分布と製作時期について—」  
『考古学雑誌』76-4 日本考古学会
- 小島朋夏 2005 「縄文時代における軽石製模造品について—北海道南西部を中心として—」  
『北奥の考古学』 葛西 勲先生還暦記念論文集刊行会

### 団体・組織刊行物

- 木古内町史編纂委員会 1982 『木古内町史』 木古内町
- 北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』 北海道火山灰命名委員会
- 日本ペドロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社

### 埋蔵文化財発掘調査報告書

- 木古内町教育委員会 1999 『木古内町 釜谷遺跡』
- 木古内町教育委員会 2003 『木古内町 大大釜3遺跡』
- 木古内町教育委員会 2004 『木古内町 蛇内遺跡』
- 函館市教育委員会 2003 『函館市 豊原4遺跡』
- 北海道開拓記念館 1976 『札苅』

### 財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）

- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内町 建川1・新道4遺跡』 北埋調報33
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内町 札苅遺跡』 北埋調報34
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1987 『木古内町 建川2・新道4遺跡』 北埋調報43
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1988 『木古内町 新道4遺跡』 北埋調報52
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 1999 『長万部町 富野3遺跡』 北埋調報131
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2000 『八雲町 シラリカ2遺跡』 北埋調報142
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2001 『白滝遺跡群Ⅱ』 北埋調報154
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2001 『八雲町 山崎5遺跡』 北埋調報165
- 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町 山越3遺跡・山越4遺跡』 北埋調報166

## 報告書抄録

ふりがな	きこないちやう おおひらいせき・おおひらよんいせき							
書名	木古内町 大平遺跡・大平4遺跡							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	⑧北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第280集							
編著者名	鈴木 信・立川トマス・菊池慈人・山中文雄・酒井秀治							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター（http://www.domaibun.or.jp）							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 Tel. (011)386-3231							
発行年月日	西暦2011年3月25日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大平遺跡	北海道 上磯郡 木古内町 字大平63	01334	B-05-07	41° 41° 19"	140° 27' 3"	20090401 ～ 20091030	411㎡	鉄道敷設工 事に伴う 事前調査
大平4遺跡	北海道 上磯郡 木古内町 字大平60	01334	B-05-29	41° 41° 22"	140° 27' 12"	20090401 ～ 20091030 20100707 ～ 20101105	2,733㎡	鉄道敷設工 事に伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
大平遺跡	集落跡	縄文時代前期後葉		竪穴住居跡×8軒		・土器 ・石器 ・石製品	円筒下層cd式期の集落	
大平4遺跡	遺物包含地	縄文時代早期後葉		土坑・土坑墓×26基 剥片集中×14か所		・土器 ・石器	東釧路IV式期の遺構群	
要約	<p>両遺跡は木古内町の北東方にあり、孫七川の兩岸標高10m前後の低位海岸段丘上に位置する。これまでの調査で、大平遺跡からは住居跡8軒、土坑3基（うち1基はフラスコ状土坑）など、大平4遺跡からは土坑・土坑墓26基、頁岩製剥片集中14か所などが検出された。また、大平遺跡からは軽石製北海道式石冠のミニチュアが、大平4遺跡からは黒曜石製石器が少量出土している。</p>							

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第280集

## 木古内町 大平遺跡・大平4遺跡

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—  
平成23(2011)年3月25日

**編集・発行** 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地1  
TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238  
URL <http://www.domaibun.or.jp>  
E-mail [mail@domaibun.or.jp](mailto:mail@domaibun.or.jp)

**印刷** 三浦印刷株式会社  
〒064-0809 札幌市中央区南9条西6丁目  
TEL(011)511-6191 FAX(011)512-6041